

山田美妙雜稿

中學全科辭彙校正刷
あかき

特別

15

1664

51

8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2

15
1664
51

大江氏系圖

本主 阿保 音人 千古 維明

維時 匡衡 文學 成衡 匡房 隆景 維順

維光 匡範

廣元 鎌倉公 季光(毛利) 時廣

ねほねーたごんご 大江音人 人名 本主阿保親王の孫

養子、菅原是善に學び、後官に就きて累進し、檢非違使別當に補す、博學多才、著書多く、群書要覽、弘範三卷、貞觀格式等あり、元慶元年死す。

ねほねーこれごき 大江以言 人名 文學博士、大文豪

ねほねーこれごき 大江維時 人名 文學博士、音人の孫、經史に精通す年七十六死す。

ねほねーせいわん 大江青灣 人名 茶人、公卿家、秀吉の知遇を得たり。

ねほねーどの 大江殿 古語、いつきの宮の宿旅館。

ねほねーともつな 大江朝綱 人名 詩人、音人の孫、詩及書を好くす、小野道風とならび稱せらる。

ねほねーのーわうじ 大兄皇子 人名 用明帝の御幼名

なり。

ねほねーひろもご 大江廣元 人名 維光の子、初め、京都にありしも、頼朝の鎌倉に幕府を開くに及び、公文所の別當となる、又頼朝をして諸國に、守護地頭を置き、京都を守る爲め、自ら六波羅に居る、承久の亂、北條氏の爲めに畫策すること多く、義時を助けぬ、嘉祿元年、年七十八にて死す。

ねほねーまさひら 大江匡衡 人名 重光の子、博學多才、丹羽守を經、侍從に進み、後年六十一死す。

ねほねーまさふさ 大江匡房 人名 成衡の子、博聞強記、幼時神童と稱せられ、後三條天皇の寵を得、學士、藏人、權中納言、大宰權師、大藏卿と累進す、天永二年、年七十一にて死す。

ねほねーやま 大江山 地理 山名、丹波國天田郡にあり。

ねほねーたごんご 太弟 人名 天皇の御弟のこと。

ねほねーかちひでつな 大河内秀綱 人名 僧、初め徳川家康に仕へ遠州に居りしも後剃髮して休心と號し、元和四年 年七十三にて歿す。

ねほねーかがみ 大鏡 書名 藤原爲業の著、雲林院菅提講に翁二人來りて 文徳天皇より 後一條天皇の歴史を古

たほがき

たほがき

物語をなせる體に書きたる本なり。

たほがきーじやう 大垣城 地歴 美濃國安八郡大垣町にあり、天文四年安川の安定築くところ、織田信長のと攻められ、竹越道塵守たり、池田信輝十五萬に封せられ慶長五年關ヶ原役の時浮田秀家此に據り石川康通を経て戸田氏封せらる。

たほがき 大鹿毛 馬名 藤原秀衡より源義經にれくりし馬の名なり。

たほかたーはちらうーかた 大方八郎湯 地名 羽後國西海岸、南秋田郡山本郡との西海灣は即ちこれなり。

たほがーのおさだ 大賀信貞 人名 豪商、幼時南洋の阿媽港に航し、數年の後歸朝して商業に従事す、晩年雜髮して、閑陽齋宗伯と號しぬ。

たほかはーじんしや 大川神社 地理 神社名、丹後加佐郡岡田山光山の麓、保食神を祀る。

たほーかみ 狼 動物 肉食類犬屬、體は黄灰色にて、黒毛を以て包まれ、前脚、耳の周邊は黒色黒線を有し、寒帶地方に多く産す。

たほかむつみーのみこと 意富加牟豆美神 神名 神代、伊弉諾尊の册尊追はれ給ひし時、よもつひ板の桃の木に贈りし名。

たほーかもめづる 大鷗曼 植物 草名、かもめづるの類なり。

たほぎーがーやつ 扇谷 地名 上杉憲方の弟氏顯の孫顯定の子、鎌倉の邸宅を構へたるどころ。

たほぎがやつーうにすぎ 扇谷上杉 名 人名 上杉顯定の稱するどころ、世々、山内家と相並んで鎌倉に管領たりき

たほぎまちーざんあき 正親町公明 人名 僧、公蓮の子、始め 權大納言正二位に累進し、大歌所の別當に補す典仁親王の尊號に就き江府に幽せられ、後京師に歸りて僧となり竟空と云ひき。

たほぎまちーてんたう 正親町天皇 人名 天皇、八皇第一〇七代の天子、後奈良天皇の御子、當時朝廷威なくして即位し給ひしより三年経て毛利元就の献食によりて、禮を擧げ給ふ、又信長に書を送り、朝廷の振興せむを托し給ひぬ。

たほぎみーつかさ 正親司 歴史 官術、皇族諸王の名籍認べ所にて宮内省に屬す、正親正とも云ふ。

たほくさーしやうべい 大草庄兵衛 人名 砲術家、求支流砲術の祖なり。

たほくさかーのーたうじ 大草香皇子 人名 皇子、仁德帝の皇子、皇妹幡後皇女あり、安康皇弟大泊瀬之を聘せ

んとし、根使主を遣はさる 皇子大に喜び應じたりしも根使主に誣せられ帝の爲め殺さる。

たほーくち 大口 歴史 鎌倉時代武士の常服にて袴の下に穿ちたる袴なり。

たほくちーげう 大口晴雨 人名 富豪、江戸淺草藏前の住人、祿米預を業とし、義侠心に富む。

たほくにたまーじんじや 大國魂神社 地理 神社名、武藏國多摩郡府中町に、大國魂神を祀れる官幣小社なり。

たほくにぬしーのかみ 大國主神 神名 素戔鳴尊の子、出雲に居給ひ、少彦名命と國土經營に力を盡し給ひ、後天孫降臨の時、此國を奉りて、出雲杵築の宮にかくれ給ひぬ、今の出雲神社則ち是なり。

たほくぼーしぶつ 大達詩師 人名 詩、畫、書人、常陸の人、市川寛齋に學び、書を以て名を天下に示す、天保八年歿す。

たほくぼーただちか 大久保忠隣 人名 忠世の子、徳川家康に養はる、威望あるに至り、本多正信等の爲め、諍せられ、追放されぬ、寛永五年歿す。

たほくぼーただのり 大久保忠教 人名 三河大久保に住み、徳川家康、秀忠、家光の三代に歴仕し、大議に參與す、寛十六年歿す。

たほくぼーただよ 大久保忠世 人名 徳川家康に仕ふ七本槍の一人、小田原城に封せらる。

たほくぼーとしみち 大久保利道 人名 鹿兒島の士族明治元年 參與となり、參議に進み、四年岩倉具視に従ひ歐米に渡る、七年佐賀亂を平げ、臺灣事件起るや、全權辦理大臣となりて往き、償五十萬圓を得て歸る、十年西南の役靜るとともに、内閣を組織す、十一年五月、刺客の爲め參上の途、赤坂紀尾井町にて弑せられぬ、正二位右大臣を賜はる。

たほくぼーながやす 大久保長安 人名 姦智巧みなるもの、甲斐に生れ、徳川家康に仕へ、金堀司となる、慶長十八年歿す。

たほくぬしーのかみ 大久米命 神名 大來目命と云ひ、神武東征の終りて中國平定となるや、導きて吉野に向ひ、奠都の後其兵を卒ひて宮門を守る是れ久米氏の始祖なり。

たほーくも 大蜘蛛 動物 節足動物、虫の一種、たほーくら 大藏 歴史 政府財用の收納倉、八皇二十一代雄略天皇の朝、諸國の貢物、内藏に充溢するを以て官則に建てたるもの、秦の酒公之が長官たりき。

たほくら 大藏 三藏の條下を見よ。

ねほくらーしやう 大蔵省 官省名 大化改新の時設けたる八省の一、孝徳天皇の博士高向玄理をして唐風に撰して造りたまへるものにて國家の歳計を司る。

ねほくらーたねき 大蔵種材 人名 筑前の豪族、原田氏の祖、刀伊の賊起りし時、藤原隆家と之を攻め破る。

ねほくらーながつね 大蔵永常 人名 農業、豊後日田郡の人にして農事に熱心なり、天保五年濱松侯に仕ふ。著書 農家益除蝗錄、農具便論あり。

ねほくらーよしゆき 大蔵普行 人名 文學者、清和天皇の爲め書を講じ、東宮侍講となり、延喜元年 三代實錄を撰む。

ねほごしよ 大御所 地名 徳川將軍の退隱所なり。

ねほごしよまーじたい 大御所様時代 徳川家齊の時江戸城の繁盛其極に達し、文化文政の俗を見るに至れり、此時代を言ふ。

ねうごん 黄金 僧物 金に同じ。

ねうごんーかいがん 黄金海岸 Good Coast 地名 西アフリカ、ギニア灣に瀕する英國殖民地なり、氣候悪しく護謨、肝油、砂金等を産ず、人口百四十七萬五千餘。

ねうごんー30W J Goldmine 黄金文書 憲法、獨

ねほさかーのせき 逢坂關 地名 近江滋賀郡に在り東海北陸兩道の合點にて山城に帝都遷るや關所となる。

ねほさかーふゆのじん 大阪冬陣 歴史 戦争、家康の豊臣氏を滅さんとするより慶長十六年二條城會見に衝突し關ヶ原役後の浪人及耶穌教徒の大阪に集まると、慶長十九年方廣寺大佛の一件より家康、秀忠の二人、秀頼を攻め、和議なりて江戸に歸る。

ねほーさき 大崎 地名 近江高島郡大崎山の麓にありて琵琶の岸に沿ふ。

ねほーさき 大前 古語 三位以上を上達部と云ひ其の前驅を大前と云ふ。

ねほさきーかみしま 大崎上島 地名 安藝國賀茂郡の南方海中に在りて 周回十二里。

ねほさきーみよこ 大鷲鶴尊 人名 仁愛深き天皇即ち仁徳天皇にて應神天皇の皇子なり、三年間の課税を廢し神武以來の都大和にありしを難波に定め給ひ、諸政治に心を煩はし給ふこと一方ならざりき。

ねほし 凡 古語 ねよそに同じ。

ねほしーへいはらう 大鹽平八郎 人名 與力、大阪の人、陽明學を修む、天保八年の大飢饉に藏書の値を以

下段へねほしは、しほ、次へ入ルベシ

逸カコロ四世の發布したる憲法、獨逸七大諸侯の王を撰む權利を確認し 其七大諸侯を選舉侯と稱す。

ねほーさかーかばんーしやう 大阪加番衆 人名 徳川氏の大坂城に交代に置きし司の一なり。

ねほさかーさんたいし 大阪三大市 地名 堂島の米市 天満の青物市、難喉場の魚市を言ふ。

ねほさかーじやう 大阪城 地名、攝津大坂市東區、天正八年豊臣秀吉城く、慶長十九年秀頼據りて東軍を防ぐ、徳川氏の占むるに至り松平忠明封せらる、長州征伐の際、將軍家茂の行營、明治維新鎮臺を設け、後第四師團と改む。

ねほさかーじよまたい 大阪城代 地理 役名、大阪城に在りて 大阪及附近の訴訟事件を裁判する役所なり、元和五年 内藤信正任す、所司代の舊名なり。

ねほさかしながーのみささき 大阪磯長陵 地名 河内石川郡山田村、孝徳帝の御陵なり。

ねほさかーじやうばん 大阪定番 地名 役名、大阪には城代、定番、在番、加番、町奉行等あり、定番は玉造口と京橋口の二ヶ所あり。

ねほさかーなつじん 大阪夏陣 歴史 戦争、元和元年豊臣秀頼の家康に攻められて滅亡に歸したる戦、五月八

て貧民を救助す、後意得ずして反し吉野に死す。

ねほしーたきつ 思徒 國語 後世子孫の依るべき道を遠慮して 提を立つること。

ねほしかはちーみつね 大凡河内躬恒 人名 歌人、醍醐天皇の朝に仕へ、和泉大津に累進す、有名なる歌人、古今和歌集の撰者、紀貫之等と時を同ふす。

ねほしーくたす 思朽 國語 古語 人を見下ぐること。

ねほしーのーやま 多師山 地名、近江國栗本郡に在りて本國の高山とす。

ねほしほ 大潮 地名 「だいちよあ」に同じ。

ねほしーしま 大島 地名 信濃下伊奈郡、元龜二年武田信玄築く、織田紀信忠陥れて毛利秀頼をして守らしむ。

ねほしーしまーさんざいもん 大島三左衛門 人名 前陸軍大將、西南役に死せる西卿隆盛の幼名なり。

ねほす 大洲 地名 加藤氏の藩地 大津と云ひき、伊豫國喜多郡に在り。

ねほす 果 事の成就すること。

ねほすみ 大隅 地名 九州最南の國、和銅六年大隅とし、足利氏時代は肝付氏領し、後島津氏の領に歸し、維新

ねほしほへい はちりやう

下段へねほしは、しほ、次へ入ルベシ

難

を

の業なるや鹿兒島縣を置く、稱徳帝の時道鏡の爲め 和氣
瀧磨の流されしところなり。

ねほつらーたき 大空澤 地名 陸中稗貫郡豊澤村にあ
り高さ二十五丈なり。

ねほたいはらーさん 大臺原山 地名 三國嶽のことに
て大和國に在り。

ねほろーわうかん 太田道灌 人名 將軍にして歌人、
資清の子、持資と云ひ、備中守となり、藤澤に上杉憲忠を
敗り、扇ヶ谷に仕ふ、長祿元年今の江戸城を築き、長祿二
年道灌と號す、文明十八年七月 定正の爲め浴室にて殺さ
る、時に年五十五なりき。

ねほだかさかーしさん 大高阪芝山 人名 學者、程朱
學、性理學を究め、詩を好す、江戸に死す。

ねほたかーしんしゃ 大高神社 地理、神社名、陸前國
金ヶ瀬にありて、日本武尊を祀れるなり。

ねほたかーただね 大高忠雄 人名 赤穂義士の一人、
茶を好み、此によりて義央の臣羽倉齋に出入して 動作を
伺ひ、主君の仇を報ず、元祿十六年死を賜ふ。

ねほたーきんじやう 太田錦城 人名 折衷學派、加賀
大聖寺の人、京に上り皆川淇園、江戸の山本北山に學び、
宋學を修む、文政八年死す。

ねほたきーやま 大瀧山 地名 卯花の名所 近江國に
あり。

ねほたーせんさい 太田全齋 人名 音韻學者 文化の
頃 福山に出生す。 **前々奉命の役と多く出したり、**

ねほたーたねこ 太田田根子 人名 大物主神四世の孫
河内美努村にて 太物主神 大和國魂を祀らしむ。

ねほたてーうじあき 大福氏明 人名 宗氏の子、足利
尊氏西海に走るとき 新田義貞の命によりて 追討し、赤
松則村を破り、後伊豫守となる、四隣攻畧の爲め 世田城
に據りしも 官軍振はず兵糧盡きて自殺す。

ねほたーなんぼ 太田南畝 人名 狂歌人、蜀山人のこ
となり。

ねほたにーよししたか 大谷吉隆 人名 豊後の人、豊臣
秀吉に仕ふ 慶長五年 石田三成に誘はれ 謀に與し、關
ヶ原の役に敗死す。

ねほたにーひろももん 大谷廣右衛門 人名 俳優、大
阪の人、幡風と號す。

ねほたはら 太田原 地名 東山道の要路、下野國那須
郡の東方中央地にあり。

ねほたーもちすけ 太田持資 人名 太田道灌を見よ。
ねほたらしひこーたししろわけーのすめらみこと 大足彦

ねほたきーやま 大瀧山 地名 卯花の名所 近江國に
あり。

ねほたーせんさい 太田全齋 人名 音韻學者 文化の
頃 福山に出生す。 **前々奉命の役と多く出したり、**

ねほたーたねこ 太田田根子 人名 大物主神四世の孫
河内美努村にて 太物主神 大和國魂を祀らしむ。

ねほたてーうじあき 大福氏明 人名 宗氏の子、足利
尊氏西海に走るとき 新田義貞の命によりて 追討し、赤
松則村を破り、後伊豫守となる、四隣攻畧の爲め 世田城
に據りしも 官軍振はず兵糧盡きて自殺す。

ねほたーなんぼ 太田南畝 人名 狂歌人、蜀山人のこ
となり。

ねほたにーよししたか 大谷吉隆 人名 豊後の人、豊臣
秀吉に仕ふ 慶長五年 石田三成に誘はれ 謀に與し、關
ヶ原の役に敗死す。

ねほたにーひろももん 大谷廣右衛門 人名 俳優、大
阪の人、幡風と號す。

ねほたはら 太田原 地名 東山道の要路、下野國那須
郡の東方中央地にあり。

ねほたーもちすけ 太田持資 人名 太田道灌を見よ。
ねほたらしひこーたししろわけーのすめらみこと 大足彦

忍代別天皇 人名 人皇第十二代景行天皇を申す、當
時九州熊襲横行して朝に反するに當り 帝親征し紀元十二
年大和を發し給ふ、**菟紫**に渡り 市乾鹿文、市鹿文の二姫
によりて賊を平げ給ひき。

ねほたるーのーたき 大垂瀑 地名、遠江國榛原郡高熊
村にある瀑なり。

ねほちかーぶぐり 標嶺 動物 かまきりの真なり、多
く木の腋に作り、凝り褐色となる。

ねほちーごうせん 大地東川 人名 儒者、**鳥巢**の外
甥、大應公の幼時の侍讀なりき。

ねほつ 大津 地名 近江國滋賀郡に在り、天智天皇の
都し給ひ、足利義植の六角氏と戦ふところ、後關ヶ原の役
後徳川家康に歸し、膳所を移して奉行を置く、今は滋賀縣
廳の所在地なり。

ねほつかーさうご 大塚蒼梧 人名、有職家、江戸の人
律令、性理學に通ず。

ねほつきーげんたく 大槻玄澤 人名 蘭學者の祖、仙
臺の人、磐水と號し、侍醫となり、後幕命によりて蘭書を
譯す、文政十年三月、年七十一にて死す。

ねほつきーつねすけ 大槻恒輔 人名 仙臺藩の儒者に
して、西磐と號す、江戸に學び開國を主張す、又蘭學を修

修め、西洋史を著はす、安政四年壽四十を以て歿す。

ねほつきーばんけい 大槻磐溪 人名 儒者 名清崇、
通稱平次、仙臺に在りて侯に仕ふ、後昌平覺に入り、其詞
方、一時世に鳴る、嘉永六年、米艦ベルリ提督來るや、熱
心之が開港説を主張す、明治十六年死す。

ねほつきーばんり 大槻磐里 人名 蘭學者、陸奥の人
名を美植と云ふ、蘭和文典の權輿たる蘭學階梯を著す。

ねほつきーふみひこ 大槻文彦 人名 文學博士、磐溪
の子、現時 國文典の泰斗と稱せらる。

オボツク Okhotsk 地名 アフリカの東北部アデン灣頭の地
現今佛國殖民地たり。

オホーツク Okhotsk 地名 シベリとカンサツカとの
間の海にして霧深き爲め航海に適せず。

ねほつち 茶 植物 草類、夏、黄色卵形の花咲く。

ねほつほーよしひで 大坪慶秀 人名 大坪流馬術の祖
足利中世上總に出て、左京亮に進む、後道禪と號す、馬術
巧みなり。

ねほつーわうじ 大津皇子 人名 皇子、天武天皇の御
子、文武の道を好み給ふ、後、新羅の僧行心の相に信仰し
天皇の崩後謀叛し給ひしも 事發して死を賜はる。

ねほつーのみや 大津宮 地名 宮名、近江滋賀郡滋

賀村南滋賀にありて天智天皇六年三月此處に遷都し給ふ。
たほて 追手 大手 古語 城の前門を云ふ、之に對し裏手を搦手(カラメテ)と云ふなり。

たほごご 國文典 たりしまりなきこと、だらしなきこと。たほやうなること。

たほとくすし 侍醫 古語 王公貴人の控醫者と云ふ。オホトはオモト御許の變轉せし言葉、くすしは昔醫者のことなり。

たほとぬしのかみ 大地主神 神名 大國主神をかく申し 出雲神社の祀神なり。

たほとぬり 大舍人 歴史 古の宮名 王公の供奉、容儀を司るもの、今の宮内省の官吏の如し。

たほとぬりのかみ 大舍人寮 歴史 役所、八省の一なる中務省に屬し 大舍人の役をなす所なり。

たほとぬのつかさ 大斗能地神 神名 男神にて大斗能辨神女神と共に 天地開闢の時 御成り給ひたり。

たほとぬのこもる 大殿籠 古語 貴人の就床せらるゝを云ふ。

たほとぬわけのかみ 大戸日別神 神名 大直毘神にて 伊井諸命の御子なり。

たほとぬうじ 大伴氏 人名 氏の先祖は道臣命、神

武東征に際し、大に功ありて後、武官となり 殿内守衛を司れる人の後胤なり。

たほとぬうじ 大友氏 人名 祖先を藤原秀卿とし、其後能直大友氏を稱し、貞宗の時南朝に屬す。

大伴氏の系圖
天押日命……道臣命……昨子
長徳——安曆
馬來
吹貢

權人—家持——國道——善男
大友氏の系圖
秀卿……能直……貞宗——氏時——親世……義長

義鑑——義鎮——義統
義武——義長

たほとぬかむら 大伴金村 人名 諱の子、大連なり、仁賢天皇に仕へしより欽明天皇まで六代の帝に歴仕す

武烈帝の時、帝と謀り大臣平群眞鳥父子を弑す、後處置を失したる爲め韓に於る積積押山、紀大磐反す。

たほとぬごとう 大友義統 人名 義鎮の子、天正十二年龍通寺と戦ひ敗れ、十五年秀吉の援軍と共に、島津家久を敗り、豊後守となる、征韓の際、鳳山に陣し、明兵の爲め狼狽して、黒田は長政に寄る、後關ヶ原の役、三成に

たほとぬべ 大伴部 稱族 上代武官の民、大伴氏の率ひしものなり。

たほとぬやかもち 大伴家持 人名 歌人、大納言旅人の子、光仁、桓武の兩帝に歴仕す、初め天平中越中守、中納言、持節征東大將軍と累進し永曆四年死す、萬葉集を補撰す。

たほとぬよししげ 大友義鎮 人名 宗麟のこと、義鑑の子、菊池氏を征し、弘治五年九州を平定せんとす、陶晴賢の大内義隆を滅すや 弟義長をして嗣としむ、天正十二年ホルトガル人と貿易し 切支丹宗を信仰す、天正十五年死す。

たほとぬよしりのり 大友義鑑 人名 近隣諸國を奪ひ九州探題となる、海外に船舶を出して盛に貿易をなし、家督相續の件に就き臣の津久見美作の爲め弑せらる。

たほとぬわうじ 大友皇子 人名 天皇、天智天皇の御子、伯父大海人と戦ひ利あらず薨じ給ふ、後徳川光圀の大日本史によりて皇別とし、明治二年弘文天皇と諡す。

たほとぬわけのみこと 大朝別命 人名 人皇第十五代應神天皇のこと 神功皇后の御子なり。

たほとぬけいすけ 大島圭介 人名 現今樞密顧問官男爵なり、氏は舊幕の臣 榎本武揚と共に 五稜閣に據り

たほとぬちかよ 大友親世 人名 氏時の子、應永三年吉弘氏を私討せしかば足利義滿の爲め京師に幽せらる、國に歸りて菊池氏と戦ふこと七十一回勝たず 入道して祖高と稱し 不意に菊池を打ちて破る、後九州探題と自稱す

たほとぬのうし 大伴皇子 人名 淳和天皇の事なり。

たほとぬさでひこ 大伴狭手彦 人名 金村の子、宣化二年新羅の任那を攻むるを援け、欽明帝、大將軍となりて高麗を伐ち 珍寶を得て歸る。

たほとぬうりん 大友宗麟 人名 大友義鎮の法名なり。

たほとぬちかよ 大友親世 人名 氏時の子、應永三年吉弘氏を私討せしかば足利義滿の爲め京師に幽せらる、國に歸りて菊池氏と戦ふこと七十一回勝たず 入道して祖高と稱し 不意に菊池を打ちて破る、後九州探題と自稱す

たほとぬのうし 大伴皇子 人名 淳和天皇の事なり。

たほとぬさでひこ 大伴狭手彦 人名 金村の子、宣化二年新羅の任那を攻むるを援け、欽明帝、大將軍となりて高麗を伐ち 珍寶を得て歸る。

たほとぬうりん 大友宗麟 人名 大友義鎮の法名なり。

たほとぬちかよ 大友親世 人名 氏時の子、應永三年吉弘氏を私討せしかば足利義滿の爲め京師に幽せらる、國に歸りて菊池氏と戦ふこと七十一回勝たず 入道して祖高と稱し 不意に菊池を打ちて破る、後九州探題と自稱す

たほとぬのうし 大伴皇子 人名 淳和天皇の事なり。

たほとぬさでひこ 大伴狭手彦 人名 金村の子、宣化二年新羅の任那を攻むるを援け、欽明帝、大將軍となりて高麗を伐ち 珍寶を得て歸る。

たほとぬうりん 大友宗麟 人名 大友義鎮の法名なり。

たほとぬちかよ 大友親世 人名 氏時の子、應永三年吉弘氏を私討せしかば足利義滿の爲め京師に幽せらる、國に歸りて菊池氏と戦ふこと七十一回勝たず 入道して祖高と稱し 不意に菊池を打ちて破る、後九州探題と自稱す

たほとぬのうし 大伴皇子 人名 淳和天皇の事なり。

たほとぬさでひこ 大伴狭手彦 人名 金村の子、宣化二年新羅の任那を攻むるを援け、欽明帝、大將軍となりて高麗を伐ち 珍寶を得て歸る。

属

カラメテ

が

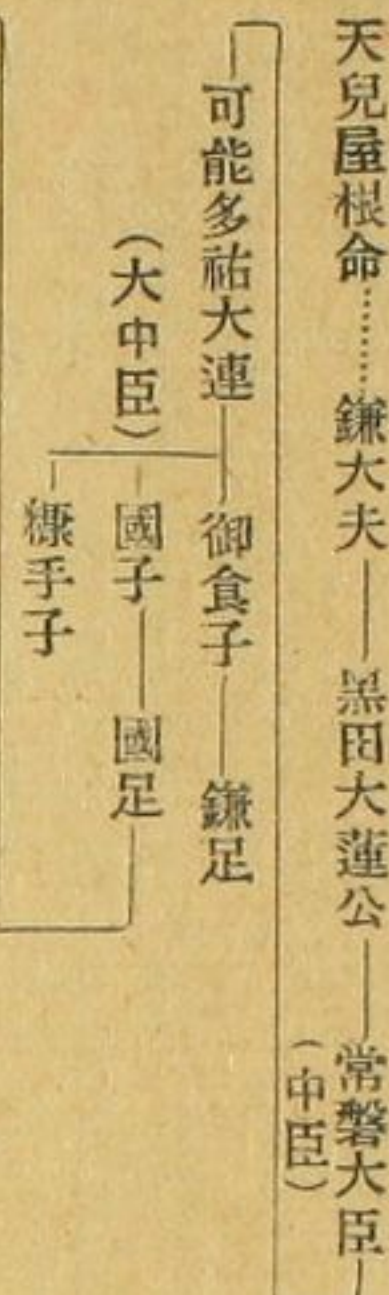
わ

維新後 元老院議員、學習院長、華族女學校長を經、又清國特命全權公使となれり 書を好くす。

ねほりーのかみ **ねほり** 大島神社 地理 神社名、和泉國大島郡一の宮にあり、日本武尊を祀る。

ねほなれみーのうじ **ねほなれみ** 大中臣氏 人名 代々發祀家なり

大中臣氏の系圖



ねほなかとみーすけちか **ねほなかとみ** 大中臣輔親 人名 祭主、能宣の子、神祇伯に任せらる。

ねほなむちーのかみ **ねほなむち** 大日貴神 人名 大汝神、大名持神、大國主神、大物主神、八千戈神、葦原醜男神、顯國魂神、大國玉神など、も申し奉る 少彦名命と、出雲にありて國土を經營し給へり。

ねほにはーのむくのき **ねほには** 大庭の榎木 地、歴、紫宸

殿の前の木にて昔 重盛の義仲の爲め追はれしところなり **ねほにんーのらん** 應仁の亂 歴史 戦争、足利氏繼承事件より 山名宗全、細川勝元の争ひとなり 拾壹年間の大戦を京師になし洛中烏有に歸す、時に文明元年。

ねほの 大野 地名 筑紫大野城のあるところ、天智天皇四年城き 文武天皇二年繕治せらる。

ねほのーあづまひと 大野東人 人名 果安の子、陸奥の蝦夷を打ちて 鎮守府將軍兼按察使となり、天平十一年廣嗣の叛するや 大將軍に任じて賊を敗り 廣嗣を斬る、十四年死す。

ねほのーせつさい 大野拙齋 人名 儒者、越中の人、文政年中の人、京師にありて勉學し 造詣するところ多し

ねほのーはるなが 大野治長 人名 豊臣初代に仕へ、慶長十九年大阪冬の陣に首謀となり徳川氏に破られ 又五月夏の陣に再舉して豊臣氏と共に滅ぶ、時に元和元年なり **ねほのみなとーじんしや** 大野湊神社 地理、神社名、加賀國石川郡金石町にあり、速秋津彦神を祀る。

ねほのーやすまろ 太安磨 人名 文章家、神八井耳命の後、博學多才、文章に巧みなり、和銅四年 稗田阿禮の誦する古傳を筆記し 古事記三卷を撰む 後民部卿となり 養老七年死す。

ねほのー

三河川が反対ナレリ川

景

ねほばーかけちか **ねほば** 大庭是親 人名 相摸の人、保元の亂に義朝に與し白河殿を攻む 平氏の爲め敗はれ 頼朝の兵を擧ぐるや 石橋山に之を破りしも後敗れて片瀬に斬らる。

ねほばーきすみれ **ねほば** 大葉黄蘗 植物 草類、葉の大なるあふひすみれにて 黄色の花咲く。

ねほばこ **ねほば** 車前 植物 車前科、圖に示せる如く、葉は卵形、通常五個の筋を有し、花は小形にして穗狀花序をなす、葉は食用にし 種子を薬用とす。

ねほはしーじゆんかう **ねほはし** 大橋順藏 人名 學者、江戸の人、經史、詩學に通ず、嘉永年間 ヘルリ提督の來りし時 兼夷説を主唱す 後幕府の爲め獄に下され 文久二年死す

ねほはつせーわかたけーのすめらみこと **ねほはつせ** 大泊瀬幼武天皇 人名 人皇第二十一代雄略天皇のことを申すなり。

ねほはのまき **ねほは** 植物 「いぬまき」に同じ。

ねほーばん **ねほ** 大判 古今錢名 豊臣秀吉文祿年間の鑄造金貨幣を云ふ。

ねほーばん **ねほ** 椀飯 歴史 儀式、鎌倉時代に起りし家人より主人を饗することなり、以後専ら武家に行はれ 足利



義満の時、一の儀式となる、應仁亂後全く絶ゆ。 **ねほばんーぐみ** 大番組 歴史 徳川時代の制度にて 江戸、京、大阪の守兵を云ふ。

ねほーはらひ 大破 歴史 儀式、六月、十二月の両晦に半年間の罪赦をなす爲め 百官朱雀門に會して神事を行ひ給ふ、今も朝廷にて行はる。

ねほはらひーのーことばーごしやく 大破詞後釋 書名 賀茂真淵の祝詞考によりて 本居宣長の撰みしものなり、原本の誤、註解、所感等を上せたり。

ねほはらーまもり 大原真守 人名 刀劍家、伯耆の人 嵯峨帝の爲め刃を作る、拔丸等の名刀あり。

ねほひーうつされたるーうへのーな 大比叡移されたる上野の岡 東京上野東叡山寛永寺を近江比叡山延曆寺に擬して建てられたれば 上野のことをかく云ふ。

ねほひこーのみこと 大彦命 人名 孝元帝の皇子、四道將軍の一人なり、崇神帝の十年北陸を平げ、後武埴安彦の反するや討て之を殺す。

ねほひるぬむちーのかみ 大日靈貴神 神名 天照天神のことを申す、神は 諸冊二尊の長子にして 弟素戔鳴尊の横暴を嫌ひて出雲に追ひ、皇孫瓊杵尊を天降して、瑞穂の國を治め給ふ。

ね 三百八十三

ね 三百八十三

瑞

ねほひーれう 大炊寮 歴史 官省、古、禁中食事係の役所にて 宮内省に属しぬ。

オーフェン Oefen 地名 ハンガリーの都府、トルトコ人の畧取せしところなるも西紀一六八八カカロ帝之を奪ひ一時に露國の領なりしも 再び埃の下に歸す。

ねほーふな 大船 地名 相州鎌倉郡、東海道鐵道と、横須賀線との支點地なり。

オーマル Omal 人名 ハリファ二世にして七世紀の初めベルシヤ、シリア、エジプトを征服し、アレキサンドリア圖書館を焼く、後ヘルシヤの奴隸の手に倒る。

オーホ Aho 地名 フィンランドの舊首府にしてホスニア海に瀕す、(672A.D. 3219E)一七四三年、ロシアと瑞典との平和條約を結びし所なり。

ねほきつりごごーびご 大政人 官位、三位以上の公卿即ち參議のことを云ふ。

ねほーまご 大前 弓矢の技 赤立の三ツ物の一なり。

ねほーみいず 大御稜威 天皇の御威光の強きこと。

ねほみ 近江 地名 平安京の門口、昔帝都となり幾多の人の領となり 天正年中 織田氏に屬し 徳川氏に至り彦根城を城き井伊を封す。

ねほーみかはし 大三河志 書名 徳川家康の出生より

薨去までの歴史にて松平頼寛の著すところなり。

ねほみこもちーのーつかさ 太宰府 地名 「たさいふ」を見よ。

ねほみーせいじん 近江聖人 人名 本姓名を 中江藤樹と云ひ、仁慈に富める大儒者なり。

ねほみのけぬ 近江毛野 人名 將軍、武内宿禰の子 繼體帝の二十一年 新羅を打ち任那を援く 後筑紫國造磐井反きて、毛野の海路を妨害す、二十三年對馬にて病死す

ねほみのみふね 淡海三船 人名 文章家、池邊王子、聰明敏活、書文を善くす 勅により 神武より持統までの謚號を定む、後刑部卿となりて終んぬ。

ねほみやーたも 大宮表 地名 大宮大路のことにて平安城の東の南北に通せる大路なり。

ねほみやーくにもり 大宮國盛 人名 鍛工士、仁治年中 備前國大宮出ず。

ねほみやーのーいん 大宮院 人名 後嵯峨天皇の皇后西園寺藤原實氏之女、後深草龜山兩天皇を産み給ひ 兩天皇即位問題の不和を能く調停し給へり。

ねほみやーはちまんーじんじや 大宮八幡神社 地理 神社名 播磨美濃郡三木町にあり 天照太神外七神を祭る

ねほみるーぐさ 荻若 植物 草名、菊科、白色の莖皮

葉、毒性紫色の花を咲き、多く海邊に生ず。

ねほみーりよう 近江令 法令 日本最古の律令、二十卷より成り、藤原鎌足の天智天皇の勅命によりて撰す。

オーム Ohm 物理 電導體の抵抗の單位、電池の電端のポテンシャル差一ボルトなるとき一アンペアの電流を許す導體の抵抗力なり、今電流をCアンペア、電動力をEボルトとすれば オームの定律により

C = Force / CR (但Rは抵抗力)なるを証明し得、一オームの抵抗は一平方センチの断面積長

一〇六、三厘のの永銀柱が電度の時呈する力なり。

オーム 鸚鵡 Parrot 動物 鳥類、攀禽類、羽毛麗美白色、嘴脚壯強頭に毛冠を戴く、舌厚くして巧に人語を摸擬し 趾は前後二個善く壁面樹幹を攀ず、多く熱帯地方に産し本邦にては愛翫物として賞せらる。

オームガビ 鸚鵡螺 Nautilus pompilius 動物 頭足類、螺旋狀の殻、口周圍に伸縮自由なる數多の觸手、二對の鰓を有す、多くは印度洋に産し 隔壁間に浮び細管狀に體を延長して壁間を貫通し螺頂の一部を達せしむ。

ねほむしーじんしや 大虫神社 神社名 越前丹生郡大虫村にあり、天津日高彦火火出見尊を祀れり。

ねほーむーだ 大牟田 地名 筑後國西海岸にありて石

炭積出の要港なり。

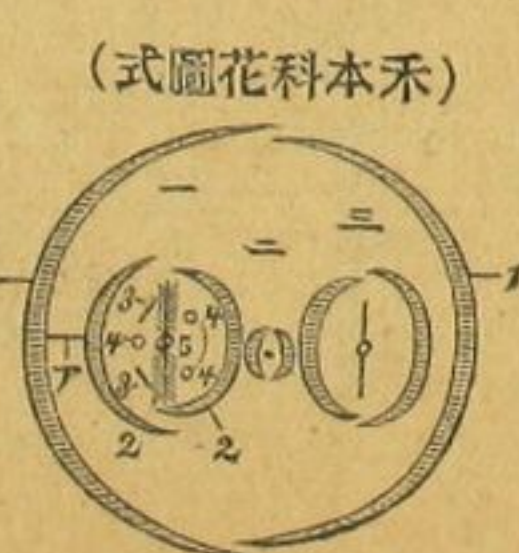
ねほーむぎ 大麥 植物 禾本科 草本、大麥の特色は 小穂花序一個と 圖に示せる如く内外殼相緊抱することなり、種子は食用とし水飴、酢、酒に作り 稈は工業上に供す、又近時製紙の原料とす

(一)、(三)完全花、(二)不完全花、(1、1)穎、(2、2)内外殼、(3、3)鱗被、(4、4、4)雄蕊、(5)雌蕊、(ア)稈。

ねほむら 大村 地名 肥前國東彼杵郡大村町、現今歩兵第二十三旅團司令部所在地、古藤原純友の後大村氏世々之を領し、純忠に至り 豊巨秀吉に仕ふ。

ねほむらーうじ 大村氏 人名 肥前の豪族、忠澄に至りて肥前の二郡を領し、孫純興は元弘の亂懷良親王に屬して勤王す、純忠大村氏を嗣ぐ、ローマ法グレゴリー三世に信書方物を贈り、甚だ 切支丹宗を信仰す、我邦に於て歌州に渡りし嚆矢なり。

ねほーむらじ 大連 歴史 官名、垂仁天皇の朝物部十千根始めてなりしより起る、の左右大臣の如きにて上古大臣と共に朝政に參與せし官なり。



(式圖花科本禾)

たほむら—ますじらう 大村益二郎 人名 豪傑、明治近世の人、村田藏六のことにて、周防より出資、成長後、緒方浩庵に就きて蘭學を修め、明治維新徳川氏を打ちて功あり、兵部大輔に任ず、後刺客の爲めに倒る、今に東京靖國神社内に銅像たり。

たほん—でんくは 植物 錦葵科に屬す、琉球臺灣の如き暖地に産す、其纖維より繩の一種を作る。

たほ—め—つけ 大目付 歴史 役名、徳川氏の制度、寛永九年始めて置かる、評定所に在りて諸大名の令達、殿中の儀式、諸侯の監察等を司る。

たほ—もり 大森 地名 武藏國荏原郡大森村、品川灣に望み、風光明眉、八景園などの小山あり。

たほやけ—がた 公方 古語 將軍などの名、足利時代より始まりたる語。

たほ—やしま 大八州 地名 大日本帝國の別稱、淡路伊豫、筑紫、對馬、隱岐、佐渡、大和の八州あるより起ると古書に見ゆたり。

たほやま—いわね 大山蔵 人名 日露開戦あるや、滿州軍總指揮官となる。天保十二年十月鹿兒島藩に生る、戊辰の役に功を立つ、端西留學を命ぜられ兵法を學びて歸る、熊本神風黨及西郷隆盛を平けて功あり、後十六年兵法巡査

の目的にて西洋に渡る、二十七八年日清戦役の時、第二軍司令長官となり、陸軍大臣となること二回、今は陸軍大將元帥正二位大勳位功二級侯爵なり。

たほやま—げんぶ 大山元孚 人名 彫刻家、江戸の人、赤城軒と號せり。

たほやま—つなよし 大山綱良 人名 武術家、鹿兒島の人、西南の役、隆盛に與みし斬に處す。

たほやま—ねこ—ひこ—く—くる—の—すめらみこと 大日本根子彦國牽天皇 人名 孝元天皇を申すなり。

たほやま—りの—うじ 大山守皇子 人名、皇子、應神天皇の御子、菟道稚郎子の兄、帝は遠江國土形原にあり、山海此政をなさしめ給ふ。

たほやま—れんげ 天女花 植物 木蘭科、喬木類、高一丈、白色の花、紅紫を吐き、芳香郁鬱たり。

たほよ—り—ごも 神楽衣 古語衣服の名、現今神社祀祭にて神樂に舞ふときの衣なり。

たほよ—ご—かは 大淀川 川名、筑前平原を走る川、源を遠賀川と云ふ。

たほよ—ご—みちかぜ 大淀三千風 人名 俳諧人、伊勢の人、目に三千句を詠むと云ふ。

オホルト Oporto 地名 ホルトガルの一都會、古ホル

屬 穀

たほろか—たてき 大和田建樹 人名 文章家、伊豫守和島の人、東京にありて、謡曲に精通し、大日本文學史等著書多し。

たほろか—たてき 大和田建樹 人名 文章家、伊豫守和島の人、東京にありて、謡曲に精通し、大日本文學史等著書多し。

たほわたり 大渡 地名 山城久世郡にあり、淀川の南、木津川と會する所なり、承久の亂に戦ありし所なり。

たほ—わ—かは 大井川 川名 甲斐信濃の境界、白根山中を源とし、駿河西海に注ぐ。

たほ—わ—がは 大堰川 川名 海を丹波に發し山城に入りて嵐山の前を流れ、桂川となる。

たほ—の—はいてい 大炊の廢帝 人名 天皇、天武帝の孫、舍人親王の王子、孝謙上皇の爲め淡路に遷され死し給ふ、明治三年、淳仁天皇と諡す。

たほぬ—ごの 大炊殿 古語 役所、今の朝廷に於ける炊事場に同じ。

たほ—の—みかど 大炊御門 地名 門名、平安城都芳門と云ふ。

たほ—の—つかさ 大炊寮 地名 役所、昔宮内省に

たほろか—たてき 大和田建樹 人名 文章家、伊豫守和島の人、東京にありて、謡曲に精通し、大日本文學史等著書多し。

たほろか—たてき 大和田建樹 人名 文章家、伊豫守和島の人、東京にありて、謡曲に精通し、大日本文學史等著書多し。

たほろか—たてき 大和田建樹 人名 文章家、伊豫守和島の人、東京にありて、謡曲に精通し、大日本文學史等著書多し。

たほろか—たてき 大和田建樹 人名 文章家、伊豫守和島の人、東京にありて、謡曲に精通し、大日本文學史等著書多し。

たほろか—たてき 大和田建樹 人名 文章家、伊豫守和島の人、東京にありて、謡曲に精通し、大日本文學史等著書多し。

たほろか—たてき 大和田建樹 人名 文章家、伊豫守和島の人、東京にありて、謡曲に精通し、大日本文學史等著書多し。

たほろか—たてき 大和田建樹 人名 文章家、伊豫守和島の人、東京にありて、謡曲に精通し、大日本文學史等著書多し。

たほろか—たてき 大和田建樹 人名 文章家、伊豫守和島の人、東京にありて、謡曲に精通し、大日本文學史等著書多し。

地、燈台あり

おんすく 御前崎 地名 遠州城東部の突海出點の地燈臺あり。

オマーン Oman 齋望 地名 英國保護地、アラビアの一州アラビア海岸ペルシヤ灣の海岸の一帶の地灌概の便ありて豊饒なるも 氣候酷熱健康に害す。

オマル Omar 烏馬兒 人名 ローマ第二のカリフなり、六三五年シリア、六三七セルササレム、ペルシヤを併しシヤトアラア河畔にバストラ市場を立て、又埃及にはカイロを築きたりき。

オマル Omar 人名トルコの將軍、オマル、バシヤは ロシアの南侵を苦しめ功ありしが 一八六二年モンテ子グロ國チエチエにて擒になる。

おみ 臣 官位 上古の皇別、天武天皇の朝即清見原朝廷の制度として八姓を改正し給ひ、其六位に置かる。

おみーなし Patrinia Scabrisaefolia Strik 女郎花 植物 敗醬科、秋七草の一、越年生にて自然山野に生ず、莖の高三四尺、秋、群黄色の細小花を開く、もみてかぐときは 敗醬の香あり。

おみーぬぐひ 御身拭 儀式 釋迦牟尼佛の尊像を白絹に拭ふこと、山城嵯峨清凉寺に行はるなり。

オムム Omm 人名 獨逸の人、電流に付き オムムの

定律を定む。

オムスク Omsk 地名 西シベリアの一首府、オム河上にあり、元、ロシアの殖民地なりき。

オームのーていつつ Ohm's law- ねーむの定律 物理 獨人オームの發見するところの電流の強さの定律、即ち電流の強さは、電池の電動方に正比例し、輪道の抵抗に逆比例す。

おむろ 御室 地理 仁和寺、宇多院、亭子院とも申す、山城國葛野郡花園村御室にありて宇多上皇の隱所なり後應仁の亂にて焼けしも 徳川氏の時 法親王門跡となり給ふ。

おほーわたり 大渡 地名 山城國久世郡の淀川、木津川の出會點の地、承久の亂に際し 坊門忠信千餘騎を以て足利義氏の軍と戦ひし地なり。

おんい 蔭位 襲位の叙位法 (孫は一等下る) 一位の嫡子一從五位下 庶子一正六位上 二位の嫡子一正六位下 庶子一從六位上 三位の嫡子一從六位上 庶子一從六以下 四位の嫡子一從六位下 庶子一從七位上 從四位の嫡子一從七位上 庶子一從七位下 正五位の嫡子一從八位下 庶子一從八位上

おんじやくーじやく

おんじやくーじやく 園城寺 地理 寺名、近江國大津にありて三井寺と稱す、天台宗の本山、大友與多王の開基、初め 眞言をも信せしが 延暦寺の盛んに至るに及び之と教義を戦ひ 後權力に訴へ 京師を騒がせしことあり。

おんじやくーじやく 温石 礦物 蛇紋石の條を見よ。

おんじやくーじやく Astutus 温石絨 礦物 化學、石綿のことにして 形状するのを白くしたる如く、一〇〇〇度以上に熱するも溶けず、硫酸硝酸に合ひて變せず、多く火消用手袋を作る。

おんじやくーじやく Pinber 音色 物生 發音體は其振動數によりて各特異の音を發す、是れ同音調及同強の音を發せしむるも、各樂器特別の性質を有する音を發す、この特色を名けて、音色と云ふ、人間の發音は、喉頭部に在る聲帶の薄膜の振動による、而して各特別を發するを以て暗所にあるも音によりて何なるかを知る、男子は一秒時間に九十回一四百四十回、女子は二百七十回一五百五十回。

おんじやくーじやく Hot spring 地名 地中流動水、地熱の爲め高温度にせられ 地上に湧出するを云ふ、温泉は冷水よりも溶解力強を以て 種々の礦物を溶解す。これ硫黄泉、鹽類泉、炭酸泉、酸性泉、單純泉のある所以なり。

おんじやくーじやく 人名 建國者、高麗鄒牟王の少子、箕

おんじやくーじやく 温祚 人名 建國者、高麗鄒牟王の少子、箕

從五位の嫡子一從八位上 庶子一從八位下

おんがーのかは 遠賀川 地理 川名、筑前の大平原を走る大河にて支海難に注ぐ。

おんがーのーしま 恩賀島 地理 島名、安藝國安藝郡の南海にある嚴島のことにて 日本三景の一なり。

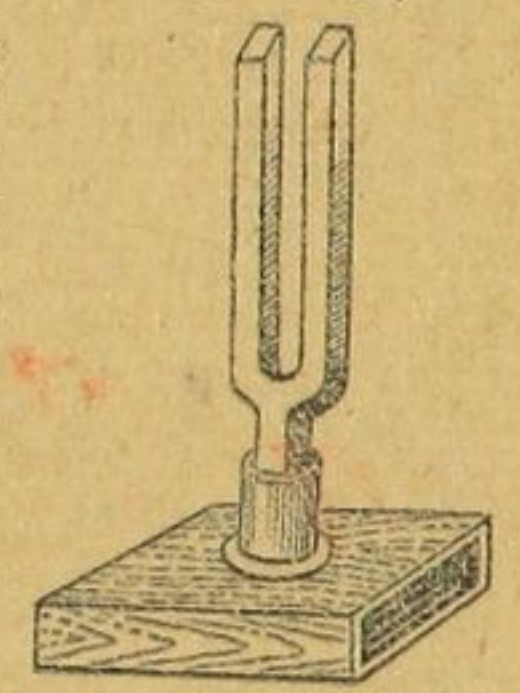
おんこ 植物 「イチヂ」に同じ。

おんこーちしん 温故知新 古語 習ひしことを復習すれば得るところありの意義、論語に曰く「温故而知新、可以爲師矣」と 此、より出づ。

おんさ Punning folks 音叉 物理 音響の標準器、能く銀練したる銅鐵をU字形とし之を木製の箱に上せ、胡弓の弦或は軟棒にて摩するときは、規則正しき清耶の音を發するなり。

おんさくーのかむり 御幟冠 衣服の名 天皇陛下の神祭に着けさせ給ふもの、無紋にして 後より頭を、前にて絹にて結ぶ。

おんし 蔭子 古の官位制度 年二十一に至れば、選叙令により 父祖の位に位叙せらる、ことを云ふ。



かん、たい

氏の國に走り 西紀前十八年濟國を建つ。

オンタリオ *Ontario* 地名 北米加奈陀の北部、マニトバとケベックとの間にありて人口最も多く、最も富める州なり、湖甚だ多く礦山に富む、首府トロントと云ふ。

オンタリオ *Ontario* 地名 北米加奈陀の北部、マニトバとケベックとの間にありて人口最も多く、最も富める州なり、湖甚だ多く礦山に富む、首府トロントと云ふ。

オンタリオ *Ontario* 地名 北米加奈陀の北部、マニトバとケベックとの間にありて人口最も多く、最も富める州なり、湖甚だ多く礦山に富む、首府トロントと云ふ。

オンタリオ *Ontario* 地名 北米加奈陀の北部、マニトバとケベックとの間にありて人口最も多く、最も富める州なり、湖甚だ多く礦山に富む、首府トロントと云ふ。

オンタリオ *Ontario* 地名 北米加奈陀の北部、マニトバとケベックとの間にありて人口最も多く、最も富める州なり、湖甚だ多く礦山に富む、首府トロントと云ふ。

オンタリオ *Ontario* 地名 北米加奈陀の北部、マニトバとケベックとの間にありて人口最も多く、最も富める州なり、湖甚だ多く礦山に富む、首府トロントと云ふ。

オンタリオ *Ontario* 地名 北米加奈陀の北部、マニトバとケベックとの間にありて人口最も多く、最も富める州なり、湖甚だ多く礦山に富む、首府トロントと云ふ。

オンタリオ *Ontario* 地名 北米加奈陀の北部、マニトバとケベックとの間にありて人口最も多く、最も富める州なり、湖甚だ多く礦山に富む、首府トロントと云ふ。

オンタリオ *Ontario* 地名 北米加奈陀の北部、マニトバとケベックとの間にありて人口最も多く、最も富める州なり、湖甚だ多く礦山に富む、首府トロントと云ふ。

オンタリオ *Ontario* 地名 北米加奈陀の北部、マニトバとケベックとの間にありて人口最も多く、最も富める州なり、湖甚だ多く礦山に富む、首府トロントと云ふ。

通音楽上の繼續する二音程を示さん。
九八 一〇九 一六 一五 九八 一〇九 九八 一六 一五 九八 ……

かんご 温度 *temperature* 物理 物體の温度とは他の物體に對し 如何なる割合の熱を有するかを示すことなり、甲乙二體ありて相接觸するか 相對せしむるとき甲體の熱去りて 乙體に移りたりとするは 甲體は温度高し、双方共熱に増減なければ その温度相等しと云ふ可し

かんごのせと 音戸瀬戸 地名 安藝國倉橋島より備後鍋島の間を云ひ 昔 平清盛福原に遷都し 屢々安藝の嚴島に參詣す 依て便利の爲め此瀬戸を作りしものなり

かんねぬま 恩根瀬 地理 沼名、北海道根室國根室郡にありて周回七里なり。

かんごのろくご 音の速度 物理 音の速度は 傳達體の彈性及密度に關係し 又彈性及密度も温度に關係するを以て、音の速度も 温度に關係す、而して固體最も大、液體之に次ぎ 氣體最も小なり今空氣中にて、 t の時の速度 V は一秒時間に $330.7 \sqrt{1 + \frac{t}{273}}$ 米なり 但し 330.7 は 0° の時の空氣に於ける速度 V_0 は、瓦斯體の膨張率なり

かんごのはんしゃ 音の反射 物理 音波の空氣中を

Internal

かんごのちやう *Pitch of Sound* 音調 物理 音調は發音體の振動數の多少に關して異なるなり 振動數多きときは高音少き時は低音、學術上は調の一を二百五十六振動するものとす。

かんごのい *Overal* 音程 物理 二樂音の振動數の比例を云ふ、此の比の極めて簡單なるとき能く調和す、今普通進行するに際し 障害物(壁等)に逢ふとき更に方向を取りて進行するものなり、之を音の反射とす、山彦及反響とは此が現象なり。

かんごのくつごう 音の屈折 物理 音波の傳達體の疎密により、音波の進行の遲速を生ずるを以て、音波は或媒介物より、他の媒介物に入るとき、其進行の方向を變ず、これ光線の屈折に同じ。

かんごのはさゆ 音の波及 物理 發音體は一定の週期を以て運動するものにして、物體が外方に動く時は、之に接す空氣は壓迫せられ濃厚となる、然れ共内位に復せんとして、外方の空氣を壓し逐次如此空氣の濃厚部分が外方に進行す、又發音體が内方に動く時は、之に接する空氣は稀薄となり、外方の空氣之を補はんとして來り、更に又稀薄部を成す、逐次稀薄部は外方に進む、斯くして疎密波をなして漸次外方に振動を播及す、之を音の波及と言ふ。

かんごは 音波 *Sound wave* 物理 發音體を振動せしむるときは、其の質點は一定の週期を以て振動し、圍繞する空氣に傳はり縦波を起す、而して濃厚、稀薄の二部を生じ、濃厚部は常に外方に向ひ、稀薄部は常に内方に向ふを以て、縦波は漸々外方に進む、此現象を音波と云ふ。

かんごのーかんしよう 音波の干涉 物理 音波は各

其發音體の質點の週期により異り起るものなれば、空氣の一部、同時に二個以上の音波に逢ふときは、波の山と山と重り 谷と谷と重り 山と谷と相對する如き種々場合あり此の山と谷と相對するときは 音波平均せられて 振幅減じ弱音を呈す、此の現象を音波の干涉と云ふ。

かんごのーでんたつ 音波の傳達 物理 吾人の音を聞き得るは傳達する媒介物あるによる 此媒介物も其密度によりて異なるなり 固體最も能く傳達し 次ぎに液體、氣體となる。

かんごはかせ 音博士 官名 大學寮に屬し 支那の字音即ち漢音、吳音等を教授する人の官、二人を置くを常とす。

かんごのびん 音便 文典 言語發音上の便義にて音を轉ずることを云ふ、例へばかみさし替は かんざしに變ずるが如し、文典上左の音便最も必要なり。

かんごのハムフレド *Hamphrey Onfredo* 人名 英國の有名な神學者なり、(西紀一五二七回一五九〇)

部

波

オムマヤサキ Ommayyads 時代 西紀六六一年オスマンの波斯サフン朝を滅し、ムアウィヤ一世、都をダマメク

に定め、國を建つ、これオムマヤ朝にして十四人のカリフ王朝なり、後七十四年アッバ朝のアッバアッバスの爲め敗られイスパニアに走り、コルドバ朝を建設す。

わんやうはかせ 陰陽傳士 官名 事の吉凶を占ふところの陰陽寮の官人にして、陰陽學を教授する人なり。

わんらん 音韻 語學 音とは人の聲にて一氣に出する單純なるもの、韻とは首のひびきを云ふ、此が學問を音韻學と云ふ。

わめむし 臆虫 動物 等脚類、夏秋濕地に生ず、全身薄風色にて横腹に一筋の縞あり、嗅氣にして藥用に供す

わめんまより Concaemirror 凹面鏡 物理 内面凹なる處を反射面としたる鏡面を云ふ、この凹面鏡にては、鏡軸に平行する光線反射してその焦點を過ぎ、又焦點を過ぎる光線及焦點より發する光線は、反射の後、鏡面に平行して進む。

わもがい 面鑿 歴史 馬具の名、馬の頭より響までぶなびたる緒にて、多くは黄、白、赤等の糸或は布にて組みたるものなり。

わもがろし 面輕 古語 温靜なることなり。

わもち 重さ Weight 物理 重量とは、物體の質量が其重力即ち地球の物體を引寄せんとする力に感ずる度合を云ふ。

わもたか 野茨菰 植物 澤瀉科、くわの類なり、球根草にして池、澤に生ず、夏莖生じ、白花を出す、食用として味風雅なり。

わもせい 大晦日 歴史 十二月三十一日のこと、わみぞかと云ふ。

わもてどーかけ 表裏影 両者相離れざるものを云ふ「親子は表と影の如し」の如し。

わもてぶせ 面伏 名譽を失ふ、不面目のこと。

わもてる 面照 古語 恥ぢて赤面すること。

わもてなへたこす 起面 古語 功勞を立て、名譽を得ること。

わもご 萬年青 植物 百合科 葉は深緑を草質にて根莖より生じ、廣長厚硬なり、花は穗狀花序に排列し、綠黄色或は白色の花蓋を有するなり、秋赤色の漿果を結ぶ、多く盆栽とし高貴のものに至りて幾千圓の價値あるものあり

わもにこづけ 重荷に小付 苦勞ある上に又苦勞すること云ふ。

わものふげよう 御物奉行 歴史 官名、武家に在りて、わもはゆの變轉せしまでなり。

わもんさんせんび 横紋筋織維 Striped muscle fibres 生理 人體外部の動運機關を司る筋肉を構成するものにて隨意筋織維の名稱、顯微鏡に照せば、圖の如く長き横維に横紋の併行するを見るなり。



わよこつき 親子月 曆語 陰十二月のことを云ふ。

わやしほ 親潮 地名、潮流名 露領カンサツカ半島の海岸より、日本の千島列島に沿ひ、本州の東岸を洗ひ、金華山沖に至る寒流なり。

わやしらす 不知親不知子 地名 越後西頸城郡の海岸にあり、立山の裾、斷崖絶壁の下、波打際にて、波にさらはる、ことあれば、親子も相顧みる暇なきは、危険なところなり。

わやにかかるときこにかかり 親に馮る時、子に馮る折 子が親に頼る時もあれば、親が子によるるときもあつたの意義なり。

わやのまもり 親守 古語 子を大切に思ふ親の心のことにて、古く多く歌に詠みたり。

わやま 小山 地名 下野國下都賀郡に在りて今は北陸

四百八十五

て調度のことを司る役、將軍參内の時、之に従ひゆくなり
わもひあまる 思餘 過度に心を勞すること、堪へがたきまで思ふことなり。
わもひうしろむ 思後見 心配して 親切に後見してやること。
わもひかまふ 思構 心中密に企つること 謀反の心を抱くなども云ふ。
わもひくさ 思草 植物 草名、女郎花のことなり。
わもひご 思子 親愛なる子。
わもひなすらふ 思準 彼此を比較すること。
わもひのつゆ 思の露 涙の出ることなり。
わもふ 思憶 念想 惟願 思は思案すること 慕ふこと、憶は思出すこと、昔を憶ふか如し、念は心にかけて常に思ひれること、想は無形物を想ふこと、惟は一心不乱に思ふこと、食し維の如し、願は後事を省ること、わもぶらぐ 面脹 動詞より變化せし言葉 顔の肥満して圓きこと。
わもぶらぐ かいつらねて 思ふ同士揃ひ列ねて 古語 かいば かきの音便、親友と連れ立ちての意義なり。
わもへり 顔色 古語 かはつき かはいるの如し。
わもほゆ 所思 かくわもはる かくおぼゆの意義

日本鐵道の停車場あるところ、歴史に富める地なり、天慶年中、藤原秀卿、平將門を討ちて功ありしかば、世々此地による、後裔朝政に至り頼朝に仕ふ、治定四年、頼朝の佐竹氏を討つに陣せしところ、なり天正十八年豊臣秀吉の陣せしところ、慶長五年上杉景勝を討たんとて、徳川家康の陣せしところなり。

ねゆみ 小弓 地名 千葉縣千葉郡生實濱村に在りて足利末代源氏の居住地、後武田氏之を陥れ、足利義明東國に出走するや、之を迎へて城に置く、これ御小弓御所ある所以、後義明は北條氏綱と鴻臺に戦ひしも敗れぬ、寛永四年徳川氏の有し、森川重俊に與へらる。

ねゆみのーごしよ 小弓御所 地名 目下千葉郡蘇我町に在り、昔し將軍義明、兄の高基と不和を生じ、上總に走るや、里見義通等之を奉じて小弓城に居らしむ、これを云ふ。

ねーよる 御寝 國四 古語 敬語 ねよんなるに同じく、御就寝のことを云ふ。

オラフ Oruf 人名 王、西紀十世紀頃の人、ノルウェーの王第一世より五世に及ぶ。

オランダ Oran 地名 名 アルゼリアの最も盛んなる港、回

々教會堂大學校あり、エスバルト草 鐵礦を輸出するを以て名あり。

オランジェ Orange (Oranie) 地名 南亞弗利加の共和國 一九〇〇年英杜戦争の結果 イギリスの殖民地となりぬ。

オランジェ Orange (Orange) 地理 河名、南アフリカの大河、源をナクル境國バスターランドに發し、西走してオランジェ共和國、英領ベチアナランド及獨逸領西アフリカとの地を、ケープロニトより分離す、全長一〇〇〇哩あり。

オランジュ Orange 人名 將軍、十六世紀の初めフランスのアルゴニーニヤに出で、アレー男爵の子、カロロ五世に仕く大功ありて、一五二八ナボリの總督となる。

オランジュ Orange 人名 西紀一五七九ウトレヒトの同盟により、ウィルム公に推され知事に舉ひらるはオランジュ家なり。

オランジュ Orange 人名 フランスのホークルスの一邑、舊名アロシオと云ひ、ローマ古代の遺物多し、西紀前一〇五、シムプリア人のロマを取りしところナッサブ家領の首府となる、一七〇二、オランジュ家に屬し、一七一四、フランスに合す。

オランジュ Orange 地名 都府、アメリカのニューヨーク州の都會 多くニューヨーク人によりて占領せらる。

オランダ Holland (Nederlanden or Netherland) 地名 西部歐羅巴の一小海國ゾイデル海深く内地に入込み、シュルデ河口に至る、全國四分の一は海面を下る五米なり、以て堤防を築きて防ぐ、十六世紀スペイン配下を脱して獨立し、十七世は雄飛時代なりき、其殖民地は本國の六十四倍ありと、又此國は日本との關係頗る密にして、今日日本の文化も蘭學の迅くに傳來せしによる、殊に醫學に於て最も益を受けたり。

オランダギジカクシ 石刀柏 Asparagus officinalis L. 植物 百合科草本 葉は細微花は帯綠色にて小、嫩芽を食用とす。

オランダイチゴ Fragaria Virginiana Ehrh. 植物 薔薇科草本葉、は複葉三個より成る白色の花、肥大せる花托に、數多の瘦果の着せる果實、食用として佳味あり。

ねらんだーげんげ 植物 「しろつめくさ」に同じ。

ねらんだーしょうぶ 和蘭菖蒲 植物 菖蒲科草本、春季黄赤色の莖を出す。

ねらんだーせり 和蘭芹 植物 草名、葉刻細かにして

莖高し、食用とす。

オランダ Aland 地名 ホスニア灣中の群島なり、三百の小島より成り、内八十島には住民あり、ロシア此地に要塞を置けり。

オリサ Orissa 地名 印度舊帝國 西紀一五六八年迄獨立し、一八〇三英領となる、今はベンガル地方のみ、米、麥、豆、綿を産す。

オリサバ Orizaba 地名 北アメリカのメキシコのペラクルズ州の火山、一八二〇五呎の高さあり、ペラクルズの首府も同名なり。

ねりたくしばーのーき 折焚く柴の記 書名 徳川將軍家宣の臣 新井白石 其一生の經歷を書きしもの 當時の事情を知るに足る。

オリノコ Orinoco 地理 河名、南米北部の川、同河口は西紀一四九八年 コロンブスによりて發見せらる。

オリバ Oliva 地理 寺名、獨逸ゲンチヒ市の近隣にある寺院、西紀一六六〇年瑞典と波蘭との和議を結び、兩國の兵を撤退したるところなり。

オリバレス Olivares 人名 將軍、十六世紀イスパニアの將軍、カスチリア大政治家の後裔、ローマに生る、ヒリツア四世に仕へ寵臣たり、西紀一六四七年死す。

たりひとしんわう 織仁親王 人名 有栖川宮織仁親

王の御子、花園天皇の猶子となり、親王となる、和歌を好み給ふ 文政二年死す、文聚院と諡す。

たりべ 織部 歴史 天正の頃織部某の作りしもの、朱塗、梨地の小形木杵を云ふ。

たりべさか 下部阪 地名 伊勢豊受大明神域内多賀宮の登道のこと。

たりべつかさ 織部司 昔の役所 綾、絹の織物を司る宮省にて大藏省に属せり。

たりん 黄燐 化学 白燐と同じ、燐を日光に曝し、若しくは空氣の流通を遮断して 240°C の熱に當つれば赤褐色の粉末と變ずるを赤燐と云ふ。

オリベル Olives 人名 侍従武官 カロロ大帝に仕へローランドと馬に乗り常に帝側にある武士なり。

オリベル Oliver 人名 畫家、西紀一五五六年イギリスに出で 肖像畫并に貴顯紳士の密書に巧みなりき。其子オクベルも又父の如かりき。

オリントス Olynth 地名 ギリシア ハルキク牛島の一部府なり。

オリンピア Olympia 地名 ギリシアのエリス溪谷中の一平原、アルフェイオス河の灌流するところ、西紀前七

七六年始めてオリンピア祭を行ひ四年毎に此式を行ふに至れり 神靈はシュエースの神にして其廟の宏大にて諸物殆んど揃へり。

オリンパス Olympus 地名 山脈 ギリシアのテッサリーとマセドニアとの境界山脈にして頂上には松樹叢々として諸神を祀る最高峯は九七五〇呎。

オリンボス Olynpos 地名 亞細亞土耳其其の山頂上にはシュエター神の神廟あり これ昔時森林を以て蔽は天に達せしと信せしに由れり。

たりみのみかど 下居帝 古語、太上天皇のこと、位を退き給ひたる天皇のことなり。

オルガ Olga 人名 スカンヂナビアの皇子基督教信者ヘレナに洗禮を受け 宗教の傳播に力を盡す、九〇五年聖尊に加へらる。

オルガ Olga 人名 ロシアの貴婦人、プロシア公の子イゴルに嫁す 後コンスタンチノープルに至り耶蘇教に力を盡す 西紀九六九年死す、其祭日七月十一日なり。

おるかん 幹兒寒河 河名 今のオルホン河なり、元の太宗の七年此河の西なる和林に都を建て、大征伐の事を議する大會を開きたり。

オルガンかんオルガン管 物理 風琴管に同じ。

此行の字宛
下グベシ

オルニ Osini 人名 一八一九年イタリアの貴族に生れ、革命時代とて共謀して ルイボナパートナボレオンを殺さんとて 事顯はれ 斬に處せらる。

オルダ Orda 幹魯衆 人名 白黨汗國の領首、元の太祖成吉思汗の孫求知の長男 拔都の兄なり 西紀一二三六

年拔都大軍を以て西征に赴くとき之に従ひ リーグニヒに露軍を破り アラル海の東北シレシア荒原を領し白黨汗國を立て、子孫代々此によらしむ。

オルダム Oldham 地名 イングランの一市、マンチエスターの東北メロドック河上にあり、絹布、天鵝帽子の製造盛なり。

オルデンバル子フェ Oldenbarneveld 人名 政治家、紀一五四九 ナランダに出で 西班牙と條約を締結し、一六一八年ナツサウ將軍の爲め捕はれ ハーグ死刑斷頭臺の露と消ゆ。

オルデンブルグ Oldenburg 地名 獨逸國オルデンブルグ、リューベック、ビルケンヘルトの三州を合せる大公

國 面積二〇七六方哩、オルデンブルグの首府。

オルドルス Oldors 鄂爾多斯部 地名 清國蒙古の一部、歸化城、土默特の西、喀爾喀の東の地にて 秦以來幾度も他國に合されしも 察哈爾に至りて鄂爾多斯名と名く

喀

Holbach

天總九年支那に歸す。

オルバク Holbach 人名 佛國哲學者にして、少よりパリに住し華美の生活をなせり、其哲學は唯物的にして宗教は無神論なり、(西紀一七二二—一七八九)

オルハン Orkhan 人名 建國者 オスマンの子、チウルクメン部酋長、トルコ帝國を建つ。

オルホン Orkhon 地理 河名、蒙古の北方に流る河、長三八〇哩。

オルミューツ Olmitz 地名 オーストリアのモラビア城邑、三十年戦争、七年戦争の中心點、ラファエットの幽せられし所、現今商業盛なり。

オルムズ Ormuz (Hormuz, Hormuk) 地名 波斯灣に在る島、一五二五年ホルトガル印度總督アルブケルケの占領なり。

オルレアン Orleans 人名 フランスの四分王家なり、(一)フィリップ (二)ルイ(三)ガスコレ(ルイ十三世の兄弟)

弟(四)フィリップ一世(ルイ十四世の兄弟)。

オルレアン Orleans 地名 フランスのロアル河上、ロアル州の首府、西紀四五年エーチラス及同盟軍のアツチラを撃退し、一四二八年英國の包圍せしとき一少女シアンダルクにより救濟せらる、現今は羊毛、葡萄酒、穀類、材

注意
花ハハ
ミアラズ
ウエ
アルナリ

Orelans

木、油等の商業盛なり。

オルロフ **Orlow** 人名 名將、西紀一七三四年ロシアに出でケレゴリオと稱し、カタリオ二世の寵臣、七年戦争に功あり。

オルロフ **Orlov** 人名 海軍大將、ケレゴリオの弟、アレキシスと稱す、西紀一千七〇九年土耳其を伐つ、後露帝ヘクトル三世を弑しぬ。

オレカ **Olive oil** オリーブ油 化、植、橄欖油とも稱す、木犀科木本の果實より製出す。成分はオレイン及ステアリンなり。淡黄或は褐色を呈す、不乾性にして機械油に用ふるなり。

オレイン酸 **Oleic acid C₁₈H₃₄O₂** 化学 油酸と云ふ、所在は動植物の脂肪及油中即ちオレイン酸グリセル $[C_{18}H_{34}(C_{18}H_{33}O_2)_3]$ に存在す、性状は不飽和酸、無色無臭の油状液 14°C にて凝固す、空氣中にては黄色となり苛性加里と溶解すれば、パルミチン酸及醋酸となる。

オレクマ **Olekma** 地理 河名、シベリアの一河、四〇〇哩にてレナ大河に會す。

オレゴン **Oregon** 地名 北米合衆國の大太平洋海岸一帯の州なり、西北に山脈雲中に聳へ土地高し、牧畜、材木、石炭、金、銀を産すること多し、首府をサレムと云ふ。

オレイン酸類 三百九十八

オレフィン **Olefins, C_nH_{2n}** 化学 炭化水素の不飽和體なり。

オレンジ **Orange** 地名 オランジューを見よ。

オレンジバーバ **Orange River Cango** 地名 南亞非利加南方の共和國、ケープコロンの北にありて西紀一八五四年英國の轡を脱す、小丘多く氣候溫和、羊兎、石炭、金剛石、獸皮などを出さす。

オレブルグ **Orenburg** 地名、ロシア東南部の一州 ウラル山脈あり、ウラルのコサック騎兵駐屯す。

オレンブルグ **Orenburg** 地名、ロシアのオレンブルグ州の舊首府、タタル及アジア人と歐州人との貿易場たり。

オレル **Orel** 地理 川名、ロシアのハルコフ州の一川 流れてダニュープ河に注ぐ、(一三〇哩)。

オレル **Orel** 地名 中央ロシアの一州面積一八〇四二哩、又、オレル州の首府も同名にして、オカ河畔に在りキリ、シア及ロシアの一大市場とす。

おろし **Oros** 地名 地方風の種類にして、高所より低處に吹き下ろす風なり、即ち兩所の氣壓の大に異なるより起るものなり、佛國南部のミストラル風、アルプス山のフエーン風北アドリア海のボラ風等、此風に屬せり。

オロス **Oros** 幹羅思 地名 元太祖成吉思汗の西征の

時、大將哲別連不台來るも敗らる、其後漸く勢を恢復し金帳を滅し、七十回の戦争を以て諸國を侵襲し今や歐亞に誇る大國となり、現に我日本の爲め征せられつつあり。

オロンテス **Orontes** 地理 亞細亞の西部シリアの河、源をアンチレバノン山脈に發し、地中海に注ぐ、全長一五〇哩、沿岸實に絶景なり。

おわり 尾張 地名 東海道に在り、於波里のこと、天武の朝國守を置かれ、鎌倉幕府の爲め、野上成經守護となる、應永年中、斯波義重守護となる、其由織田氏に至りて之を徳川氏に與ふ、徳川氏代々三代家の一をこゝに置く、今は第三師團の所在地にして、土地平坦豊饒、交通の便極めてよし。

財

か

か 架 **Ka** 物とのするだいのこと。

か 語氣を強むるため形容詞に添ふ。かよわしの如し

か 地名 支那太古に於て、禹なる人、治水の功を以て、帝舜の禪を受け、國號を夏と云ひしなり、十七世、四百餘年、桀を以て終る。

か 蚊 **Zenocera or Mosquito** 動物 昆虫類、二翅類 濕地に産卵し、幼蟲をホーフラと云ひ、夏期盛に人畜を整す、我國にては二種あり、Culex Anopheles 即ち是れなり、前者は人血を吸收するのみなれども、後者はマラリア熱の病源を傳染するを以て其害甚し、又蚊の奇なるは、雌のみ人血を吸ひ、雄は 葉裏にありて露を吸ふのみ。

か 賀 **Ka** 祝賀の意と、高齡を祝ふ意とあり、重に七十七八十八の年に祝ふなり。

か 蛾 **Moth** 動物 昆虫類、鱗類 カイコ或はケムシの成虫なり、カイコは益蛾となれども、ケムシは樹木を害し、成虫は夜間飛行す、體肥大、觸角細し、翅の裏面は表面より、後翅は前翅よりも美なり。

か 一あう **Ka** 殘酷なる災禍、無罪のなどの意。

か あつりよ **Downward Pressure** 物理

殊

咎

液體の其容器の底面積を壓する力は、其上部の屈曲廣狹の如何に關せず、底面積同じければ、其壓力は相等し、此方即ち下壓力なり。

かーあん 何晏 人名 儒者、支那三國魏南陽の人、何進の孫、大將軍曹爽よりて列侯を賜はりしも、爽等官物を私し、州郡を求むるに至り、彈劾せられ共に誅せる、晏は道德論及其他數編の著書あり。

かい 戒 佛語 所謂勸善懲惡の法にて 佛教に歸依する人の、師道によりて、佛者と誓ふところの一の道、五戒八戒、十戒等あり。

かい 貝 Shell-fish 動物 二枚の貝殻を有する動物の總稱、ハマグリ、カラスガヒ皆是なり。

かい 艾 老人のこと、曲禮に「年五十艾」とあり。

かい 甲斐 地名 山梨縣に屬する一市九郡の國、昔甲斐國造の置かれしを始め、源義光の子孫是に居り甲斐源氏となる頼朝の兵を起すや武田信義是を管し信支起りて之を一統し 明治維新に至る。

かいーあし 鱧脚 動物 鱧の腹部に在る鱧脚のものを云ふ。

かいーあしーるる 鱧脚類 Copoda 動物 甲殼類、口部には上下兩顎、頭脚に二對、胸肢四五對、體の環節明瞭。

ロー、クラサス

かいあんじ 海晏寺 地名 書京府荏原郡品川町にありて北條時頼の建立せる曹洞宗の寺なり、大覺禪師の開山

ガイウス Gaius 人名 法律家、ローマの人、述せし法典はユスチニアン法典の基礎をなす。(西紀一〇一八年)。

ガイウスオクタウィウス Caius Octavius (Augustus Octavianus Caesar) 人名 ローマ最初の皇帝、ユリアスシーザルの甥、其十八歳の時シーザル殺害せらる、乃ちローマに歸り、紀元前四二年カシアス及アルタスを破り三一年アントニアス及クレオパトラを滅し、自ら皇帝となる。

カイウスマリウス Caius Marius 人名 ローマのコンスル(紀元前百七年) ユリウスシーザルの義叔父、民黨の領袖、スルラの強敵、ゴールキンブリを討ち、スルラを追ひ、後カルタゴに住す、歸りてスラの黨を苦しめしが、八年頓死したり。

カイウスユリウスケーザル C. Julius Caesar 人名 ローマの大人物、民黨の領袖、(西紀前一〇〇)、スルラと敵しスルラの死するや、コンサルとなり、紀元前六〇年ポンペイと第一三頭政治を作る、四八年ポンペイをギリシアに追ひ、ローマに歸りてゲクテターとなり、コンサルたること五年間、エジプトを伐つて功をなし、宏大なる

經營ありしも、四四年アルタスの爲め議事堂に殺さる、時に年五十六なりき。

がいうーまんろく 雅遊漫錄 書名 諸器 物の圖及遊戯の式をかけるもの大杖流芳の著なり。

かいーはき 改易 徳川時代の刑律の一、土は族籍を除き、家録を没して、素浪人となし、民は所拂ひとなして、家財を没收することなり。

がいばん 外燭 化學 「はのま」の條を見よ、

カイエンヌ Cayenne 地名 フランス領ギアナの首府、西紀一八五二年よりフランス國徒の殖民地となる、熱帯植物繁茂せり。

かいたうーせい 海王星 Neptune 天文 惑星 天王星の發見後、其運動の關係上より最近に發見せられたり、されど其の自轉なるを知らず。

がいーか 垓下 地名 安徽省鳳陽府靈璧縣の南、春秋楚の地たり、漢高帝五年項羽選楚せんとし此に至り、韓信に圍まれて南走せり「力山を抜く」の悲歌は此包圍中のことなりき。

かいーかふ 開闢 役名 宮中和睦所の書物の山納及雜務を司る役、又鎌倉幕府時代侍所の屬官にして、簿書の記録文案を司る、引付衆の兼職なりき。

かいかん 開管 物理 風琴管の條を見よ。

かいはんーしろう 海岸松 植物 草本、生長速く、大木となる松の一種なり。

かいはんせん 海岸線 地文 海岸に於ける、海陸相接する所を運ぬる線を言ふ。

かいはらーむし 介殼虫 動物 昆虫類、有翅類、介殼狀の分泌物を出し、自體を蔽ふ、雄は前翅に唯一個の分支せる脈を有し、吻なく、繭を作りて蛹化す、雌は無翅のもの多く、介殼狀分泌物らに産卵して孵化す。

かいはり 河域 地文 河系が水を供給する所の土地を言ふ。

かいはらうーるる 海牛類 Sirenia 動物 海水哺乳類海牛及ジュゴン(鱷長)より成る、全形鯨に似て頭部は陸上動物に似たり、海中に生死し、海草其他植物を食す、舊齒よく發達し、馬牛の舊齒に似たり。

かいはしよく 皆既蝕 Total eclipse 天文 太陽の全部を蔽ふときの日蝕を云ふ、而して其時間の最も長き所は赤道近邊にありて七分三十秒繼續す。

かいはしーせん 回歸線 Tropic 天文 赤道の南北二十三年の所にある緯線を云ふ。

かいはしーねん 回歸年 Tropic of year 天文 或年の春

分より翌年の春分までの時日、春分は三月廿一日を云ふなり。
Calm

かいきーむぶうたい 回無風帯 *Calm-zone of Prople*

かいはんしや 海金砂 植物 草本、糸の如き細き莖にて一尺許に成長す、葉は細薄にて表面に皺あり、此間に砂の如きものあり、是れ莖と共に薬用とするものなり。

かいざやう 戒行 佛語 戒を守りて佛道を修業することを云ふ。

かいはりょうしよくみんち 海峡殖民地 Straits Settlements 東インドに於けるイギリス殖民地にて、マライ半島の英領、シンガポール、マラカ等を云ふ、人口五十萬七千餘内十五萬人は支那人なり。

かいく 皆具 武器 兜、鎧、馬具などの凡て揃ひたるものこと。

かいくんく 海軍區 地名 海防便利の爲め 鎮守府所在地を基點とし 全國を五區に分ち管轄す、即ち 相州の横須賀、安藝の國の吳、肥前の佐世保、丹波の舞鶴、膽振の室蘭の五港なり。

かいくんたいふ 海軍大輔 役名 明治五年二月廿八日、兵部省を廢し、陸軍省海軍省の二部とし、長官を卿と次官を大輔少輔と云ひき、今は陸海軍大臣となれり。

かいくわてんわう 開化天皇 人名 人皇第九代の天子、孝元第二皇子稚日本根子彦太日(わかやまとねこひこふとひひ)と申す、都を大和國春日に奠め、率川宮と云ひ、紀元五百〇四年より在位六十三年、年百十五、崩御。貿易港にありて、出入の貨物を檢して、關稅を課す。

かいくわんせい 海關稅 輸入物品に對して課する稅

かいはい 改悔 佛語、懺悔(ざんげ)に同じ。

かいはいどうみやく 外頭動脈 生理 總頭動脈に起り、二腹頸筋と莖狀舌筋骨との後側より下頸枝後縁を上り内頸動脈淺部頸骨動脈の二經枝となるものこれなり。

かいはいある 介形類 Ostracoda 動物 甲殼類、小便殼類、切甲類、二枚の殼を以て蔽はれ、楕田にして側扁より、一個の眼、七對の肢、觸角二對、上鬚一對、下鬚二對、胸脚二對あり。

かいはん 改元 一、古代 帝王の代替りに年號を改めしもの、二、轉じて、總て年號を改むるにいへり。

かいはんせん 開元錢 貨幣、支那唐高祖の代の鑄造

錢なり。

かいはんの一ち 開元の治名 歴史 開元とは支那唐の玄宗の代の年號、玄宗、姓榮明、位の初め、銳意、治を圖り、風俗の奢侈を戒めしを以て、國富み、兵強く、文學技藝並び起り、天下大平なりき、即ち是を云ふなり。

かいはんもん 改悔文 佛語、眞宗中興大師 蓮如上人の作りし假名交りの經文、眞宗信者等の佛に向ひて、安心立命を説することを誓ひしもの。

かいはんごうづ 海紅豆 植物 喬木、二三丈に達し、白花を咲き、實は莢中よりあり。

かいはんこへいだん 海國兵談 書名 林子平が外國に對する戦術を論じたる書にて十六卷、天明六年自序、寛政三年出版す。

かいはんこつかく 外骨格 Exoskeleton 動物外面に有する骨格にして、筋足動物、軟體動物皆是れなり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 古語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

かいはんこつむ 搔癢 國語 しづかになること、かいは接頭語なり。

稻内方は鼓膜に接す。

かいじつーだう 戒日王 人名 王、西紀七世紀頃の印度烏菟國の王、佛教を興隆し、文學技藝を奨励し、其號令全印度に及びぬ。

がいじーらう 外耳道 生理 外聽道とも言ふ、外方耳介に連り、内方鼓膜に接せる管にして、茸毛一面に生じ、害物の侵入を妨ぐ。

かいーしのぎ 楊鑄 武器 鑄は、太刀のみねと刃との間に高く稜の立ちたる處、故に、この鑄の角を立てずして丸みをつけ、舟の櫂く、扇みに少し肉をつけたるを云ふ。

かいーじやう 開成 人名 光仁帝の皇子、桓武帝の兄性英敏佛教を厚く信じ、勝尾山に入りて修業せらる、彌勒寺の開山たり、天應元年十月四日、年五十八寂す。

かいしやうーはふ 海商法 法律 専ら海上の商賣を支配するもの、矢張り 商法の一部なり。

かいしやうーはふ 海上法 法律 所謂航海律にて、海上往來の船舶に關しての法律なり。

かいーじやう 介錯 後見人、介抱人、附添人の意あれど、素と、切腹するとき、附添ひ居て、首を斬る人を云ふ

かいしやうーかざん 塊状火山 Massive rocks 地文

單に熔岩のみ噴出して一塊の火山をなすもの形は圓錐形あり、一面平夷の岩臺あり、平面ドームあり。

かいじようーがん 塊状岩 地文 火成岩の事なり。

かいじようーろしき 塊状組織 Massive structure 礦物、多く黄鐵礦方解石等の組織にて、其排置せる狀、一定ならず、不規則にして、粒狀或は緻密なるあり。

かいしーさんひ 海蝕山稜 地文 嗣山稜の海底に入りてなれるものを云ふ。

かいーしる 恒代 古語 帳、とばりのことと、樂人のことを云ふ。

かいーずい 海水 Seawater 地文 比重一〇二六、水點零下二度、鹽類多量含有す 最も多きを 鹽化ナトリウム(食鹽)とす是れ 陸地を循環する水の運び來りしものと地球創造時代より海水中に存在せるものなり。

かいすいーのーがんにうづつ 海水の含有物 化學 其所在によりて差異あり 英國海峡に於ける海水は左の如し

食鹽 (Meal) 一七、〇五九
鹽化マグネシウム (Mgcl₂) 三、六六六
硫酸マグネシウム (Mgso₄) 一、二九六
硫酸カルシウム (Casol) 一、四〇六
鹽化カリウム (Kcl) 〇、九六六

炭酸カルシウム (Caos) 〇、〇三三
臭化マグネシウム (MgBr₂) 〇、〇一九
水 九六四、七四五
合計 一〇〇〇、〇〇〇

又太平洋の海水は左の如し

食鹽 (Nacl) 二、五九
臭化ナトリウム (NaBr) 〇、〇四
硫酸ナトリウム (Na₂SO₄) 〇、一四
硫酸カルシウム (Casol) 〇、一六
硫酸マグネシウム (Mgso₄) 〇、一
鹽化マグネシウム (Mgcl₂) 〇、四三
水 九六、五三
合計 一〇〇、〇〇

かいすいーのーのうごたう 海水の運動 The motion of seawater 地文 波浪、潮汐、津浪如く 海水の靜止すことなく 常に動搖すること。

ガイスレル Heinrich Geissler 人名 「ガイスレル」水銀空氣「ポンプ」の創作者なる獨逸の物理學者なり、初め硝子職工なりしも、物理學上の知識を有すが故、物理學的裝置を作るに妙を得たり、(西紀一八一四—一八七九)
ガイスレルチューブ Geissler Tube がすされるかん

物理 氣體スペクトルの研究に常用するもの、硝子管の兩端に白金絲を封入し、空氣ポンプを以て内部の空氣を稀薄となし感應コイルの導線を連ぬるときは、極間に弱光を放つ明暗相隔て、鱗列する如き狀を現出す、形狀及色は其氣體によりて差異あるも、各特有のスペクトル現すべければなり。

ガイスレル・パンプ Geissler's Pump 物理即ち水銀ポンプにて、トリセリー真空を應用したるもの、圖に示せる如く、A球形室を真空にするにあり

第一にPカランを開き、B球をあげてA球内に水銀を充しPカランを閉じB球を下るときは、A球内に真空の場を生ず、Qカランを開くときはA球内の空氣擴張するを以て、更に反覆して此の作用をなすより、以て真空とするものなり。

かいーせい 海 瀆濱の水際を云ふ、江瀆の詩句に、「且泛桂湖水映月遊海」一とあり、即ち此意なり。
かいーせい 蓋世 一世に秀逸したるもの、蓋世文雄とも云ふ、「力拔山氣蓋世」とあるも此意なり。

かいせいじ 海清寺 地名 攝津國河邊郡西宮にありて、應永年中發因禪師の開基せし寺なり。

かいせいじよ 開成所 徳川幕府の學校 初、洋學所と稱し安政二年將軍家定の學問所にて、蘭學のみを教へしが、安政三年蕃書調所と改め、文久二年書調所と改め翌年開成所と改正し志英佛獨の學及數學を教授し、後理化學を加へ、明治元年朝廷再興し、二年南校とし、諸國の人材を選り、洋學を修めしむ、六年開成學校年とし、十年大學の一郡とせり。

かいせうーるゐ 海鞘類 動物 最下動物の一、單立又は群體をなし、體は囊狀、口と排泄門とは殆んど同一、外物に固着す。

かいぜんじーにふたう 開善寺入道 人名 小笠原眞宗を云ふ。

かいーぜん 介然 國語 さびしきこと、獨居、獨來獨行、又鎖細なる事を心配する意あり。

かいぜんーばんり 階前萬里 下情の、陛下に通せざる意、蓋し御所の階段の前が萬里もありて、階下の人民が見ぬぬとの誓より來れり。

がいせんーもん 凱旋門 地理 戰勝して凱歌を唱ふて師を還すときに作れるもの、佛國パリのは、ナポレオン一

世のオートルリート戰勝紀念として、築けるもの、石造にして弓形をなし、四大柱、高五十メートルなり。

ガイゼリク Kaiserlich 人名 バンダル國王、四二九年アフリカを攻めカルタゴを占領して首府とす(西紀四〇六一四七七)

カイゼン Kaiser 人名 古代ゲルマニの皇帝に與へし尊號にてラテン語のケーザルの意。近代ウィルヘルム一世、其後繼者皆此名を稱す。

カイゼル・ウィルヘルムランド Kaiser-Wilhelm-land 地名 イギリス及オランダドイツの分領する地、新ギニアの東部の北方にあり、西紀一八八四年以來ドイツの保護領たり、面積七二〇〇方哩 人口一、六〇〇〇なり。

かいーろ 解訴 法律 解原とも云ひ、原被の示談にて訴訟を願下げること。

がいーろう 効奏 國官 人の罪過を陸に奏聞すること。

かいーろく 海賊 歴史 海上にわたりて盛に船舶を劫し物を奪掠するものにて、清和帝の頃より猖獗を極め、瀬戸内海を横行し、貢米を掠し、陽成帝の時は備前諸方を以て此が根據地となし、延喜の治世に於ても、紀實之の任滿

ちて歸るさに、甚だ之が爲め困難せり、天慶年中には藤原純友伊豫にありて海賊の長として反亂せり、後足利氏の末代に至りて、海軍を海賊と云ひしとなむ。

がいたい 外帯 地名 崑崙山系の條を參せよ。

がいーたい 駭態 愚なる様。

かいーだう 海棠 Pinus spectabilis 植物 薇薔科、春末、薄紅なる五瓣の花を開き、梨の如き小なる實を結ぶなり、支那にては、本邦の櫻の如く、艶麗として稱美す。

かいたうーふうごき 海島風土記 書名 佐藤行信、吉川秀道の撰、四冊より成れる寫本なり。

かいたくーし 開拓使 役名 今の北海道長官にて、明治二年八月 蝦夷を改めて、北海道と稱し十二國と定め、之を管する官なりき。

かいーだて 垣楯 かさたての音便 禪を張るときに、垣の如く楯を井べ立つること、後楯ならでも急なる場合立てたる城壁を云ふ。

かいーたん 開端 曆語 陰曆正月のこと。

かいたん 骸炭 化學 「コークス」の事なり。

かいたん 戒壇 地歴 僧侶の戒を授くるに用ふる壇、古三戒壇として奈良の東大寺、筑前の觀音寺、下野の薬師寺にありしも、後延暦寺のみとなれり。

奈

かいたんーせき 戒壇石 多く禪宗、律宗の寺門前に、不許軍酒入山門など書き立てたる石を云ふ。

かいたんーち 階段壇 Paritoe 地名 兩極地方に著しく起る現象にして、陸地漸次蜂起するか、海面下降するよゝ生ずるもの。

かいーち 解多 動物 獸類、神羊とも云ひ、羊に似て一角あるもの、想像のものならむ、昔 支那の堯舜時代に棲息し、獸阜陶の獄を斷するとき、之に觸れしめて、其正邪曲直を判するものなり、其辨すること神の如しと。

かいーちう 介胃 介よるひかぶと、具足、介甲のこと。

がいちやうけい 外長莖 Exogenous stem 植物 双子葉莖の如く、新材輪は、年々新材輪の外面に生成するものなり、之即ち年輪によるなり、年輪は春材秋材の二部より成り、以て莖の年を檢するに明なり、但し土地の寒暖によりて差異あり、熱帯地方の如く、終始の温度の變化なき所は雨期と雨期ならざる場合とを以て、區別せられ得。

かいーちやうーえ 戒定慧 佛語 持戒、禪定、智慧の三徳にして 佛者の修すべきもの。

かいーちゆう 蛔虫 Ascaris imbricoides L. 動物 腸形動物 圓虫類、寄生虫、小兒の小腸内に寄生す、長さ雄は一吋二三分より七寸餘、雌は三寸五分より一尺二寸

餘 上皮は分泌物の凝固より成り、細胞より成れる體壁此に次ぐ、口に三個の突起、雌雄異體卵を皮を袍り、楕圓形がいちぢぢ 害蟲 動物 人の生活に直接間接に害を加ふる虫にして、ワンカ、いなむし、あぶらむし等の如し。がいぢぢくーさん 外直筋 生理、外族神經の循るところ、收縮するときは、眼球外方に轉じ、視線の方向を變せしむるものなり。

がいぢぢくーでうけん 解除條件 法律 條件の成就したる時より、法律行為の効力を消滅せしむること。がいぢぢくーどー 外聽道 生理 外耳道に同じ。がいーづ 海圖 Sea map 地理 普通航海者、海軍の所持する海洋の状を示すもの、數字を以て、各地點の深淺を示し、別に符號によりて海底の状態を知らしむるもの。がいーづ 海洋 地名 近江國高島郡にありて、越前街道の西路たり、又信濃垣科郡今の松代のことを云ひたり。かいつむり 鳴 動物 音推動物 游禽類、太さ七寸、池沼に棲みて、水中に潜り、魚を捕食す、嘴は先端黒く、根部黄綠色、脊面黒褐色、腹面灰色、頭上及頬に長毛あり尾極めて短し、趾に板狀の蹠を張り、巢を水上に浮ぶ。

かいてい 海底 地理 海の底の意味にして、眞の海床と言ふべきものは、海岸を距る二百米突位より始まるものなり。

なり、是迄は海底の傾斜甚だしからず、是より先は傾斜俄に急となる、是大陸の端なり、之より太平洋の海床となり、後再び傾斜緩慢となり、漸次深海に達す、世界最深の海底は太平洋にありて、海面下三萬千六百尺なる所あり。がいーてい 孩提 小兒の幼稚にして可愛らしきこと 孩は小さきこと、提は手にさぐるること、より此意あり。孟子盡心篇の「孩提之童、無不知愛其親也」とあるも此意なり。かいていーかさん 海底火山 地理 火山の分布の條下を見よ。

がいーていーう 外抵抗 External resistance 物理 内抵抗に對して云ふ語にて、内抵抗は普通の電池の抵抗を云ひ、其他の場合即ち導線に於ける抵抗は則ち外抵抗なり、かいていーりつれい 改定律令 明治六年頒布せられたる刑法なれども、明治十五年一月に至りて廢せらる。かいていーさせき 灰鐵礫石 礦物 礫石の條を參看せよ。

かいていーまろつ 廻轉摩擦 Rolling friction 物理 車輪又圓筒の、平面上を廻轉する時、其の接觸する點に於て、其の運動に抵抗する力あり、之を云ふ。かいていーと 垣外 古語 垣根のそこのこと、又畑(はた)のこととも云ふ。

Pallial

カキ

がらうーんう 外套腔 Mantle cavity 動物 外套膜と體との間に存する空所のこと。

がらうーせん 外套線 Pallial-impresion 動物 外套膜の 貝殻に附着する部分と、離るる部分との境界にして貝殻に永く痕跡を存する線と云ふ。

がらうーまひ 外套膜 Mantle 動物 軟體動物にして貝殻を有するもの、殻の直下に接する膜を云ふ、殻は此の膜より分泌して生ずるものなり。

かいーどろし 搔燈 古の夜の御殿の燈火のこと。かいーどろ 搔取 古の夜の御殿の燈火のこと。

かいなんーふう 海軟風 Sea Breeze 地理 日中海上より陸上に向ひて吹く軟風なり、是れ日中は通例陸地の海面より、温度高きによりて起るものなり。

がいーねん 概念 心理、感覺によつて得る所の諸種の智識の中、其相異なるものを省き、相類似するものを綜合して、普通知識を作るの意識の作用なり。

かいねり 搔練 表裏とも、紅の練絹にて作れるもの、多くは女の服なり。かいは 海馬 動物 哺乳類、海獸、長さ二丈餘、上あひに二本の牙ありて下方に向し、長強なり、四肢はあざらしに似たり、多く、北海に棲み、群集す。

がいはいーどろ 外胚葉 Ectoderm 動物 腔腸動物等の下等動物の如く、三層より成る體の外層なり、高等動物にても、發生初期には三層より成り、外層を外胚葉と云ひ

かいはいーろ 外胚層 動物 外胚葉を見よ。かいはいーがく 解剖學 Anatomog 醫學 動物 成體の諸器官の構造、位置、病根及其諸部に關することを論ずる學問なり 比較解剖も則ち此一にして 諸動物の構造を比較して研究するものを云ふ。

かいはうーかん 海防艦 軍艦 海岸防禦及攻撃を完全になすもの、甲裝、非裝甲あり、現今の松島 嚴島等は則ち此れなり。

かいはうーざようん 海保漁村 人名 儒者、下總武射郡北清村の人、名元備、字郷老、通稱草之介、性銳悟、成長して經書に潛み、廿四歳、江戸に至りて太田錦城に師事す、後幕府の醫覺直舎の儒學となる、處土にして、教授となりし始なり、慶應二年九月十八日、年六十九にて歿す。

かいはしら 具柱 動物、楔足類の閉殼筋を取り、乾燥せるものこれなり。

かいはらーはさけん 貝原益軒 人名 學者、筑前福岡の人、名を篤信と云ひ、世々福岡侯に仕ふ、京都に入り、

松永尺五、山崎闇齋、木下順庵等の門に入り業を修む、著者頗る多く、初學訓、養生訓、女大學、慎思錄、小學備考大和本草、其他農業書、紀行文書等なり、正徳四年八月年八十五、にて歿す。

がいひ 外皮 動物 上皮に同じ。

がいひび 古語 手を膝下に入れて座すること。

カイン Kaiping 開平 地名 一、支那廣東省肇慶府の一縣、二、直隸省遵化道の豊潤縣に近き一營、天津の東北にあり。

かいひんしよくぶつぐん 海濱植物群 植物まはひるがは、はままでして、はまなす、はまぎく等の如く、海濱に群落して、僅に水中に體をたき、體の組織厚く、葉も狭く、刺狀に變化して厚し、是れ 水を吸収して、容易に蒸發せしめざらむ爲めなり。

かいふ 開埠 港、埠頭に同じ。

かいぶ 海部 地名、佐渡西北の海濱のこと、内海府或は外海府と云ふ。

かいふう 凱風 颯風 南風 「南風謂之凱風」より出ず。

かいふう 海風 海軟風に同じ。

かいふん 海粉 食物、一、アメフラシ、ウミウシの

卵を乾燥したるもの、支那に輸出す、二、海草の一種、色青く、はしのりに似たり。

かいへい 開平 地名 蒙古の漠河の北岸に在り、唐憲宗五年桓州を置き、世祖此處に居し、中統元年開平府とす。

かいほうかく 解剖學 動物 動物の成體につき、器官の位置、構造及諸部の關係を論ずる學問なり、比較解剖學は諸動物の構造を比較的に攻究するものなり。

かいほうふ 開封府 地名 清國河南省治、明洪武元年北京とし、二年開封とす、河南布政司治たり、清朝河南省治たり、乾隆四八年陽武 懷慶府に隸し、封邱に衛輝府に隸す、今二州十五縣と爲す。

かいほくしうしう 海北友松 人名、畫工、近江堅田の人、名紹益、狩野永徳に學び、朝鮮に往きて、宋人梁楷の筆意を學び、一家をなして歸朝し、後陽成帝の知遇を得、宸筆の御贄を辱ふせしこと數度、實に名譽と云ふ可し慶長二十年六月、年八十三にて歿せり。

かいほくじやくちゆう 海北若沖 人名 國學者、大阪の人 峯柏と號す 學を契沖に就きて修め、古學に精通せり、和訓類林の著者なり。

かいみやう 戒名 佛語 法名、法號にわしく、佛

かいふう

かいふう 海風 海軟風に同じ。

かいふん 海粉 食物、一、アメフラシ、ウミウシの

教にて人の死後につくる名。

かいめいもんらん 開明門院 人名 藤原定子のこと

かいめん 海綿 Sponge 動物 單體又は群體を成して海中に産し、其形狀一様ならざれども、上部に一大孔を有し體中の分岐せる主腔と疎通す、而して一種の骨格を具へ、二三細胞層より成り、外層は扁平細胞にて體軀の全面を包ふ、又所々に球形の小空所ありて、濛細胞と稱する小動物附着し、2圖に示す如く先端に一鞭毛を具へ、之を動めして水流を起さしめ流れ來る小有機物を捕食す、かくして周圍の小孔より吸水し、中央大孔より排水す、故に此體内は常に新鮮なる水循環をなす理なり。

かいめんるる 海綿類 Porifera, or Spongia 動物 腔腸動物、海綿と全く同じく、出芽法及両性生殖によりて生ずもの、ホツスガイ、カイロドローケツ、マミズカイ、ユアマカイメン、ゲミ等の屬なり。

かいめんじようごう 海綿狀組織 Spongy parenchyma 植物 柵狀組織の下位にありて葉肉部を構成するもの其細胞の排列は不規則なり、故に大なる細胞間隙を有せり

かいめいもんらん 開明門院 人名 藤原定子のこと

かいめん 海綿 Sponge 動物 單體又は群體を成して海中に産し、其形狀一様ならざれども、上部に一大孔を有し體中の分岐せる主腔と疎通す、而して一種の骨格を具へ、二三細胞層より成り、外層は扁平細胞にて體軀の全面を包ふ、又所々に球形の小空所ありて、濛細胞と稱する小動物附着し、2圖に示す如く先端に一鞭毛を具へ、之を動めして水流を起さしめ流れ來る小有機物を捕食す、かくして周圍の小孔より吸水し、中央大孔より排水す、故に此體内は常に新鮮なる水循環をなす理なり。

かいめんるる 海綿類 Porifera, or Spongia 動物 腔腸動物、海綿と全く同じく、出芽法及両性生殖によりて生ずもの、ホツスガイ、カイロドローケツ、マミズカイ、ユアマカイメン、ゲミ等の屬なり。

かいめんじようごう 海綿狀組織 Spongy parenchyma 植物 柵狀組織の下位にありて葉肉部を構成するもの其細胞の排列は不規則なり、故に大なる細胞間隙を有せり

かいめいもんらん 開明門院 人名 藤原定子のこと

かいめん 海綿 Sponge 動物 單體又は群體を成して海中に産し、其形狀一様ならざれども、上部に一大孔を有し體中の分岐せる主腔と疎通す、而して一種の骨格を具へ、二三細胞層より成り、外層は扁平細胞にて體軀の全面を包ふ、又所々に球形の小空所ありて、濛細胞と稱する小動物附着し、2圖に示す如く先端に一鞭毛を具へ、之を動めして水流を起さしめ流れ來る小有機物を捕食す、かくして周圍の小孔より吸水し、中央大孔より排水す、故に此體内は常に新鮮なる水循環をなす理なり。

かいめんるる 海綿類 Porifera, or Spongia 動物 腔腸動物、海綿と全く同じく、出芽法及両性生殖によりて生ずもの、ホツスガイ、カイロドローケツ、マミズカイ、ユアマカイメン、ゲミ等の屬なり。

かいめんじようごう 海綿狀組織 Spongy parenchyma 植物 柵狀組織の下位にありて葉肉部を構成するもの其細胞の排列は不規則なり、故に大なる細胞間隙を有せり

かいめいもんらん 開明門院 人名 藤原定子のこと

かいめん 海綿 Sponge 動物 單體又は群體を成して海中に産し、其形狀一様ならざれども、上部に一大孔を有し體中の分岐せる主腔と疎通す、而して一種の骨格を具へ、二三細胞層より成り、外層は扁平細胞にて體軀の全面を包ふ、又所々に球形の小空所ありて、濛細胞と稱する小動物附着し、2圖に示す如く先端に一鞭毛を具へ、之を動めして水流を起さしめ流れ來る小有機物を捕食す、かくして周圍の小孔より吸水し、中央大孔より排水す、故に此體内は常に新鮮なる水循環をなす理なり。

かいめんるる 海綿類 Porifera, or Spongia 動物 腔腸動物、海綿と全く同じく、出芽法及両性生殖によりて生ずもの、ホツスガイ、カイロドローケツ、マミズカイ、ユアマカイメン、ゲミ等の屬なり。

かいめんじようごう 海綿狀組織 Spongy parenchyma 植物 柵狀組織の下位にありて葉肉部を構成するもの其細胞の排列は不規則なり、故に大なる細胞間隙を有せり

かいめいもんらん 開明門院 人名 藤原定子のこと

かいめん 海綿 Sponge 動物 單體又は群體を成して海中に産し、其形狀一様ならざれども、上部に一大孔を有し體中の分岐せる主腔と疎通す、而して一種の骨格を具へ、二三細胞層より成り、外層は扁平細胞にて體軀の全面を包ふ、又所々に球形の小空所ありて、濛細胞と稱する小動物附着し、2圖に示す如く先端に一鞭毛を具へ、之を動めして水流を起さしめ流れ來る小有機物を捕食す、かくして周圍の小孔より吸水し、中央大孔より排水す、故に此體内は常に新鮮なる水循環をなす理なり。

かいめんるる 海綿類 Porifera, or Spongia 動物 腔腸動物、海綿と全く同じく、出芽法及両性生殖によりて生ずもの、ホツスガイ、カイロドローケツ、マミズカイ、ユアマカイメン、ゲミ等の屬なり。

かいめんじようごう 海綿狀組織 Spongy parenchyma 植物 柵狀組織の下位にありて葉肉部を構成するもの其細胞の排列は不規則なり、故に大なる細胞間隙を有せり

かいめいもんらん 開明門院 人名 藤原定子のこと

かいめん 海綿 Sponge 動物 單體又は群體を成して海中に産し、其形狀一様ならざれども、上部に一大孔を有し體中の分岐せる主腔と疎通す、而して一種の骨格を具へ、二三細胞層より成り、外層は扁平細胞にて體軀の全面を包ふ、又所々に球形の小空所ありて、濛細胞と稱する小動物附着し、2圖に示す如く先端に一鞭毛を具へ、之を動めして水流を起さしめ流れ來る小有機物を捕食す、かくして周圍の小孔より吸水し、中央大孔より排水す、故に此體内は常に新鮮なる水循環をなす理なり。

かいめんるる 海綿類 Porifera, or Spongia 動物 腔腸動物、海綿と全く同じく、出芽法及両性生殖によりて生ずもの、ホツスガイ、カイロドローケツ、マミズカイ、ユアマカイメン、ゲミ等の屬なり。

かいめんじようごう 海綿狀組織 Spongy parenchyma 植物 柵狀組織の下位にありて葉肉部を構成するもの其細胞の排列は不規則なり、故に大なる細胞間隙を有せり

かいめいもんらん 開明門院 人名 藤原定子のこと

かいめん 海綿 Sponge 動物 單體又は群體を成して海中に産し、其形狀一様ならざれども、上部に一大孔を有し體中の分岐せる主腔と疎通す、而して一種の骨格を具へ、二三細胞層より成り、外層は扁平細胞にて體軀の全面を包ふ、又所々に球形の小空所ありて、濛細胞と稱する小動物附着し、2圖に示す如く先端に一鞭毛を具へ、之を動めして水流を起さしめ流れ來る小有機物を捕食す、かくして周圍の小孔より吸水し、中央大孔より排水す、故に此體内は常に新鮮なる水循環をなす理なり。

かいめんるる 海綿類 Porifera, or Spongia 動物 腔腸動物、海綿と全く同じく、出芽法及両性生殖によりて生ずもの、ホツスガイ、カイロドローケツ、マミズカイ、ユアマカイメン、ゲミ等の屬なり。

るを常とす、是れ借老同穴の名ある所以、故に、夫婦の契りを云ふ、蓋し白樂天の詩句にあり。

かいらうーび 海老尾 俗にテンシンと云ふものにて、琵琶、三絃などの棹の頭の、伊勢蝦の尾に似たるどころの稱なり。

かいらくーばん 借樂園 水戸烈公齊昭卿の設けられたる庭園、借樂の字は、孟子に「古之人君與民借樂、故能樂」とあるによる。

かいーり 海里 Knot 海上の里數、十六町九間餘を一海里とす、此十分の一を一インチと云ふ。

かいーり 海狸 動物 海獸、アフリカに産し、臘虎に似て小、尾は楕圓にして扁平、後趾に蹠ありて巧に水中を游泳す、牙大にして強く、木の皮及枝を食用とし、幹を以て海中に巢を作りて栖息す。

かいーり 解離 Dissociation 化学 化合物の陽イオンと陰イオンに分離すること、熱解離とは化合物が、熱の爲めに二種のイオンに分る、こと、電離とは 溶液中にて二種のイオンとなりて存在するを云ふ。

かいーりう 海流 Ocean current 地文 大氣中の風の如く、海水太陽に熱せられ 一定の方向に流動する海水の運動を云ふ、赤道地方に熱せられたるものは高緯度の地に

向ひ 海面を流る、即ち暖流なり、極地の冷水は海底に沿ひて赤道地方に流る、即ち寒流なり、黒潮は本島と小笠原島との間を流る、暖流、親潮は、千島より本島の東海岸に沿ふて来る寒流なり。

かいーりつ 介立 孤立すること。

がいりんーざん 外輪山 Somma 地文 初めの火山の火口内に、更に新火山の噴出して、圓錐丘を造れる場合にありては、其外廓をなせる火口壁を外輪山と云ふ、箱根、阿蘇等の火山は是れなり。

がいーりよく 外力 Outer agent 地文 水、空氣、生物の營力等の如く、外界より來りて、種々の營作を地球上に施す力、是れなり。

カイロ Cairo 地名 アフリカのエジプトの首府ナイル河の左岸にありて、アフリカ最大の都市、大學、博物館あり、交通の便よく商業盛なり。

かいーろ 薤露 歌 支那にて 貴人の柩を挽く時に歌ひしもの、是れ漢の田横の死を悼み、作りし挽歌なり。

かいろうーどうけつ 借老同穴 動物 外見籠の如く、中空部分に、小なる蝦二匹棲息す、「かきめん」の一種にして我國相換灘に多し。

がいろうーたう 蓋鹵王 人名 王、百濟王毗有の長子、嗣

いで王となり、在位二十一年間 二十二年高句麗臣種の爲め 殺さる、時に宋の元徽三年なりき。

かいわうーせい 海王星 天文 太陽系中第八位即ち、最外弁にある遊星、太陽を去る十一億里、直徑一萬四千里太陽を一周するに 百六十八年を要す。

がいわくーせい 外惑星 Superior planet 天文 がいゆうせいになし。

かう 音使、督、長官ともかく、即ち衛門府の兵衛府の長官を云ふ、かうの君、かうの殿と云ふこれなり。

かう 更 一夜を五期に分つ、初更を戌(今の午後八時)二更を亥(午後十時)三更を子(夜半十二時)四更を丑(午前二時)五更を寅(午前四時)とす。

かう 郊 一、邑外のこと、二、支那の天地の祭名、冬至には天を南郊に祭り、夏至には北郊に祭るなど云ふ。

かう 阜 岡(をか)のこと。

かう 毫 尺度 一厘の十分の一。

かうーあはせ 香合 多く茶道の共に行はる遊びの一にて、種々の香を焚きて、何香なるを嗅ぎ知りあふこと。かうあんーてんわう 孝安天皇 人名、人皇第六代の天子、孝昭帝第二皇子大日本足彦國押人(たはやまとたりひこくにたれしひと)と申し、母を世襲足媛と云ふ、紀元二百

六十九年より百〇二年間在位、壽百三十三 崩御。

かうーい 更衣 一、ころもがへ、二、天皇の御衣を更へさせ給ふ便殿に伺候する女官、三、後 五位の位を賜はり女御に次ぎ列するに至る。

かうーい 衡宇 一、木を横へたる軒、二、粗末なる家。かうーい がーやまーむーぬくちから 項羽が山を抜く力 支那楚の項羽、漢高祖と天下を争ひ、垓下に圍まれたるとき 夜密に酒を飲み、歌ふて曰く「力坂山兮 氣蓋世、時不利兮 雖不逝云云」と則ち是れなり。

かうーい 康水 年號 紀元二千〇二年より三年間 光明天皇の御代。

かうーい 康徳 年號 紀二千〇四十九年にあたる、後小松天皇の御代。

かうーい 降霞 赤色の霞、春季山の端の赤く照りて、棚引ける霞をいふ。

かうーい 降嫁 皇女の、親王家と御結婚すること、王女の華旅と御結婚なること。

かうーい 三牙 一、強硬にして 人の云ふことなど、聞き入れぬこと、唐書元結傳に「能學三牙、保宗而全家、自號三牙」とあるも此意なり、二、文辭の用方の平易ならぬこと、韓愈進學解に「周語殷鑒、倍風三牙」とあり。

か 四日十三

聲 聲

かうーがい 沆瀣 海氣、露氣、北方夜半の氣。
かうーがい 筭 一、古は男女共に髪を掻き上ぐるに用
ゐし細長き具、二、刀或は合口などのに對するみね、戰場
に出でて、敵の首を取りたる時、その耳にさして、己れ
の取りし印とせり。

かうーがいびる 筭蛭 動物 虫類、匍行するとき、體
形、細長くして、かうーがいに似たり、色は黒或は淡黄色に
て、多く深山等の木に棲む。

かうーかう 耿耿 光り輝々として鮮明なること、又
不安の状を云ふ、楚辭に「夜耿々而不寐兮」とあり。

かうーかう 昂昂 一、頑固にして理を知らざるもの。
二、明白なること。

かうーかう 灑灑 水面、地面の大なる状を云ふ。
かうーかう 杲杲 日光の明なること。
かうーかう 昂昂 一、高尚なる志、二、馬の行く様
三、衆拔の貌、晋書に「昂昂然若野鶴之在雞群」とあり
がーかう 敖敖 長き貌にも 欣然たる貌にも云ふ。
かうーかうーし 神神し かみがみしの音便、たふとし、
かみさびてある貌。

かうーかけ 首懸 馬具、馬の頭部に、横にわたしてか
くる革を云ふ。

康熙帝の勅諭に係るものを云ふ。

かうーきやう 孝經 書名 著者不明、十三の經一、孔
子の弟子曾參の 孔子より受けし孝道の大意を載す。
かうーきよ 薨去 親王以下三位以上の貴人の死せるこ
とを云ふ。

かうーぐわ 高臥 自ら高しとして 世を隠遁して居る
こと、晋書的一句に「屢違朝旨、高臥東山」とあり。

かうーげつ 皐月 曆語、陰曆五月のこと。
かうーげん 康元 年號、紀元一九一六年、後深草天皇
の御代。

かうーけんーてんわう 孝謙天皇 人名 人皇第四十六代
の天子、聖武帝の皇女高野、又阿閉(あへ)と申す、紀元一
四〇九年より十年間在位。

かうーけんーてんわう 孝元天皇 人名 人皇第八代の天
子、孝靈帝の太子 日本根子國彦奉(やまとれこにくる)と
申す、紀元四四七年より五七七年間在位、壽百六、九月二日
崩御。

かうーけんーれいしよく 巧言令色 愛敬を顔に見せて、
口まへをよくすること、巧言は もの言ひを好くすること
令色は其顔色をよくすること。
かうーこ 江湖 世間のこと。

カウカシアン Karkasian 高加索 人名 世界三大人
種の一、歐州全部 インド ヘルシア アラビアに住むも
の皆之に屬し、皮膚白く、毛紅く 柔にして縮み、鼻は狭
くして高し。

カカワソス Kankasos 地名、ロシアの天山系、黒海と
カスピ海との間、東南より西北に亘り、ヨーロッパとアジア
との境界をなせり、全長八〇〇哩、東、中、西の三部と
す、最高峰をルプエリーズ及カズベクとし、ダニアル及デル
メントを主なる通路とす。

かうーがふ 香合 香匣、香盒とれなく 香を貯へた
く器具を云ふ。

ガウガメラ Gagamela 地名 古戰場、インドのナガ
リス河の左岸にある地、紀元前三三一年十月アレクサンデ
ル大帝の、ヘルシア王ダライアスを撃ちし所。

かうーき 綱紀 天下の政治、一、凡そ 綱器之を張る
を綱と云ひ 之を理むるを紀といふ 故に國家を張皇經理
する意、二、綱は大づな、紀は小づな 故に國家の法度の
ことを云ふ。

かうーきやう 強弓 つよきゆみのこと、本邦にて 四三
貫の重量をかけて、僅か撓むほどのものを云ふ。
かうーきしてん 康熙字典 書名 漢字の辭書、清國の

かうーご 香壺 香具を入れおくつば。

かうーこく 抗告 法律 裁判所の判決を不當とし、更
に上告すること。

かうーごーけいさん 交互計算 法律、定期間を 互に差
引計算して その債權債務を消却すること。

かうーごじやう 高五常 人名 在原行平(ありはらゆ
きひら)を云ふ。

かうーごつーある 硬骨類 動物 脊推動物、魚類、骨硬
く、鱗は極めて薄く、覆風狀に並列す、尾は平等、卵を
産すること極めて多きも、成長すべきものは其何萬分の一
二に過ぎずと云ふ。

かうーごーにちろく 好古日録 書名 古代の事物の考證
をしるせるもの、藤原貞幹之を著す。

かうーさいくわんーしは 交際官試補 役名 外務省の關
官、外國交際のことを見習ふもの、奏任五六等の官とす。
かうーさかーまさのぶ 高坂昌信 人名 武士、源五郎、
彈正と云ひき、甲斐の人、歳十六、武田信玄に仕へ、永祿
四年、高坂の家を賜はり襲ひ、昌信と云ふ、天正六年 年
五十三、歿す。

かうーざきーじんじや 神崎神社 地理 下總國香取郡神
崎驛にありて 面足尊及惶根命を祀れり。

かうーさく 告朔 百官の行事を印して毎月 天覽に供せし公事なり。

かうーさまーに 斯様 かくあるさまに、かやうに等の意なり。

かうーさん 衡山 地名 支那の山、或は云ふ支那の南方地、山海經に南海之内有衡山とあり。

かうーさんぜ 降三 佛語 明王の一、三面八手、貪嗔痴の三毒を制し 東方を守るものこれなり。

かうーし 講師 一、學問を人に教ふる人、二、歌會の批評などするとき、其歌をよみわぐる人、三、諸國に置かれし國分寺の住職、一國の僧尼を取締るものをもいへり。

かうーし 嚆矢 一、かぶらや 二、支那の射法に第一に此のかぶら矢を用ひしより第一番となること、事のはじめとなることを云ふ。焉知會史之不爲三策師之嚆矢とあり。

かうーじ 鏗爾 琴瑟の聲、金石の響、からりと響き渡る聲を云ふ。

かうーじ 勘事 かんじの音便、古語、勘當、勘氣におなじく、悪事をなしたる人を、咎め責むること。

かうーしき 香敷 香を焚く時に用ゐるもの、通常雲母の薄片などにて造り、炭火の上になくなり。

かうーしーちうにく 行尸走肉 無智 無能、無神經なことを、人となり譎劣、死尸の行くが如く 死肉の走るが如くと云ふ意、拾遺に記「任末曰 人不學者 雖存乃行尸走肉と云へり 則ち此意なり。

かうーしーでん 高士傳 書名 支那晋以前の高名なる隱者の傳を集めたるもの、支那晋の皇甫謐の著なり。

かうーしん 弘真 人名 名僧、後醍醐天皇の教旨を奉じ 北條高時を討つ議に與り 事發覺して 流刑に處せらる、正平十二年八月 寂す、氏は梵書を好み、畫を能す。

かうーしんかう 降真香 琉球、支那、暹羅等に産する木にて作れる香料なり。

かうーしんじ 庚申寺 地理 遠江國鹿玉郡鹿玉村にある禪宗臨濟派の一寺、境内に庚申尊天を安置し 之を庚申堂と云ふ。

かうーしんーのーよ 庚申夜 庚申の日に當る夜、この夜信者は三猿を祭り、寝ぬれば災ありとて、終夜寝ねず、これを庚申待ちと云ふなり。

かうーしや 郷社 神格 第四位にて 府縣社の次位。

かうーしやう 康正 年號 後花園天皇の御代、紀元二一五年より二年間。

かうーしやうーせんじ 與聖禪師 地理 山城國宇治郡の

宇治佛徳山與聖寶林禪寺を云ふ、僧道元の開基、中興の祖を萬安とす。

かうーしゆ 甲首 甲冑をつけたる武者の首を云ふ。

かうーしやうーざん 高勝山 武器、兜の一種、明徳、應永頭より始まりし、鉢わきをつぶし、山を高くし、人の頭と同じ形にし、頂上をせまくせるものこれなり。

かうーしやうーのーくわん 高勝鑑 武器 兜のうしろにある鑑。

かうーじーなーかうじてーせんていーなーとふごごなかれ 好事を行して前程を問ふこと勿れ 是れ支那清獻公の座右銘にして「よき行ひをなすに當りては 報を得んと思ふことなかれ、善行と見ば、直に行へ」と云ふ意なり。

かうーす 幸 貴人の其の侍女などを愛すること。

かうーす 幸 貴人の其の侍女などを愛すること。

かうーす 幸 貴人の其の侍女などを愛すること。

ガウス Gauss 人名 數學者天文學者、西紀一七五五年ドイツのブランズウィクに生れ、四〇年間ゲッティンゲンの天文臺長たりき、磁氣學に於て有要なる發明をなし 西紀一八五五年歿せり。

かうーする 香水 一、神佛の供水、二、眞宗信者のかみごりを頂くとき、その頭上に、ふりかくる水を云ふ。

かうーする 硬水 化學 總て多量のカルシウム鹽類を含有するものを硬水と云ふ、硬水に二種あり即ち一は炭酸カルシウムを含有するもの、之を煮沸し若くは之に適量の石灰水を混合すれば水中に含有する炭酸カルシウム及硫酸カルシウムは沈澱して容易に軟水と爲る、之を一時の硬水と云ふ、二は硫酸カルシウムを含有するもの、之を煮沸し或は石灰水を加ふるも軟水とも爲らず、之を永時の硬水と云ふ。

かうーする 交綬 敵味方相共に疲勞して、相引きに陣を引くこと 左傳に「晋人從秦師於河曲交綬」と云へり。

かうーせいーねん 恒星年 天文 地球は 西より東に向ひ、太陽の周圍なる軌道を運行するに一秒時間凡七里半の速力を以て飛行す、全軌道を一周するに三百六十五日六時九分十秒を要す、之を恒星年と云ふ、太陽年と異なるは春分點に移動を生ずるためなり。

かうーせうーてんわう 孝昭天皇 人名 人皇第五代の天子、懿徳天皇の皇子觀松彦殖稻(みまつひこかゑしね)と申す 母を天豐津姫、紀元百八十六年より八十三年間在位、壽九三 八月五日 崩御。

かうーせき 拷責 犯罪人をきびしく責むること。

かうーせんじ 神峯寺 地理 攝津國島上郡清水村神峯

山にある天臺宗の寺、天武天皇の創建にて行基の作りたる長五尺の毘沙門天あり。

かうせんせい 郷先生 村天子とも云ひ、士大夫にて仕を退き、郷に歸りて、子弟を教授するものを云ふ、儀禮の疏に「郷有郷學、取在郷中之大夫、爲大師、致仕之士、爲少師、名曰郷先生」とあり。則ち此意なり。

かうぜん のき 浩然之氣 一身の元氣 ひろびろしたる氣、孟子に「我善養浩然之氣、敢問何謂浩然之氣、曰、雖言也、其爲氣也、至大至剛、以直養而無害、則塞天地之間」とあり。

かうろ 高祖 一、一宗一寺の開祖の稱、高祖親鸞、高祖日蓮等の如し、二、五代前の先祖、三、後變して單に先祖を高祖と云ふに至れり。

かうろ 控訴 法律、第一審の裁判を不服として、更に上級裁判に訴へ出ること。

かうろ 楮 植物 灌木類、皮を以て紙を製す。
かうろつ 江帥 人名 大江匡房のことなり。
かうらり 鬘剃 佛語、眞宗のわみうりのこと、即ち戒師の、戒を授けて出家する者の髪を剃り落すこと。
かうだいじ 高臺寺 京都東山にある禪宗臨濟派の一寺なり。

かうたいよりあひ 交代寄合 徳川時代、臣下にして一萬石未満の者の稱。領地にありて、年限を定めて、參勤交代することより云ふ。

かうたいあん 高臺院 人名 北政所、豊臣秀吉の正室、淺野長政の従妹、常に秀吉を助けて、力ありき、寛永元年九月歿す。

かうだて 甲立 多く、神佛の供物に用ゐるものにて盛物の廻りに、紙にて折形をして付くることある折形。

かうたん 降誕 神佛、國王、高僧、偉人などの此世に生るることを云ふ、降世にわなし。

かうたんを 降誕會 一、四月十五日釋迦の降誕日を祝する法會、灌物會と云ひしも明治二十一年、二年頃より此名にせり、二、五月二十一日見眞大師(眞宗の開祖)の降誕日を祝する法會、これも明治二十年頃より始められり。

かうち 高知 地名 土佐國土佐郡の海岸にありて、高知縣廳の所在地なり、元、山内氏の藩地なりき、浦戸港に枕み、市内の商業頗る盛、土地溫暖にして夏季雨多し。
かうち 交趾 陶器 今の安南に産せしものにて、本邦に渡りし陶器の一種、青磁焼多し。
かうち 麴 植物、かんだち、かばらとも云ひ、米より酒、醬油を造る原料なり、米麥等を蒸し密中にたき、歡花

生を作せしめて作るなり。

かうちう 膠柱 きのきかぬこと 臨機應變の處置の出來ぬこと、柱はをどぢなり、琴柱を膠にてつくれば、調子を整へ、又變すること能はず、故に、變化なきものをもあるべきものをも、同様の律にわかむとするなり。

カウチウム Caudium 地名 イタリヤのベチメントの西南方アツピス街道に沿へるサムニテの舊市、此近傍の狹路は西紀前三二一年ローマ人のサムニテ人を包圍攻撃せし地。

かうちはせつろくにしかず 巧運不如拙速 事をなすにあたりて遲疑せんは、たとひ巧みなりとも、拙にして決行するものには、如かずとの意なり。

かうちまちく 麴町區 地名 東京市の一區、宮城其他諸官省等皆此地にあり。

かうちやう 綱丁 古語 貢物を運送せる人夫の長、三代實錄に「中年輸貢調庸雜物、色數非少、而民弊人、未進狼籍、實是綱丁犯盜。」
かうちやう 考定 古語 公事、年毎に、六位以上の人の藝能、行狀、功勞などを考へて、その位階を進むることを定むることなり。

かうじひのへて 上野國 地名、東山道十三國の一

詳馬縣に屬し、十七郡より成る、則ち利根、南北勢多、吾妻、東西群馬、碓氷、南北甘樂、多胡、綠野、片岡、那波佐位、新田、山田、邑樂なり。

かうづしま 神津島 地名 伊豆七島の一、周圍五里三十三町、上津島、高津島、神集島とも書く。

かうてい 扛鼎 強力 大力、などのこと、史記項羽本紀「力能扛鼎」とあり。

かうてん 昊天 ひろき空 大空のこと。
かうてん 香奠 線香料のことにて、吊ふための贈物
かうご 硬度 礦物 硬の比を云ふ、現今の礦物中金剛石を以て最大硬度のものとする。

かうどう 鼈頭 一、頭書とも云ふことにて、書物の本文の上欄に法を加へたるもの、二、考課にて第一等に級第したるものを云ふ。
かうどうくじき 鼈頭舊事記 書名 舊事記の異本を集め校正し、古書にて闕文を補ひ、誤字を正したるもの、山口延佳之を著す。

かうどうこじき 鼈頭古事記 書名 古事記の異本を集めて校正し、誤字を正し、缺語を補ひ、行文を刪り、訓點を加へたるもの、山口延佳之を著す。
かうどうはあらん 高等法院 裁判所、國事犯の者を

審判する爲め、一時 特別に設けること。
かうとくじ 高徳寺 地名 上野國邑樂郡大川村にあ
る眞言宗の寺、善晴法師の開山に係れり。

かうとくてんわう 孝徳天皇 人名 人皇第三六代の
天子、皇極帝の同母弟(輕(かろ)と申す、紀元一三〇五年よ
り十年間在位、壽五九、白雉四年崩御、帝の在位中は大化改
新の行ばれ、始めて年號を大化とせられたり。

かうとくしてりやうはら 狹死、其狗烹 役
立つ間は用ひらるれど、その用がすめば 捨てらるるを云
ふ、史記に「狹死其狗烹、高鳥盡其弓藏、敵國破謀臣亡」
とあり、則ち此意なり。

かうーかたぐ 江都督 人名 大江匡房のこと、太宰權
帥たりしより云ふなり。

カウニツツ Kautsutz 人名 政治家、紀元一七一一年
オーストリアのウィーンに生る、カロロ六世并にマリァテ
レサの朝に仕へ、一七四八年アーヘンの會議、七年戦争の
時、外交家として名聲噴々たりき、一七八四年死す。

かうねーしま 高根島 地名 安藝國東南方にある島、
周圍二里二十六町なり。

かうーのーさきみ 齋頭 古語 かのさきみのこと。
かうーのーけむりーにかたちをみる 香の烟に形を見

かうのーみちあり 河野通有 人名 勇者 伊豫の豪族
孝靈天皇の皇子伊豫親王の後胤 道繼の子、驍勇にて膂力
あり、對馬守たり、弘安の役 元の一將を虜にし首を闕下
に獻じたり。

かうのーみちもり 河野通盛 人名、驍勇、通有の子、
北條高時に仕へ 後足利尊氏に降りて伊豫守たり、貞治元
年死す。

かうーが 行馬 馬防、敵の騎兵の進行を妨ぐ爲め、陣
前に散布せる、長さ五六尺の杖に、鐵釘を附したるもの。

かうはいーせい 抗排性 心理 墨と雪との如く相反す
るものを以て記憶する作用なり、凡そ心意は常に 二種の
作用を以て歸往の事實を記憶す、其一は同類相連続して記
憶するもの、第二は異類相反したる上に記憶すること、即
ち抗排性なり。

かうーはう 康保 年號 紀元一六二四年より四年間
村上帝の御代。

かうーひ 考妣 考は死せる父、妣は死せる母、禮記に
「生曰ニ父母ニ死曰ニ考妣」とあり。

かうーぶし 香附子 植物 初夏、三稜ある中空の長さ
莖を出し、先端に二三枚の葉を生ず 堅くして光澤あり、
青花を開き 穂を出して小果を結ぶ。

る 故事、漢武帝李夫人の死を甚だ悼み悲みて 反魂
香を燒きしかば 烟の内に夫人の形顯はれたりと云ふ。

かうのーげんざう 河野顯三 人名 俠義に富める人、
下野吉田の人 名通植、字壬威、越智通弘と云ひき、文久
二年正月十五日、坂下門外にて、安藤信正を要撃し、事成
らず、衛士に殺さる、年二五。

かうーのーこし 香輿 葬式の時に用ゐる 香を載する
輿なり。

かうのーひたたれ 香の直垂 香染の直垂、香染は紅黒く
して黄を帯びたる色なり。

かうーのーしま 神島 地名 備中國南方海中にある島
周圍四里二十六町あり。

かうのーじよさい 河野恕齋 人名 學者、蓮池侯の循
吏、名子龍、字伯潛、通稱忠右衛門、詩、文章に巧み、博
學にして諸子百家の書より 野乘に至るまで 讀まざるも
のなし、安永八年二月年三十七にて歿す。

かうのーどがま 河野敏鎌 人名 政治家、山内侯の臣
性卓著不羈、勇斷果決、然かも氣節あり、維新の際、大に
勤王節を唱へ 一時獄に下されしも、明治政府に仕し、文
部、内務、司法の大臣を經、廿六年十一月華族に列し、子
爵を賜はる 廿八年四月二十四日 年五十二にして薨去。

かうぶーしよ 講武所 一、武術講習所に同じ、二、東
京市神田區旅籠町は、徳川時代の武術演習所なりき。
かうふんーざくら 香芬櫻 植物 禾本科木本 白花、
の八重櫻にして香氣郁馥たり。

カウフマン Kautmann 人名 畫家、西紀一七四七年
オーストリアのチロールに生れ 畫を以て衆目を引きし、
アンジェリカカウフマン此人なり、後ロンドンに來りて帝
室技術員となる、一八〇七年死せり。

カウフマン Kautmann 人名 將軍、西紀一八一八年
ドイツに生れ ロシアの將軍となり、ロシアの中央アシア
に勢力を扶植するに與りて力ありき、一八八二年卒す。

かうーふよう 高芙蓉 人名 書畫家、甲斐名取の人、
名、孟彪、字縉茂、通稱大島逸記、性鋭敏、諸藝に通じ
篆刻を以て名聲噴々たりき 晩年失戸侯に仕へ儒官となり
天明四年四月 年六十三 江戸に歿す、我邦の印章の技、
芙蓉によりて大に一變をなせり。

かうーぶり冠 一、かんむりのこと、二、古語 うひか
うぶりのこと、三、古語 位階(みから)とわなし 古人に
冠を賜ひ 其品を以て 高下の區別とせられたるもの

かうぶる 被 古語 がかふるの音便なり。

かうーべ 神戸 地名 攝津國八部郡の東南に位せる一

市、本邦五港の一、貿易業の盛なること横濱に次ぐ、又東海道鐵道の終點地たり。

かうへい 康平 年號 紀元七七一八年より七年間、後冷泉天皇の御代。

かうべん 高辨 人名 高僧、紀伊國有田郡の人、明恵と炊す 寛喜四年正月十五日年六十にて寂す。

かうべーな ぬぐらすうた 旋頭歌 古語 せとうか なたなしく 五七七の句を二度重ねたる歌を云ふ。

かうほく 香木 沈香、伽羅、白檀、などの如くにはひのよき木のことを云ふ。

かうほね 川骨 植物、かはほねのこと、夏秋の間、池中の水上に莖を出し、葉は芋に似て細長く、厚し、黄色の花を咲く、五瓣にて形梅に似て大なり。

かうほり 蝙蝠 動物 古語 かうもりのこと。微白色の光りに取り巻かれたる恒星ありて、星の周圍に鮮明にして、遠ざかるに従ひて薄し、是れ即ち震雲星なり。

かうんせい 震雲星 天文 宇宙には恒星の外、微白色の光りに取り巻かれたる恒星ありて、星の周圍に鮮明にして、遠ざかるに従ひて薄し、是れ即ち震雲星なり。

かうんせいせつ 震雲星説 Nebula hypothesis 此の宇宙間には始め、震雲星と云ふ一團の瓦斯體ありて、極めて高温度を有し、西より東に向ひて回轉しつゝ、ありし

指間に皮膜ありて、空中に飛ぶに適す、眼力極めて弱く、黄昏に至りて、出で來り、蚊蚋を食ふなり。

かうやきしま 香焼島 地名 肥前國西南方の海中にある島、周圍三里三十町あり。

かうやさん 高野山 地名 紀伊國伊都郡にある金剛寺のことにて、南山とも云ふ、僧空海即ち弘法大師の開きしもの。

かうやてんわう 廣野天皇 人名 稱徳天皇のことを申す、これ、大和國高野山陵に葬り奉りし故なり。

かうやひじり 高野聖 人名 僧、紀伊國高野山より諸國勸化の爲め出する僧のことを云ふ。

かうやひじり 高野聖 動物 水爬虫、田龜とも云ひ春は帯黒色甲を以て掩はれ、六脚あり前二脚は長く、先端に缺を有し、小魚を挟み捕ふへて食す、眼は黒色にて突出せり。

かうら 高良 地理 山城國男山郡八幡宮の麓にある社、上高良、下高良の二社に分る。

かうらい 高麗 地名 こまとも云ふ 太祖神聖王の建國せしもの 三十四代 四百五十六年に滅ぶ 時に我紀元二二四年なりき。

かうらいうぐひす 高麗鷲 動物 脊推動物、鳥類、

が、運行中遠心力を以て分離し、其の周圍に帶狀の環を作り、切斷せられて一所に凝集し、一團となりて同一の方向に、中央の瓦斯體を中心として廻轉せり、中央體は即ち太陽にして、周圍を分離するもの即ち、遊星なり、我地球も此の一にして、此の説は十八世紀頃、カント及びラプラスの唱道せし想像説なり。

かういーてんわう 孝明天皇 人名 人皇第百二十一代の天子、仁孝帝第四皇子統仁(たさひと)と申す、紀元二五〇七年より二十一年間在位、母を藤原雅子と申す、明治元年一月三十日、壽三十六にて崩御。

かういぬん 高免 御免にねなしく、長者のゆるしを受くることの敬語。

かういもん 衡門 粗木なる家、蓋し、二本の柱を立て上に一本の笠木を渡してつくれる門の意より出でしなり、詩經に「衡門之下、可_レ以棲遲」ことあり。

かういもん 阜門 高き門のこと、禮記に「天子阜門」とあり、則ち此意なり。

かういもん 拷問 犯罪人をして實を吐かしめむ爲め、苦痛を與へて問ひ糺すこと、武家時代に用ゐられたり。

かういもり 蝙蝠 動物 哺乳類、獸類、全身帶黒茶褐色、頭部は鼠の如く、四脚の中、前脚は變じて鳥の翅の如

燕雀類、頭背は黄綠色、腹部白色、恰もころがる如き調子に轉る、多く人の愛するところとなり、籠飼せらる。

かうらいーせさしやう 高麗石菖 植物 草類、錢蒲びるれとせさしやうとも云ひ、葉の細小なる愛らしき石菖の一なり。

かうらいーうでがき 高麗袖垣 竹をまだらに、筋違に組みたる袖垣を云ふ。

かうらいーべり 高麗縁 疊の縁、白麻布に、黒又は紺の模様を染め出して寺院、神社、又は高貴の家などに用ゐらるもの、素白地に雲形、菊花などを黒色に織り出し、宮中親王家、大臣家などに用ゐる、大模様を用ふ、小模様は公卿の用ゐしものとせり。

かうらーさん 高良山 地理 筑後國御井郡の東南隅、不濡山、高牟禮山と云ふ。

かうらーじんじや 高良神社 地理 筑後國御井郡御井町にある一社、高良玉垂命を祀れる國幣中社なり。

かうーらん 高欄 阜蘭 一、高き欄干、二、澤に生ずる蘭を云ふ。

かうりうじーのみやまざ 香隆寺陵 地理 山城國葛野郡衣笠村にある、二條天皇の御陵なり。

かうりのまーせんりーのあやまりーをーいたす 毫釐差致

か 四百二十三

峰

が

指間に皮膜ありて、空中に飛ぶに適す、眼力極めて弱く、黄昏に至りて、出で來り、蚊蚋を食ふなり。

かうやきしま 香焼島 地名 肥前國西南方の海中にある島、周圍三里三十町あり。

かうやさん 高野山 地名 紀伊國伊都郡にある金剛寺のことにて、南山とも云ふ、僧空海即ち弘法大師の開きしもの。

かうやてんわう 廣野天皇 人名 稱徳天皇のことを申す、これ、大和國高野山陵に葬り奉りし故なり。

かうやひじり 高野聖 人名 僧、紀伊國高野山より諸國勸化の爲め出する僧のことを云ふ。

かうやひじり 高野聖 動物 水爬虫、田龜とも云ひ春は帯黒色甲を以て掩はれ、六脚あり前二脚は長く、先端に缺を有し、小魚を挟み捕ふへて食す、眼は黒色にて突出せり。

かうら 高良 地理 山城國男山郡八幡宮の麓にある社、上高良、下高良の二社に分る。

かうりのまーせんりーのあやまりーをーいたす

千里之謬 事物の始めを慎むとの意 始めの少きちが
しも 終には大なるわやまりとなる故なり、禮記に「易曰、
君子慎始、差若毫釐 繆以千里」とあり。

ガウリサンカル Gaurisankar 地名 エベレストとも云
ひ インドのヒマラヤ山脈の山 最高峰、二九〇〇二呎
又世界中最高山なり。

かうりんーるゐ 硬鱗類 動物 脊椎動物、魚類 皮膚
は硬鱗を以て蔽はれ、珪瑠質にて光澤あり、是れ硬鱗類の
名ある所以なり、鰓は櫛状にして側面に各一孔を有し、尾
は不正なり。

かうーりやく 高良齋 人名 醫、名談 字子清、
種淵と號す、長崎に往いて、蘭醫シイボルト氏に學び、眼
科を能くす、性廉直、實踐篤行を徳とす、弘化三年九月
年四十八にて歿す。

かうりようーらんむーなう 蚊龍雲霧を得 蚊龍は蚪
龍とも云ひ、未だ池中にありて天上せざるもの、故に人傑
の時を得て天下に雄飛することを意味せり。吳志に「劉備
非久密宏三人用一者、恐蚊龍得雲雨、終非池中物」とあり
則ち此意なり。

かうりようーらんむーなう 蚊龍雲霧を得 蚊龍は蚪
龍とも云ひ、未だ池中にありて天上せざるもの、故に人傑
の時を得て天下に雄飛することを意味せり。吳志に「劉備
非久密宏三人用一者、恐蚊龍得雲雨、終非池中物」とあり
則ち此意なり。

かうりようーのーくい 亢龍之悔 十分の徳なくして、
高位に上るものを戒めたる語、元は高、人の貴顯の地位に至
り戒慎せざれば 高きに過ぎたる龍の如く 再び落入るの
悔あればなり、易に曰く亢龍有悔と 此を云ふなり。

カウルバハ Karlbach 人名 畫家、西紀一八〇五年ド
イツのワルテックに生れ コルツリカに畫を學び フレデ
リキ四世の朝に其手腕を振ひ、新派の領袖となりし、ウイ
ルムカウルバハ其人なり 一八七四年歿す。

かうーれい 綱領 要領 がんもく等にねなし、ねは
もとのすぢみちのこと、綱の大綱衣の領とは 共に必要な
るものゆゑなり。

かうれいーてんわう 孝靈天皇 人名、人皇第七代の天
子 孝安天皇の太子大日本根子彦太瓊（ねはやまとねこひ
こふとに）と申し 母を押媛皇后とす。紀元三七一年より
七六年間 壽日六、二月に崩御。

かうれいーのーろもつ 號令六物 武器 支那の將校
戰場にて 兵士に指圖するに用ゐる六箇の具 即ち角 革
金 麾 旗 幟とす。

かうれんーたい 香齋體 詩 宮詞、竹枝の類にて 支
那宋の韓偓の始めたる詩の一體を云ふ。

かうろーぼう 香爐峰 地理 支那の山、白樂天の詩に
かうろーぼう 香爐峰 地理 支那の山、白樂天の詩に

「香爐峰雪捲簾者、遺愛寺鐘磬枕聽」とあり、則ち此山なり。
かうろーやま 香爐山 地理、山城國男山のこと。

かうーわ 康和 年號 紀元一七五九年より五年間 堀
河天皇の御代。

かうわうーさう 項王草 植物 草本、苗より生じ 五
月十月間に 單瓣黄色花を開き 小さき莢の實を結ぶ。

かーい 嘉永 年號 紀元二五〇八年より六年間、孝
明天皇の御代。

かじーせん 替錢 今日の爲替法に同じく 甲地より手
形を組み 約束の地にて 錢を受取るなり、是れ鎌倉時代
に行はれたり。

ガエタ Gaeta 地名 イタリヤの南方にある海港、城
砦を築く、ナポリの西北五〇哩、人口一萬七千餘、人民は
多く漁業を業とす、古代 ローマの貴族の海水浴場たりし
を以て 景色絶佳なり。

かじん 火焰 化學 焔の條下を見よ。
かーたう 嘉應 年號 紀元一八二九年より二年間 高
倉天皇の御代。

かーたう 可翁 人名 畫僧、筑前の人、元に住居るこ
と十年、宋の畫風を學び、禪旨を味ふ、後南禪寺に入り傍
ら畫を以て樂とせり 貞和元年四月廿五日寂す。

カオードンレク Kao Donrek 地名 インド支那半島
の山脈。

かーか 哥哥 支那の俗語、貴兄とか、他人を敬ひて云
ふ。大哥、老哥、阿哥皆同じ。

かーが 加賀 地名 石川縣に屬する國にして 弘仁十
四年三月越前の二郡を割きて置かれしもの、永延の初 富
樫忠賴 國政を取り、建武中興の時、大納言師基國司たり
後本願寺に屬し、秀吉の時 前田利家此中を領し 徳川家
康の時、全部を與へられ 能登守を兼ねて維新に至る、明
治四年新潟縣をたかれ、五年石川縣となる。

かーが 夏芽 Summer 植物 春生し秋枯るる草木の
芽を云ふ 特に寒氣を防ぐ必要な故 鮮狀葉なく 最初
より綠色を呈す。

かーが 峨峨 山の高さ貌、岩石のかどかどと聳むた
る貌。

かーがい 花蓋 Perianth 植物 萼花冠の互に其色を
同じし區別し雖もものを稱して 花蓋と云ふ 分離、合着
の二種あり 例へば百合、燕子花（かきつばた）の如きもの
これなり。

かかいーはーさいりうーなーはらばす 河海不擇細流 河
人を取るに 廣くすべきことを意味す。「河海不擇細流」

Combination

故能就其深一王者不却衆庶一故能明其德」と云ふことあり。

かがいも 羅摩 植物、蔓性植物、春末舊根より苗を出し、楕圓形の末尖りたる葉を有し、小なる紫色の五瓣花を開く、後實を結び、青色柔軟なる殻を被り、相霜するときは種落ちて綿状白色のものを出す、即ちばんやと云ひて蒲團に入れ、莖は綿弓の弦とす。

かがう 化合 *Combination* 化学 二種或は二種以上の物體の結合して、各其特有の性質を失ひ、新に特有の性質を有するものを生ずることなり。例へば、水素と酸素と結合して、電氣の力を以て火花を出して、水となる。此水は水素或は酸素に比較するに少しも同じき所を見ず、全く別のものとなれり、即ちこれ化合なり。

かがう 化合物 *Compound* 化学 二種或は二種種以上と物質に分解し得べきものを云ふ、例へば水は水素及酸素に分解し得べく、硫酸は、水素、酸素及硫酸に分解し得べし、これ即ち化合物なればなり。

かがさく 加賀菊 植物 菊科草本、紫衣菊とも云ひ、通常の菊の如き葉を有し、淡紫色の八重花を有す。

かがく 家學 父祖傳來の學問を云ふ。

かがく 雅樂 本邦上古よりの歌舞唐より中古時代に

降

渡れる唐樂、高麗より渡れる高麗樂の總稱にして、朝廷の大禮には常に用ゐられたり、大寶の制には、治部省の下に雅樂寮ありて之を管理せり。

かがく 化学記號 *Chemical Symbol* 化学 各元素及元素の原子量を表はす符號なり、○は酸素なることと、酸素の原子量十六なることを示すが如し。

かがく 下骨 *Mandible* 生理 下顎を成す骨なり、通常、哺乳類にありては、一個を有すれども、蛇類の如きに至りては二枚より成り、左右各々の作用をなすものあり、何れも皆、上顎と共に口をなし、多く齒を有して食物を咀嚼するに必要とし、又人類にありては、言語を發する上に於て最も必要なるものとす。

顎

かがく 化学作用 *Chemical action* 化学 二種以上の異なる元素或は化合物質を混合する時、熱、電氣、光等の助を以て、其原子の分配を變じ、全く別體のものを生ずる作用なり、但し稀に混合するのみに化合するものあり。

かがく 化学式 *Chemical formulae* 化学、分子式及實驗式を云ふ。

かがく 化学線 物理 學放線に同じ。

かがく はんたう 化学反應 *Chemical reaction* 化学

二種或は二種以上の物質間に起る化學變化を云ふ、例へば $2\text{NaCl} + \text{H}_2\text{SO}_4 = \text{Na}_2\text{SO}_4 + 2\text{HCl}$ の如し。

かがく 化学平衡 *Chemical equilibrium* 化学 二種或は二種以上の物質又は化合物の溶解、折出、何れにも起り得べき状態にあるを云ふ、例へば、炭酸カルシウムを熱して、酸化カルシウムと二酸化炭素とに分解する場合に、温度及び溶劑の濃度、時間の状態如何によりて何れへもなし得べき時あり、其状態は則ち平衡したるなり、左の方程式を以て示す、



かがく 化学變化 *Chemical change* 化学物 質其のもの固有の特性を失ふ變化を云ふ、例へば、水素の燃ゆるときは水となり、炭の燃ゆるときは炭酸瓦斯となる等の如し。

かがく ほうせん 化学放線 *Chemical Ray* 物理 精密線或は紫外線と云ひ、自然せられたる物體より發する輻射線の中にありて、特殊の物體に相遇せば、之をして化學變化を起さしめ、其の性質を變化せしむる作用ある光線を云ふ。

かがく ほうていしき 化学方程式 *Chemical Equation* 化学 化學式を用ゐて、化學變化を方程式の形に表したる

ものを稱して云ふ、 $2\text{H}_2 + \text{O}_2 = 2\text{H}_2\text{O}$ は則ち一の方程式にして、水素の二分子量と酸素の一分子量と化合して二分子量の水を作れるを示すものなり、則ち(=)は、物質の量は反應前後に變化せざることを示し、左邊は反應する物質、右邊は反應によりて生じたる物質を示すものなり。

かがく 雅樂寮 歌寮に同じく、治部省に屬し、雅樂を司る役所、大寶令にあり。

かがく 案山子 一、そはと、うはづ、かんねとしと、同じ、田圃に鳥獸の來りて、害をなすを嚇し防ぐ爲め、通常、竹、藁にて人形を作り、笠を被らせ、弓矢を持たせて田圃に立たしめたるもの、又竹、或は鈴を嚇す仕掛にして嚇す法もあり、二、見かけばかりよくて、實際間に合はぬ人を云ふ。

かがく 點曼斯 地名 轄曼斯、曼々斯ともかき、ギルギスとも讀む支那の古代の一國なり、其時は堅昆國と云ひしも、今は居勿或は結骨と云ふ、一千百年代遼の時に北部の大國たりき、突厥と親み、其滅ぶるや薛延陀に隸し、貞觀二十二年唐帝堅昆府とし俟利發を以て都督とし、燕然都護府に隸せしむ、唐の乾元中、回紇の爲め破られて之に屬せり。

かがく だいなごん 加賀大納言 人名 前田利家を云ふ

利家は秀吉に仕へ、加賀の一部を與へられ、後徳川家康の時、關ヶ原の役の功により全國を與へられ、大納言なりしかば、かく云ふなり。

かかつらふ 係 國四 たづさはること、物事を執掌すること事に關係(かかりあふ)することを意味す。

かかご 踵 Heel 生理 足の後端にある突起部分なり内部に跟骨ありて 體重の加はる支點なり。

かがなべて 古語 日の重なること、日日並べてて意なり。

かがのちよ 加賀の千代 人名 女侍家、加賀國松任の人、廿五歳の時、夫を失ひ、尼となりて素園と號す、俳諧を能くし又書に妙を待たり、安永四年九月八日、年七十四にて歿す。

かがはーかげき 香川景樹 人名 歌人、因幡國鳥取の人、姓は荒井氏、小字銀之助、桂園又は東鳩亭と號す、幼にして 性穎悟、能く讀み、能く書く、京都に往きて、香川景柄の養子となり、時に年十八歳、和歌を教授するを以て業とせしかば 門弟萬に至り、天保十四年三月廿七日年七十六にて歿す、新學異見、古今集正義、桂園一枝等の著書あり。

かがはーけん 香川縣 四國讃岐全國を管轄するもの、

自習書 三田四田 眞

讃岐高松に縣廳を置く。

かがはーしげん 賀川子玄 人名 産科醫、近江國彦根の人、名支悦、師を求めずして自己の發明せし法なり、晩年、阿波侯の醫官となり 明和頃歿す。

かがーばんし 加賀半紙 加賀國能美、石川、河北の三郡より多く出す紙にして 通常の半紙より廣く、白色にし質細かなり、頗る上品とせらる。

かかはーわらうづ 綾吊鞋 古語 かかはを織り雜せてつくりたる鞋を云ふ。

かかふ 襪履 破れたる衣、ぼろのこと。

かかふ 假甲 琴の爪を云ふ。

かがーぶし 加賀節 徳川氏の初年に創りたる俗謡のふしにして 寛文の頃 最も盛に行はれしが 延寶に至り漸く廢れたり。

かかぶる 被 國四 古語 かうぶるにねなし。

かがみ 鏡 一、物の光りかがやく表面を云ふ、二、物の形姿を映し見るもの、これは青銅に白蠟を和して方圓の板に作り、表面を平滑にし 水銀を塗擦して 光りを發せしむるもの、近來は 唯硝子板の裏に水銀を塗り 木製のわくをつくるのみ、三、かがみもちのこと。

かがみーいし 鏡石 鑛物、鏡岩、玉英と稱し、透明に

て、物の影を映す鏡の如き石なり、諸國に産す。

かがみーがは 鏡川 地理 土佐國にある川にして 月、柳の名所なるを以て名高し。

かがみーくさ 鏡草 植物 草類、一、正月元日、禁中にて 鏡餅の上に置きし大根のこと。春のかがみくさと云ふ。二、すゑつむはなを夏のががみくさ、三、あさがはを秋のががみくさ、四、うきくさ 五、べんけいさう、六、石上に 帶赤色光澤あるばいの具の蓋の如き形の葉を有して蔓生するもの 其裏に毛あり、又まつのことを云ふ。

かがみーぐつわ 鏡轡 馬具 轡の口にあたる兩側を打ち延べて 鏡の如く作りたるもの。

かがみーくら 鏡鞍 馬具 外面に金具をはりて 山形の名所に覆輪をかけたる鞍のこと。

かがみーのーしゆく 鏡宿 地名 近江國蒲生郡鏡村の鏡山の北にあり。

かがみーしなて 鏡四緒手 馬具 馬の鞍につくる紐の名稱。

かがみーだひ 鏡鯛 動物 魚類、まどだひ まどいとも云ひ 海産にして 青黄色にて金色を帯び。腹背に、一團の暈ありて鏡の如し。

かがみーつくり 鏡作部 上古鏡を作れる部曲の民なり

かがみーの 各務野 地名 美濃國各務野郡にありて 美濃三大野の一、東西三里、南北一里餘、岐阜より神仙道に入る要路をなす。

かがみーのーふね 羅摩船 古語 かがみくさの莢の、片方破れたるを云ふ。

かがみーびらき 鏡開 正月十一日 かがみもちを切りて食ふことなり 素 正月廿日なりしも改めしなり。

かがみーやま 鏡山 地名 近江國蒲生郡西南部にある山を云ふ。

かーかん 可汗 支那匈奴にて王と云ふ義、Khan と書く、故に カン、カハン、ハンとも讀むなり、

かーかん 珂坎 鞞 鞞に同じく、不仕合せのこと。

かーかん 家監 家扶、家宰、用人等のこと。

かーかん 花冠 Corolla 植物、内部の花被を云ふ、花冠と夢とを總稱して花被と云ふゆゑなり。

かがんーせん 鸞眼鏡 貨幣 支那宋の泰始中に鑄たる錢にして 圓形にて 中央に方形の穴あり。

かかんーのーけん 河間の献王 人名、學者、西紀前二世紀の人、前漢文帝の兄、古學を好み、金帛を出して善書を求む、乃ち秦の古書多く出て、之が爲め學海の利益實に大なりき。

かーがんほ 蚊姥 動物 節足動物、體、脚 翅共に細長なる二翅類にして 觸角長く、六乃至十九節よりなり 普通線状を呈す、胸背は穹形にして 中央に横皺あり、幼虫は濕地にありて、腐敗物を取りて食とせり。

かがめく 啼 團四 古語 猿などのなくことを云ふ。
かがやいし 赫 團 古語 一、まばゆし、二、面目なし、羞かしきこと。

カガヤン Kagayan 地名 ルソンの最北部に在る廣大なる地方。

かかゆ 蕭 團下二 かをる、匂ふことを云ふ。
かからしま 加唐島 地名 肥前國北海に在る島、周圍二里十四町あり。

かかり 掛 團 一、掛ること、高さより低きに下ること、其事件に關係すること、二、勤務のうけもち、三、蹴鞠の

轉換

て 雙方が週期を同じくして振動するに至りたる時 其軸をば設けたる點を この合成振子の懸りの點といふ、又合成振子に於ては懸の點と 振りの中心とは相轉し得べきを以て 振りの中心に軸を設け 之を振動せしむるも 差異なし故に此兩中心間の距離が相當單一振子の長さなるを知る可し。

かかりのーと 戀外 團 古語 蹴鞠場に植ゑある四本の外を云ふ。

かがりや 箒屋 團 箒座にも作る、古 京都に四十八ヶ所に設け 夜間箒を焚きて不虞の變に備ふ これ 北條氏の權を握るに至りて 自家防禦と 京師の禁裏守護との爲めに設けたるもの、用途は之を武士より徵集せり、此守る武士即ち夜番を かがりやのふしと云へり。

かかる 掛 團四 一、高處より下がる、ふらさがること、二、依頼すること、もたること、三、とまること、接觸すること、四、その手によりて成る、それに屬すること、五、襲ふ、攻めつく、六、船舶の港などに碇泊すること、投錨すること、七、相遇す、感染す、八、事を始むる、事に着手すること。
かがる 龜裂 團四 古語 あがきれのされること、手足の皮膚の寒冷の爲め 裂け破るること。

時 鞠を蹴る場所、四、作り方、家などのかまへ、五、事に着手せること。

かかり 懸 團 蹴鞠の場を 懸りとも 鞠坪とも云ふ、竹圍を作りて四隅に樹を植う、四本懸と云ふはこれなり、西北は松、西南は楓、東北は櫻、東南は柳とす、源雅經は飛鳥井家の祖、代々蹴鞠の家たりき。

かかり 係 團 文典 結(むすび)に對應して その上に來るべき動詞、助動詞、辭助の用方なり、則ち次の如し、第一、係のは、も、の、が、徒の時は 動、形、助動、助詞の終止段を以て結ぶものとす。

第二、係のぞ、や、か、なむ(なも)、など、の、が、徒、の時は連體段に結ぶものとす、第三 係の この場合には 已然段にて結ぶものとす。

かがり 篝 團 一、鐵にて籠の如く作り 燃ゆる火を盛る器なり、二、鎌倉時代(北條氏)に 京師の警固として諸處の辻に置きたる兵を云ふ。

かかりあひ 掛合 團 一、事に關係すること、たづさはること、二、罪科の連累。
かかりのーてん 懸りの點 Center of Suspension 團 物理 合成振子と相當單一振子を應用したるものにて 合成振子の軸に單振子を結び付け 其系の長さを適當に加減し

かがりわけ 鹿我別 團 人名 武人、神功皇后攝政四十七年、新羅人 百濟より我國に奉る貢調を奪掠す、乃ち問罪使として 鹿我別を送る、鹿我別は 荒田別と共に百濟兵と合し 新羅を破り 大勝を得て翌年凱旋せり。

かき 柿 Diospyros Kaki L. f. 團 植物 柿樹科木本、葉は楕圓形にて帶綠色 花は單性、果實は大漿果、甚だ熟し其材を種々の器具用とす、又果實より澱を生ずる澱柿あり其の種類甚だ多し。 Oyo Tor

かき 牡蠣 Ostrea or Oyster 團 動物 軟體動物、澳足類、海中の岩石に緊着す、殊に干潮線以内、海底の砂泥土中に棲息す、双殻類にて右は小にして薄く、左殻大にして他物に附着す、外面は不規則の鱗相重なり、内面は白色に滑か英國に産するものは透明にして裏面は眞珠様の光澤ありと肉は灰色にて美味云ふ可からず、滋養物となる、殻は粉末として肥料となす。

かき 何基 團 人名 學者、宋人、字子恭、伯登の子、金華に生る、汲々として専ら之れ學事に意を止め、最も易に精通し、朱學の金華派と稱せらる 群守之を延聘すれども應せず 年八十一歿す 文定と諡す。

かき 嘉卉 團 美麗なる草木を云ふ。

かき 鉤 團 一、武器、鐵の鉤に長柄のつきたるもの、二

細くして 先端の曲りたるものを云ふ。

かき 買誼 人名 學者、支那臨陽の人、秦の孝文帝に仕へ大中大夫たり 十八歳にして能く詩を作る、吳廷尉により 秦帝に仕へ博士となる 一年にして 太中大夫に進む、諸律令の改正、列族を封ずる法則を定む、後漢にわひ長沙王の大將となる、又梁の懷王の大將となる、年三十三 病んで歿す。

かき 嘉義 地名 臺灣の彰化と臺南との中間にある一市街なり。

かき 牙旗 大将軍の旗、天子出征の時 象牙を以て竿上をかざりしを以てなり、牙營の旗など云ふ則ち之なり

かき いた 搔板 元服する時用ゐる板にて 髪をのせその先端をかきさるなり 多く柳を以て製す。

かきいろがみ 柿色紙 植物 伊豆修善寺邊より産する柿色の紙の一種なり。

かきかざら 搔敷 ふたにかけて云ふ 蓋し 極めて數へ易きを以てなり。

かきかづら 鈎葛 植物 草物、鈎藤とも云ひ、鈎の如き莖にて 蔓草なり。

かきくもる 搔陰 くるもること、かきは接頭語。

かきごし 垣越 垣の上を越ゆること。

かきさなた 鈎藤蟲 動物 さなた蟲の條を見よ。

かきしば 垣柴 垣に結ぶ柴のこと。

かきたつ 書立 圖下二一、著しく記すること、二、書き列ぬること。

かきつ 嘉吉 年號 紀元二一〇一年より四年間、後花園天皇の御代。

かきつ 垣内 古語 かきねのうち かきうらの變じたるもの。

かきづき 柿糕 餅の一種 柿五十を 洗餅米一斗の中に混じ つきて後蒸しあぐるもの。

かきつーのらむ 嘉吉の亂 歴史 後花園天皇嘉吉元年六月 將軍足利義教の赤松滿祐の邸にて殺されしや、山名持豊 滿祐を白旗城に破りて之を誅せり、之を嘉吉の亂と云ふ。

かきつばた 燕子花 Iris Lavigata Fisch 植物 鳶尾科草本、杜若、馬蘭、劇草とも作る、葉花共に花菖蒲に似たり、夏季紫色の花を開く、多く田間水邊に自生し觀賞せらる。

かきつーものがたり 嘉吉物語 書名 嘉吉の亂の記事を詳しくせるもの、撰者明ならず。

かきつーやぎ 垣内柳 植物 古語 垣のうちにあるや

なぎのこと。

かきごぼし 垣通 植物 草本、莖は四角、葉は丸くして 周縁鋸齒状刻をなす、冬に至るも凋むことなく、帶薄紫色の地にて紫の斑點ある花を開く、香氣甚だつよし

かきごぼし 連鏡葉 植物 草本、積雪とも作り、路傍に自生する蔓草なり。

かきごもし 搔燈 古語 かいごもしに同じく、油火の御燈を云ふなり。

かきなしさなた 無鈎藤蟲 動物 さなた蟲の條を見よ。

かきーのうらしま 彌浦島 地名 肥前國西方海中の一島 周圍六里十三町なり。

かきーのころも 柿の衣 柿色の衣、山伏の着物。

かきーのどーのかみ 柿本神 人名 柿本人麿のことと云ふ。

かきーのどーのひとまる 柿本人麿 人名 歌人、石見國に生る、孝昭天皇皇子天足彦國押人命の後裔にて父は大和國の人、文武 持統の兩朝に仕へ 新田部皇子、高市皇子との舍人に補せられ 和歌を能くし 山部赤人と共に歌聖と稱せらる、之が詳傳を知るに由なしと云へども、中御門天皇享保八年、正一位を贈られしは確かなり。

かきはきーのこたぢ 搔佩小太刀 武器、古語、平常腰に帶べる小刀を云ふ。

かきーびん 搔鬢 徳川時代武家に行はれし鬢の結ひ方にて 耳の上より 前髪の邊まで 一緒に搔揚げて束ぬ。

かきべ 部曲 「かきまき」を見よ。

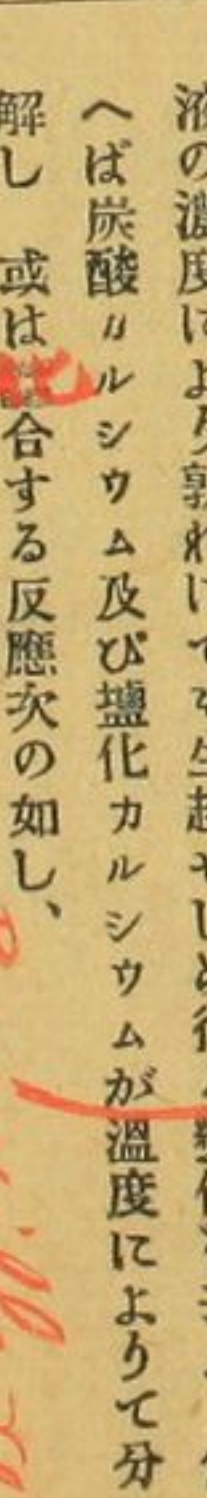
かきほーなす 如垣穂 よごとにかけて云ふ、蓋し 穢穢は 横ざまにゆひなすものなるより云ふ。

かきーも 垣面 古語 垣の表の方。

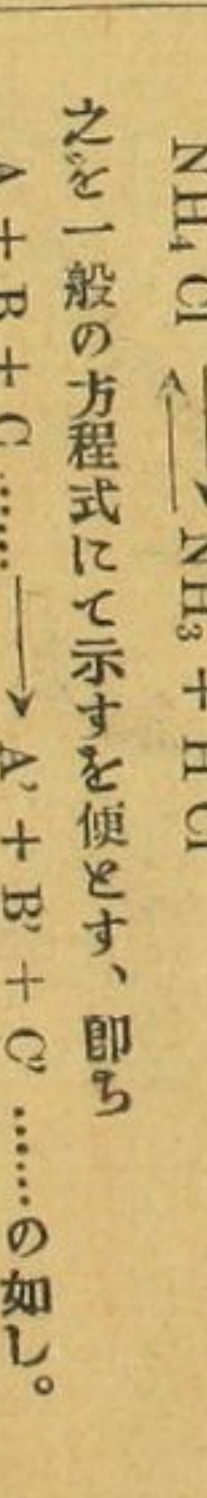
かきもごーしんげん 垣本鍼源 人名 鍼治家、平安の人、明和頃名を揚ぐ。

かきやうーへんかく 加行變格 文曲 加行にはたらく不規則詞動にて こ、き、く、くる、くれと動くなり。

かきやくーはんたう 可逆反應 Reversible reaction 化學 溶解、拆出の如き相反對する變化を 温度の昇降及溶液の濃度により孰れにても生起せしめ得る變化を云ふ、例へば炭酸カルシウム及び鹽化カルシウムが温度によりて分解し 或は合する反應次の如し、



之を一般の方程式にて示すを便とす、即ち



訥

かきゆう 何休 人名 漢學者、任城梁の人、少府豹の子 邵公と字す、性朴、深思有り、六經に精通し、最も公羊春秋を能くし、兼て歷算に通じ、孝經論語に註釋し世儒の及ぶ所にあらず、君寧公之を帷幄に侍せしめんとせしも果さず諱耶とす、諫議大夫となること再度に及び、光和五年、年五十四歿せり。

かきゆう 火球 Bolide 地名 流星の大なるものを云ふ。

かぎゆう かく 蝸牛殻 Cochlea 生理 耳の中三半規管と共に内耳をなす部分にて最も重要なり、螺旋狀に巻き上がり、其中央に骨膜ありて、二條の螺旋に分る 一は圓窓に通じ 他の一は卵圓窓に通じ 共に淋巴液を以て充たされ、聽神經此處に分布せり。

かきよく 下局 役所 明治元年閏四月議政官に置きたる一局、上局の命によりて 租税等の諸般の事を議す、後左院と改め、更に元老院とす、今の衆議院あるも此に胚胎せりと云ふべし。

かぎよのくわん 河魚之患 河魚の腐敗は内方より外方に向ひて及ぼすものなれば 内部の腐敗、内幕の困難を云ふ、左傳に曰く、「申叔展與蓬無社一言、河魚腹疾如何。」

かぎり 限 其の物の事のみ 五經、緯、極、定め、程度、臨終等の意あり。

かぎりなきひと 限無人 高貴の人を云ふ。

かぎりの一たび 限りの旅 人の死ぬること。はこの旅、この世の限りの旅路と云ふ意より出ず。

かぎりの一たびのみゆき 限度行幸 天皇崩御の時、御喪に送り奉ることを云ふ。

かぎりの一つき 限月 陰曆十二月のこと。

かぎりろび 陽儀 古語 かげろふにたなしく 春の日輝々として 霞の如く立ちて見ゆるものを云ふ。

かぎりびの 陽儀 一、かざるひは 春の空に見ゆるゆる はるにかけて云ふ、二、もゆる、火(ひ)、はのかなほにかけて云ふ。

かきろましま 佳奇呂麻島 地名 大隅國南方洋中にある一島周圍二十二里十四町あり。

かきわたす 播渡 國四 古語 かさならずことに同じ。

かく 隔 醫學 疾病のこと 胃中に癌の生じて 飲食物の消化せざること。

かく核 Neucleus 動物 生活する細胞内にある小粒蛋白質より成る 細胞分裂の時 最も重要なものにて核二分して始めて細胞分裂をなすものなり、植物の核は、

原形質内の中心をなし 動物の核と同じく 其中に仁を含む。

かく角 一、數學 平面角の畧にて 平面角とは 同一の點より引ける二つの直線のなす角、

圖に於て Aを其頂點と云ひ、角BACをなすBA、CAを其邊と稱す、二、鹿或牛、羊などのつのを云ふ、三、四角の畧、五、

二十八宿の一、六、馬を進行せしむるに 鐙の角にて 馬の脇腹を蹴ることを云ふ。

かく 翻 Quill 動物 鳥の翼或は尾にある 翼の根部皮膚中に入る部を云ふ。

かく 構成 國四 組み作ることを、編むこと。

かく 下愚 至愚に同じく 甚だ愚なること。

かく 額 一、額面 扁額と同じく 横長き板紙或は絹などに 書畫を寫して 室内、門、檐下等に置くもの是れなり、二、生理、顔部の上部にある一部分即ちたひのこと

三、分量、員數などを云ふ。

かく 萼 Calyx 植物 外花被に同じく、外部の花被なり。

かく あぢさゐ 額紫陽花 植物、紫陽花科木本、かくさうと云ひて 花の周圍より咲きそむるものを云ふ。

かくい 郭威 人名 周王、初め五代漢の武將たりしも 隱帝の思むところとなり、大梁に至り 全部下に推されて帝位につく、在位三年 西紀九五三年 死す、太祖と諡す。

かくたん 樂音 Musical Sound 物理 音響の一定の振動連續して規則正しく發し 其音の清朗にして 人をして爽快ならしむるもの。琴、笛、等の音の如し。

かくたんじ 各温蒸溜 化學 分溜に同じ

かくかい 學階 役名 學正 司業の二種とし、學正を五等に分ち 司業を八等に分てり。

かくかくと 赫々 國語 さらさらとひかりかがやくこと、又最も著明なることを形容する語。

かくがとり 覺駕鳥 動物、涉禽類、古 みさごをかかく云ひたり。

かくさ 郭遠 人名 武臣、仲通と字し、宋世北京の人、性慷慨、仁に富み、軍畧兵法に通曉せり、保州の卒叛するや 功を奏して 閩門祇候 環慶兵馬都監に加はる、十年誓宗の即位せし時、左武衛上將軍を歴て崇福宮を提舉して死す 年六十七なりき、雄武軍節交使を贈らる。

かくさ 樂殺 人名 賢人、支那戰國魏の人、昭王に仕へ亞卿たり、兵法に精通し、齊を攻めて七十餘城を取る

残すところ吾及即墨のみ 或人之を讒す、乃ち王は置酒大會して讒者を斬り、殺を立て、齊王となせしも受けず、惠王立つに及び、趙に往き、此處に死す。

がくきやう 樂經 書名 樂の事を詳記せるもの、支那孔子の正したる漢籍なり。

がくぎよるる 鰐魚類 動物 爬虫類、熱地地方(東インド、北アメリカ)の河口に産し、形どかけに似て頗る大全身堅き粗なる鱗甲を蒙り 頭は長く 口には無数の鋭齒列し 喉中二個の腺ありて劇烈なる香液を出す 性甚猛烈 草間湿地に隠れ 人畜を咬み 水中に没せしめて餌とす、心臓は肺動脈と大動脈と相連結するを以て血液純ならず、肛門糞裂して卵生す、舊大陸より生ずるものを *Crocodile* 新大陸のものを *Alligator* 云ふ。

かくきより 角距離 Angular distance 天文、O 點より A 及 B の二點を見るとき 角 AOB を角距離と云ふ。

かくくわん 客觀 哲學、主觀に對して云ふ語、目的物の 己れの外界にありて 形の有無に拘らず 心に感ずるものと云ふ。

かくくわんらん 學館院 歴史、私立學校、平安朝五學の一にて、嵯峨天皇の皇后、仁明天皇の御母の檀休皇后及弟氏公と共に 橘氏の子弟を教養せんが爲め設けられた

り、時に嘉祥三年なりき。

かくけい 郝經 人名 儒者、西紀十三紀の人、元の忠臣、嘗て世祖の命を奉じ、宋に使し 賈似道に拘はれて 風せざりし人なり。

かくごう 恪勤 かくごんともよむ、一、職務をよく勤むること、二、攝家以下貴顯の家人を 恪勤の侍とも

格勤の者ともいへり、三、武家及小侍所に かくごといふ 役ありて 營中に候して 雜役に服したるもの。

かくこつ 顎骨 生理、顔部の齒のつきたる骨、上部のを上顎骨、下部のを下顎骨と云ふ 共に 飲食物を咀嚼するに必要なり。

かくこふばつ 確乎不拔 堅固にして 動す可からざること、易經に「確乎其不可拔」「確乎不拔之精神」など あり。

かくざん 擴散 物理 灑散を見よ。

かくしぎ 郭子儀 人名 名臣、支那華州鄭人、唐玄宗に仕へ 天寶十四年安祿山の反するや、衛尉卿靈武郡の太守と爲り、朔方の節度使に充て、大に賊軍を敗る、功を以て司徒を加へ代國公に封せらる、邕千戸を食む、乾元元年 詔勅により安慶緒を討ち、之を破る、建中二年尚文大夫 尉中書令、汾陽の忠武王にて薨す、年八十五、建陵に

葬り忠武と諡す。

かくしこう 郭子興 人名 英雄、支那明代の人、曹州の人郭子公第二子、長ずるに及び任俠 賓客を喜ぶ、人と爲り梟悍、太祖の謀議に従ひ 親信左右の手の如く、患難相救へり、事成らずして病死す。

かくしさ 角差 Angular parallax 天文、地球軌道の長短の両端に地球があるとき、其両端より同じ星を見れば 其方向異なり、其方向の差異、両端と星とを結合せる二直線のなす角を云ふ。

かくしつ 確執 一、互に我意を張りて譲らぬこと、二、足利時代の語にて 不和となることを云ふ。

かくしつ 鶴膝 醫學、鶴膝風とて、膝の内外腫れ痛みて 漸く瘦せ衰へ 鶴の脚の如くなる病を云ふ。

かくしつやう 角質層 生理 皮膚の條を見よ。

かくしやう 學生 古語 かくせいのこと。

かくしやう 鄂州 地名 支那湖北省武昌府、宋理宗の開慶元年 蒙古の爲め此地を圍まる 宋は賈似道をして漢陽に軍して、之を援けしむ、圍漸く解けたり、後元のよるところとなり 宋の滅亡を來せり。

かくしやう 岳州 地名 支那湖南省巴陵縣の市、岳陽樓は則ち此の城門なり、長髮賊の亂、清廷の饒尙阿をし

て防がしめ、西紀一八五二年賊湖南に入るに及び陥りぬ

かくしやうらん 學習院 學校、仁孝帝 公卿に學者乏しきを患ひ 假に學習所を設け 京官の子弟十五才以上四十才以下二百人を容れんとせしも成らず 孝明帝其遺旨を奉じ 弘化二年完成し給ふ、明治十年十月學習院を東京に設く これ今の學習院なり。

かくしつふこう 學術復興 Renaissance 歴史 西紀第十五世紀及十六世紀に於て、イタリヤのフロレンス會長メダシ及其他の保護を以て 希臘及ローマの古文學、古技術を復興せられしことなり。

かくしやうき 岳鐘琪 人名 名臣、支那清朝の人、字東美、容齋と號す、天性駢脅 眼光炯炯として四射す、沈黙寡言、康熙五九年 軍功を以て四川提督、孔雀翎を賞せらる、賊を討つこと屢々資州に病歿、時に年六九、襄勤と諡し 一等輕車都尉を給はる。

かくじよほふしんわう 覺如法親王 人名、後奈良天皇皇子、母を宮人伊豫の局とす、元龜元年四月 天壽座主 天正二年正月 薨す。

かくす 隠、潛、匿、藏 圖四、一、見ぬやうにすること、月隱、雲の如し、二、水中にひそみかくること、三、に

げかくること、匿名、匿名、匿山匿罪、四、しまひかくこと

深藏而不示とあるが如し。

かくせい 客星 天文 平常現はれず、時々見はるる星を云ふ。

かくせい 覺性的意志 心理 自然的意志に同じ。

かくせい 覺性的感動 心理 身體の健全及痲痺に關係するもの。

かくせい 角石 Hornstone 礦物 我國にて燧石と稱するものにて、燧石の不純なるものなり、眞の燧石は英國、佛國、獨逸に産する白堊質中に存す。上古土人の石鏃とせしもの少しとせず。

かくせん 角閃花崗岩 礦物 花崗岩の條

かくせん 角閃玄武岩 礦物 玄武岩の條

かくせん 角閃石 Amphibole—Hornblende 礦物

かくせん 角閃石 Amphibole—Hornblende 礦物

所在—火山及結晶片岩中、性質—一斜晶形、比重二、九乃至三四、硬度五、乃至六、色は綠、黒、白、光澤は眞珠光及玻璃光、透明不透明あり、種類—1、透角閃石は伊豫、伊勢、信濃等より産する、白灰又は淡綠色の柱状のもの、2—陽起石は淡路沼島より産する綠色纖維状のもの、3、普

通角閃石は加賀白山に産する濃綠又は黒色のもの、4、石綿は白又淡綠、細針状又は毛狀結晶、或は細き纖維状の塊をなす、其性耐火力強し、反應—吹管にて熱するも膨脹するのみにて溶けず。

かくし 樂所 古語 かくしよに同じ。

かくし 殼頂 Apex 動物 貝類の尖れる端、二枚貝にては兩殼相附着する側の尖端、螺は螺旋の先端を云ふなり。

かくし 迎具土神 神名 火産靈神のこと、火の神なり、故に火災を 迎具土のあらびと云ふなり。

かくし 角 丸づとに對する語にて、徳川時代の御殿女中の髪のゆひ方、たばを 角がたにせるもの。

かくし 角度 數學 幾何 圓の中心より周圍を三百六十等分したる點に結び附けてなる角の一を一度と云ふ周圍の四分の一の間の角を直角と云ひ、此角より小なるを銳角、大なるを鈍角、二倍を平角と云ふ。

かくし 漢南 刀の鏢の一種 豊臣秀吉、明を攻めて 分取りし朝鮮刀の鏢に摸擬して造りたるもの。

かくし 結果 古語 かくのあわのこと。

かくし 夢の位置 植物 子房に對して定め、(かかんのうちを参照)、1、夢上位(Superior or Epigynous)

かくし 止格物致知 又哲學のことを 格物致知の學と云ふ 則ち此意なり。

かくし 格物入門 書名 漢文體理科、アメリカの宣教師アラー氏 清國同治七年 七卷を出版せしものこれなり 氏は本邦にも來りて 同志社の教鞭をとりしことあり。

かくし 郭璞 人名 詩人、卜筮家、晋の人 景純といひ 博學高才 詩賦に巧み 郭公は卜筮に精し 依て此に従ひ、五行天文卜筮を學びて之に曉通せり、郭の逆謀を簞し、郭の爲め殺さる、時に年四九なりき。

かくし 隔膜 Septum 動物、圓筒形の腔腸を入口の連絡する數多の縦室に分つ膜にて、サンゴ、イリギンチヤク類の腔腸にあり、而して此の遊離線即ち中央部にはサンゴ類唯一の攻撃器なる絲細胞群を有せり。

かくし 角膜 Cornea 生理 角質透明の膜 哺乳動物に於ける眼球の最外部にありて 鞏膜に連絡せり、而して眼中最も堅きところを云ふ。

かくし 隔膜 Septum 植物 なたねの子房に於て 此は元來單細胞なるも、蒲膜によりて二室なる如き觀を呈す、此の蒲膜即ち 隔膜なり。

かくし 革命 一、支那にて 王者の起るとき 命

なし、うちこの類、2 夢上位、(Orifer or Hypogynous) さくら、毛茛の類、3、夢周圍、(Perigynous)、すべりひゆの類。

かくし 下愚の性質ある者は 如何に警戒しても 其性を移すこと難きをいふ、論語に上智與下愚不移とあり。

かくし 角柱 植物 古語 たけ(竹)のこと。

かくし 覺鑊 人名 高僧にて畫人、肥前の人、正覺と號す、高野山に往きて、阿闍梨定尊に従ひ、密乘の蘊奥を究め、崇徳上皇の知遇を得たり、康治二年十二月 年四十九寂す。

かくし 顎板 Jaw plate 動物、カタツムリの上

部即ち上顎に當る部にありて角質より成り 三ヶ月形にて舌と共に、咀嚼の用をなす。

かくし 岳飛 人名 武臣、支那宋世南京の人、字鵬舉、湯陰の人、絶世の武將、一朝足を揚ぐれば、帝の疆域を増ざると云ふことなし、宣和中の募集に應せしより 功を累ね、樞密副使、參知政事、兩鎮節、萬壽觀使、等に充てらる、年三十九 歿せり、或は云ふ紹興十年議殺さると

かくし 岳父 自己の妻の父を云ふ。

かくし 格物 事の道理を盡窮すること、大學に曰

を天に受けてなる、故に王者の代を革むるを云ふ、二、ト師の語にて 辛の酉歳は變亂多きことなり。

かくやうろう 岳陽樓 地名 清國江南西道巴陵郡岳州の城門なり、其創設のこと不明、西は洞庭湖を望み、南は君山を顧る、唐の開元年中 張説 此に守たりき、時の才士と登臨賦咏せり。

かぐやま 香具山 地名 香山にも作る、大和國高市郡香久山村にある山、天の香山と云ふ。

かぐやひめものがたり 赫夜姫物語 書名 古語、竹取物語のこと。

かぐら 神樂 図 みみくらの畧、本邦歌論勃興時代に於ける謠ひものの一にて神を祭るため奏する音楽、和琴、大和笛、抽子の三ツの鳴物を用ひて歌を謠ひ 舞ひを舞ひたり、伊勢に行はるるを だいたいかくらと云ふ。

かぐらうた 神樂歌 神樂を奏する時歌ふ歌にて 三十七曲より成れり。

かぐらすず 神樂鈴 神樂を奏する時の鈴、小鈴十二個を 銅線にて綴り 柄を付けたるものを云ふ。

かぐらづき 神樂月 古語 陰曆十一月のこと。

かぐらなかのひがしのみささ 神樂岡東陵 地名 山城國愛宕郡京都にある陽成天皇の御陵なり。

かくれい 閑令 法令 總理大臣の名義を以て 内閣より發布する令を云ふ。

かくれうばう 覺了房 人名 北條時頼のこと、佛道に歸依したる後の名なり。

かくれがさ 隠笠 笠にて、身をかくすためのもの。かくれがに 動物 寄生虫、軟體、眼小、脚短、多くハマグリ、アサリ、マイラギ等に寄生す。

かくれきがん 角礫岩 Breccia 礫物 岩石、石屑の圭角 未だ消失せざ 礫前 水に停滞し 粘土、細砂或は硫酸の水に溶解し來りたるもの層間に入り 之を結合し成立せしもの。

かくれやま 隠山 地名 伊勢國にある山。かくれみの 隠簀 一、身をかくすための簀、二、かくれがさと共に 撲撲、飾装等を畫きたる一種の寶。

かくれみの 隠簀 植物 木本、賞観用植物、葉常に縁に小さく 光澤あり。

かくれんぼつ 赫連勃勃 人名 支那晉代の僭主 字屈于、匈奴右賢王去卑の後裔、劉元海の族、性辨慧美風 姚興の寵するところとなる、義熙二年僭して天王大軍干と稱す、元を建て龍昇と云ひ 國號を大夏と云ひ、後 上に至り壇を築きて天地を祭り 僭して皇帝と稱し、昌武と改

覇

かーけい 河系 River system 地文 一條の本流と之に注入する凡ての支流との總稱なり。

かけい 花莖 植物 花軸に同じ。かけいっほんだち 掛一本立 相撲 四十八手の一、自然に 我足一本のみを立たせ 他を倒すことなり。

かけいぬい 何景明 人名 詩人、明代の人、信陽に出で 仲歌と云ひき 志操耿介節義を尚び、國士の風有り 陝西提學副使を歴て 嘉靖の初 病を以て引き 年三十九 遂に長逝しぬ、何李、過責徐禎卿と並に四傑たり。

かけかう 懸香 一、薰物を絹袋に入れ 惡臭を防ぐために 室内又は便所等にかけておくもの、二、にはひぶくのことにて 多く女の携帯するものを云ふ。

かけがは 掛川 地名 遠江國佐野郡の一市街、太田氏の舊藩地とす。かーげき 罅隙 Crack 地文 地殻、岩石等に存せる多少の空隙を云ふ。

かけことば 懸詞 文典 同者異義の語を混用して上の語句の下部と、下の語句の上部とを 同一の音にてあらはす修辭法なり。かけす 懸菓 動物 脊椎動物 鳥類、かしどりとも云ひ、鳩より小にして、性猛烈他の小鳥を捕へ食す、嘴、

元し、又統滿に還り宮殿を大成し眞輿と改元す、在位十三年 南朝宋の元嘉二年歿す。

かぐらう 樂浪 地名 今の朝鮮平安道の南及び黃海道の地、此地、西紀前一〇八年 前漢武帝 朝鮮征服後 殺けし郡にして 衛氏の舊郡王險を朝鮮縣と改めて其治所とせり。

かぐわんせき 鵝管石 鑛物 石類、つららしの中 空のものを云ふ。かぐわんのひご 加冠人 役名 加冠役にねなしく 元服の時 冠をかぶらす人を云ふ。

かぐわししま 鹿久居島 地名 備前國和氣郡南方海中の一島 周圍七里三町 鹿咋島とも云ふ。かげ 影 Shadow 物理 陰影のことにて、光の進路に 不透明體ありて之を遮る時は 其後部に光の達し得ざる 暗黒部を生ず、此則ち影なり。

かーげ 鹿毛 鹿の毛に似て茶色なる 馬の毛色を云ふ。かけあひ 掛合 一、談じあふこと、二、交替して行ふことを云ふ。

かけい 嘉慶 年號 紀元二〇四七年より二年間、後 小松天皇の御代、又清の仁宗の在世二十五年間の年號とす (西紀一七九六—一八二〇年)。

足、脊、腹共に黒色、目の周圍白色、翅は淡黒色、能く人語を似び 諸鳥の聲を發するを以て愛翫せらる。
かけす 射たる矢の 射ぬけて そこに留らぬさまを云ふなり。
かけだひ 懸脚 古語 懸脚のことにて 古 祝賀の時 或は正月の儀式に 門松に懸けし二疋の鯛を云ふ。
かけちから 懸稅 古語 供奉の稻、古 穂のつきたるままの穂を 青竹にかけて 神に供へしなり。
かけつ 嘉月 古語 陰曆三月のこと。
かけづかさ 兼官 古語 けんくわんにれなし。
かけづくり 掛造 古語 棧閣とも云ひ 山 或は崖などへ、持たせ掛けて造りたる家。
かけつーのーうら 掛津浦 地名 丹後國竹野郡琴引濱の前面にある濱を云ふ。
かけづめ 緊爪 古語 琴爪のこと 琴などを弾く時にはむる爪を云ふ。
かけごも 影面 古語 一、山の南を云ひ、二、かけごものみちの畧語。
かけごもーのーたほみかど 影面大御門 古語 大内裏の南方の門を云ふ。
かけごり 翔鳥 古語 飛行しつづつある鳥を 的として射る

ことを云ふ、射術の時の用語。
かけなは 掛繩 古語 ねひなはとも云ひ 馬を捕ふるとき馬の口につけて引く繩なり。
かけはし 掛橋 古語 あやふしにかけて云ふ 蓋しかけはしは 危険なるものなればなり。
かけひ 算 古語 高處より 水を引く繩を云ふ 古歌に「山里は かけひの水につららゐて ねどづれぬにぞ 冬をしりぬる」とあり。
かけひなた 陰日向 古語 一、日陰と、日向との意、二、古語 陰陽に行の違ふ人、目前にて能く働くも 陰にて怠ることのあるを云ふ。
かけひも 掛組 古語 兄弟、親子、夫婦などの決別の時 再びあふまを契りて かけてむすびたれ紐なり。
かけまつり 影祭 古語 東京の神田神社と 日枝神社とを年々交代にて 盛に祭るに その祭順に當らざる社は 質素にまつることを云ふ。
かけむしや 影武者 古語 偽武者にれなし 敵を欺き又は惑す爲めに 本人と同装したる武者を云ふ。
かけん 下弦 古語 一、陰曆十五日後の月のこと、二、満月後七日を経過すれば太陰再び半圓となる、而して光面は左方となる 之れ則ち下弦なり。

かーげん 下元 古語 陰曆十月十五日のこと。
かーげん 嘉元 古語 紀元一九六三年より三年間、後二條天皇の御代。

かーげんーしふらむ 雅言集覽 古語 雅言をいふは順に集めて 古書の例を引きたるもの 石川雅望の著なり。
かーげんーじゆんじよ 加減順序 古語 法律 加重、宥恕、自首減輕、酌量減輕、の例を 一罪につきて 同時に行ふ次第を云ふ。

かーけーや 掛屋 古語 今、銀行の如きもの、金員を掛けて預け置く意にて 多く大阪の富豪なる商家を以て 此に充てたり、寛文年間 諸大名の、藏元を出入の商人に託したるより始まりしことなり。

かーけゆーし 勘解由使 古語 役名、國司交替の時、國司前任者より 新任者に事務引継ぎをなすを監理する職、延曆十六年 始めて置かる。

かーけろふ 陽炎 古語 かさろひ かけるひにれなし、春の長閑なる日に 空にさらさらと煙の如く立つもの、絲遊、野馬の意にれなし。
かーけろふ 蜻蛉 蟬 動物 一、とんぼう、二、朝に生れて 夕に死すと云ふ ふうのこと、直翅類、尾に二本或は三本の長毛を有し 後翅は前翅より小、幼蟲は

腹側に認めあり、三、紺色の貝にて 形人の爪に似たるものあり。

かーけろふ 陰 古語 日月の影の ひらめくこと はのめくことを云ふ、かけるの延音なり。
かーけろふーはむき 蜻蛉日記 古語 書名八卷あり、天曆八年より天延二年までの記事、村上、冷泉、圓融三帝時代の風俗の一斑を知る可し、著者は 東三條攝政兼家の妻、右大将道綱の母、藤原倫寧の女なり。

かーけーを 懸緒 古語 かむりのひも、今は絲にて作れども古は紙なりき。

かーけーなごり 懸踊 古語 風俗 七月十四日より晦日まで 毎夜 大小人 交りて 街頭或は他人の家にて踊ること。

かーけー 麴子 古語 かのこにれなし。
かーけー 鉸具 古語 一、あまみの輪のびちよがね、二、帯を締めるときに用ゐる銅製の鍵を云ふ。

かーけー 影 古語 かげの古き語。
かーけー 加護 古語 神や佛に祈りて冥護あること。
かーけー 鷺湖 古語 地名 信濃國諏訪郡にある諏訪湖のこと
かーけー 花梗 Peduncle 古語 植物、花軸より出する小枝柄、各其花を着くるものこれなり。
かーけー 河口 River mouth 古語 地名 河の海に注ぐ所

かーけーこうべーう

單純口、漏斗口(アマゾン河の如し)濁口(磐城宇多川口の松川浦)三稜口(淀川、木曾川、新川)等の種類あり。

かこう 火山の熔岩及諸種の瓦

かこう 植物 花は種々の香を有す、是れ昆虫を誘ふためにして、芳しきもの、臭きものあり、昆蟲の少

かこう 花の香 植物 花は種々の香を有す、是れ昆虫を誘ふためにして、芳しきもの、臭きものあり、昆蟲の少

かこう 河湟 地名 清國肅州府西寧府の地、黄河

かこう 下界介骨 生理 鼻の奥にありて、粘膜を支ふ骨、一對より成る、篩骨より下

かこう 花崗岩 御影石 深造岩の一種、粒状構造をなす、主成分一石英、正長石、斜長石、雲母、角閃石

かこう 花崗岩 御影石 深造岩の一種、粒状構造をなす、主成分一石英、正長石、斜長石、雲母、角閃石

かこう 花崗岩 御影石 深造岩の一種、粒状構造をなす、主成分一石英、正長石、斜長石、雲母、角閃石

かこう 花崗岩 御影石 深造岩の一種、粒状構造をなす、主成分一石英、正長石、斜長石、雲母、角閃石

かこう 花崗岩 御影石 深造岩の一種、粒状構造をなす、主成分一石英、正長石、斜長石、雲母、角閃石

かこうけん 夏侯建 人名 儒者、小夏侯と稱し、西漢の人、今文尙書の説經をなせり。

かこうげん 火山原 地名 火山原に同じ。

かこうげん 火山原 地名 火山原に同じ。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

かこうこ 火山湖 地名 火山湖の事なり。

至四百五十五 二十有八

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

かこうしゃがん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 礦物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ

趾

傳

海中に一島をなせり。

かこぶつ 動物 脊椎動物 魚類、かこぼちやとも云ひしふしにれなし。

かごぶね 籠船 飾りたる船、多く祭禮などに出す。

かごん 下相 相は志の純一なること 故に ころもち、或は下心の意なり。

かごん 假根 Rhizome 蕨苔地衣等の根毛にて、眞の維管束を有せざるものなり。

かごーやかーに 古語 かごかに同じ。

かさ 笠 一、かぶりがさのことにて 雨、日光等を防ぐ爲めに頭部に被ひ 或は笠あり 或は編あり 二、さしがさの畧なり。

かさ 暈 天文 空中に 水分多量に存するとき生ずるものにて 日又は月の周圍に 笠の形に似たる輪の如き影なり。

かさ 傘 椀の蓋なり。

かさ 天、空、又上部にある總ての物、蓋し、かみさまの意義ならむ。

かざ 風 かせのこと かざ折、かざげなどの如し。
かざあな 風穴 一、山腹などの如く 凡て風の吹き起る穴、二、かざぬきのこと。

かさい 下頰 Pedipalpi or Maxilla 動物 一、クモの觸角作用を司るものにて 雄の先端は甚だ膨大し、其下面鈎状物多し 是れ即ち生殖器なり、二、マキシラは哺乳類にありては上頰と云ひ、節足動物にありては下頰 下頰、等と譯す。

カサイ Kasai 地名 南部アフリカのコンゴ河の大支流たり。

かさいさん 假細菌 Bacterioides 植物 バクテリアの一種、根瘤細菌の變態、棍棒状或は叉状を呈し、甚だ蛋白質を含めり。

かさいいんし 葛西因是 人名 儒者、名は質、字は休文、建業と云ふ、江戸の人、老莊に精し 昌平黌の講師となりぬ、文政六年四月 年六十にて歿す。

かさいうじ 葛西氏 人名 性は平氏、秩父氏の別族 清重に至りて 名高し、系圖は次の如し。

高望……將恒 武基(秩父)
(葛西) 武常——常家——康家——清光
清重

かざうけ 風受 植物 弾絲とも云ひ、松の花粉、風の翅果 ヅクスの胞子等の如く、風を受けて飛散するに便利なるものなり。

かさいーねんぶつ 葛西念佛 躍り念佛のこと、鉦、太鼓、笛の合奏にて ねんぶつことなり 昔 徳川時代の末より武蔵國葛西の土人 始めて之をなせしを以て云ふなり。

かざーうーぐさ 風衣草 あふぎの古名なり。

かざーがくれ 風隠 古語 風の吹き來ぬ物かげなり。

かざーかけ 笠懸 騎射の式 鎌倉時代に 行はれたる遊戯にて 射場に高く笠をかけたき 遠矢を射ること。

かざがたーやま 笠形山 地名 播磨國神東郡の山、國中最高山とす。

かざーぎ 笠木 蓋木 衡木とも作り、神社などの鳥井又は門の上に渡す横木なり。

かざーやま 笠置山 地名 山城國相樂郡笠置村の東南にある山、大和國添上郡に接す、元弘元年後醍醐天皇の北條高時に攻められ給ひ 大僧正聖尋と茲に行宮を設け給へり、これ笠置寺なり、寺は中興上人解脱の吉野の奥六峯に擬して作られしもの、鹿踏鳥にも作るなり、又櫻の名所たり。

かざり 動物 脊椎動物、鳥類、燕雀類、若狹國海邊の岩屋に産し形や大なり。

かざりーば 風切羽 翻とも作り、鳥の腋下にありて飛揚するとき 風を切るに要する短き羽なり。

かざーくーぶ 喀薩克部 一、コサツク兵の部落 元 露西亞のドン河畔に住みし部落にて 西紀一五八三年會長エルマ一ク青帳汗を打ち、悉畢兒の地を畧し、ロシアのイワン四世に奉りしものなり。

かざーぐるま 風車 一、米搗 或は汲水の装置機に大輪の周圍に 數多の翅をつけ 風力によりて之を廻轉せしむるなり、二、小兒の玩具に 紙を輪に作り 風に之をまはすなり、三、植物、草名、葉は大にして花は青色、白色などあり。

かざげつわけーのーたしをーのかみ 風木津別之忍神、
神名 大屋咄古神の弟なり。

かざーご 笠子 Schotes 動物 海魚類 保護色動物、頭部は圓形、脊部は縁褐色にて高く、腹部は扁平、口は尖り、鱗あらく 鱭は鋭にして刺す、多く本邦の東海 西南海に産し 近海の岩礁起伏し、海藻繁殖するところに棲息す、鬼笠子、オコセ等は此類なり。

かざーこを 風笠 風邪の爲め 聲のれたるを云ふ。

かざーたか 鵠 Pica or Magpie 動物 鳥類、鳴禽類、大さ一尺三四寸、からすに似たり、頭、背、爪は黒色、胸腹部は白色、肩部に白色の羽毛あり、尾七寸餘に及び黒綠色、聲低し、各處に産すれども、本邦にては肥前

三子削ル 地 四百四十七

に最も多く産す。

かさねのーはし 鶴橋 一、七月七日の夜 即七夕に牽牛織女の相會する時 天の川に多くの鶴の集りて之れが爲めに橋を作ると云ふ、二、禁中にて 天に擬へて渡すと云ふ想像の橋なり。

かさねのーまゆ 笠沙崎 地名 今の薩摩國の加世田港の舊名なり。

かさし 挿頭 古 神祭又は舞樂の時 頭髮或は冠につけし 草木の花 造り花を云ふ。

かさしじころ 笠 笠の如く作りたるしこのこと。

かさしーせう 挿頭抄 書名 詞を挿、装、脚の三區分にして挿を論じたるもの 富士谷成章之著す。

かさしーのーわた 挿頭綿 古語 綿の花造にて、昔踏歌する人の 冠の額にさせしものなり。

かさしーのーを 緒 鑑の上帯を云ふ。

かさしーじま 笠島 地名 一、相模國三浦郡にある一島 二、陸前國名取郡にある一地なり。

かさす 圓四 一、挿頭 かみさすの畧にて 髪につけて飾るものを云ふ、二、髻、たはふことなり。

かさすけ 笠管 Carex dispatulha Bort 植物 莎草 科草木、濕地に生し 葉縁鋭し 觸るれば指を切る、笠を

編むに用ゐらる。

かさご 笠戸 古語 高懸臺のこと。

かさごーじま 笠戸島 地名、周防國南方海中にある一島 周圍九里六町あり。

かさごりーやま 笠取山 地名 山城國宇治郡醍醐山の東にある一山、紅葉の名所なり。

かさーながれ 風流 古語 鷹狩の時、鷹の風の爲めに吹かれて 他地に逃れ行きしことを云ふ。

かさーなぎ 風 風止みて 波浪の静りたるを云ふ。

かさなぎーのーはま 風濱 地名 紀伊國にある濱。

かさーなみ 風波 風の爲めに起る高き波のこと。

かさーなみ 風並 風向 風の吹き来る方向なり。

かさーぬき 風抜 風孔 風通に同じく、壁、扉などに穴をあけて 空氣を通行さすところを云ふ。

かさぬいーのーかぶ 笠縫里 地名 近江國にありと云ひ 美濃にありとも云ふ。

かさぬいーのーむら 笠縫邑 地名 大和國十市郡笠神村 或は宇陀郡笠岡郷とも云ふ、兎に角に 人皇第十代の天子崇神天皇 三種の神器の中の鏡剣を模造し給ひ 神授の神器を此地に崇祀し 皇女豊鍬入姫をして神籬を立てて 仕へしめられたるところなり。

鍾

風風

かさねーがはらけ 重盃 一、定れる盃即五献或は三献の盃以外に 更に飲む盃なり、二、旅行せむとする門立に飲む酒なり。

かさーのーかりで 笠借手 古語 かぶりかさの両類につけて 紐を通す 輪の如きものを云ふ。

かさーばな 風花 少雨のことにて 風の吹く前にふるものを云ふ。

かさばやーさんのり 風早公紀 人名 華族、現在 從三位子爵たり。

かさばやーのーうら 風早浦 地名 駿河國にある浦。

かさばらーきょううん 笠原恭雲 人名 醫、名は正恒 雲仙と號す、性仁慈、多藝、醫術に巧みにして、土州侯の醫官となる 天保二年三月十五日 七十七 歿せり。

かさーびた 痲 かさぶたの轉音 さすあのこと。

かさひのーみや 風日祈宮 地名 伊勢國皇太神宮の別宮にて 志那津比古神を祀れり。

かさーふり 簪振 古語 かさしとつけたる如くすることなり。

かさーぼし 傘鋒 蓋幢にれなしく 傘を廣げたる如く飾れる鋒にて 祭禮の時の飾物なり。

かさーま 笠間 地名 常陸國新治郡にある市街、牧野

氏の舊藩地にて 今は茨城縣下の地なり。

かさーま 風間 風のやみたる間、土佐日記に 祈りくると見ゆらむ。

かさまぢーくや 風待草 古語 植物 梅のことを云ふ

かさーまつり 風祭 米の收穫時に 海上穩なれかしと風の神に祈り祭つること。

かさーまもり 風守 かさまらに同じく、港にて 順風の吹き来るをまつことなり。

かさーのみ 汗衫 かんさんの轉音 中古時代に 宮女又は小兒の初夏に 着せし衣服なり。

かさみ 蟾蚌 Portunus Pelagicus Fabr 動物 甲殻類 體長一尺五寸許、後方狭し、頭胸部には 左右に 鋭き突起あり、脚は游泳に適し、最後の脚の如きは游泳肢に變化せり、常に近海にありて 砂泥中に棲み、晝間は只眼及口を出すのみにて 他物の接近するときは 直ちに之を捕へて餌となす。

かさみーぐさ 風見草 植物 古語、柳のことなり。

カサン Kasan 地名 一、ロシア東部の一州、東南部はウラル山脈を以て横斷せらる、土地平坦、森林、沼澤、小湖河川多し、人口百七十萬餘、氣候健康に適す、大理石

かざひのー

螿

石炭、鐵、亞麻、野菜、其他石材を生出す、二、同州の首府、ボルガ河口上に在り、人口十四萬、商工業頗る盛にして、木綿製造、鞣皮、鋼鐵、石鹼、陶器、火藥等を製するなり。

かざん 吐汗 地理、ボルガ河濱に居りし全帳國の一部、拔部の弟脱哈恰木兒の後裔、全帳國の衰ふるに當り、克里姆汗と白帳汗との間に、此が即位を争ふこととなりしが、西紀一五五二年モスコ大公イバン四世の亡はすところとなりぬ。

かざん 火山 Volcano ④ 地文、成層火山、塊状火山の二種あり、凡て地皮の内外を連鎖せる洞管の、地球内部の地熱の爲め、熔岩、水蒸氣、其他諸種の瓦斯體を噴出するところなり、而して、平野、海底にあるも皆是れ其地殼の弱きによりて起るなり。

かざん 合贊 人名、王、元末代の人、伊兒汗周阿八哈の孫、ラマ教及キリスト教を保護し、ローマ法王と與しエジプトを攻め、シリアを畧し、國威擴張、制度文物を大に振興せしかば、蒙古汗中の賢君と尊稱せられたり、西紀一三〇三年歿せり。

かざん 火山 火山 ④ 地文、圓錐狀或は鐘狀の多くの山、不規則に集合せるを云ふ、フランスのオ

鐘

ーウエルスマ火山葉即ち此の一なり。

かざん 化学 製法、過酸化水素 Hydrogen peroxide H_2O_2 を少量づつ注ぐにあり、即ち $BaO_2 + 2HCl = BaCl_2 + H_2O_2$ 但し硫酸を入れたる真空内にて水蒸氣を發せしめば純粹のものを得べし、性状、比重一、四五三一、無色、無臭、舍利別狀液體、強き苦味及金屬の如き味あり、甚だ不安定、容易に酸素を放つ、故に、漂白劑、還元劑として用ゐらるなり。

かざん 化学 過酸化鉛 Plumbic peroxide ④ 化学 PbO_2 の分子式を有す、製法、四酸化鉛を稀薄なる硝酸を以て酸化すればよし、又醋酸鉛の溶液に白粉の液を加へ酸化せしむるを以て便とす、性状、黯褐色の粉末にて、之を熱すれば酸素を遊離して、酸化鉛となる。

かざん 化学 BaO_2 の分子式を有す、製法、酸化バリウムを酸素中に僅か熱すれば生ず、性状、灰色の粉末、酸素製造に用ゐらる。

かざん 火山 火山岩 Volcanic rocks ④ 地文、火成岩中の噴出せし岩に同じ。

な

かざん 火山 火山丘 Volcanic hill ④ 地文、火山の舊火口内に、更に生じたる新火山を云ふ。

かざん 火山 火山群 ④ 地文、數多の火山一定の規律なく集まれるものなり。

かざん 火山 火山原 Ario ④ 地文、火山丘と外輪山との間にある低地のこと。

かざん 火山 火山原 Ario lake ④ 地文、火山原に水の溜りて生じたる湖のこと、箱根蘆湖の如きは則ち此なり。

かざん 火山 火山湖 Crater lake ④ 地文、大口内に水の溜りて生じたる湖のこと、吾妻山五色沼の如きは此の一なり。

かざん 火山 火山地震 Volcanic earthquake ④ 地文、火山破裂の際其震動、波及によりて起るものにして、其區域狭小なるも、激烈なり、明治二十一年、磐梯山破裂の如きも、此の地震を起せり。

かざん 火山 火山弾 Volcanic bomb ④ 地文、粗大にて稜角ある熔岩片より成る火山礫なり、略拳大以上なり。

カザンドル Kasandros ④ 人名、王、マケドニア王安タクサトロスの子、フィリッポの父、初めギリシアと與しマケドニアを攻め、王位に即き、アレキサンドロス大帝の

妹と婚す、(西紀前三五四―二九七)。

かざん 火山 火山破裂 ④ 地文、火山の生ずるとき瓦斯體のみを噴出して、溶岩を流出せず、一旦瓦斯體の放散するときは其勢頗る衰へることあり、是れ則ち火山破裂なり、磐梯山、吾妻山の如きこれなり。

かざん 火山 火山灰 Volcanic ash ④ 礦物、火山噴出の時、空中に昇騰し、後灰塵となりて四方に散じ、至る所の山を被ふ、多く安山岩、玄武岩、黒曜石等の細屑片より成れり、明治三十五年鳥島噴出の時も全島之を以て被はれたり。

かざん 火山 火山の噴出 Eruption of Volcano ④ 地文、地下の地熱の爲め水蒸氣を鬱積し、其張力を以て、地殼の弱部を破壊して逸出するものなり、此れが爲め、鳴動を與へ、地震を起し、岩石の破片天に飛び、暴風及び大雨を伴ひ、灼熱せる溶岩を以て、満天暗黒に充し、實に火焔天を焦すが如し。

かざん 火山 火山の分布 Distribution of Volcanos ④ 地文、實に本邦は火山脈を以てなれり、即ち、千島、那須、阿蘇、霧島、山陰等の如く火山脈あり、又之を横斷する富士火山脈あり、伊豆島の火山脈、又海底火山脈等あり、而して太平洋沿岸の地は最も火山脈に富めり即ち日本

列島 アレウト島及南アメリカ西海岸に連互して 一大山脈をなす、是れ 火山の 地殻の弱點なる裂罅に沿ひて噴出するものなれば 綿狀に排列せられ かくの如き狀を呈するなり。

かざん一ぼう 火山棚 Volcanic terraces 地文、火山の周圍 陥落して生ずる階段を云ふ。

かざん一みやく 火山脈 Volcanic Zone 地文 數多の火山を連結する想像的地帯を云ふ、これ火山は 線上に羅列する如く見ゆればなり。

かざん一もう 火山毛 地文 熔岩の絲の如く 細くなりたるもの、火山灰の一種たり。

かざん一い 火山瀨 Barranco 地文 阿蘇の白川、箱根の早川の如く 火口壁を破りて 流出する溪流を云ふ

かざんりよく 火山力 地文 地球内部にある酷熱體が火山を作り、地殻に變化を及す所の力を言ふ。

かざん一れき 火山礫 Lapilli 地文 礫狀をなせる熔岩の破片を云ふ。

かざんれつ 火山列 地文 數多の火山、相并列せるものを言ふ。

かざんれん 下三連 詩學 韻格一句中に 末の三字平ならば平三、仄ならば仄三つ 相同じきものの揃ふこと

かさやどり 笠宿 古語 暫時 雨宿すること。かざりくし 飾櫛 冠蟬とも云ひ 古 冠につけたる櫛の一種なり。

かざりことば 飾詞 古語 枕詞に同じ。かざりすみ 飾炭 夜 木を焼き焦がして 戸内に立つるもの。

かざりなたるす 落飾 貴人の僧或は尼とならるる時髪を剃ることなり。

かさなもつ 笠持 笠掛のとき 矢の當らざりし人が 矢を集め廻るなり これを云ふ。

かざなり一たき 風折瀑 地名 伊勢國欽高郡大保村にある瀑、高さ五十丈 幅一間餘なり。

かざなり一ぼし 風折烏帽子 略式に用ゐる立烏帽子の一種にて 頂を筋違に折りたるものなり。

かし 榿 植物 殼斗科木草、喬木、櫛、櫃ともかき葉は大にして栗の如く、花は卵色にて春季開き 後とんぐりと稱する實を結ぶ 椎に似たり、其材は甚だ堅く、種々の用に供す。

かし 杖柯 古語 ふねをめぐむひ、もやひくひとも云ひて、船をつなぐひのことを云ふ。

かし 下肢 Hind limb 生理、哺乳類、爬蟲類、兩棲類の如き四肢を有するものの後肢或脚のこと。

類の如き四肢を有するものの後肢或脚のこと。

は 正止

かじ 稼事 農事 たねまきのこと。

かしあげ 河岸揚 船舶の乗せられる荷物を 河岸より揚ることなり。

カシアトレス Cassiatares 人名 イタリア人にて、始めて地震計を發明せし人なり。

カーシアバ Kaekyaba 迦葉波 人名 インドの哲學者父も亦カーシアバといひ神人として崇拜さる、釋迦十六弟子の一人なり。

かしいのーやしろ 香椎社 地歴 筑前國糟屋郡香椎村大字香椎にありて 仲哀天皇八年正月熊襲征伐の時、難縣に至り 檀日の宮に駐り給ふ、これ即ち香椎の宮なり、翌年九年二月此處に崩御、現今は神功皇后を祀り 官幣大社たり。

カシウス Cassius Spurius 人名 政治家 ローマの人西紀前五〇二年第一度のコンソルに選ばれしより、再選さ

るること、三度に及べり、サピンを征し ラテン諸市と稱し、土地平分法を布せり 是に於て 平民は公地の分配に預るを得たりき。

カシウス Cassius Cains 人名 政治家、ローマの人、ケーサルに反抗せし黨魁の首領、アルタスと謀りてケーサルに叛き シリアに走りて勢力を得

ルタスと合同せしむ、ケーサルの破るところとなり 西紀前四二年死す。

かじか 鰐 河鹿 動物 一、脊椎動物、魚類、淡水魚體長五寸、扁平なり、口廣くはせに似たり、脊部は帶黃青

黒色、腹部は卵色、鱗は極めて細し、こり、又は杜父魚とも云ふ、二、Myxarctorea Burgeri, Schleg 金漢子とも作る、爬虫類、蛙の一種、體黒色にて極めて瘦せ、疣あり

山間の谿流に棲息し 外形醜しと雖も 鳴聲愛すべく 恰も鳥の巧みに轉るが如し 多く籠に飼はる。

かじかーざは 鰍澤 地名 甲斐國南巨摩郡の東北端、富士川西岸上にあり 甲府を去る四里許なり。

かじかーかは 河鹿川 地名 駿河國富士川の上流を云ふ。

かしーかんだんけい 華氏寒暖計 Fahrenheit's thermometer 化學 英人

カシウス Cassius Spurius 人名 政治家 ローマの人西紀前五〇二年第一度のコンソルに選ばれしより、再選さ

點二百十二度、氷點三十二度、本邦にて多く使用せらる。
カシカル Kasika 哈賞哈兒 可失哈里 佉沙 地名

支那強省中天山南路の府都、察合台汗の裔、明の時、回疆之を領せしも康熙中、トルキスタンの滅はすとこらとなり、今其回教徒巡拜の中心地たり、後西紀一七五八年支那の領となり、更にロシア勢力の範圍中にあり、綿、絹、毛氈、馬具等を産出す。

カシチア Caxitua 地名 南アメリカのペリスエラの河、クオアグロ河とオリノコ河と連接す、恰も運河の如き様をなせり。

かしぎがて 炊糧 古語 食物を種々雜せて炊ぎたる飯、さふすあの類なり。

かしぎのど 炊殿 古語 神供物を炊く場所なり。

かしぎやひぬののみごと 炊屋姫尊 人名 人皇第三十二代推古天皇のこと、初め、敏達天皇の皇后なりしも、蘇我馬子の崇峻天皇を弑するに當り、即位し給へり、これ本邦に於ける女皇の始めなり。

かしぐ 憔悴 (圖三) 俗に云ふかしげると云ふことにて冷む、ちらむ、瘦せ細ることの意。

かしぐ 花軸 Flower-axis 植物 花の一部にて、花の着生する莖を云ふ。

かしぐもの 博物 甚だ大切なるもの、重寶なるものを云ふ。

かしつの一ぶぶん 果實の部分 植物 果皮(外、中、内の三層)と、種子(有胚乳、無胚乳)との二部より成る。

かしじどう 買似道 人名 姦臣、宋代臺州の人、師憲と云ふ、理宗の嬖、姉貴姫と爲る、乃ち似道は太常丞軍器監に擢でらる、理宗崩するに當り、度宗を立て、師臣と稱す、朝臣之を稱して周公と爲す、元軍に大敗し、貶せられて循州に往く、途次杖殺されぬ。

かしじどり 櫻鳥 動物 鳥類、鳴禽類、かけすに同じ

カシニカシ Cassini 人名 天文学者、西紀十七、十八兩世紀に於けるイタリヤの天文学者の一族にして、三世共にフ

かしこーあろひ 賢争 智慧くらべにれなし。

かしこも 畏 恐 もつたはなくも、有りがたくも 恐れ多くも、かたじけなくもなどの意。

かしこし 畏 賢 ねこれ多し、有がたし、もつた いなし、貴し、甚だ伶俐なりなどの意なり。

かしこーごころ 賢所 地歴 禁中の温明殿(内侍所とも云ふ)のことにて、三種の神器の八咫の神鏡を安置する所なり、又八咫鏡のことにも云ふ。

かしこーどり 畏鳥 古語 動物、猛禽類、たかを云ふ

かしこねーのかみ 嘉根神 神名 面足神の妃、吾屋 檜城神とも申す。

かしぎのーぶんしふ 檜園文集 書名 三巻あり、中島 廣足の文章を蒐集せしもの。

かしーたい 下肢帯 生理 下肢骨の一部、即ち無名骨にして數個結合して一體の大骨をなせり、薦骨に接し 尾腰骨と共に骨盤をなせり。

かしーこつ 下肢骨 生理 足に屬する骨の全部なり、即ち 下肢帯、大腿骨、其末端の足骨より成る。

かしじち 暇日 古語 ひまの日、仕事のなき日、用の なき日を云ふ。

かしじつ 果實 Fruit 植物 子房の成長せしもの、及

フランスのバりに居住して 遊星、月、彗星につきて種々の 發見をなせり。

カシニチカシ Cassini 哥疾尼朝 歴史 セブキテギンの建設せし王國 これサキ朝の奴隷のトルコ人なり、其子マームードに至り 非常に國威を宣揚せしむ、西紀一一八六年ゴ

トル朝の爲め滅ぶる、哥疾尼に都せしを以て此名あり。
かしのき 構 植物 桑科木本、葉厚くして大、内皮は紙の原料となる、元とカワツと同種類とせしも全く別種なることを發見す。

かしのざき 檜野崎 地名 紀伊國牽婁郡大島にありて 燈臺を設けられ 航海に便す。

かしのふ 檜生 古語 檜の繁茂したるをこる。

かしのみの 檜實 ひとにかけて云ふ、蓋し かしのみは一づつなるものなればなり。

かしは 柏 植物 松柏科木本、喬木、櫛にみ作る、廣大なる葉にて 其周縁鋸齒状をなす 材は甚だ堅けれども用途少なく多く薪とせらる。

かしは 黄雞 動物 鳥類、家禽類、羽毛褐色、肉頗る美味、殊に牝を以て貴ばる。

かしはざき 柏木 役名 古語 左右兵衛、左右衛門のことを云ふ。

かしはざきじよてい 柏木加亭 人名 詩人、江戸神田三河町の人、柏木人、加亭人と號す、家世々木匠なりしも資財ありき、書畫詩文に資財を投じて顧みず 詩に於ては大窪詩佛等と共に海内に 名聲噴々たりき 文政二年七月年五十七 京都に歿す。

かしはざきの 柏木 木り(森)にかけて云ふ蓋し柏は茂りて生ずるを以てなり。

かしはぐるま 柏車 武具 はくし干とよむ、騎兵其他乗馬する人の 長靴のかかどにつけたる鋸齒状の輪にして 馬腹を撫して 馬を走らしむる道具たり。

かしはご 膳夫 古語 一、食膳に同じく 飲食を饗應することなり、二、膳臣と云ひて天皇の供膳の事を掌る役なり。

かしはごのいかるが 膳斑鳩 人名 曉將 我允恭天皇の時 新羅は屢高麗の爲め侵入せられ 援を任那日本府に請ふ、斑鳩、乃ち兵を率ゐて新羅を援け 高麗軍を破り、新羅王を戒めて歸る、時に我雄略天皇八年なりき。

かしはごの 柏殿 古語 御膳の事を掌る御殿なり。

かしはごのくぼで 葉馨 古語 古語 古語物、葉を縫ひ合せて 食物を盛るに用ゐしもの。

かしはばさみ 柏狹 冠の纒の端を、外面に向けて、白木を以てはさみとめたるもの。

かしはばら 柏原 地名 織田氏の舊藩地にて 丹波國氷上郡にあり、今は兵庫縣下に屬す。

かしはばらうみ 柏原湖 地名 駿河國浮島沼のことを云ふ。

鮮妍

かしはばらうのてんわう 柏原天皇 人名 桓武天皇のことにて 山城國紀伊郡堀内村に柏原陵あるを以て此名あり。

かしはらごしげ 檜原俊重 人名 槍術家 五郎左衛門と稱し、神道流の槍を學び、遂に檜原流槍術の祖となりぬ。

かしはらうのじんぐう 檜原神宮 地名 奈良縣大和國高市郡白檜村畝傍山の東南にある官幣大社にて 神武天皇及媛御備五十鈴媛皇后を祀れり、明治二十三年の奉祀、

かしはらうのてんわう 檜原天皇 人名 神武天皇のことを申す。

かしはらうのみや 檜原宮 地理 大和國高市郡白檜村畝傍山の西南の地、紀元元年辛酉の正月朔、神武天皇即位し給ひし宮、明治二十三年 畝傍山東南の地に原神宮を設け 官幣大社となし給ふ。

かしはらうのみや 香推宮 地理 福國縣筑前國糟屋郡香推村にある神功皇后を祀れる官幣大社なり。

がしふ 我執 佛語 固執に同じ、我意を張ること。

がしふさん はちまんぐう 賀集山八幡宮 地理 淡路國三原郡賀集村大字八幡村にあり 應神天皇を祀れる神社。

かしのふみんべい 賀集戎平 人名 陶器師、淡路國三

原郡伊賀野村の人、天保年間 京師に入り五條阪にて陶法の秘法を學得し 郷里に歸りて 開業す 淡路焼又は珉平焼と稱し 彩畫光澤共に鮮妍たり。

かしま 鹿島 人名 常陸國鹿島神社の信徒を云ふ。

かしまがた 鹿島湯 地名 鹿島浦とも云ひ、常陸國鹿島郡東方の海を云ふ。

かしまし 喧 かまびすしのこと。

かしましぐう 鹿島神宮 地理 茨城縣常陸國鹿島郡宮中村にある官幣大社、武甕槌命、經津主神、天兒屋根神を祀れるなり。

かしまなだ 鹿島洋 地理 鹿島湯の沖を云ふ。

かしまのたが 鹿島帯 古語 常陸帯より變化したるものにて 逢はむと欲することなり。

かしまのこぶれ 鹿島事觸 毎年春季に 鹿島神宮の神託によりて 其年の豊凶如何を 諸國に觸れ知らしむること。

かしまさき 鹿島崎 地名 常陸國鹿島郡の東方にある崎を云ふ。

かしまのじんじや 鹿島御子神社 地理 磐城國行方郡鹿島村にありて 鹿島神の御子天孫命を祀れる郷社なり。

かしまいざり 鹿島 惡疫流行を向く爲め 鹿島神社の御輿を所所に廻し渡してれたること 寛永の頃に行はれたり。

カシ米尔 Kashmir 人名 王、此名ポーランド王に五人あり、最も名高きは三世なり、西紀一〇九九年生れて一三三三年王位に即く、ホヘンシュタットよりシレシアを復しビスチューラ州にてカシ米尔人を破り、ロシアの一部を従たり、王權及貴族の權限の法典を制定す、一三七〇年 歿せり。

カシ米尔 Kashmir (Kashmir) 迦濕彌羅 地名 印度の一州 西藏に接す、面積七九〇〇方哩、長一二〇哩、中入の哩、人口二百五十四萬、氣候溫和ヒマラヤ山谷の風光實に絶景なり、首府をカシ米尔と云ひ 人口五萬餘 シヨール、塗器を製出す。

カシ米尔ペリエー Casimir-perier 人名 大統領、西紀一八四七年フランスのパリに生れ、意志強固機宜の政策を以て 一八九四年大統領の椅子に昇りしも翌年掛冠せり。

かしん 下唇 Labium 動物 昆虫類の下唇を特に云ふ 又人の下顎に屬するものを云ふ。

かしん 商人のこと。

かしんせん 河身線 Stream line 地名 河の深さとこゝろを連ねたる線を云ふ。

Stream

かじめ Pokeweed Oava Kjelma 植物 褐藻類 本に長圓莖あり、上部羽状をなして分裂し、葉状なし 質厚く革の如し、焼きて灰とす、又カシメに似て、葉片羽状脈をなすヒロハカシメあり。

かじやきん 下斜筋 生理 眼球の一部 筋肉より成り 動眼神経の下枝之れに循る、此の收縮によりて眼球を外方に旋轉せしめ得るなり。

かじやう 嘉祥 年號 紀一五〇八年より三年間 仁明天皇の御代。

かじやう 嘉祥 陰曆六月十六日 疫氣 人身の肌膚に入るを以て 此を祓ふ爲め 餅十六個を神に供へ 食すること云ふ、後之の代りに 錢十六文にて品を買ひ求め之を祭るなり。

かじやう 牙城 牙旗を立てたるこゝろの意にて 本堂即ち城の本丸を云ふ。

かじやうのししゅうざ 嘉祥祝儀 陰曆六月十六日に嘉祥通寶を集めて 楊弓の掛物とし、勝負事などして遊ぶこと。

カシユ 湯石 地名 蓋世の英雄チムールの出生地、サマルカンドの南、今のシエールなり。

かししゅう 何首烏 植物 草本、葉は光圓形、夏秋

かしよう

かししよう 嘉承 年號 紀元一七六六年より二年間 堀河天皇の御代。

かししゅう 雅頌 人の德行などを稱賛して云ふうた。

かししゅう 花床 植物 花托の事なり。

かししゅうたい 假晶體 Crystaloides 礦物 或る物體の結晶體の物理學的變化するのみにて 化學的變化に至らざるもの即他の結晶物の成分に變化せざるものを云ふ、植物に於ては 有機質の結晶則ち是れなり。

かじしゅうとつき 蹠狀突起 生理 後頭骨の條を見よ

かししよく 稼穡 農事、農業のこと。

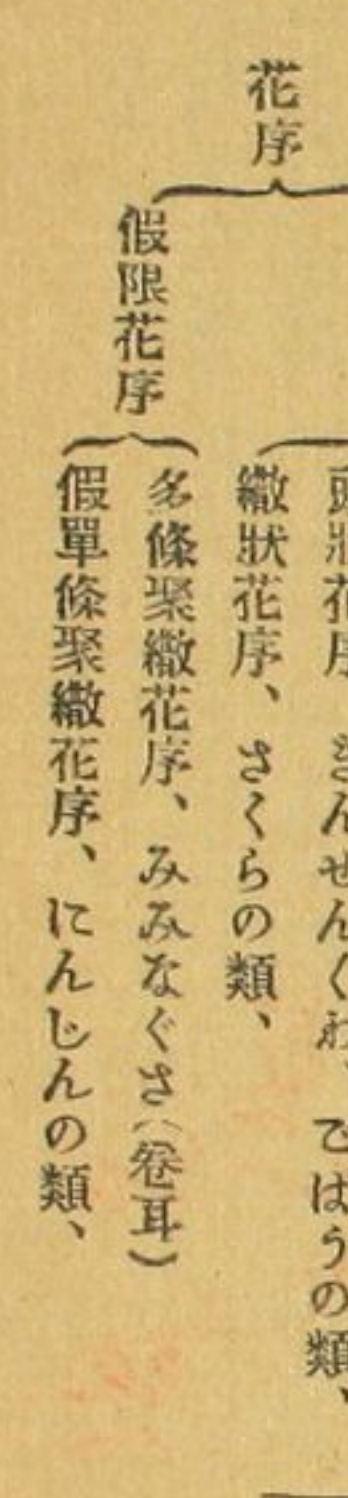
かしらあらふ 髪洗 毛髪を洗ふこと。

かしらたつ 頭立 長者となること。

かしらのかはら 頭骨 生理 古語 腦蓋骨を云ふ

かしらのしも 頭霜 老年になること 老ひて白髪となるを以てなり、又頭雪とも云ふ。

かす 漸 古語 つけひたすこと。



の間 白き穂にて一尺程の花開く、實は莖に似たり、根は塊状をなして薬用とす、元 支那の傳來物なりしも 今は本邦に栽培するに至れり。

かじしゅう 家從 役名 親王家或は華族家人の家扶の次ぎにありて 雜事に従ふもの、もとは主人の外出に從行せし人なり。

かししゅういも 何首烏芋 植物 芋類、葉は扁圓形、根塊をなす、けいもとも云ひ 味苦ければゆでてのち、更に煮て食す可し。

かじしよく 稼穡 農事、農業のこと。

出づること。

出づること。 藍 藍

がす 瓦斯 物理 氣體を見よ。

かすい 花 植物 花の内部にある二輪即雄雌二

かすい ぶんかい 加水分解 Hydrolysis 化学 鹽類

がすウイニ Kazwini 人名 アラビアの生物及地理學

がす エンヂン Gas engine 物理 瓦斯機關を見よ。

かすい 春日 地名 京都の地、今の丸太町にて一

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

山の麓にあり、和銅二年藤原不比等 鹿島神を遷して春日

明神と云へり、今は官幣大社にて武甕槌命 伊波比主命 天

兒屋根命 比賣神を祀れり、興福寺の管掌するものにて

古より極權威を振ひしもの、後三條天皇の時之れが爲め

鶴岡八幡と伊勢神宮と並び稱し 三社とす。

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

かすい ぶんけん 春日權記 書名 繪巻 鎌倉

かすい あきのぶ 春日顯信 人名 北畠親房の子にし

かすい じんじや 春日神社 地理 大和國奈良市三笠

純粹のものにて電氣長導體なれば、アーク燈炭末棍等の用に供す。

がすータール *Gastur* 化学 「コールタール」の條を見よ。

カスチリア *Castile (Castilla)* 地名 イスパニア中部の一州 山脈によりて南部北部と區別せらる、第十世紀頃カスチリア王國建ち、女王イサベラの時、西紀一四六九年アラゴン王フェルナナンド五世と婚し、其領土を合してイスパニアを統一せり。

かすーづか 數塚 砂を盛りて射的のおきたるところ。
かすなし 無敵 古語 程なきこと、長久ならざること
ガスニ *Gasni* 哥疾尼 *アガニスタン*の一市英領たり、西紀一八三九年一度英領となり、一八四一年アフガン之を恢復し、又一八七九年の戰の爲め英に歸す。
かすーのーこ 數子 動物 ニシン卵塊を乾燥したるもの、多く祝事に用ふ。

カスピアン *Caspian Sea (Kuan Dengli)* 寬定吉思海 地名 歐亞二州の境界の一部をなす内海 世界第一と稱す、西はカフカス 南はエルアルー山脈、南北六〇〇哩、東西二七一一三〇哩、淡水にて魚類多し。
かすひとーしんわう 量仁親王 人名 光嚴天皇を見よ

かすひーどり 蚊吸鳥 動物 脊椎動物、鳥類、體淡黃色にて白斑あり、頭背の間に黒筋あり、夜間小虫を捕ふ、みみづくの類なり。

カスベク *Kasbek* 地名 カフカス山脈中の最巔峯、エルブールス山の東南九〇哩、一六五五〇呎の高さあり。
かすへーれう 主計寮 役名 昔 民部省の屬にて一年間の國費出入、買物などを司りし所なり。
かすーまふ 數 圖下二一、頁數に加へらるること、二、計算すること。

ガスマントル *Gas mantle* 化学 綿絲にて製したる網に、硝酸ナトリウム硝酸セリウムを塗りて焼き、酸化ナトリウム及び酸化セリウムを殘し、瓦斯燈の焰を包みて其光を強からしむるもの。

かすみ 鳥網 極めて細き糸にてあみたる鳥を捕ふる網
かすみいしーげんぶがん 震石支武岩 礦物 支武岩の條を見よ
かすみーがーうら 雷浦 地理 常陸國東方にある湖、本邦第二の大湖、周圍三十六里、西部に西浦、北部に北浦あり。

かすみーがーせき 霞關 地名 東京市麴町區にありて外務省あり、昔より歌によまること多し。

かすみるめーづき 震初月 古語 陰曆正月のこと。
かすみーのーのぼる 昇霞 古語 崩御、登遐す。

かすみーのーたに 震谷 地名 山城國にある谷。
かすみーのーほら 震洞 一、仙洞御所のこと、太上天皇のれはすとこ、二、仙人の住む處。
かすみーのーまゆ 震眉 舊幕時代の奥女中に行はれし僅か鬘をさして粧ひたる眉。

かすーもーなく 數無 非常に多きこと。
かすーもの 數物 古語數の多きこと。
かすーもーの 糟藏肉 古語 酒粕漬の魚、鳥肉。
かすやーたけのり 糟屋武則 人名 賤岳七本槍の一人 播磨の人助左衛門と云ふ 羽柴秀吉に従ひ賤ヶ岳に軍功ありき。

かすりーがき 掠書 湯筆とも云ひ 墨のつかぬところある筆跡を云ふ。

かーする 嘉瑞 吉瑞 吉兆、瑞祥よきしらせに同じ。
かせ 柳 一、はだし、離れがたきもの、二、罪人の頭又は手足にはめて自由ならしめざる刑具、三、三味線の糸の上よりくくりつけ 調子を高むるもの、多く象牙にて作るなり。

かせ 甲 動物 甲貝、うにの介殼などを云ふ。

言 賦

かーせい 嘉晴 年號 支那明世宗の治世四十五年間、國事多端の時なりき、鞏固の入寇は北に、倭寇の侵掠は東南海岸に盛に行はれたり。

かーせい 芽生 *Budging* 動物 下等動物の生繁殖法なり 動物體の一より發芽し 成熟するに及び其の根より離れて 新動物を生ずること、植物に於て 恰もユリの葉腋に生ずる球芽の落ちて新植物を殖生するが如し。

がせいーあるかり 苛性 *Caustic alkali* 化学

四百六十三

意 禮記

部

傳

アルカリ金屬の水酸化物、苛性ソーダ、苛性カリ等の如し
かせいーがん 化成岩 Igneous or Eruptive rocks 地、

地球の内層にある熾したる岩漿の 地殻を割きて迸出し
凝固したるもの、故に逆發岩、塊状岩（水成岩に對し
て）とも云ふ、其の種類を區分せば次の如し。

深造岩……………花崗石、閃綠岩、
火成岩 噴出岩 舊火山岩、斑岩、紋岩、
新火山岩、粗面岩、安山岩、玄武岩、

かせいがん 火成岩の區別 地、備、次の表によりて比較す。
火成岩

火成岩 (一)塊状をなし、層をなさず、常に層をなす、
二動植物の化石を含まず、此の如き化石を含む、
三硝子質を含有す、硝子質を含有せず、

かせいーかり 苛性加里 化学 水酸化カリウムに同じ。
かせいーろうだ 苛性曹達 化学 水酸化ナトリウムに
同じ。

かせいーたい 假聲帯 False vocal cords 生理、聲帯
の一にて 構造之に類似したる小帯なり、聲帯よりモル
ガニー氏室を隔てて上方にあり。

かせいーとらよりもーたけし 苛政猛於虎 苛政の下

に支配せられて 愁苦を見るは むしろ虎の害にわうて死
するにしかずと云 意禮記に此事見ゆ。

かせいーぶつ 加成物 Addition product 化学 化合物
或は單體に 化合物或は單體を加へて生じたるもの、例へ
ばエチレンに塩素を附加すれば塩化エチレンを生ず。
 $\text{H}_2\text{C}=\text{CH}_2 + \text{Cl}_2 = \text{CH}_2\text{Cl} + \text{ClCH}_2$

カゼイン Casein 乾酪素 化学 哺乳動物の乳汁中に
存する一種の蛋白質、新鮮の乳汁中には少量ありて可溶性
物として存在す、空氣に放置するか 或は腐敗するとき
凝固して沈澱す。

かせいーたな 風不鳴枝 治世太平なる
を云ふ、王充論衡に 太平之世 五日一風 十日一雨 風
不鳴枝、雨不破塊 とあるより起りしなり。

かせき 鹿 動物 四足類、しかの古名なり。

かせき 化石 Fossils 植物 其實質の化石如何に拘
らず 只其動植物の生存時代の地學上の現今にあらざるも
のを化石と云ふ、二十年前シベリアのレナ河の水層中より
得たるマンモス (mammoth) 東京附近、王子瀧の川より
出ず或貝殻等は 皆實質化石にあらざるも 生存時代の前
世紀若しくは古代にあればなり、現今温泉にて生成する木
薬石の如きは化石にわらず。

自由百五十五
五百四十一
夫負

かーせき 鹿棚 やらひのこと、動物の侵入を防ぐ爲め
丸太などをもち 矢來を作り構へたるもの。

かせきーくさ 風聞草 植物 をぎの古き語。

かせきーさよう 化石作用 Fossilization 植物 植物
の化石となる作用なり、假像生成に類似するか 或は全く
同一にして 動物消失して炭酸石灰を沈澱するによるなり
重晶石、碧石英、玉髓の如き化石も 炭酸石灰よりなり、
溶解力弱き化合物に溶解して其後を充たしたるものと見る
可し。

かせきーひれ 風切比禮 古語 神寶、風吹きを止む
るもの。

カセージ Carthage (Carthago) 地名 アフリカの北
方半島の古代都市、西紀前八五〇年フェニシア人の建設、
ローマと對抗し ハンニバルの下にありて ローマを威嚇
したることありしも 第三ピロニツフ戦争にコルチリウ
ス、スキピオの敗るところとなり、西紀前一四六年シーサル
の爲め一貿易場を建てらる 後西紀六九八年アラビア人に
焼失せられしことありき。

かぜーだぬき 風狸 動物 哺乳類、狸族、黒色にして
帯赤斑點あり、猿に似て狸の大きあり。

かーせつ 假設 一、數學幾何、定理の一部にて終結と

相對するもの即ち 假りに然なりとすること、二、物理
Hypothesis 分子説、原子説、エーテル波動説等の如く
實驗によりて發見せられ、其後無數の事實によりて 確定
せられたる物理上化學上の諸定律に由りて來る所を明にせ
んが爲め想像せられたる説なり。

かせいーづか 風塚 地名 河内國高安郡神立村の玉祖明
神の後の山。

かせいーづえ 杖杖 古語 しゆもくづゑのこと、石突の
しゆもく形状をなせるもの。

かせいーのーあし 風の脚、古語 風の起る筋。

かせいーのーたまくら 風手枕 古語 風の吹く處に寝ぬ
ことを云ふ。

かせいーのーつて 風使 古語 風聞、うはさななどのこと
かせいーのーはふり 風祝 古語 かせのはふりことも云
ひ 風を鎮むることを祈る巫女なり。

かせいーのーみや 風宮 地理 伊勢大神宮内にある宮。
かせいーのみや 風宮橋 地理 伊勢大神宮内の風宮
の前方 御裳瀧川へ架せらる橋を云ふ。

かせいーひれ 風振比禮 古語 神寶、かせきるひれ
に對して云ふ語、風をたこさしむるもの。

かせまちーづき 風待月 曆語 陰曆六月のこと、蓋し

六月は暑氣なれば 風をまつと云ふ意より云ふ。
かぜーまつり 風祭 豊作を祈るまつりにて 立田、廣瀬神社のまつり。

かーせん 歌仙 和歌の達人、三十六歌仙、六歌仙等。

かーせん 歌川 人名 俳諧女、越前三國妓樓の若町屋の妓、性風流を好み 江戸に出て 俳諧を學び泊瀬川と稱す、後難髪して 巷に庵を結べり、安政六年七月死す。

かせんーかしふ 歌仙家集 書名 藤原公任の、三十六人の家集を集めたりしもの、三十六人集とも云ふ。

かせんーがひ 歌仙具 中古 殿上人の玩具とせし美しき貝、源氏貝の類なり。

かせもちーぐさ 風持草 植物 をぎの古き語。

かせーやま 鹿脊山 地名 山城國相樂郡鹿脊山村にある山。

かぢ 父 古語 父のこと、かぢいるとは父と母のことと云ふ。

カソード Cathode 物理 電流の電解物より出づる方を云ふ、カソード線 (Cathode) とはクルクル管の陰極にアルミニウムの小片を附し 之に電流を通ずるとき發する一種の光、陰極放射線とも云ふ。

カソード線 Acceleration 物理 變速運動に於て其

速度の變化する割合なり換言すれば時間の單位中に起る可き速度の變化而して毎秒九百八十度の加速度を以て計算すかるけし 幽 古語 かすかの意。

かーろしき 假組織 False-tissue 植物 各細胞の結合の完全ならずして、單に錯雜して密集するもの、菌類或は管狀藻類の如し。

かろーたけ 佳蘇嶽 地理 琉球嶽の一、琉球國沖繩島にあり。

カソーボン Casanbon 人名 アイザック カソーボンはセバの有名なる古典學者、プロテスタント派にて英國に移る、(西紀一五五九一六一四)メリック カソーボンは前者の子神學者にして父に從て英國に行きオックスフォード大學教授となる(西紀一五九九一六七一)。

かろわりー 火食鳥 動物 ヒクヒドリに同じ。

かた 湯 Matsa 地名 海岸の沙州發達して 遠淺となり、僅かに 狹路によりて 海に通ずるもの、又入江、入海、浦、沼、湖などを總稱す。

かた 迦陀 佛語、佛の功德をうたへる經。

かたーあづまろ 荷田春滿 人名 羽倉東磨ともいふ代々稻荷の神官にして、有名なる國學者なり、眞淵等の師なり、元文元年七月歿す、年六十九、著書多し。

かたーかこ 堅香子 植物 かたくりの古語、かたかしとも云ふ。

かたーがた 旁 兼ねて、ついでに、副詞より變ず。かたーかづら 片鱗 植物 もるかすらに對して云ふ、葉ばかりのもの。

かたーかど 片角 少しの才智。

かたーかな 片假名 奈良朝の頃 佛教盛なるに従ひ、寫經及講演の筆記等に 在來の漢字にては甚不便なるを以て 扁旁のみをとりて書き示すに至り 今のものとなれり即ち(かりな)のことに音標文字なり 一説に吉備眞備の作なりと云ふ 未だ確定したることにあらず。

かたかばーやぶり 片側破 剛情慥悍なること 頑固一方にて理の是非を顧みず我意を通さむとするもの。

かたーがへり 片回 二歳の鷹のこと、撫鷹に作る。

かたがほーなし 片顔無 心の一隨なること。

かたかまーやり 片鎌指 兩鎌指に對して云ふ語、槍の身の一方にのみ 杖の出でたるもの。

かたきーこぼりーはーしもーなふむよりーいたる 履霜堅氷至 物事に秩序、順序のあるものなるを示す、易の坤の卦に見ゆ。

かたーぎぬ 肩衣 昔武家に用ひし禮服 徳川氏の制に

葦里、周

腿

かたーありまろ 荷田在滿 人名 春滿の甥にして亦國學者、殊に有職の事に精通したり。宝暦元年八月歿す。

かたーあらし 片荒 古語 半分程われたること。

かたーだい 夏臺 支那古代の獄 殷の湯王、夏の桀王の爲め囚れたる獄屋の名より起り、夏にては鈞臺、殷にては葦里周にては圍土、秦にては圍園と云ふ。

カタイ 契丹 Cathay 地名 北支那の舊帝國。

かたーたいげん 假體言 文典 動詞よりなりし語。

かたーいこつ 下體骨 生理 梁子狀骨一個、長骨二個より成り、下肢骨の一部たり、而して大腿骨と足骨との間にあり、梁子骨は膝前部に位するを以て膝蓋骨とも云ひ、長骨の中内側を脛骨、外側を腓骨と云ひ 脛骨は大腿骨腓骨及び足骨に相連接し、腓骨は脛骨及び足骨に接す。

かたーいごの 片糸 ゆる、くるなどにかけて云ふ。

かたーだう 勸當 かんたうに同じ。

かたーうた 片歌 五七七の歌にて 本末のそろはぬ歌

かたーたひ 片生 幼少なること、未だ十分成長せぬこと。

かたーたろし 加太於呂之 神樂などに 肩ぬぎて舞ふこと、あづまわさびのこと。

かたーかけ 片掛 古語 かたはに同じ。

は士分以上の者に着衣するを許されたり、袖のなき素袍にて腰部まであり、下袴と合せ稱して上下と云ふ。

かたざりーかつもと 片桐且元 人名 武臣、近江國の人、助作と稱す、豊臣秀吉に仕へ、賤が嶽七本槍の一人(天正十一年)、秀吉の死後、秀頼の傅たりき、慶長十九年四月方廣寺の供鐘の銘の事より、家康及大野治長等と不和を生じ、淀君に疎せられ、元和四年五月、秀頼死し城陥りたれば自殺せり 年六十なりき。

かたざりーさだとし 片桐貞俊 人名 宗匠、長三郎岩見守と稱す、桑山宗仙に茶道を學び 石州流茶道の祖となる、船越吉勝、多賀左近と三宗匠と稱せらる、氏は又需に巧みにて古物鑑定に精しかりき。

かたくーろうさく 家宅搜索 法律、犯罪の嫌疑にて其証拠物を探らむとして 其家中を捜すこと。

かたーぐつ 片香 古語 左香を脱ぐこと、これ香禮の略式なり。

かたくらーかげつな 片倉景綱 人名 伊達政宗の重臣 幼名小十郎、備中と改む、性異才に富み、主家隆興に與りて力ありき 元和元年十月四日 年五十九を以て歿す。

かたーくり 片栗 Erythronium dens-canis 植物 車前葉、山慈姑にも作る、百合科草本、葉は對生にて楕圓形をなす、花は花梗の頂に一を咲く、紫色三瓣花なり、白色肥大なる地下莖を有す、是れ即ちかたくりこの原料なり、此れ澱粉質を多量に含有するを以て、菓子及素麵を製す。

かたーげ 片食 古語 一、ひとかたけの意にて一度食すべき犬の食物、二、かたぎとも云ひ、一日一回食すること。

かたーごころ 片心 古語 微意、寸志の意。

かたーさる 片去 古語 少し遠ざかる、退るの意。

かたーし 型師 鑄型を造る人。

かたーしき 片敷 古語 一、かたしくこと、二、獨りねること。

かたしく 撓 古語 傾く、たわむに同じ。

かたーしほ 堅塩 古語 こでりて堅くなりし塩、黒鹽とも云ふ。

かたしほーのーうさあなーのみや 片鹽浮穴宮 地理

河内國にありて 安寧天皇の行宮なりき、故に此天皇を片鹽浮穴宮御宇天皇(たかしほのうさあなのみやにあめのしたしほしめすめらみこと)と申すなり。

かたしほーひめ 堅鹽媛 人名 蘇我稻目の女、欽明天皇の姫(二年入宮)にて用明天皇の御母なり。

かたーしろ 形代 一、佛家の位牌に類するものにて古 祭神のとき其靈の代りに作りたるもの、二、なでものわがものの類なり、三、似せ物を云ふ。

かたす 假種 園四 一、場所を移すこと、二、樹木を植へ移すとき 假りに 他の場所に植へおくことなり。

かたすーくに 堅州國 古語 かつよりたる國、地下にある國 蓋しかたすみのくにより變せしならん。

かたーせ 片瀬 地名 相模國鎌倉郡江之島の隣にありて 海水浴場あり。

かたせーがは 片瀬川 地理 固瀬川にも作り、相模國境川のことを云ふ。

かたーろぎ 片削 屋上の千木の端を削りたるもの、伊勢大神宮の内宮は内方、外宮は外方に向けて削れり。

かたーろなへ 片膳 齋宮の忌詞にて いつきのこと。

かたーた 堅田 地名 近江國滋賀郡堅田村なり、堅田

落雁は近江八景の一にて浮御堂あり、大津の北三里餘なり

かたーたがへ 方違 平安朝時代の迷信 昔他出する時天一神(なかがみ)又は太白神(ひとひめぐり)の居る方、金神の方に當れるを思ひ 前夜其家に宿し 翌朝 方角をかへて出達すること。

かたーたて 肩盾 武器、肩の上を被ふこと。

かたたーのーうら 堅田浦 地理 近江國堅田邊にある浦なり、此邊産する鮓を堅田鮓と云ふ。

かたちーぐさ 容草 古語 美しき草のこと。

かたちーのーのみこ 容御子 古語 美しき御子のこと。

かたーちはひ 片幸 古語 ねこひいきすること、一方のみを愛すること。

かたーづ 固唾 堅唾に作る 事あるとき、熱心のあまり、或は氣違ひて 物も云はずして居るときなどに 口中に溜る唾を云ふ。

かたーつーかた 片方 古語 片一方に同じ。

かたーつき 肩衝 茶入れの一種。

かたつぶり 蝸牛 Helix or snail 動物 軟體動物、腹足類、殻は帶褐淡黄色、縦に深褐色の平行線二三條ありて外套膜の分泌物より成る、觸角は長短二對ありて長角の先端に口あり、鰓状舌、胃、肝臟、心臟、肺等を具有すると雖

も最も簡單なり、多く濕地に棲息し、植物の若葉を食ふ、
殻、肉は共に外人の好む所にて飼養せらる。

かたつ—つまど 片妻戸 古語。両妻戸の片方の古語。

かたつ—のむ 呑固唾 氣違ひつ、息を凝らし、
氣を凝らして沈黙して居ること、残念の様を形容す。

かたて—ぎり 片手切 片よりて射ること。

かたて—じやうたん 片上手段 武術 撃刺するとき
片手にて 上段に構ふることを、片手にて星眼に構ふることを
片手星眼と云ふ、片手にて突き入るることを片手突と云
ふ。

かたて—まさ 片手巻 偏筈にも作り 刀の糸の巻き
方を云ふ。

かたて—や 片手矢 片手に 矢を持つこと。

かたな 刀 一、刃のある劍、二、腰刀、佩刀の如く太
刀の小なるもの、三、裁刀、物をきる庖丁類。

かたなし 結政座 役所 音政事を執り行ひしところ。

かたな—だま 刀玉 刀を空へ上げ 手にて之を受くる
こと、田樂、猿樂の時の技術なり。

かたな—の—ゆき 刀目利 相刀者の意 刀劍類の眞
偽、善惡を鑑定する人を云ふ。

カタニア Catania 地名 イタリアのシシリ島中エト

ナ火山の麓にある古町、エトナ山噴火の爲め慘害を蒙るこ
と屢、硫黄、穀物、果物等を輸出す。

かた—ぬく—しか 肩拔鹿 古 占ひに用ゐししか。

かた—ねぶり 片眠 古語 うたね、半ばねぶる。

かた—の—交野 地名 河内國河内郡山田村牧野村川越
村牧方村に當る地、昔より櫻の名所として知らる。

かた—の—あづまろ 荷田春滿 人名 國學者、羽倉
東磨とも稱し、京都稻荷山の祠官、信詮の子、古文復興を
以て自ら任じ、國史、律令、格式、古文、古歌何れも精通
せざることをなし、晩年京都東山に、國學校を建設せむとせ
しも其意を齎らして歿せり、時に元文元年七月二日、年六
十九なりき、萬葉集童蒙抄、伊勢物語童子間の著書あり

かた—の—ありまろ 荷田在滿 人名 國學者、春滿の
甥 名は持之、通稱は東之進、仁真齋と號す、春滿に子な
きを以て其後を嗣ぎ、又大に古學を唱へ、有職(令式)の學
に精し、門弟を多く集めて教授す、寶曆元年八月四日歿す
時に年四十八、一説に四十なりと云ふ。

かた—の—たみ 荷田若生 人名 學者、在滿の妹、父
兄の志を嗣ぎ 和歌文章を修め、其名天下に高し、天明六
年二月二日 年六十五にて歿す。

かた—ばかま 片袴 山伏のはかま。

かた—びく 傾 古語 一、かたむくこと 二、疑ふま
ま、頭を傾くるより云ふ。

かた—ふたがる 方塞 古語 陰陽家の説に 行かむ
とする方角に、天一神(なかがみ)の居て、犯すこと能はず
と云ふ。

かた—の—ちや 化学 ガマヘルカに同じ。

かた—ま 堅間 古語 かつま かたみともよむ、竹に
て作りたる目の細かき籠のこと。

かた—まし 姦 古語 心のながみたること、かたみ。
かた—まよひ 肩疵 古語 肩の破れたること、衣服の
肩のところの經緯糸の亂れてかたよること。

かた—まる 固 古語 一、凝結すること、二、成就すること
完成すること、三、緊合すること、四、物事に熱心にして
他を顧みづしてなすこと。

かた—ま 裏 古語 忌中に同じ。

かた—み—うらみ 互恨 古語 互に恨みあふこと。

かた—み—ぐさ 形見草 植物 古語、一、さくのこと、
二、なでして(葵)三、あふひのこと。

かた—みなご 片港 地名 東京府下小笠原島東港の古
き名なり。

かた—みの—いろ 形見色 古語 裏服の色なり。

かた—ばづし 片外 女髪結び方、徳川時代の御殿女
中並びに貴人の内室の間に行はれたるもの、頭上にて輪形
に結び 横に筈をさし上部をはずすなり。
かた—ね—だうみ 片羽道味 人名 醫、駿河の人、技
術に巧み、其名天下に鳴る、性獵を好む 常に 腰に大葉
籠をつけ、銃を肩にし 山野を逍遙せり。
かた—はま 片濱 地理 三河國の海濱を云ふ、又陸前
國の海濱に此名あり。
かた—ばみ 酢漿草 Oxalis corniculata 植物、酢漿
科草本 三小葉の互生葉、春期 小形の黃花を開く 五瓣
なり、後葉を結ぶ 非常に酸味を有しシソと共に梅干を漬
け貯ふるに用ゐらる、又カガミ草とも稱す 此れ中古磨鏡
に用ゐし故なり、尙此の草の花に形とりて紋とするもの多
し。
かた—はら—なし 傍無 古語 比類のなきこと。
かた—はら—ぼね 傍腹骨 生理 古語、肋骨、筋骨に同
しく、あばらばねのことを云ふ。
かた—ひさし 傍廂 傍庇 一、書名 齋藤磨の隨筆
二、片方にのみ出たる庇なり。
かた—びん—ろり 片鬢刺 刑罰 鎌倉時代より行はれし
庶人の閏刑、男子の片鬢を剃るなり。

齋藤磨の隨筆

かたみーのーみづ 形見水 古語、涙の語。
かたみーのーやま 形見山 地理 三瓶山のこと、石見國にあり。
かたむく 傾 傾かしむ 耳を傾く、國或は城を亡滅すること。

かたんばくせき 火蛋白石 鑛物蛋白石の亞種の一、半透明にて、色は乳白、黄のものもあれど、多くは紅色にて火様の光輝を發す。

かたぬ 固 凝結せしめて固くすること、確定すること 警固、警備、守護、要害の地などの意あり。

かたむくろ 偏驅 元祿時代の語にて、物事にかたよる人を云ふ。

かたやまーけんざん 山兼山 人名 儒者、上野國の人、名は世璣、字は叔彞、通稱は東造、鶴士靈、服部南部秋山玉山などに就き、經義を修め、修辭を究む、自ら折衷學と稱して、他の門戸の見をなさず、天明二年三月二十九日、年五十三にて歿せり。

かたやまーほくかい 片山北海 人名 儒者、越後國新潟の人、名は献、字は孝秩、大阪に出で宇土新に學ぶ、性寡欲、音楽を好み、笛に巧、茶道に精し、經濟の心得あり寛政二年、年六十八にて歿せり。

かたよりたるひかり 偏りたる光 物理 偏光の事なり
カタラウヌム 原 Catalanian plain 地名 フランスのバリの東方九〇哩にあるヤルンシヤロンシユル、マルヌ市附近の原にて古戰場たり、西紀四五年アッチラの軍の西ローマの將軍エーチウス及西ゴート王テオドリックの爲めに撃破せられし地なり。

かたらひーやま 談山 地理 陸奥國にある山。
カタラヌム Catalanum 地名 カタラウヌム原の一地名なり。

かたりーきこゆ 語り聞ゆ 御談し申すこと。
カタリナ Catharine Catharina Caterina Ekaterina 人名 此名の人、三あり、一、フランス王ヘンリー二世の妃、西紀一五六〇年カロロ九世の攝政となり、一五七二年八月二十四日バルトロメオ祭日の夜、パリにある新教徒を殘殺せしむ、又ヘンリー三世の立つや、是が攝政たりき、一五一九一五八九。二、イギリス王ヘンリー八世の後、フエルゲナンドとイサベラとの第四女、初めイギリスのアルツルに嫁し、夫の死するや、其第八世の後となれり、一四八三一一五三六。三、ロシアのメテロ三世の皇后、カタリナ二世なり、メテロ三世の崩御するや、即位し、文學、科學を保護し、帝の遺圖をつぎ、領土擴張に志し、ポーラ

遺

ンド分割を行へり、(一七二九一七九六)。

かたりーべ 語部 歴史 我國古代、舊事を記憶口誦せし部族、諸國にありき。

かたりやまーじんじや 談山神社 地理 大和國十市郡多武峯村にある藤原鎌足朝臣を祀れる別格官幣社なり。

カタル Cathar 加答兒 生理 粘膜の炊衝より生ずる病氣なり。

カタルニヤ Catalonia (Cataluna) 地名 イスパニア東北の一州、土地肥沃果物を出す、國中製造業の中心地なり

かたーわな 片輪 輪を一方にのみ出し、引けば直ちに解くる様に結ぶことなり。

かたわれーぶね 片破船 古語 破船して用にならざるもの。

かたーえみ 片笑 古語 一、僅か笑ひ顔すること、二、片頬にのみ笑を含むこと。

かたーわむ 片咲 古語 少し笑むこと。
かたなかーあやめ 片岡菖蒲 人名 大阪俳優、幼名豊松又は熊吉、片岡氏の養子、文政七年四月十八日、年四十一にて歿す。

かたなかーいちぢう 片岡市藏 人名 大阪俳優、幼名鐘三郎又は鐘彌、松島屋と號す、敵殺なり。

かたなかーけんざん 片岡健吉 人名 政治家、土佐の藩士、東都に出で、衆議院議長たること數度、明治三十六年卒す。

かたなかーじよけい 片岡如圭 人名 易學者、天明頃京都に於て、名は基成、字は平甫、通稱平助、易學に通ず。

かたなかーたかおさ 片岡高房 人名 四十七士の一人、尾張の人、通稱源五衛門、淺野長矩に仕へ、内膳用人たり、主家滅ぶ、吉岡勝兵衛と變名し、元祿十六年二月四日死を賜ふ、時に年三十七なりき。

かたなかーいはつきーのーなかーのーきたーのーみささ 傍丘磐杯丘北陵 地理 大和國葛下郡柴山村にある武烈帝の御陵なり。

かたなかーいはつきーのーなかーのーみなみーのーみささ 傍丘磐杯丘南陵 地理 大和國葛下郡池田村にある顯宗天皇の御陵なり。

かたなかーのーうまさかーのーみささ 片丘馬坂陵 地理 大和國葛下郡王寺村にある孝靈天皇の御陵なり。

かたなかーぬく 肩拔 一、肩に擔げたる物を卸し去る二、關係を立つこと。

かたなり 片折 古語 謡曲の節なり。

かち 徒 一、徒歩の意、二、かちむらひ(徒士)の略、これは徳川時代の歩兵にて各藩毎にありし格式身分の輕き輩、將軍出行の時は先驅して道路を警しめ、平時は門内を衛護す。

かち 梶 一、櫓の類にて舟を進め行る具、船尾にありて舟の進行する方向を正すもの、かちぼう(柁)の略、二、植物、梶科木本、五分裂する一尺許の葉を有し、花實栗格より大、皮を以て紙を製す。

かち 加持 佛語 一、神佛に祈禱すること、二、眞言宗にて修する法。

かち 雅致 みやびなること、風雅の趣きあること。カチアヤナ Karyana (迦旃延) 人名 釋迦牟尼の弟子にて闍浮那提の著者なり(紀前第四世紀の人)。

かち いろ 褐色 かち、かちんとも云ふ、紺の更に濃きもの、武器を染むるなり。かち 襦衣 昔 隨身の着たる服を云ふ。かちかう 一みづ 後七日の御修法に行はせらるる法式。かちかは 一きゆうじろう 梶川久次郎 人名 蒔繪師、江戸の人 寛文天和の頃中橋繪物町に住せり、蒔繪の始祖彦兵衛に學び、其家を嗣ぐ、描金色相一世に冠たり、最も

カチス

かち 一まぐろ 飛木真黒 動物 脊椎動物、魚類、大なるものは一★餘、上唇長くして鋭し、形状しひらに似たり、旗魚にも作る。

かち 一ぐり 搗栗 搗は勝に通ずるを以て、祝儀に用ふ栗實を殻と共に干し、白にて搗き、殻と澁皮とを去りたるもの。

かち 一しんもん 梶新右衛門 人名 劍客 名は正眞 徳川家綱、綱吉に歴仕し、一刀流梶派の祖、元和元年十二月十八日歿す。

カチカ (Cádiz, Cádiz) 地名 イスパニアの西南海岸にある重要貿易港、西紀前十一世紀フェニシア人の創建せし地、西紀一五九六年英國艦隊の、無敵艦隊の報復の爲此地を掠し、一八〇〇年子ルソン亦之を襲撃せり。

かち 一すみ 和炭 古語 やはらかきすみ今のどかま、けしすみのことならむ。かちたす 一のみづもの 歩立の三物 鎌倉時代にありし弓技の一、草鹿(くさじし)、圓物遊、大的のこと。

かち 一つねさち 梶常吉 人名 七寶燒 中興の祖、尾張國海東郡正治村の人、幼時樂燒を發明し、七寶燒を解部して、その製法を覺り、幾多の試験を積みて遂に目的を

達せり、明治十六年九月二日 年八十四歿す。

かち 一てき 可知的 哲學 知覺に感じて知り得らる事を云ふ。ガーチナー Gardiner 人名 歴史家、西紀一八六六年イギリスに生れ 歴史に精しく、其著も妙からず。

カチニ Caeni 人名 音楽家にて歌曲作者、西紀一五六〇年頃ローマに生れ 一六二四年歿す。かち 一ぬの 褐布 地理 播磨國飾磨郡の産出する褐色の布なり。

かち 一のはひめ 梶葉姫 人名 古語 たなばたひめのことにて、單に かちのはとも云ひ 昔 七夕に 梶の葉に 歌などをかきて祭りし故なり。

かちばし 一かの 銀治橋狩野 人名 狩野探幽のこと。かちはら 一かげあつ 梶原景厚 人名 國學者、讃岐の人、字を復、藍泉と號し、三痴學人と云ふ、國史、典故に精通し、帝王編年一百五十卷を著す 天保五年四月 年七十三歿す。

かちはら 一かげずゑ 梶原景季 人名 源賴朝の親臣十一人の一、景時の子、悪源太と稱す、宇治川の合戦に、佐々木高綱と先登を争ひ第二なる、性和歌騎射を能く、れども 狡黠惡む可し、正治二年 頼家の爲め討征せられ 駿

河國狐崎に於て 父と共に敗死す、時に年三十九。

かちばら 一がげとさ 梶原景時 人名 鎌倉景政の後、景清の子、平三と稱す、性狡猾、口辯巧みなり、初め大庭景親に従ひ、源賴朝を石橋山に攻めしむ、賴朝の匿れたるを知つて云はず、之に降りて大に近せらる、壽永三年義經に従ひ、木曾義仲を討ち、後義經を護す、正治元年賴朝薨し頼家嗣ぐ、景時は結城朝光を除かむとし、三浦義村、和田義盛等六十餘人の連署を以て誣告せられ、罪を得て駿河に至り、狐崎にて、蘆名小次郎の爲め殺さる。

カチフ Carthage 地名 北アフリカの南部西方にある一都市、マッブ河上にあり、此地方の礦物及生産物の輸出港なり。

かち 一ま 楫間 古語 楫をとる間のこと。かち 一まくら 楫枕 ふなやどり、舟旅、船中の宿泊。かちん 褐 かににねなし、かちんの直垂などは、播磨國飾磨(しまま)の里にて、布をかち色に染め、此を以て作りたるを云ふ。

かち 一ぬ 搗布 植物 海藻類、遠江國相良近海に多く産する、わらめの織多くして、狭きものを云ふ。

かち 一めつけ 徒目附 役名 徳川時代の目付役の下役 陪臣以下を糾察するを職とす、今巡查の如し。

親

駁

芙蓉草

がーちやう 雅丈 男子のこと。

かちやーじんじや 加知彌神社 地理 因幡國氣多郡勝

谷村大字寺内にある 彦火火出見尊 鵜茅葺不合尊 玉依

姫命を祀れる縣社なり。

かーちやう 植物 熱帯植物、はいたら類、棕櫚

に似て大なり 多く屋根を葺くに用ゐらる。

かーちやう 花柱 植物 子房より上に生ずる柄

なり

かちーゆぎ 歩靴 古語 徒歩にて弓射する人の頁ふゆ

ぎなり

がーちやう 鷺鳥 動物 鳥類、游禽類、頭部

長くして肉突起あり、全身白色、體長二尺七寸、ガンに似

て大なり。

カチリヌス Carthius 人名 ローマのパトリシアン、

西紀前六二年叛黨をつくりて キセロの爲め發見せられて

罪せらる。

ガチル Cadix 地名 イスパニアの西南海岸にある地

なり。

かちーなーせんりーのーほかーにーけつす 決於勝千里外

古 支那漢の高祖の臣張良の偉人なるを評したる語、

張良は朝にありながら、其作戦計畫を以て、必ず疆域を擴

は

かつかざん 活火山 地理 淺間山の如く、現に活動せ

る火山を言ふ。

がつかーせん 顎下線 生理 睡線、舌下線の後方顎下

に位し 舌下に排泄口あり。

かつかがづ 且且 一、十分ならねども、まづまづ、せ

めて、二、少し、僅かに、辛、三、少少づつ、一つ

づつ、れひれひになど意あり。

かつかがはーしゆんじやう 勝川春英 人名 繪畫師、寛

政、享和頃の人。九徳齋と號し 繪を勝川春章に學び 又

土佐派をも修め 一家を成し九徳風と稱せらる、最も

繪本 錦繪 役者似顔繪、狂畫に巧みなりき、文政二年七

月二十六日 年五十八を以て歿す。

かつかはーしゆんじやう 勝川春章 人名 浮世繪師、

宮川祐助と稱し 西齋 旭則齋と號す 嵩谷に學び 役者

似顔繪に巧み、寛政四年十二月八日歿せり。

かつかはーしゆんじやう 勝川春則 人名 浮世繪師、勝

川春章の弟子なりき。

かつかがづ 被衣 きのかつぎのこと、女の外出するとき

顔をかくす爲めに 頭上より被るもの。

かつかがづ 葛蓐 隱者 處士の着物 葛は葛布の衣に

て 夏用のもの 蓐は毛衣にて 冬用のもの、故に一度葛

ひるなりの意。

かつかがづ 喝 怒れる聲こと、五代史に 地兵何能爲、當三陣

上之喝とあり 則ち此意なり。

かつかがづ 加 兼ね合はすこと、混合すること。

かつかがづ あは 勝安房 人名 舊幕臣 幼名義邦 通稱麟

太郎、海舟と號す、長崎に往いて歐人に航海術を學ぶ、徳

川慶喜上野に謹慎するに當り 旗本を鎮撫し、維新後官に

仕へ 樞密顧問官正二位勳一等伯爵たり、明治三十二年一

月二十一日 年七十八にて歿す。

かつかがづ うんも 褐雲母 Anomite 礦物 黒雲母の變化

したるもの。

かつかがづ 滑液 Synovium 生理 骨節の關節を充た

す液にて 粘性強く、骨端を抵觸せしめず。

かつかがづ 滑液膜 Synovial membrane 生理

二骨の接する部を被ひ 連絡せしめ、内方に向ひて粘液を

分泌する膜即ち之れなり。

かつかがづ 渴迎 非常に待ち居ること。

かつかがづ 郭公鳥 動物 鳥類、攀木類、其嘴扁

平、上嘴鈎曲す、尾甚だ長く、脚に羽毛多し 昆虫を食す

此が特性は 他禽の集中に入りて産卵し、他禽をして之を

孵化せしむるなり。

かつかがづ 妻を易ふと云へば一年は経過せりの意なり。

かつかがづ 潜女 古語 海女、水を潜り 海藻、魚介

を捕ふる人、水中にくぐり入るを かづく(潜)と云へり。

かつかがづ 被物 一、平安朝時代の饗應する時に

客に賜りし引出物なり、二、變じて はな、たまもの、纏

頭の意となれり。

かつかがづ わた 被綿 古語 一、佛名の時法師に賜ひし

綿、二、踏蹴に賜ひし綿なり。

かつかがづ 羯鼓 樂器 大鼓、臺に据ゑ 撰にて 両面

を打つもの、腰鼓に似たり。

かつかがづ 潤口類 Colubriformia 動物 爬虫類

蛇類、にしきへび あをだし(黄領蛇)しまへび や

まかかし(赤棟蛇)等を含む、皆 四肢全く缺け上下両頭に

鋭齒を有し 上頭には内方に向へる硬き鈎齒あり、印度に

産するコブラ、北米の響蛇(Rattle Snake)南米アマゾンの

巨林に住むボア(Boa)の如きは最も巨大に最も強く人畜

を絞殺すること多し。

かつかがづ 上總 地名 東海道十五國の一 天羽、周准、

望陀、夷隅、市原、上埴生、長柄、山邊、武射の九郡より

なり 千葉縣に屬す、古は下總と共に一國にて 總國と稱

し後別れて二となり カミツフサ シモツツと云ひき。

かづさのみーたきよ 上總守忠清 人名 伊勢古市の人、藤原伊勢五と稱す、平清盛に仕へ、上總介右衛門尉たり、平氏滅亡のとき京師六條河原に斬らる。

かつしかーしきん 葛餅子奉 人名 詩人、大阪の人、片山北海混沌社に入り、七才子の一人となる。

かつしかーたいご 葛餅戴斗 人名 畫人、葛餅北齋の門弟にして、二代目戴斗と稱せらる。

かつしかーほくさい 葛餅北齋 人名 畫人、中島鏡次郎と稱す、徳川氏用達鏡師伊勢の子、江戸本所に住し、勝川春勝の門に入り、浮世繪を學び、後一派をなす、最も漫畫に妙を得たり、嘉永二年四月、年九十にして歿す。

かつしき 喝食 禪 律宗等の小性にして、食事の給事をなすものなり。

かつじーきん 活字金 *Typemetal* 化学 活字の鑄造に用ゐるもの、鉛七十五分、アンチモン 二十分、錫五分の合金なり。

かつしや 滑車 *Puley* 物理 定滑車 動滑車の二種ありて、何れも、僅少な力を以て、大なるものを能く動かすの益あるものにて、木製或は金屬製の圓形車の中央に軸を貫きて框に入れ、輪の周圍に溝を作りて繩をかけ回轉し得る如き裝置なり。

かつしやーじやうしんけい 滑車上神經 生理 一の神經にて、眼窠より内前方に走り、滑車軟骨の上部に至り、内背を穿ち、同部の外皮に分布す。

かつしーこーいすばにあーせん 合衆國イスパニア戦争 合衆國イスパニアに突欲せしかば、一八九五年キューバ遂に叛き久しく平定せず、合衆國大統領マクニリー、イスパニアの非を鳴らし、キューバを救はんと欲し軍を起す、之れ此戦なり、合衆國軍サンチャゴを陥るに及んでイスパニア和を請ひ、十二月巴里の和約にて戦局を結ぶ此役イスパニアはキューバの獨立を認めてフィリピン群島イスパニア領西印度諸島スル群島グアム島を割譲す

かつしよーろーるゐ 褐色藻類 *Phaeophyceae* 植物 昆布 裙帶菜、黒菜、羊栖菜等、之に屬す、四分胞子、雌雄生殖にて繁殖す、クロコイル、フィコヘンを含有す。

かつしせき 滑石 礦物 針方晶形、眞珠光澤、銀白色、塊斷性あり、硬度一、一、五、比重二、五六二、八、*Pyrophyllite* 酸には不侵なり、多く太古時代の岩層中にありて、顔料、耐火煉瓦石等に使用せらる。

カツスルリー *Castlereagh* 人名 政治家、英國の人、西紀一八〇一年外務大臣たりし時、ナポレオン 政策に反抗し、同盟の首長となる、一八二二年自殺す。

類には侵蝕せられず

Catlar

かつしやうーたきんーのーみづーのーます 湯不飲

盗泉水 潔白なること、支那の陸機の詩に見ゆ。

カッセル *Cassel* 地名 ヘッセンカッセルの首府あり、有名なるアンゼンば此處に生れたり。

カッター *Cutter* 端艇の一種、脚船、快船の意。

かつーだう 喝道 大音にて叱咤すること。

かつたーだけ 刈田嶽 地名 磐城國藏王山のこと。

かつたーだけか 勝田武勇 人名 四十七士の一人、淺野長矩に仕へ、小申性たり、元禄十六年二月四日、死を賜ふ。

かつーたん 褐炭 礦物 中古代の砂岩 ショールの間にあり、色褐色、黒炭よりも炭素量多ければ、火力劣等なり、筑前の三池、石狩の札幌、肥前の高島より産出す、點火瓦斯、ベンキ等の用に供す。

カッチ *Cutch* 地名 印度ホマイ管轄區中ゲアララト州の一國 [29.0N. 88.0E.]

カッツ *Ghats* 地名 インド南海岸にて東西に相並行せる二山脈。

かつて 都 古語 全く、すべての意。

かつてーがた 勝手方 役名 徳川幕府の置きし、勘定奉行の分掌にて、柳營内にて幕府の財政を司るもの、

かつしーくわう 褐鐵礦 *Limonite* 礦物 非結晶、鐘乳狀、葡萄狀、塊狀等をなし、褐、黒、黄の色あり、比重三、六一四〇、硬度五、一五、五、諸岩石中に多少含有し、水成岩にもあり、泥鐵礦、黃鐵石、豆鐵礦等の種類ありて、武蔵、美濃、尾張より産出す。

かつしーげんが 活動幻畫 物理 活動寫眞を見よ

かつしーしやしん 活動寫眞 物理 幻燈を利用したる器械にして、幻燈の硝子繪の代りに、セルロイドの如き物にて作りたる透明なる長き帯に、變化の連続せる多くの繪を附し、機械仕掛にて、映出する繪を一定早の早さにて交換するなり、人の眼は刺戟を去るも尙其網膜上に少時間印象を止むる性あれば、印象連續して、繪が活動するが如く見ゆるなり。

かつしーりよう 活動量 *Active mass* 化学 化學作用をなす瓦斯及溶液の濃度なり……故に其一ツトル中に存するグラム分子の數にて、活動量を示すなり、活動量の定律 (*Law of mass action*) とは、溫度及氣壓の一定なるとき、化學作用の速度は、反應する物質の各の活動量に正比例するものなり。

カツシゲハワ 軍艦内に備ふる機關砲の合銃砲の類なり。

ガットリンダーよう

かつねぐさ 麻黄 植物、草本 春生し 夏花を開き 黄色を呈す、後果實を結ぶ。

かつらのみや 和宮 人名 徳川家茂の室、仁孝帝の皇女、是れより公武合體論起る、明治十年九月相州塔澤に薨す。

かつば 河童 水中に住む想像的動物、かはわらはなり

かつばいさく 潤脊筋 Latissimus dorsi 生理 脊部の大筋、脊柱及腰骨より起り 上膊骨の上部後面に附着す腕を後背面に向ひて引き下すの用をなす。

かつばかご 合羽籠 かつばざるとも云ひ、古 貴人外出のとき 従者のあまよけに 前後に棒を以て擔ひたりし籠なり。

カツバツハ Katsuba 地名 ドイツのサクソニアにあるオーデル河の一支流、一八一三年八月二十三日佛將マクドナルドのプロシア將軍ブリュヘルに破られし所。

カツプア Kafia (Pheosia) 地名 ロシアのクリム半島の南東岸の一海港、商業甚盛、元ギリシヤ殖民地ミトレスの建設、トルコ人占領せしも十八世紀の終に露領となる。

かづはへ 合伏 Superior conjunction 天文 地球の動徑と惑星の動徑と 百八十度の角をなす時を云ふ。

かつぶらだき 葛布瀑 地名 遠江國周智郡葛布村の瀧

かつべらさう 石長生 植物 丹沙草、丹草とも云ひ 帶紫色の莖、濃綠色の葉を有し岩石に附着して生ず。

かついま 羯磨 佛語 辨事とも云ふ、俗人の僧侶より受戒するとき 二本の獨鈷を鉞に交叉するものなり。

かつまたのいけ 勝間田池 地名 美作勝南郡勝間田にある池なり。

かつみ 勝見 植物 水草類、菰、菖蒲 浮草等なりと説種々あり。

かつもも 勝本 地名 松浦氏の舊藩地、豊岐國壹岐郡にあり、今は長崎縣に屬す。

かつやま 勝山 一、地名、越前國大野郡にある小笠原氏の舊藩地、及安房國平群郡にある酒井氏の舊藩地、二人名、江戸芳原屋の遊女、和歌 書、管弦に巧み、勝山齋の祖なり。

かつら 桂 植物 楓樹科木本 女桂、男桂の別あり、根は肉桂と云ひ 香氣ありて薬用とす。

かつらあゆ 桂帖 動物、魚類、古 毎日禁裏へ奉りし山城國桂の里の鮎なり。

かつらうせき 葛島石 人名 畫家、江戸の人、細井廣澤に學び 更に歐陽詢を祖とし 遂に一家をなす、安政

五百二十頁

元年歿す 年八十。

かつらがは 桂川 地理 山城國にある川 源を丹羽に發す。

かつらがはほさん 桂川甫三 人名 徳川幕府の侍醫 蘭醫外科を以て名高し、子孫世々此職たり。

かつらがはほしう 根川甫周 人名 徳川幕府の侍醫 甫三の子、和蘭藥選、海上備要方等の著書あり。

かつらさき 葛城 地名 大和國南葛城郡吐田郷村の古名 神武天皇 土蜘蛛を誅し、劍根を國造に住せらる地、後、綏靖天皇の宮居、蘇我氏の居住、蘇我蝦夷の祖廟を立つ皆地なり。

かつらざうじ 葛城氏 人名 武内宿禰の子葛城襲津彦の後胤と云ふ。

かつらざうがは 葛城川 地名 大和の廣瀬川のこと

かつらざうのかみ 葛城神 神名 夜のみ出で橋を作り給ひし神。

かつらざうのちつひこ 葛城襲津彦 人名 武内宿禰の子、神功皇后の五年 新羅に渡り 外情を審にす、應神天皇十六年 弓月君を迎へて歸化せしむ。

かつらざうのつづら 葛城圓 人名 玉田宿禰の子、履仲、反正、允恭、安康、雄略の朝に歴任して大臣たり、

眉輪王 安康帝を弑し 圓の宅に匿れ給ふ 雄略帝之を燒き給し しかば圓等焚死す、圓の女葛城韓媛(かつらざうのからひめ) 雄略帝の妃、清寧帝雅足皇女を産む。

かつらざうやま 葛城山 地名 一、葛木山と云ひ 河内の金剛山の別稱、二、大和葛上郡にあり。

かつらく 鬘 古語 頭髮に 飾りを着く。

かつらうい 鬘兒 人名 和歌人、奈良朝の人、容貌端麗、三士争ふて之を聘するに當り、無耳池に投ず。

かつらうしま 桂島 地名 陸前宮城郡松島の前面の島

かつらうないしんわう 桂内親王 人名 桓武帝皇女、伊豆内親王、平城帝皇子阿保親王に適す、在原行平、業平の母なり。

かつらうのほし 桂星 銚子の柄の 星に入れたる金具なり。

かつらうのみや 桂宮 天親町帝皇子誠仁親王の出、四親家の一。

かつらうのな 葛緒 古談 くづかつらにて補ひたる琴の糸。

かつらばらうしんわう 葛原親王 人名 桓武帝第三子 母を多治比眞宗 性聰明穎悟、博聞強記、一品に進み、常陸太守、武部卿、太宰帥たりき 仁壽三年六月 年六十八

藪す 平氏の祖とす。
かつら 平氏の祖とす。
かつらびし 桂菱 動物 鳥類、ひしくひ族、頸背風色、柿色の斑點あり、腹白色、嘴黒色にて扁平なり。
かつらやま さいがん 桂山彩霞 人名 儒者、徳川幕府講官たり、江戸の人、林整字に學び、性理に精しく律詩を巧みにす、寛延二年三月廿一日、年七十二歿す。
かつらる しんわう 葛井親王 人名 桓武帝皇子、性英敏 射を巧みにす、嘉永三年四月 太宰府に薨す。
かつら ななる 折桂 古語 試験に及第すること。
かつらぎ わう 葛城王 人名 橘諸兄を見よ。
かつり よ 園廬 人名 戦國の吳王 吳越交戦の端緒は此王の開きたるものなり、此戦にて敗死したり。
かつり よう 活量 生理 肺より出する空氣の全量、平均男子は一升八合、女子は一升三合。
カツルス Catulus 人名 歌詩人、イタリヤの人、元老院の黨與、ケールを誹謗する甚し、(西紀前八四一五年)。
かつな 鯉 Thynnus or Bonito 動物、魚類、棘鰭類、南東海に群集す、體肥厚、脊面蒼黒、腹部鉛白、體側に四乃至八條の蒼色線あり、之を乾し鯉魚節を製す、土佐最も名高し。

かつな き 鯉木 神社宮殿の棟上に鯉の如き形したる木を并ぶるもの、大社は八本にて長五尺、徑九寸、中社は六本長四尺、徑五寸、小社は長四尺、徑三寸なりと云ふ。
かつな じ 勝尾寺 地理 攝津國住吉郡栗生村にある開來皇子の開基にかゝる眞言宗の一寺なり。
かつな ごとく 釋褐 褐は毛布衣、釋は捨つる、故に始めて仕途に着くを云ふ。
かつな の かむり Yella 動物 腔腸動物、海棲類 黒潮に棲み、浮けとなる氣泡は楕圓盤、上面に半月形板を立て浮泳す、絲狀部長からず 垂下す。
かつな の へほし Pylæia 動物 かつをかむりに同じく、異なるは絲狀甚だ長く、刺絲胞ありて毒甚し、下面に大小不同の生殖器あり。
かつな ぐし 鯉魚虫 動物 虫類、棘翅類、體長二分 黑色長楕圓形、凡て短毛、鯉を食害す、幼虫は四分あり。
かて 糲 一、かれひ、貯へたく穀類、兵糧、二、補ひ加ふる食物。
かてい 夏帝 年號 西紀一〇三八年、黨項拓跋部の裔 李元昊の崇仁宗寶元元年回紇を撃つて興慶に都せし時。
かてい 柯亭 昔漢の蔡邕 柯亭館の家のたるきの竹をとりて笛とし、鳴らせしに甚だよし、我國に傳りたる笛。

Katagat

かてい もんたろ 嘉貞問答 書名 伊勢貞丈の大塚嘉樹と有識、故實を問答せしもの。
かてう げに 達者 古語 輕裝して、身がるの意。
カテガット Katagat 地名 スウェーデンとニュートランド間の海江、長一五〇哩、廣九〇哩、暴風屢々あると、深淺一様ならざるを以て航海甚だ苦しむ。
かて に 片 古語 名詞に添へ、其者の交しる意。
カテシ Katesh 地名 今のアインカデンにて、東部ヨルダンの南境にあり、イエスライルの人民集屯所なり、又カナン七族中のヒタヒツ族の都にてオロンテス河畔にあり
かてん 家傳 相傳 和家に同じ。
かてん きん 下轉筋 生理 動眼神經の下枝の分布せる筋にして收縮すれば、眼球は下方に回轉す。
かて 河圖 理科(支那) 天地の消長を數へトするもの 天一は水を生じ、地二は火を生じ、天三は木、地四は金、天五は土、天六は水、天七は火、天八は木、天九は金地十は土をなすと云ふを基礎とせり。
かど 角 一、稜、偶、賢、才氣、二、圭角の意あり。
カト Cato (Marcus Porcius) 人名 ローマのコンサル(西紀前一九三年)、第二ピニク戦争に従ひ、イスパニアを征服し、アフリカの使節となり、カルタゴ征伐を

かてい 主張し、惡風俗改良に熱中す。(前二三三—一四九年)。
かてい 河套 地名 内蒙古の地、黄河の沿岸にあり。
かてい 果糖 Fruit sugar C₆H₁₂O₆ 化學製法—甘蔗糖を酸類にて煮沸し、或は酵母を甘蔗糖に作用せしむ、性状—美麗なる絹絲狀結晶にて、水及アルコールに溶解し易し
かてい 加藤枝直 人名 橘又兵衛と稱し、芳宜園と號す、江戸町奉行大岡忠相の與力、加茂真淵と交り深く、致仕後全く和歌を以て樂み、名天下に鳴り、弟子頗る多し、天明五年八月十日、年九十四を以て歿す。
かてい 假導管 植物 假脈管に同じ。
かてい 加藤清正 人名 武將、尾張愛知郡中村の人、清忠の子、藤原虎之助と稱す、豊臣秀吉に仕へ賤が嶽七本槍の一人となり、征韓の役第二軍の將として、先鋒し功あり鬼將軍と呼ばる、秀吉の死後、家康に仕へ九州肥後守となり、熊本城を築き西海鎮撫の任に當る、慶長十六年四月、年五十にて病歿せり。
かてい 可動關節 生理 全動關節、半動關節の二種あり 甲は肩關節の始、乙は軟骨を有する椎骨の如し。
かてい 何騰蛟 人名 支那貴州黎平衛の人、天啓元年癸卯に擧げらるるや、諸所に功を奏し、唐王、鍵福州

に自立するに及び寵せられ 其薨後 永明王に仕へ 難に 殉死す、文烈と諡す。

かとうしゆんけい 加藤春慶 人名 陶器師、尾張春日井郡瀬戸村の人、貞應二年僧道元に從ひ唐に入り、歸朝して瀬戸に窯を設けたり、これ即ち瀬戸焼の開祖なり。

かとうただひろ 加藤忠廣 人名 清正の子、非文非武、父の如くならず、寛永九年六月出羽庄内に流さる。

かとうちかげ 加藤千隆 人名 國學者、橋姓、眞淵の門人、萬葉集略解三十卷を著す。文化五年 七十五歿

かとうばんり 加藤盤齋 人名 國學者、攝津の人 松永貞徳に學び 俳諧を能くす 延寶二年 五四歿す。

かとうひろゆき 加藤弘之 人名 天保七年但馬出石に生れ 佐久間象山に學び 明治の後 大學總長となり、二十一年文學博士となり、華族に列し、現に貴族院議員宮中顧問官男爵たり。

かとうぶし 河東節 元祿以後江戸に行はれたる俗曲 十寸見河東の始めたる故此名あり。

かとうよしあき 加藤嘉明 人名 武將、三河の人、賤ヶ嶽七本槍の一人、征韓の役 海軍に將として功あり、家康に屬し、關ヶ原役 軍功を以て會津四十萬石に封せられ 寛永八年 年六九を以て歿す。

カドーカンブリジ 四百八十四

カドーカンブリジ Calcutta 地名 フランスのカムプライの東南一四哩ある町、西紀一五五九年イスマニアのフェリペとフランスのヘンリ二世の條約締結地なり。

かごーだ 門田 門に近き田、門の外にある田。カトーチ Catoche 地名 メキシコのユカタン半島北東方の岬、同名の小港地あり。

かごーす 門出 國佐 旅立つ、出立す。かごーならべ 門並 古語 敷軒の家にて一つの門。

かごーごほり 葛野郡 地名 西都愛宕郡の西北の地 天智天皇の時始めて 郡とす。

かごーわうじ 葛野皇子 人名 弘文帝皇子、性英明 經史に通じ、詞藻豊富、書畫に巧み、慶雲二年死す。

かごーのへさ 看督長 役名 檢非違使廳の屬官、竊盜追捕の職、定員六人なり、矢大臣と云ふはこれなり。

カトマンズー Katmandu 地名 チベットの首府、多く佛堂あり、人口二萬と號す。

カドミウム Cadmium, Cd. 化學 製法一硫酸鉛に木炭を加へて熱す、性狀一原子量百十二、四、二價着白色、金屬、展性、延性に富む、沸點七四五度、熔點三二〇度なり、イオンの色は無色なり、有機體に對し有毒。

辞のやく印刷すべし

の英軍と子イ將軍の佛軍と戦ひし地なり。

かながさーろぶん 假名垣魯文 人名 戯文者 野崎兼吉と稱し、性滑稽洒落、花柳社會の事情に明通す、明治二十七年 年六六を以て歿す。

かながーさき 金ヶ崎 地名 越前國敦賀郡敦賀にありて 延元元年十月新田義貞の 恒貞親王を奉し 再興を謀りし地、今 尊良恒貞兩親王を祭れる官幣大社あり。

カナカシシカ 人名 馬來人種の一部 南洋諸島一帶の土人。

かながしら 金頭 Lepidotrigla 動物 魚類、棘鰭類、體帶黄色赤色、腹底白色、體淡黄黒色の縦線あり、上顎及額上に棘あり、ホーホーに似て小、海底の砂中に棲息せり。

かながはーけん 神奈川縣 地名 相模全部、武藏郡筑橋樹久長岐の三郡を統轄す、縣廳を武藏國橋樹郡横濱に置く。

かながはーじょうやく 神奈川條約 安政元年正月 徳川幕府のアメリカ合衆國と締結せし條約 即ち下田、函館兩港に於て 薪水食料を給することを許す。

かながはーぶきょう 神奈川奉行 安政五年九月 外交

カドミウムイオン Cadmium 化學 二價のイオンにして、無色、有毒なり。

かーどん 嘉通 隱遁に同じ。

カドメア Kadmea 地名 フェニキア人カドモスカ同胞エーロバを案めてラ及タソスに上陸し ポイオチに立てたる牙城なり。

かどり 繅 目を細かく織りたる薄絹。

かどりーぐさ 香取草 植物 古語 うめども云ひさくらども云ふ。

かどりーじんぐう 香取神宮 下總國香取郡香取村に經津主神を祭れる官幣大社なり。

かどりーけい 加特力教 宗教 耶穌、天主、ローマ等の諸宗教にて ローマ法王を之を統す。

かどりーなひこ 掛取魚彦 人名 和歌及詩人、下總香取郡伊能村の人、青藍と號す、建部俊成に學び 後古學を加茂貞淵に學ぶ、上野法親王其他諸侯に寵せらる 天明三年 年六三を以て歿す。

カトルファージ Quatre-fages 人名 佛の博物及人類學者(西紀一八一〇一八八九)

カトルフラー Quatre-bras 地名 ヘルギーのプラバント州の一小邑、ワートルローの戦争の前二日ウエリント

多事に際し 神奈川港を開き 外國奉行を兼ね 貿易税を
收め 内外人民を管理するを以て主掌とす。

かながひ 金貝 金銀銅錫を以て時給にふりかけたる
もの。

かなざな―じんじや 金讚神社 地理 武蔵國見玉郡二
の宮にありて天照太神、素鳴彥尊、日本武尊を祀れる官幣
中社なり。

かなざら 金澤 地名 一、加賀國河北郡にありて一
大市街をなし 石川縣廳所在地なり 元 前田利家の藩地
なりき、二、武蔵國にありて 八景なり、花園正和五年北
條顯時(金澤實時と云ふ説あり)、金澤稱名寺境内に書學館
を立て 多く 和漢書を集め 子弟族人の習學の充てし金
澤文庫此處にあり。

かなざら―はちまんぐう 金澤八幡宮 地理 羽後國仙
北郡金澤村にありて豊田別命 息長足媛命 玉依姫命を祀
れる宮なり。

かなざら―やま 金砂山 地理 常陸國久慈郡にありて東
金砂西金砂の二山とす、治承四年 頼朝と佐竹義秀と戦ひ
し地なり。

かなざら―の―さく 金澤櫛 後三年役に、清原武衡、
家衡等の擄りて義家と戦ひし櫛なり、羽後國仙北郡金澤町

かなざら―の―はちまんぐう 金澤八幡宮 地理 羽後國仙
北郡金澤村にありて豊田別命 息長足媛命 玉依姫命を祀
れる宮なり。

かなざら―やま 金砂山 地理 常陸國久慈郡にありて東
金砂西金砂の二山とす、治承四年 頼朝と佐竹義秀と戦ひ
し地なり。

かなざら―の―さく 金澤櫛 後三年役に、清原武衡、
家衡等の擄りて義家と戦ひし櫛なり、羽後國仙北郡金澤町

かなざら―の―はちまんぐう 金澤八幡宮 地理 羽後國仙
北郡金澤村にありて豊田別命 息長足媛命 玉依姫命を祀
れる宮なり。

かなざら―やま 金砂山 地理 常陸國久慈郡にありて東
金砂西金砂の二山とす、治承四年 頼朝と佐竹義秀と戦ひ
し地なり。

かなざら―の―さく 金澤櫛 後三年役に、清原武衡、
家衡等の擄りて義家と戦ひし櫛なり、羽後國仙北郡金澤町

かなざら―の―はちまんぐう 金澤八幡宮 地理 羽後國仙
北郡金澤村にありて豊田別命 息長足媛命 玉依姫命を祀
れる宮なり。

かなざら―やま 金砂山 地理 常陸國久慈郡にありて東
金砂西金砂の二山とす、治承四年 頼朝と佐竹義秀と戦ひ
し地なり。

かなざら―の―さく 金澤櫛 後三年役に、清原武衡、
家衡等の擄りて義家と戦ひし櫛なり、羽後國仙北郡金澤町

かなざら―の―はちまんぐう 金澤八幡宮 地理 羽後國仙
北郡金澤村にありて豊田別命 息長足媛命 玉依姫命を祀
れる宮なり。

かなざら―やま 金砂山 地理 常陸國久慈郡にありて東
金砂西金砂の二山とす、治承四年 頼朝と佐竹義秀と戦ひ
し地なり。

かなざら―の―さく 金澤櫛 後三年役に、清原武衡、
家衡等の擄りて義家と戦ひし櫛なり、羽後國仙北郡金澤町

かなざら―の―はちまんぐう 金澤八幡宮 地理 羽後國仙
北郡金澤村にありて豊田別命 息長足媛命 玉依姫命を祀
れる宮なり。

かなざら―やま 金砂山 地理 常陸國久慈郡にありて東
金砂西金砂の二山とす、治承四年 頼朝と佐竹義秀と戦ひ
し地なり。

かなざら―の―さく 金澤櫛 後三年役に、清原武衡、
家衡等の擄りて義家と戦ひし櫛なり、羽後國仙北郡金澤町

かなざら―の―はちまんぐう 金澤八幡宮 地理 羽後國仙
北郡金澤村にありて豊田別命 息長足媛命 玉依姫命を祀
れる宮なり。

かなざら―やま 金砂山 地理 常陸國久慈郡にありて東
金砂西金砂の二山とす、治承四年 頼朝と佐竹義秀と戦ひ
し地なり。

かなざら―の―さく 金澤櫛 後三年役に、清原武衡、
家衡等の擄りて義家と戦ひし櫛なり、羽後國仙北郡金澤町

かなざら―の―はちまんぐう 金澤八幡宮 地理 羽後國仙
北郡金澤村にありて豊田別命 息長足媛命 玉依姫命を祀
れる宮なり。

かなざら―やま 金砂山 地理 常陸國久慈郡にありて東
金砂西金砂の二山とす、治承四年 頼朝と佐竹義秀と戦ひ
し地なり。

かなざら―の―さく 金澤櫛 後三年役に、清原武衡、
家衡等の擄りて義家と戦ひし櫛なり、羽後國仙北郡金澤町

かなざら―の―はちまんぐう 金澤八幡宮 地理 羽後國仙
北郡金澤村にありて豊田別命 息長足媛命 玉依姫命を祀
れる宮なり。

かなざら―やま 金砂山 地理 常陸國久慈郡にありて東
金砂西金砂の二山とす、治承四年 頼朝と佐竹義秀と戦ひ
し地なり。

かなざら―の―さく 金澤櫛 後三年役に、清原武衡、
家衡等の擄りて義家と戦ひし櫛なり、羽後國仙北郡金澤町

かなざら―の―はちまんぐう 金澤八幡宮 地理 羽後國仙
北郡金澤村にありて豊田別命 息長足媛命 玉依姫命を祀
れる宮なり。

かなざら―やま 金砂山 地理 常陸國久慈郡にありて東
金砂西金砂の二山とす、治承四年 頼朝と佐竹義秀と戦ひ
し地なり。

かなざら―の―さく 金澤櫛 後三年役に、清原武衡、
家衡等の擄りて義家と戦ひし櫛なり、羽後國仙北郡金澤町

かなざら―の―はちまんぐう 金澤八幡宮 地理 羽後國仙
北郡金澤村にありて豊田別命 息長足媛命 玉依姫命を祀
れる宮なり。

かなざら―やま 金砂山 地理 常陸國久慈郡にありて東
金砂西金砂の二山とす、治承四年 頼朝と佐竹義秀と戦ひ
し地なり。

かなざら―の―さく 金澤櫛 後三年役に、清原武衡、
家衡等の擄りて義家と戦ひし櫛なり、羽後國仙北郡金澤町

かなざら―の―はちまんぐう 金澤八幡宮 地理 羽後國仙
北郡金澤村にありて豊田別命 息長足媛命 玉依姫命を祀
れる宮なり。

かなざら―やま 金砂山 地理 常陸國久慈郡にありて東
金砂西金砂の二山とす、治承四年 頼朝と佐竹義秀と戦ひ
し地なり。

かなざら―の―さく 金澤櫛 後三年役に、清原武衡、
家衡等の擄りて義家と戦ひし櫛なり、羽後國仙北郡金澤町

大字金澤に在り、築かれたる年代明かならず。

かなざら―ぶんこ 金澤文庫 武州金澤に在る文庫にし
て、儒佛の書を収む、花園天皇正和五年北條顯時之を建つ
子貞顯遺志を紹きて其子弟を教育す、後一時中絶せしが、
室町時代に上杉憲實之を再興す。

かなし 憐 古語 かはゆじ、大切なりの意。

カナダ Canada 地名 英領にして北米合衆國の北、太
平洋とアラスカの東、北氷洋の南、太平洋の西にある大陸
地、東西最も長きは三四〇〇哩あり、アパラチア、コルヂ
レラの二大山脈東西にありてカナタ平原を圍む、大陸的氣
候、人口五百三十萬と號し 木材 魚類の産出頗る大にし
て 石炭、銅、金等の埋藏多しと雖も未だ十分採掘せられ
ず。

カナダ―バルサム Canada balsam 化学 バルサムモ
ミを見よ。

かな―だくみ 金工 古語 今のかぢや、いものし。

かなづ 奏 國語 かなさず(掻撫)の意にて 琴を弾じ、
音楽を奏し、舞踏を舞ふこと。

かなでほん―ちゆうしんぐら 假名手本忠臣蔵 書名
赤穂四十七士復讐の轉末を記せる戯曲本、竹田出雲の撰。

かなご 釜 釜、鍋の類なり。

銅色、殼斗科樹木の汁液を吸収し 害虫にり。

かなふ―もろひら 加納諸平 人名 儒者、遠江國濱名
郡白須賀の人、夏目小太郎と稱し 和歌を能くす、紀伊の
醫伊竹の嗣子となり、本居太平に學が、藩命によりて紀伊
風土記を始め諸書を撰す、又國學所を設けて教授たり、安
政二年 年五十二にて歿す。

かなへ 鼎 かななべの意、一、昔食物を煎るに用ひ
し器、長方形にて三角形に脚を有す、古 支那にて代代天
子の寶器とせり。

かなへ―の―なかなる―ひととそれ―の―にく 鼎の中なる一
切の肉 識見の狭きこと、管を以て天を闢ふに似たり

かなへび 蛇身母 動物 「どかけ」に似たる爬蟲類にし
て、體長の二倍の尾を有し、四肢側出し、舌は長く其端二
裂せり。

かな―まり 金椀 古語 金屬製の椀。

かな―むぐら 金葎 植物 蔓草類、葉は互生、葉及蔓
に毛あり、花は五瓣花にて雌株に咲く 雌株には麻の如き
實を結ぶのみ。

カナーン Canada 地名 ヨルダン川の西方パレスチナ
の地(北緯三五、三〇 東經三二、三〇)。

かなぬ―いし 要石 一、常陸鹿島神社内の石にて其

か 四百八十七

かな―どう 金胴 古 勇士の鎧の下に着すもの、草摺
も袖もなく胴のみ。

かなご―だ 金門田 古語 門田に同じ。

カナノル Cannanore Kammur 地名 インドのドラス
の馬拉バルにある一港市、西紀一六五六年和蘭人の殖民せ
しも一七八四年英軍に歸す。

かなはし―の―しばかき―のみや 金椅柴垣宮 地理
大和國にありて崇神天皇の行宮なり、故に帝を金椅柴垣御
宇天皇(かなはしのしばかきのみ)にゆめめしたしと
しめす―すめみことと申す。

かな―びく 試 國語 人の心を試めすこと、氣をつ
くること。

かなびしや 吹沙魚 動物 魚類、こちしやことも云ひ
こちに似たり、長さ二二寸、鱗細、細粒黒色の斑點あり
湖水、谷川に産す。

かなふ 加納 地名 美濃國厚見郡にありて永井氏の舊
藩地なり 今は岐阜縣下なり 嘉納にも作る。

かなふ―さん 加納山 地理 周防國大島郡にある山。

かなふ―の―なんせん 加納温泉 地理 岩崎温泉とも
云ひ 伊豆國賀茂郡にあり。

カナシキ 動物 昆虫類、翅類、長さ七八分、青

かな―ざんぜん 鞘

かな―ざんぜん

かな―ざんぜん

かな―ざんぜん

かな―ざんぜん

かな―ざんぜん

かな―ざんぜん

かな―ざんぜん

かな―ざんぜん

かな―ざんぜん

かな―ざんぜん

かな―ざんぜん

根部深く知るものなし 故に動かぬ石のことを云ふ、二、
拱心石のこと、西洋風家屋に、拱の中央に組み入れて全體
の力を支へしむるものなり、石をいふ、

かに 蟹 Carab 動物 節足動物、硬殻十脚類、蝦に類
す、體扁平、左右各四本の足、二本の缺あり、横に走るに
頗る速し、棲息するところ一ならず、又食用となるものわ
れど、なきものもあり。

附箋(ハリガミ)

カナリア	諸島	は	附箋	ノ	如ク	訂正	す。
群島の名	イスパニア領	アフリカの西北大西洋中にある	最高峰は我が富士山に	匹敵す	候極めて温和にして砂糖	葡萄酒及烟草を輸出	す人口凡二十九万
[28.30N. 17.0W.]							

の、及此に類
越郡あ山。
一人名 王、
庸國を統治す
第回の結果を
香しく匂ふ
て、食する時
も云ひかばの
郡棚倉村大字
北氷洋上

カナリア諸島は附箋ノ如ク訂正す。

カニガム Cunningham 人名 スコットランドの僧侶にしてヨーロッパの學問を研究したる人、(西紀一八〇五—一八六一)。

かに—もり 掃部 古語、かもんに同じ。一〇三五

かぢ 銀治 古語、かぢに同じ。かねうちのこと。

カナート Canute 人名 王、イングランドを征し功ありてデンマルク王に選ばれる(西紀九九四—一〇三五)。

か—ぬま 鹿沼 地名 下野國都賀郡にある地。

カヌレイウス Canuleius 人名 政治家 ローマの人、トリビニ官たり、紀元前四四五年 貴族は平民と結婚するを得、其生子は父系の族籍に従ふべきものとの法律を發布す、氏の提出せるコンサルは平民より撰出するを得との議は大に貴族の反抗を招きたり。

かね 涅齒 ねはぐるること、齒を黒く金漿にて染む、婦人は大古より、男子は 鳥羽帝の朝より公卿に行はれ、足利時代に至り武士も亦なせり、織田氏に至りて止む。

かねあきら—しんわう 兼明親王 人名 醍醐天皇第十

一子、性英明、文及書を能くし 其名高し、永延元年 二

品中務卿にて薨す、後一品を贈らる、前の中書王と申す。

かねうり—さちじ 金賣吉次 人名 京都の人 兩替商

陸奥に往く途次 牛若丸に會して之に従ひ、義經と稱せら

るや亦從ひて堀彌太郎光景と云ふ。

かねこ—ちゆうすけ 金子重輔 人名 武臣、長門の人 毛利氏に仕へ、才畧ありて資性豪邁不羈、吉田松隆に従ひ 米船に投じ、事成らず 捕へられて檻致せらる、安政二年 正月歿す。

かねこ—のりたか 金子教孝 人名 水戸侯郡奉行、攘夷主張論者にて同志を集め 萬延元年三月三日 井伊直弼を櫻田門外に要撃し 京都に遁れ 鳥羽にて捕へられ、文久元年七月二十六日 斬處せらる。

かね—じやく 曲尺 かねざしとも云ひ 鯨尺八寸なり

かねつ 過熱 化學 強く熱することなり。

かね—つけ—いし 金付石 鑛物、試金石に同じ。

かねなが—しんわう 懷良親王 人名 後醍醐帝皇子、延元元年足利尊氏の叛するや 天皇と共に延暦寺に移り給ひ、尊氏降り 天皇還都し給ふに當り吉野に匿れ給ふ 後西征大將軍に拜し 九州を鎮撫せらる 此時我邦外交 既に行はれありき。

かね—に 眞直に すぐに等の意、曲に渡すなど云ふ。

かね—に—なる 古語 死すること。

かね—の—しま 鐘島 地理 筑前國地島のこと。

かね—の—つる 金蔓 一、鑛脈、金銀などの鑛脈、二

根部深く知るものなし 故に動かぬ石のことを云ふ、二、拱心石のこと、西洋風家屋に、拱の中央に組み入れて全體の力を支へしむるものなり。石をいふ。

かなめゆん 金面 図 兜につけて顔にかぶる假面、鐵製、かなめもち 要冬青 図 植物、扇骨木科木本、高さ一丈葉面美麗、新芽は赤色にて美、初夏小花を開く、材堅くして扇の原料とせらる。

かなもりりう 金森流 図 出雲寺 後に 茶祖を祖とせる茶家の一流なり。

かなやまびこーのかみ 金山彦神 図 神名 いざなみの神の第二十一子。

かなやまびこーのかみ 金山姫神 図 神名 いざなみの神の第二十一子。

かなりや 福島鳥 図 動物 鳥類、類燕雀の鳴禽なり、初め大西洋中のカナリア島より来る 金雀に似たり、色白黄、羽、脚、尾共に長くして指は前三本後一本なり。

カナリア諸島 Canary Is 図 地名 イスパニア領、アフリカ西北大西洋中の群島、人口凡二十九萬、氣候溫和、砂糖、葡萄酒、煙草を輸出す。

カナン Canaan 図 地名 小亞細亞の一地、西は地中海東はシバの山脈に接す。

訂正 訂正 訂正
カナリア諸島は附箋ノ如ク訂正す

かに 蟹 Crab 図 動物 節足動物、硬殼十脚類、蝦に類す、體扁平、左右各四本の足、二本の缺あり、横に走るに頗る速し、棲息するところ一ならず、又食用となるものあり、なきものもあり。

かにいし 蟹石 図 礦物 蟹の化石せしもの、及此に類す凡ての化石を云ふ。

かにかんたけ 蟹寒嶽 図 地理 膽振國山越郡あ山。

カニシカ Kanishka (Kanerk) 迦賦色迦 図 人名 王、西紀六〇年頃大月氏に君臨し、西印度及其附庸國を統治す最も厚く佛に歸依し五百の僧侶を屬賓に會し第回の結果を開く、是れ佛敎大に振へり。

かににほふ 香匂 図 古語 かをること、香しく匂ふかにののみろ 図 動物 「かに」の肝臓にして、食する時赤褐色の軟き物あるを認むるは即ち是なり。

かにのめ 蟹目 図 古語 かなめに同じ。

かには 樺 図 植物 古語、かにはざくらとも云ひかばのこと。

かにまんじ 蟹滿寺 図 地理 山城國相樂郡棚倉村大字 籍田にある釋尊を安置せる眞言宗の寺なり。

カニン Kamin 図 地名 ロシア北方の一大島、北氷洋上のケスカヤ灣及び白海の間を占む。

カニングム Cunningham 図 人名 スコットランドの僧侶にしてペーリマン派の學識を研究したる人、(西紀一八〇五—一八六一)。

かにーもり 掃部 図 古語、かもんに同じ。一〇三五

かぢち 鍛冶 図 古語 かにに同じ かねうちのこと。

カヌート Canute 図 人名 王、イングランドを征し功ありてデンマルク王に選する、(西紀九九四—一〇三五)。

かーぬま 鹿沼 図 地名 下野國都賀郡にある地。

カヌレイウス Canuleius 図 人名 政治家 ローマの人、トリピン官たり、紀元前四四五年 貴族は平民と結婚するを得、其生子は父系の族籍に従ふべきものとの法律を發布す、氏の提出せるコンスルは平民より撰出するを得との議は大に貴族の反抗を招きたり。

かね 涅齒 図 ねはぐろのこと、齒を黒く金漿にて染む、婦人は大古より、男子は 鳥羽帝の朝より公卿に行はれ、足利時代に至り武士も亦なせり、織田氏に至りて止む。

かねあきらしんわう 兼明親王 図 人名 醍醐天皇第十一子、性英明、文及書を能くし 其名高し、永延元年 二品中務卿にて薨す、後一品を贈らる、前の中書王と申す。

かねうりーきちじ 金賣吉次 図 人名 京都の人 兩替商 陸奥に往く途次 牛若丸に會して之に従ひ、義經と稱せらる。

るや亦從ひて堀彌太郎光景と云ふ。

かねこーちゆうすけ 金子重輔 図 人名 武臣、長門の人毛利氏に仕へ、才畧ありて資性豪蕩不羈、吉田松隆に従ひ米船に投じ、事成らず 捕へられて檻致せらる、安政二年正月歿す。

かねこーのりたか 金子教孝 図 人名 水戸侯郡奉行、攘夷主張論者にて同志を集め 萬延元年三月三日 井伊直弼を櫻田門外に要撃し 京都に遁れ 鳥羽にて捕へられ、文久元年七月二十六日 斬處せらる。

かねーじやく 曲尺 図 かねざしとも云ひ 鯨尺八寸なり

かねつ 過熱 図 化學 強く熱することなり。

かねつけーいし 金付石 図 礦物、試金石に同じ。

かねながしんわう 懷長親王 図 人名 後醍醐帝皇子、延元元年足利尊氏の叛するや 天皇と共に延暦寺に移り給ひ、尊氏降り 天皇還都し給ふに當り吉野に匿れ給ふ 後西征大將軍に拜し 九州を鎮撫せらる 此時我邦外交既に行はれありき。

かねーに 眞直に すぐに等の意、曲に渡すなど云ふ。

かねーにーなる 古語 死すること。

かねーのーしま 鐘島 図 地理 筑前國地島のこと。

かねーのーつる 金蔓 図 一、鐘脈、金銀などの鐘脈、二

錢設の手段。

かねのーみさき 鐘岬 地名 筑前國宗像郡にある岬

昔 三韓より貢せし鐘 此海に沈みしと云ふ。

かねのーのみたけ 金御嶽 地名 大和國金峯山のこと

かねひとーしんわう 懷仁親王 人名 圓融天皇の皇子

母を兼家の女とす、華山天皇の太子、華山帝を強ひて落飾せしめ、懷仁を立て、一條天皇と申す、時に御年七歳。

かねーふき 金吹 俗 金家のこと。

かねんーこうぶつ 可燃物 Combustible minerals 礦物、炭素を含有し、火熱に逢ひて、燃焼する通性のもの。

かねんーせい 可燃性 化學 燃へ得べき性質を言ふ、之は通常、空中にて言ふものなり。

かねんーたい 可燃體 化學 燃へ得るものを言ふ。

かのう 獨木舟 舟 うつるふね、大なる木のうちを剝り抜きて造りたる船。

かのうーうたのすけ 狩野雅樂助 人名 畫家、元信の弟、朝隱と號す、花鳥人物に巧み、文龜年中歿す(三十九)

かのうーいさく 狩野永徳 人名 畫家、元信の曾孫、織田信長に仕へ、法師に進む、秀吉に仕へ、豊樂堂、大阪城の金壁、桃山御殿の百双屏風を畫く、天正十八年歿す。

かのうーさん 化濃菌 植物 バグテリアの一種 動物

なる、延徳二年七月九日 年九十七を以て歿す、七、元信 畫家、正信の長子、永仙、玉川と號す、周文、小栗宗丹に學び、幼にして神童と稱せらる、最も花鳥人物に巧み、眞に神に迫る感あり、足利義澄に仕へ近侍たり、古法眼と稱し、狩野家の泰斗たり、七、佐光信、釋雪舟と共に、本朝畫伯の三傑たり、永祿二年 年八十四を以て歿す、八、安信 畫人、孝信の三男、探幽の弟、秀忠に仕へ、治部卿法眼に叙せられ、申橋狩野の祖、貞享二年七十三にて歿す。

聚樂殿

體中化膿を發する所に 必ず存在す 自然化膿諸症に於て然りとす。

かのうーさん 鹿野山 地理 上總國周准郡西境にある山、古刹神野寺此山中にあり。

かのうーし 狩野氏 人名 此姓を有する人多し、一、山雪、畫家 京都の人、秀閨雅致にて、宋人牧溪の筆意あり、慶安四年 六十三にて歿す、二、山樂、畫家、近江國蒲生郡の人、永徳に畫を學び、此風あり、羽柴秀吉に仕へ近侍たり、寛永十二年八月四日京に歿す、三、探幽 畫人 銀治橋狩野の祖、狩野派中の絶代の名手、孝信の子、守信と號す、宮内卿法印たり、宋人牧溪、宋元の古蹟を慕ひ、雪舟の筆意を學ぶ、徳川家康 秀忠に寵せられ、銀治橋外に宅を賜ふ、寛文二年仙傳御所にて、太上天皇の尊影を拜寫す、延寶二年 七十三を以て歿す、四、洞雲、畫家、後藤立乗の三男、十一歳にて探幽の養嗣子となり、家光に寵を受け、法眼となる、駿河臺狩野の祖、元祿七年 年七十歿す、五、尙信 畫人、守信の弟、自適齋と號す、奇韻雄拔父兄に勝るところあり、家光に寵せらる、木挽町狩野の祖慶安三年 年四十四を以て歿す、六、正信、畫人、狩野家の開祖、伊豆國加茂郡狩野村の人、景信の長子、如雪、周文に學び、一家をなす、筆法適意定法なく、天下の畫伯と

洞

辞、如ク印刷スベシ

地名、インドのカンブリアの北四〇哩ガンガ河畔の一町、人口一萬七千あり。

カノサ Canosa 地名 ホロニア西北の一市邑、西紀一〇七七年ヘンリ四世 洗足のまま雪中に立つこと三日 哀願の結果 法皇グレゴリー七世に破門を免除せられし地。

かのーしほちがーむかひのーつりぶね 彼の新發意が迎の釣舟 回 しほちは前播磨守明石入道のこと、源氏の君、須磨の風雨に惱み給へるをりから 明石の入道 船よそひして迎へ奉るを云ふ。

カノバ Canova 人名 彫刻家、イタリヤのアントニオカノバなり、其製作物は非常高價、此が爲め大に富を爲せり、(西紀一七五七—一八二二年)。

かーは 反動の意を示す辭、かは疑辭、はは感歎。

かは 皮 植物 植物の表面又は機關の表面を言ふ、

かば 樺 植物 植物の表面又は機關の表面を言ふ、

白色、其下に美麗なる茶色斑點あり、初夏細小白花を咲く冬季實熟す、東北地方に産し、皮は屋根を葺き、材はかんばん、かにはと云ふ。

カーバ Kaaba 地理 アラビヤの聖廟、メッカにありて回々教の寺院、キリスト教徒に對するセルサレムにて四方より巡禮者集り來る。

錢設の手段。

かねのーみさき 鐘岬 地名 筑前國宗像郡にある岬

昔 三韓より貢せし鐘 此海に沈みしと云ふ。

かねのーのみたけ 金御嶽 地名 大和國金峯山のこと

かねひとーしんわう 懷仁親王 人名 圓融天皇の皇子

母を兼家の女とす、華山天皇の太子、華山帝を強ひて落飾せしめ、懷仁を立て、一條天皇と申す、時に御年七歳。

かねーふき 金吹 俗 金家のこと。

かねんーこうぶつ 可燃物 Combustible minerals 礦物、炭素を含有し、火熱に逢ひて、燃焼する通性のもの。

かねんーせい 可燃性 化學 燃へ得べき性質を言ふ、之は通常、空中にて言ふものなり。

かねんーたい 可燃體 化學 燃へ得るものを言ふ。

かのう 獨木舟 舟 うつるふね、大なる木のうちを剝り抜きて造りたる船。

かのうーうたのすけ 狩野雅樂助 人名 畫家、元信の弟、朝隱と號す、花鳥人物に巧み、文龜年中歿す(三十九)

かのうーいさく 狩野永徳 人名 畫家、元信の曾孫、織田信長に仕へ、法師に進む、秀吉に仕へ、豊樂堂、大阪城の金壁、桃山御殿の百双屏風を畫く、天正十八年歿す。

かのうーさん 化濃菌 植物 バグテリアの一種 動物

なる、延徳二年七月九日 年九十七を以て歿す、七、元信 畫家、正信の長子、永仙、玉川と號す、周文、小栗宗丹に學び、幼にして神童と稱せらる、最も花鳥人物に巧み、眞に神に迫る感あり、足利義澄に仕へ近侍たり、古法眼と稱し、狩野家の泰斗たり、七、佐光信、釋雪舟と共に、本朝畫伯の三傑たり、永祿二年 年八十四を以て歿す、八、安信 畫人、孝信の三男、探幽の弟、秀忠に仕へ、治部卿法眼に叙せられ、申橋狩野の祖、貞享二年七十三にて歿す。

聚樂殿

體中化膿を發する所に 必ず存在す 自然化膿諸症に於て然りとす。

かのうーさん 鹿野山 地理 上總國周准郡西境にある山、古刹神野寺此山中にあり。

かのうーし 狩野氏 人名 此姓を有する人多し、一、山雪、畫家 京都の人、秀閨雅致にて、宋人牧溪の筆意あり、慶安四年 六十三にて歿す、二、山樂、畫家、近江國蒲生郡の人、永徳に畫を學び、此風あり、羽柴秀吉に仕へ近侍たり、寛永十二年八月四日京に歿す、三、探幽 畫人 銀治橋狩野の祖、狩野派中の絶代の名手、孝信の子、守信と號す、宮内卿法印たり、宋人牧溪、宋元の古蹟を慕ひ、雪舟の筆意を學ぶ、徳川家康 秀忠に寵せられ、銀治橋外に宅を賜ふ、寛文二年仙傳御所にて、太上天皇の尊影を拜寫す、延寶二年 七十三を以て歿す、四、洞雲、畫家、後藤立乗の三男、十一歳にて探幽の養嗣子となり、家光に寵を受け、法眼となる、駿河臺狩野の祖、元祿七年 年七十歿す、五、尙信 畫人、守信の弟、自適齋と號す、奇韻雄拔父兄に勝るところあり、家光に寵せらる、木挽町狩野の祖慶安三年 年四十四を以て歿す、六、正信、畫人、狩野家の開祖、伊豆國加茂郡狩野村の人、景信の長子、如雪、周文に學び、一家をなす、筆法適意定法なく、天下の畫伯と

洞

辞、如ク印刷スベシ

地名、インドのカンブリアの北四〇哩ガンガ河畔の一町、人口一萬七千あり。

カノサ Canosa 地名 ホロニア西北の一市邑、西紀一〇七七年ヘンリ四世 洗足のまま雪中に立つこと三日 哀願の結果 法皇グレゴリー七世に破門を免除せられし地。

かのーしほちがーむかひのーつりぶね 彼の新發意が迎の釣舟 回 しほちは前播磨守明石入道のこと、源氏の君、須磨の風雨に惱み給へるをりから 明石の入道 船よそひして迎へ奉るを云ふ。

カノバ Canova 人名 彫刻家、イタリヤのアントニオカノバなり、其製作物は非常高價、此が爲め大に富を爲せり、(西紀一七五七—一八二二年)。

かーは 反動の意を示す辭、かは疑辭、はは感歎。

かは 皮 植物 植物の表面又は機關の表面を言ふ、

かば 樺 植物 植物の表面又は機關の表面を言ふ、

白色、其下に美麗なる茶色斑點あり、初夏細小白花を咲く冬季實熟す、東北地方に産し、皮は屋根を葺き、材はかんばん、かにはと云ふ。

カーバ Kaaba 地理 アラビヤの聖廟、メッカにありて回々教の寺院、キリスト教徒に對するセルサレムにて四方より巡禮者集り來る。

かはらうま 河馬 Hippopotamus 動物 哺乳類 海

産有蹄類、長さ一丈二尺、肩高四尺五寸、全形象或は豺に似て頭長方形、耳介及眼は小、口及上唇大、頭と四肢は太く短、尾は一尺三寸、犬歯一尺八寸、三ギログラムあり、脊部は帯褐色、腹面薄し、鳴聲馬の如く、異質、木根を食とす。

かはらむら 水獺 Intra or Otter 動物 哺乳類、肉食類、長さ二尺四寸、尾長一尺二寸、頭は平短、耳は圓く毛皮は短く密生する毛を有す、脊部は帯白灰褐色、趾間に蹼あり、蹼の裏は裸出す、多く池端の孔中に棲み、夜間出でて魚を捕食す。

かはらろし 川蔵 川はわらし 川上より吹きくるわらさ風。

かはららす Circaea 動物 鳥類、鳴禽類、六寸程の大さ、嘴細長くて先端圓り、翼尾甚だ短かし、脊面灰黑色、頭褐色、咽喉部及前胸部白色、後胸部褐色、腹部鼠色、蹼なくして水中に入る。

かはかりがみしま 蒲刈上島 地理 安藝國東南方の海中にある島、三町西に蒲刈下島あり。

かはさぎす 川雉子 動物 古語かはすのこと。

かはきたーたんさん 河北温山 人名 儒者、島原の藩

か 四百九十二

士、重喜と云ふ、參政に擧げらる 温山文集三卷を著す。

かはらぐち 河口 一、River mouth 地名 江口、入江、川水の海に注ぐ處、二、催馬樂の呂の曲名、三、武藏國北足立郡川口にて鑄造する鐵器なり。

かはらちーちやうじゆ 河口長橋 人名 儒者、水戸の藩士、聖廟と字し三省と號す、天保五年 年六十三歿す 臺灣紀事、征韓偉略の著あり。

かはらちーのーみづらみ 川口湖 地理 甲斐郡留郡川口の南にありて富士八湖の一なり、四里十八町の周圍なり

かはらくま 川隈 古語 かはわ、川の曲り流るる所。

かはらげら 石蛸蛉(いしとんば) 動物 節足動物の一綱昆蟲類、體扁平にて整長なり、左右兩側平行す、胸部大形 觸角長く、尖端多節なり、多く池沼河海の石下に幼蟲時期を送り、出でて周邊を飛翔す。

かはらごに 川越 地名 武藏國入間郡にありて松井氏の舊藩地、今は埼玉縣に屬し、甲武鐵道の停車場あり。

かはらさき 川崎 地名 武藏國橋本郡の一市邑、東海道鐵道の停車場、大森間の電鐵、弘法大師を祀れる神社等ありて繁盛の地なり。

かはらざくら 樺櫻 染色、表の薄蘇芳、裏の濃蘇芳のもの。

かばーさん 加波山 地名 常陸國眞壁郡にあり、新治郡に跨り、筑波、阿州と共に三山と稱す、明治二〇年隕暴の徒集りて 三條實美の日光參詣の歸路を扼し 爆發彈を以て狙撃せむとして果さざりき。

かはーしば 川柴 古語 水邊に生ひたる柳、あしの類

かばーしま 樺島 地理 肥前國西南方海中の一島。

かばしまーこうれい 樺島公禮 人名 儒者、久留米侯に仕ふ、字は世儀、石梁或は萬年と號す、紀如來の門下、文政十年十二月 年六〇餘歿す。

かはしまーのーわつじ 河島皇子 人名 天智天皇の皇子、天資温雅清秀、學才あり 天武帝九年 勅を蒙り 忍壁親王と共に 帝紀及古事を撰す、持統帝五年薨す。

かはす 交 國一、交換する、二、混合する、三、軽く身をひるがへすこと。

かはすかぎ 川葦 竹にてあみたるしがらみ、流水を防ぐ。

かはすみーしんごらう 川澄新五郎 人名 劍客、江戸の人、寶山、大東、當流の劍法を學び、三義明致流の祖たり、天保二年歿す。

かはすひーぐさ 川添草 植物 古語 やなぎのこと。

かはたけーしんしち 河竹新七 人名 狂言作者、江戸

の人 通稱進三、俳名能進、寛政七年 年四十九歿す。

かはーせび 川蟬 Kiritether 動物 鳥類、鳴禽類、(叫禽類)、嘴甚大、頭より長し 體長五寸、翼長二寸、脊面緑青色、其中央及臀部は青色なり、腹面は薔薇色、咽喉部帯白色、脚赤色、山中閑靜の河邊に住み 突然魚を捕へて食す。魚狗、しようびん、かはすすめの類なり。

かはたーがう 川田剛 人名 儒者、備中阿賀崎の人、藤森天山、安井息軒等に學び、經書に明、文章に巧み、明治初修史局一等編纂官、宮内省に出仕して大學教授たり 文學博士となり、明治二十九年二月二日病歿す。

かはーたれーごさ 彼者誰時 古語 黄昏、薄暮の時刻のこと、金星の曉天に見ゆるとき彼者誰星と稱す。

かはーちさ 川 植物 水蒿 科草本、葉は川柳の如く互生、薄くして寒冷となれば紫色を呈す、莖は圓形、四月頃 桃色の花を開く。

かはちーひーのり 川路聖謨 人名 徳川幕府勘定奉行 嘉永六年魯艦長崎に来るや 使節と會見して大に論じ、辭屈して還らしむ、老中阿部正弘と意あはず自宅に閉居す、

芭

明治元年三月十五日 世事の懐慨の結果自殺す、年七十二

かはちーとしよし 川路利良 人名 鹿兒島の藩士、伏見、鳥羽、上野、會津の諸役を鎮定す、明治五年各國警察制度の視察の爲め歐米に渡航し、歸朝して東京警視廳、府縣に警察署を設け、巡查を置き、司法行政の區別を立つ、明治十年陸軍少將征討旅團司令長官となり、西下して賊の根據地を奪ひ、再び歐米に渡らむとして途に病歿す。

かはちーのくはに 河内國 地名 畿内五國の一、十六郡より成り 大阪府に屬す。

かはちーのふひとべ 西史部 王仁の後裔にして、河内に居り、文事を司りたり。

かはいつ 川津 古語 舟をつなぐべき河岸。

かはづーすけやす 河津祐泰 人名 水性工藤 父祐親 伊東氏を冒す、父と工藤祐經の采地につき、不和を生じ、頼朝の富士野に獵せしとき、祐經は八幡某をして、赤山に祐泰を襲撃せしむ、祐泰の二子十郎五郎ありて曾我氏を冒す。

かはづーなく 蛙鳴 蛙かみなびがはににかけて云ふ、これ蛙は山川に住む故なり、又あでにかく。

かはーと 川門 古語、河瀬の水 一になりて流るる狹きところを云ふ。

カバドキア

Kapadokia 地名 小アジア東部の古州 エウフラトの西、キルキア北、山嶽横斷せる高地、西紀一七年ローマプロビンスとなり今はアジアトルコに屬す。

かはーな 川菜 植物 海藻類、海苔類、かはあをのりの古名。

かはなかしま 川中島 地名 信濃國筑摩川(千曲)と犀川の間にありて天文二十三年武田信玄と上杉謙信と激戦せし古戰場なり。

かはなべーげうさい 河鍋曉齋 人名 畫工、下總古河の人、畫を狩野洞白に學び、筆力縦横遒勁、遂に一家をなす、イギリス人コンテエル氏之に師として學ぶ、これ畫工にして外人の師となりし始めとす、明治廿二年 年五十九を以て歿す。

かはーなみ 川並 古語 かはそひに同じく 川邊に並列すること。

かはね 加藤彌 株根の義にて 古門閥を區別せしもの

九恭帝の時、臣、連、直、首等を賜ひ 天武帝に至り、真人、朝臣、宿禰、忌寸、道師、臣、連、稻置の八級を定めらる。

かはーねずみ 水鼠 Sorex 動物 哺乳類、食蟲類、内

外の構造殆んど 鼠に似たれども 口吻突出し、足に游泳

かはべーもとし 河邊元善 人名 水戸の人、文久二年正月十五日 安藤信正を坂下門に襲撃して事成らず、萩藩に投じて自殺しぬ。

かはーほね 川骨 萍蓬草 Naphar Japonicum De 植物 睡蓮科草本、多年生水草、花黄色、蜂及甲蟲媒花 根 莖甚だ大なり。

かはーぼら 川鱸 動物 魚類、鱸族、水産にて 海産のものに比して體扁圓 色は赤を帯ぶ。

かはーほり 蝙蝠 一、動物 かうもりの古語、二、あふきの古語、これ その開きたる形 かはほりの翅の如ければなり。

かはむらーすけけん 河村瑞軒 人名 通稱平太夫、伊勢度會郡の人、性敏捷、機智に富む、市人の流せし瓜茄子を鹽漬にして利を得、木曾山の木材を買ひ 江戸の大火事に供して巨利を占め、將軍綱吉の時 奥羽江戸間の航路を安全にし、淀川、長柄、中津等の諸川を治めたり、又當時 江に於ける藏書家にして新井白石も借覽せしと云ふ、元祿十三年六月 年八十三を以て歿す。

かはむらーすけけん 河村純義 人名 鹿兒島藩士、戊辰の役奥州各所に功を奏し 明治十年西南役に參謀となり 功ありて勳一等に叙せられ 十七年伯爵、翌年樞密顧問官

業

毛を具へ 尾下側に長毛を有す、川池の畔に棲み 水中に潜行して小魚を捕へ食す。

かはねーな 骨名 姓氏のこと、昔 諸氏職業を世襲し別に官職の名を有せず、職業を以て家號とせしを云ふ。

かはーのーくわんじや 冠者 人名 源範賴のこと、蒲は範賴の生地 遠州の蒲御厨 冠者は元服して冠を加へたる若者のこと。

かはーはぎ 皮剥 かはばう いたのことにて 動物の皮をむきとる如き下賤の人を云ふ。

かはーはぎ 鱒魚 Arcaea aculeata 動物 魚類、固類類、東海に多く 近海の岩礁間海藻繁茂せる場所に棲み 五寸内外の長さ 縦扁にして皮膚は粗造、小鱗あり 甚だ見惡し 食するときは皮を剥くを以て名あり。

かはーはぎ 樺削 樺の皮もて 矢のはぐきを卷きたるもの。

かはーばらへ 川板 大板に同じ。

かはーばらへ 太山系 Saghalien mountain system 地名 太島に起り 東南に向ひて延長し 本邦の北部に縦走し 崑崙山脉に衝突する山系なり、火山に富む。

かはーばらへ 太山系 Saghalien mountain system 地名 太島に起り 東南に向ひて延長し 本邦の北部に縦走し 崑崙山脉に衝突する山系なり、火山に富む。

かはーばらへ 太山系 Saghalien mountain system 地名 太島に起り 東南に向ひて延長し 本邦の北部に縦走し 崑崙山脉に衝突する山系なり、火山に富む。

かはーばらへ 太山系 Saghalien mountain system 地名 太島に起り 東南に向ひて延長し 本邦の北部に縦走し 崑崙山脉に衝突する山系なり、火山に富む。

かはーばらへ 太山系 Saghalien mountain system 地名 太島に起り 東南に向ひて延長し 本邦の北部に縦走し 崑崙山脉に衝突する山系なり、火山に富む。

かはーばらへ 太山系 Saghalien mountain system 地名 太島に起り 東南に向ひて延長し 本邦の北部に縦走し 崑崙山脉に衝突する山系なり、火山に富む。

かはーばらへ 太山系 Saghalien mountain system 地名 太島に起り 東南に向ひて延長し 本邦の北部に縦走し 崑崙山脉に衝突する山系なり、火山に富む。

かはーばらへ 太山系 Saghalien mountain system 地名 太島に起り 東南に向ひて延長し 本邦の北部に縦走し 崑崙山脉に衝突する山系なり、火山に富む。

かはーばらへ 太山系 Saghalien mountain system 地名 太島に起り 東南に向ひて延長し 本邦の北部に縦走し 崑崙山脉に衝突する山系なり、火山に富む。

かはーばらへ 太山系 Saghalien mountain system 地名 太島に起り 東南に向ひて延長し 本邦の北部に縦走し 崑崙山脉に衝突する山系なり、火山に富む。

となり、明治三十四年皇孫迪宮殿下 御降誕なるや 御養育主任仰付られ 三十七年八月十二日薨す。

かはら 夏半 〇 曆語 陰曆四月のこと。

かはら 加判 〇 一、證書に己の印と 人の印と共に押して保証すること、二、徳川幕府の執政に列すること。

かはら 加番 〇 役名 徳川幕府の 大阪及駿府に置きし役、大阪にては四方の守衛、市街巡視を司る、駿府にては城代の補佐、大小名此が任に當る。

かはら 河邊現岳 〇 人名 欽明天皇二十三年 紀男醫に從ひ新羅に渡りて之を征せし人。

かはら 河本杜太郎 〇 人名 越後魚沼郡 十日市の人、經史を吉野金陵に學び、劍道を伊庭軍兵衛に學ぶ 帝室の式徴を概し、和宮降嫁を聞きて尙憤慨し、文久二年正月十五日 安藤信正を阪下門に要撃して成らず、年に時二十二なりき。

かはら 川村幸民 〇 人名 西洋機械を始めて我邦に紹介したる人、江戸に生れ、醫を業とす、理化學に通じ、安政六年頃親しく和蘭人に就て研究せり、氣海親淵廣義、理學原始、地理説、遠西奇器述等の著あり、遠西奇器述には寫眞器、蒸氣機、蒸氣車を説明しあり、

かはら 川柳 〇 ねもころにかけて云ふ、これ 川柳の根と云ふ意なり。

かはら 鹿兒島藩士、維新の際功あり、日清の役又大功あり 海軍、内務、文部の諸大臣を經 現に從二位勳一等功二級伯爵海軍大將たり 明治三十七年十月 樞密顧問官となる。

かはら 古語 かはは映の意、一、はづかし、二、あはれむべし、氣の毒、三、かはゆらし。

かはら 地名 豊前國豊津の古名なり。

かはら 古語 清らかに、爽かになどの意。

かはら 土器 〇 瓦筒の義、一、土焼陶器の未だ釉薬をかけぬもの、二、土焼製の酒杯を云ふ。

かはら 川原毛 〇 體白色 土器の如き色ある馬の毛略にも作る。

かはら 山豆 〇 植物 荳科草本、葉は羽狀複葉、花は黄色、嫩葉を乾かし 茶の代用とす、九州地方に多く産す。

かはら 土器菜 〇 植物 草本 圓形の葉 青白色 五瓣花、春七種の一なり、多く地に叢生す。

かはら 川原柴期 〇 植物 草本、葉人參の如く裏面白色黄色、五瓣花をさく、うらしろの類。

かはら 河原の大宮 〇 人名 近衛帝の后

かはら 鹿兒島藩士、維新の際功あり、日清の役又大功あり 海軍、内務、文部の諸大臣を經 現に從二位勳一等功二級伯爵海軍大將たり 明治三十七年十月 樞密顧問官となる。

かはら 古語 かはは映の意、一、はづかし、二、あはれむべし、氣の毒、三、かはゆらし。

かはら 地名 豊前國豊津の古名なり。

かはら 古語 清らかに、爽かになどの意。

かはら 土器 〇 瓦筒の義、一、土焼陶器の未だ釉薬をかけぬもの、二、土焼製の酒杯を云ふ。

かはら 川原毛 〇 體白色 土器の如き色ある馬の毛略にも作る。

かはら 山豆 〇 植物 荳科草本、葉は羽狀複葉、花は黄色、嫩葉を乾かし 茶の代用とす、九州地方に多く産す。

かはら 土器菜 〇 植物 草本 圓形の葉 青白色 五瓣花、春七種の一なり、多く地に叢生す。

かはら 川原柴期 〇 植物 草本、葉人參の如く裏面白色黄色、五瓣花をさく、うらしろの類。

かはら 河原の大宮 〇 人名 近衛帝の后

柳の根と云ふ意なり。

かはら 鹿兒島藩士、維新の際功あり、日清の役又大功あり 海軍、内務、文部の諸大臣を經 現に從二位勳一等功二級伯爵海軍大將たり 明治三十七年十月 樞密顧問官となる。

かはら 古語 かはは映の意、一、はづかし、二、あはれむべし、氣の毒、三、かはゆらし。

かはら 地名 豊前國豊津の古名なり。

かはら 古語 清らかに、爽かになどの意。

かはら 土器 〇 瓦筒の義、一、土焼陶器の未だ釉薬をかけぬもの、二、土焼製の酒杯を云ふ。

かはら 川原毛 〇 體白色 土器の如き色ある馬の毛略にも作る。

かはら 山豆 〇 植物 荳科草本、葉は羽狀複葉、花は黄色、嫩葉を乾かし 茶の代用とす、九州地方に多く産す。

かはら 土器菜 〇 植物 草本 圓形の葉 青白色 五瓣花、春七種の一なり、多く地に叢生す。

かはら 川原柴期 〇 植物 草本、葉人參の如く裏面白色黄色、五瓣花をさく、うらしろの類。

かはら 河原の大宮 〇 人名 近衛帝の后

かはら 鹿兒島藩士、維新の際功あり、日清の役又大功あり 海軍、内務、文部の諸大臣を經 現に從二位勳一等功二級伯爵海軍大將たり 明治三十七年十月 樞密顧問官となる。

かはら 古語 かはは映の意、一、はづかし、二、あはれむべし、氣の毒、三、かはゆらし。

かはら 地名 豊前國豊津の古名なり。

かはら 古語 清らかに、爽かになどの意。

かはら 土器 〇 瓦筒の義、一、土焼陶器の未だ釉薬をかけぬもの、二、土焼製の酒杯を云ふ。

かはら 川原毛 〇 體白色 土器の如き色ある馬の毛略にも作る。

かはら 山豆 〇 植物 荳科草本、葉は羽狀複葉、花は黄色、嫩葉を乾かし 茶の代用とす、九州地方に多く産す。

かはら 土器菜 〇 植物 草本 圓形の葉 青白色 五瓣花、春七種の一なり、多く地に叢生す。

かはら 川原柴期 〇 植物 草本、葉人參の如く裏面白色黄色、五瓣花をさく、うらしろの類。

かはら 河原の大宮 〇 人名 近衛帝の后

かはら 鹿兒島藩士、維新の際功あり、日清の役又大功あり 海軍、内務、文部の諸大臣を經 現に從二位勳一等功二級伯爵海軍大將たり 明治三十七年十月 樞密顧問官となる。

かはら 古語 かはは映の意、一、はづかし、二、あはれむべし、氣の毒、三、かはゆらし。

かはら 地名 豊前國豊津の古名なり。

かはら 古語 清らかに、爽かになどの意。

かはら 土器 〇 瓦筒の義、一、土焼陶器の未だ釉薬をかけぬもの、二、土焼製の酒杯を云ふ。

かはら 川原毛 〇 體白色 土器の如き色ある馬の毛略にも作る。

かはら 山豆 〇 植物 荳科草本、葉は羽狀複葉、花は黄色、嫩葉を乾かし 茶の代用とす、九州地方に多く産す。

藤原多子の坐せし鷹司の下 近衛通の東の宮所を云ふ 多子は公能の女にて頼長の養女となり 二條帝に召さる。

かはら 河原左大臣 〇 人名 嵯峨帝第十七子 源融なり 弘仁五年源姓を賜ひ、從一位左大臣となり 寛平七年 年七十四にて歿す、東六條河原院にありし故 かく申す。

かはら 河原院 〇 源融の東六條に建造せしもの、臺閣泉石共に巧を極む。

かはら 鷓鴣 Calumba domestica Gmel 〇 動物 鳥類、鳩鴿類、家鳩の野生したるもの。體長六寸餘、嘴青黄色にて根は暗肉色、背部の下面并に翼の下面を蔽ふ毛は帶青灰色、翼上に唯一の聯絡せる黒斑よりなる横の飾帶あり、尾端青色なり、性温和、飛翔力強し。

かはら 瓦窓繩樞、瓦繩樞 〇 竈家の樞を形容す、賈誼過秦論に「陳涉 瓦繩樞之子、氓隸之人也」とあり。

かはら 瓦製のとび。 〇 瓦製のとび。

かはら 川原鱒 〇 動物 鳥類、ひわの一種、多く水邊に群飛す、頭脊共に鼠色 脊頭に黒色斑點あり、腹部白、翼は交黄青黒色なり、其鳴くや 朗らなり。

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

かはら 川原藤 〇 植物 藤科木本、樺木、幹、いは

數馬及荒本又

灌

蛾

か 四百九十七

寛永七年渡邊數馬の弟源太郎を殺して寶刀を奪ひ 其十一
月 伊賀國上野にて 數馬 死木又右衛門に殺さる。

かはなざ 川長 古語 川を守る人。

かはな 川瀬 動物 哺乳類、食肉類、鼬鼠族、頭
及身は平、嘴尖り 四足短く
蹠ありて能く水中に潜り魚類を
食す、全身毛は柔軟にして細く
衣服の料とす、背部は暗褐色腹
部は淡薄なり、其肉食用に供し 又薬用となる。

かはなち 川遠 古語 川のむかひ岸、川を隔てて遠
くのごむ方。

かひ 卵 古語 たまご、かひこなどの意。

かひ 映 古語 はさまの意にて 山と山との間。

かひ 假皮 False-Bark 植物 内長莖植物の木皮状
のものなり。

かひ 鹿火 古語 一、鹿又は猪を追ひやる爲め 假
小屋にて焚く火なり、二、かやりびのこと。

かひ 眉 一、美人の形容、**眉**の眉は細くて長く曲
れる故なり、二、支那の眉山を云ふ。

かひ 黴菌 植物 下等菌類、發育器官は無色の菌絲、
其繁殖最も甚だし 果物、靴 菓子等に密生し、有柄黒色
の球状を生ず 則ち子囊にして此中數多の胞子を藏す、子
囊成熟破裂すれば 胞子飛散し 再び菌絲を生ず 斯の如
くにして繁殖するものなり。

かひ あはせ 貝合 中古 婦人間に行はれし遊戯にて
三百六十七個の貝を以て 歌かるた、給合せなどの如くす。

かひ がごものぶ 貝賀友信 人名 赤穂四十七士の一
人、本姓吉田彌左衛門、淺野長矩に仕へ、真雄に信任せら
れ復讐を遂ぐ 元禄十六年二月四日 死を賜ふ、年五十四

かひ がね 貝鉦 昔 陣中に用ゐし貝鉦なり。

かひ がね 甲斐根 古語 甲斐の高山の意にて 白
根山か 富士山の内なり。

かひ がは 甲斐川 地理 伊勢國鈴鹿川のこと。

かひ かねもーんじぬーんじ 貝鐘も聞ぬ處 人名
寺巨利のなき地、これ 貝も鐘も寺院にて鳴らすものなれ
ばなり。

蛾

かひがねーなーさやにもーみしが 甲斐が嶺を爽にも見しが
見しかば見たきものなりとの意、古今集中の歌にあり
甲斐の山を見むとするに 心なく佐夜の中山が横になりて
見ぬことより云ひしなり。

かひがひし 甲斐甲斐し 一、忠實なること、**ま**
まめしきこと、二、ささまし 詮わりけなりとの意。

かひぐら 貝鞍 武器 青貝などを塗り籠めたる鞍。

かひげ 匙筈 底の淺き柄杓なり。

かひこ 蠶 Bombyx mori, L. or Silk worm 動物
昆蟲類、鱗翅類、温帯地方に飼養せらる、完全變態をなす
幼虫期は桑葉を食し 四眠の後繭を作りて蛹となり 更に
羽化して蛾となり 雌は交接、産卵の作用により體衰へ死
す雄は交接終りて死す、繭は絹絲の原料に高貴のものなり

かひこーのーうじ 蠶の蛆 Bani 動物 昆蟲類、二翅
類、體長四五分、蠶繭より出で、大に養蠶に害をなす。

かひさん 眉山 地名 一、支那四川省嘉定州眉縣
の南百里にある山、二、豊後國文珠山のこと。

かひしやらてう 迦頻閣羅鳥 動物 鳥類 梵語のき
しの謂なり。

かひーだま 撒網 水をすくひて小魚を捕ふるさでのこ
と。

かひたん 加比丹 甲必丹 德川時代 商船の長を云ひ
たり、蘭語の Capitan より來りしもの。

かひらう 假皮層 False bark or Rind 植物 單子
葉莖に於ける維束の 葉より入り
來るものの中 最も肥大せるものは
深く内部に入り 再び彎曲して外方
に向ひ 漸次狭細となり 遂に表皮
下に達すれば末端相網羅して皮膚の
状を爲すものこれなり。

かひたゆし 腕弛 古語 かひたるしとも云ふ、一、
腕の疲勞すること、二、身體の疲れたること。

かひつぶり 動物 鳥類 常に湖池にありて
小魚を捕食す。

カピトリーのなか Capitoliu's hill 地名 ロー・セ
丘の一、カピトル廟のある地。

かひたる Caniole 植物 カピトリの丘上に在る聖廟にして
タルキンの建てたるものなり。

かひなりがた 貝形状 德川時代に 三の間以上の奥
女中の用ゐし筭の一種。

かひのくじ 甲斐國 地名 東海道十五國の一、海
に面する地なし 九郡より成り 山梨縣に屬す。

かひーのーはしら 貝柱 一、ばか貝の柱、二、介殻類の両殻片を結ぶ一種の太き筋にて 蛤 ばか貝などのものは美麗なり。

かひばーきり 飼葉切 草刈鎌のこと、又刃物を仰向にし其上に 飼葉をのせて切る器械を云ふ。

かひやう 餓孚 飢死したる人。

かひよ 鹿の鳴く聲。

かひらぎ 梅花皮 短刀、盆踊の時、兒童のさしたるものなり。

かひらぎーのーたぎ 梅花皮瀑 地理 羽前國置賜郡小玉川村にある瀑、高さ二〇丈、幅二間餘。

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

カヒラバ 迦毘羅跋 地名 釋迦の生地

かーふ 家扶 親王家 華族の家臣にて 家令の次席 家従の上位、家事の一部を司る役。

かーぶ 歌舞 歌ひ 舞ふことにて 本邦は神代よりわ

り、神武帝は軍陣に用ゐて士氣を鼓舞し、崇神帝は神宴に

用ゐて神人を調和し給へり、衆舞、牟人舞、倭舞、神樂等

の名ありき 後吳樂、隋唐の樂も入り來れり。

かーふ 樂府 詩の一種、昔支那漢武帝に始り武帝に廢

れし漢詩なり、三、五などの句を用ゐる 一種の格に作る。

かーふ 合 數學 一、樹目を數ふ、一升の十分の一、一

勺の十倍に當り、二、一坪の十分の一、一勺の十倍なり。

カプア Capua 地名 インドのチーブルスの北方二十

五哩カンパニアの都城、バルタルノ河畔にあり、西紀前二

一六年ハンニバルの市民請願に應じて カンチ戦争の冬期

を此地に休し 將卒士氣を失し 遂にローマに降り、紀元

八十四年 サラセン人に破れし地なり。

カプアス Kapus 地名 一、ホル子オの川、源をセリ

アセラタスに發し、西流してシラハ海に入る、二、ホル子

オの西海岸にあり一邑なり。

かーふつ 甲越 甲越の兵 甲越の軍の意にて、甲斐

の武田信玄、越後の上杉謙信を云ふ。

かーふん 珈琲素 化學 茶素に同じ。

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

カフリン

かぶとーだに 加太谷 地名 伊勢國鈴鹿郡鈴鹿山にあ
る谷なり。

かぶとーぢけ *Sticta pulmonaria, Sch.* 植物 地衣類、
別層地衣區の葉狀地衣族の植物
深山の樹皮に附着す、葉狀部を
横斷して 檢すれば 髓絲層と
緑 髓層を明に區分し、雌雄器は
葉狀體上に在るを見るなり。

かぶとーのななしむ 縮兜
緒 回 油斷せざるごと。

かぶとーむし 兜蟲 動物 甲虫類 翼翅類、長さ二寸
許 全身栗色 六脚あり 甲は堅く 翅あり 晝隠れ 夜
出で飛ぶ。

かぶのーうら 河野浦 地名 越前國南條郡の西方にあ
る浦。

かぶふ 甲府 地名 甲斐國府中のこと、山梨縣廳の
所在地なり。

かぶふーさいしやう 甲府宰相 人名 徳川綱吉のこと

かぶふーちゆうなごん 甲府中納言 人名 徳川家宣の
こと。

かーふん 花粉 Pollen 植物 雄蕊内の細微の粉末

薬

かぶら 蕪菁 *Brassica campestris* 植物 十字科草本
葉形大にて分裂す、黄色花を咲き 根頗る肥大なり、煮物
漬物として食用とす、コカブ、テンノーシカブ ムラサキ
カブ等種々あり。

藤

かぶらーしげとう 蕪重藤 武器 弓の名 重藤の弓の
蕪形に捲きたるもの。

かぶらーとう 鏑 武器 弓の上下両部に捲きたる藤
かぶらーや 鏑矢 武器 鏑の類 鳴鏑とも云ひ、木に
て蕪根形状に作り 三個の穴をわけ 之を射るとき 音を
發す。

かぶらーをり 鏑 矜にも作る 鏑矢の乳を煮るもの
にて 頭の曲りたる鑿なり。

カブラリア *Katrania* 地名 アフリカ南端の豊饒なる
地 ケープ殖民地、ズララント及ナタルを含む、廣さ八〇
一九〇哩 面積二萬方哩 人口十萬、アラビア人カブアル
人の住するを以て此名あり。

カブラル *Cabral* 人名 航海者 ヘドロ、アルバンツズ
カブラルはポルトガルの人、西紀一五〇〇年西インドに航
してブラジル海岸に漂着し 此にポルトガル國旗を立て
尙航海を續け 翌年カリコに製造所を建つ、(西紀一四六
〇一五二六)。

ガブリエル *Gabriel* 人名 建築家、フランスのパリー
の人、(西紀一七一〇一七八二年)。

かぶりーしたち 冠下地 冠をかぶる時の下地となるも
の、二、髻を頭上にかためて結び 冠をかぶりても 無文

カブル

カブル *Cavour* 人名 大政治家、イタリヤのサルヂ
ニア王ビクトル、エマエロの宰相、西紀一八五二年國會議
長となる、イタリヤ統一の基礎をなせり(西紀一八一〇一
一八六一年)。

カブール *Kabul* 地名 アフガニスタンの首府、デー
リの西北六五〇哩、カブール州カブール河畔にあり、人口
七萬、果物及敷の商業盛なり 西紀一七三九年ナムルに
占領せられしも今は英領たり、其カブール河はアフガニス
タンに起り、東方カブールを走りパンジヤ州にて イン
ドス河に會す、全長二七〇哩あり。

かぶろ 禿 髪はげあたま はげやま、童髮、遊女の使ふ
幼少の女を云ふ。

かぶろさーのみこと 神漏岐神 神名 高産靈神を云ひ
かぶろのみこと(神漏美神)は 産靈神を云ふなり。

かーべ 漢辨 地名 安藝國漢辨郡可部町及中原村なり

カペー *Capet* 人名 フランス王フーゴーの、王
は西紀九八七年王位に即き 第三王朝の祖となれり、カペ
ー朝は一三二八年に涉り、其後一五六八年までパロア王統
一八四八年までフルホン王統之をつげり。

かーい 花柄 *Carpophore* 植物 數個の子房間に伸

長せる花托の一部分 柱状をなすものこれなり。
かべーげんざん 壁見参 古語 陰ながら 見参することなり。

かへーさ 歸 古語 かへるに同じく 歸るとき。

かへーさまーに 返様 古語 反対に、かへりて。

かへしーうた 反歌 一、へんかの意にて人より贈られたる歌の意に答へて詠む歌 二、長歌の終りに添へて長歌の意を總括して意を含める歌。はんかと訓ず。

かべーしま 加部島 地名 肥前國北方海中の一島 周回二里餘。

かへしーもの 返物 古語 聲音の調への律より 呂に變る時に唄ふうたなり。

ガベス Gabes 地名 アフリカのニスの一小部邑 首府ニスの南二〇〇哩 東は地中海水の一部より成るガベス灣に臨む、人口凡九千、指甲花を出す。

かへで 楓 植物 槭樹科木本、喬木、春末の若葉は紅夏は緑となり 秋末紅葉す、形のかへるの手に似たればかく云ふなり。

かへでーだな 楓棚 四十八棚の一、足四本、棚八枚を以て 袋棚をつけざる棚、多く書院の側方にたたく。

かへでーれいざん 鷄冠井令徳 人名 諸俳師、京都の

人、松永貞徳の門弟三傑の壹人、延享二年六月八死す。

かへーどの 梁殿 朱雀院にありし皇后御所なり。

カベナター 誓約派 Covenanter 宗教上 英王チャールズ一世に對し 反抗せんとしたる徒黨なり、即ちスコットランド人なり。

カベニタク Cavennac 人名 政治家、フランスの將軍、西紀一八四九年アルゼリア總督、同年歸國して統領官大統領選舉に ルイブルス、ナポレオンに反對して失敗す、(西紀一八〇二—一八五七)。

かべにーみみーありーてんにーくちーあり 壁に耳あり 天に口あり 密談とても誰か聞くものありもるるなりとの諺なり、姚元崇の口箴なり。

かべーのーなかりーもごめーいでたりけんーしよ 壁の中より求め出でたりけん書 孝經のこと、孔安國古文孝經に「魚恭王使人襲夫子講堂、於壁中石函得古文孝經二十卷」あり。

カーペンタリア Carpentaria 地名 オーストラリア北部の一都會、リホルノの西北三〇哩の地。

カベンチシ Cavendish 人名 航海者、トマス、カベンチシは十六世紀のイギリス人、放蕩の結果 家産を破り南米に往つて貴重品を得 世界一週後又航海せしむ功あり

ず 西紀一五二九年死す。

かへりーあるじ 還鑿 古語 昔 相撲などに勝ちて還りしもの この館にて鑿應することなり。

かへりーさく 返聞 古語 結果の噂をさくこと。

かへりーごど 返言 古語 返言の意、へんしの意。

かへりーごほ 返聲 古語 律音、春の調子より 秋の調子となる雅樂。

かへりーちゆう 返忠 裏切に同意 舊主人に叛きて新主人に忠を致すこと。

かへりーづの 反角 刀の鞘の飾り。

かへりーまうし 返申 古語 一、報賽の意、神佛にかけ願の成就したればとて 御禮詣りすること、二、復奏の意、勅命の返事を奏聞すること。

かへりみてーたーなをーいふ 顧みて他をいふ 文 ぞしらぬ顔にて 話をよそに紛らすこと。

かへりーみる 顧 國下一 善後をみる、ふりかへりみる、往事を追憶すること、反省すること、仁を以て他を眷顧することなどの意あり。

カベル Kappel 地名 スウイスの北方にある一市、チヤールトの南一〇哩にあり、紀元一五三一年十月十一日改革派と舊教との宗教戦争、及カベル戦と云ひて紀元一五二

九一三一年まで二派間の内亂ありし地なり。

かへる 反 上下相轉倒すること。

かへる 睥 睥 睥の子となること、睥化する事。

かへるーまた 蛙股 一、家屋の棟の破風に飾り付くる蛙股の形をなせるもの、二、かんざしの足のかへる形のもの、三、凡て蛙の股をひろげたる如き形のもの。

かへるーやま 歸山 地名 越前國にある一山。

かほ 顔 古語にて眉目のこと、頭の前面の總て即ちれもて、又體面、名譽などの意に用ふ。

かへ 嘉謨 嘉猷とも云ひ、國家を治むる手段方法。

がほう 芽胞 植物胞子のことなり。

がほうーのう 芽胞囊 植物 子囊のことなり。

かほうわ 過飽和 Supersaturation 化学、普通の温度にて飽和する量よりも多きを云ふ 即ち硫酸ソーダを五十度位に熱して飽和溶液を作り 不溶解の固を除き 之を冷せば其温度に於ける飽和溶液が含むより 多量の硫酸ソーダを含みて結晶するなり、これを云ふ。

かほうわーようば 過飽和溶液 化学 「かほうわ」の條を見よ。

かほーがーつる 顔潰 面目を失ふ。

カーボキシ Carboxyl 化学 CO₂H=C(O)OH

かほろし 細 図 たよわし、孱弱なりの意、かは接頭語にて意味なし。

かほちや 南瓜 図 植物 瓜料蔓草、形 壺に似て扁なり南洋のカンボチャより傳來せしかば此名あり。

かほちやのうらなり 加保茶浦成 図 人名、狂歌師、加保茶元成の養子、性多能、書畫をも能くす、初め淺草庵春村に従ひて狂歌を學び、十返舎九の門に入りて草双紙を書く、弘化三年九月六日歿す。

カホット Cabot 図 人名 一、水先案内者、シオパニ、カボットはベネチアのセノバに生れプリストルに居る、ヘンリ七世の時 北アメリカの一部分を發見す 今のラブラドルなり 時に西紀一四九七年なりき 翌年死す、二、シオパニの子セバスチアノは父に従ひアメリカに赴きイスパニアに還り、カロロ五帝の時アラジルに殖民せんとして成功せず、磁針の偏差を發見しイギリスとロシアとの通商を開始せる人也(西紀一四七四—一五五七)。

かほどり 顔鳥 図 動物 古語、凡て美しき鳥を云ふ、をし、ひすな、さし、よふこどりなど云ふ。

かほりばせ 顔 図 かはらる、かはつぎ。

カホーベルデー Cabot Verd 図 地名 アフリカの西海岸ベルテ崎の西三二〇哩の大西洋に散在せる諸島

ならしむと云はる。

カマ Kama 図 地名 ロシアのホルガ河の支流、源をウラル山に發し、カザン南方二四哩にて本流に合す。

かま 鎌 図 新月状の刃の着ける鐵製のものにて木の柄のつきたるもの、草、柴、稻などを刈るに用ふ。

がま 蒲 Typha japonica Miq. 図 植物 香蒲科草本水生、莖葉共に細長し、葉は織りて蓆とし、夏褐色の穗状花を開く、之をホクチとす。

かまいり 釜煎 図 天正慶長頃の刑罰、釜にてゆで殺すことなり。

がまう 鷺毛 図 鷺鳥の羽毛は白色なるより 雪のことと云ふ。

かまきり 鎌切 蟻螂 Mantis 図 動物 昆虫類、直翅類 全身細長く六脚を有し 第一對脚は腿節脛節より發達し 相向へる面に鉤状突起ありて捕獲用をなす、能く木の間に飛翔し 害虫を捕食するを以て益虫とせらる。

かまぐ 圖下二 古語 感ずること、事に拘泥すること。
かまくら 鎌倉 図 地名 相模國鎌倉郡鎌倉町にあり、治承四年源頼朝の幕府を開きしより以來源氏の根據地となり 北條氏、足利氏皆縁あり 成氏古河公方となりて廢止す、今は鶴岡八幡宮、護良親王を祀れる鎌倉宮、鎌倉五山あり

なり。

かほりばな 顔佳花 図 植物 草本 古語 かきつばたなり。

カーボラントム Carborundum 図 化學 珪素と炭素との化合物なり。

かほりばなをかしてしましむ 顔を干して諫む 図 對面して直接に練言すること。

カマ Kama 図 印度の戀の神 其秋波一度他神に接する時は 忽ち胸中に不安の念を起さしめ、其身體迄も灰燼と

かまくらにばはらうし 鎌倉大草紙 図 鎌倉の事を記せるもの、後花園天皇頃の著作なり。

かまくらにばはんやく 鎌倉大番役 図 嘉祿元年藤原頼經が、遠江以東十五國の將士をして各十二月を限り 分番して入衛せしめ 柳營の諸門を衛り府中を警せしめし番衆

かまくらにばばや 鎌倉執政 図 人名 權五郎と稱し、源義家に仕へ 勇猛の聞わたりき。

かまくらにばざん 鎌倉五山 図 地理 禪宗の寺、(上)南禪、(二)建長、(三)圓覺、(四)壽福、(五)淨智、(五)淨明の五寺、足利義満の制定せし順序なり。

かまくらにばさんらう 鎌倉三老 図 人名 北條時政、和田義盛、島山重忠なり。

かまくらにばしちざ 鎌倉七座 図 絹、米、炭、馬、槍物、相物(乾物)千朶積(荒物)の七つの座なり。

かまくらにばしやうぐん 鎌倉十將軍 図 人名 源頼朝、頼家、實朝、平政子、藤原頼經、源頼嗣、宗尊親王、惟康親王、久能親王、守邦親王を云ふ。

かまくらにばり 鎌倉彫 図 地は黒漆にて塗り 其上を朱漆にて彩せしもの 鎌倉時代美術の特質たりき。

かまざき 鎌倉 図 動物 鳥類 涉禽類、普通のさぎより形やや大、嘴の如し。

菜

景

かまさしーなは 鎌差繩 動物 魚類、海産類、身圓くして肥大、嘴

かます 動物 魚類、海産類、身圓くして肥大、嘴 尖り、鱗細く、銀光色の皮あり、五六寸の大きさ 乾魚とす

かまーずみ 植物 木本、高一丈、葉圓く二寸許 五瓣花、傘形なり、秋小豆大の赤色實を結ぶ。

かまたーいさち 鎌田榮吉 人名 和歌山の人、慶應 義塾に學び 鹿兒島造士館教頭、大分縣中學校、師範學校 の校長を經、明治二十七年衆議院議員となり 尋で慶應義 塾長となり、現に遼東の野に出征中なり。

かまたーまいへ 鎌田政家 人名 相模の人 本名は 正清、藤原秀卿の裔、源義朝の臣、平治の亂 主の尾張知 多の平忠致に投するや從ひ 主と共に殺さる、年三十八。

かまーつか 動物 魚類、長さ五六寸淺黄色にて黒 色の斑點あり、頭部方形にて長く、鱗細し、常に水底にあ りて口を張り 目を瞞らして砂を吹く 形 鎌の柄に似た るを以て此名あり。

かまーつか 鎌柄 植物 草本、白色の花、材は鎌の柄 を製す。

かまごーじんじや 龜門神社 地理 筑前國御笠郡大宰 府町と御笠村の境にある玉依姬命を祀れる官幣小社なり。

かまごーなし 龜無 極めて貧しき人、かまもちは富人。

かまはやぶさ 動物 鳥類、隼族、翅に劔の如き 鋭き羽ありて 之を以て他鳥を打ち落して餌とす。

かまふ 構 國下二 準備する。支度するなどの意、家を構 造す、槍術劍術のとき敵を待ち設けること。

がまふーうちさご 蒲生氏卿 人名 田原藤太秀卿の後 幼名鶴千代 飛騨守と稱す、織田信長、豊臣秀吉に仕ふ、 性類敏英武、石田三成に忌まれ 秀吉の勧めにより 文祿 四年大阪にて瀨田正忠に殺さる、年四〇なり。

がまふーくんべい 蒲生君平 人名 下野國宇都宮の人 福田秀實なり、性忠烈至孝 常に御陵の類廢を極し 自ら 之を探ぐりて山陵志を著す、又、洋夷の來寇を憤り 不恤 緯五卷を著す、文化十七年江戸に歿す 年四十六なりき。

がまふーの 蒲生野 地名 近江國にあり。

かまぼこ 蒲鉾 動物 鮫 鯛などの肉を叩き搗り 鹽 酒を交せて長方形の小板に 凸形に盛りたるもの。

かまんがーさん 過錳酸 化學 製法ー過マンガン酸カリウムに強硫酸(冷)を加 ふなり、性状ー赤紫色の液體、甚だ不安定、放置するか、 日光に曝すときは速に分解し酸素を遊離し 水酸化マンガ ンとなる、此イオン(MnO4-)は一價赤紫色なり。

かまんがーさんーいせん 過マンガン酸イオン 化學

價にして赤紫色なり。

かまんがーさんーかり 過錳酸加里 Potassium permanganate KMnO4 化學 一名、過錳酸カリウムと云ふ

製法ー二酸化錳 錳素酸カリウム及水酸化カリウムを水 に溶し 之に炭酸瓦斯を通じ濾し 其濾液を蒸發すれば紫 色の結晶を得、性状ー十六倍の水を含む、酸化劑、防腐劑 及飲料水中の有機物の有無試験劑に用ゐらる。

かまやまーじんじや 龜山神社 地理 紀伊國名草郡三 田村にある彦五瀧命を祀れる官幣中社なり。

かまーやり 鎌槍 武器 穂先に枝のある槍なり。

かみ 上 上部、貴人或上位の人、年長者、上世即昔、 首府、人の妻などの意あり。

かみ 神 形なく靈ありて世に禍福を降し 人の善惡行 爲によりて加護冥罰をなすもの、古來の聖賢君子英雄剛傑 の靈。人智の知る可からざるものなどの意あり。

かみ 長官 役名、大寶令制定の各官署の長官にて 官 事を總判するものなり、但し四部官中の第一位のもの、諸 官によりて文字を書き分つ、即ち 伯(神祇長官)卿(省)尹 (彈正)長官(使)大夫(職)頭(寮)正(司)督(兵衛府)尙侍(内 侍司)守(國衛)等なり。

かみ 紙 Paper 化學 楮、三及桑を以て日本紙を製

かみーがき 神垣 一、神社の忌垣 玉垣 瑞垣などに 同しく周圍の垣なり、二、之れより轉じて 神社を云ふ。

かみかふのーたき 上河井野澤 地理 肥後國上益城 郡河井野にある瀑、十二丈の高さ 一丈の幅あり。

かみさーづき 神來月 陰曆十一月のこと。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

かみーたき 髪置 陰曆十一月十五日男女始めて三歳に たりし時 頭に 髪を長せしむる儀式。

背

か 五百十

かみきりーむし 天牛 Melanaster 動物 昆蟲類、體長一寸幅三四分、脊部は堅甲を有し 黒色にして白色斑點あり、觸角長く十一節より成り 脚節に刺あり、六頭よく發達し、前翅革質、齒鋭く かみを切るを以て此名あり。

かみーぐら 上座 古語 かみざ 上座等の意。

かみーこ 紙子 古語 紙にて製したる着物。かみぎぬに同じ

かみこいしーじま 神子石島 地名 佐渡國南方海中の一島。

かみこしきーしま 上飯島 地名 薩摩國西方海中の一島 周圍十七里餘あり。

かみーご 神語 一、大坂の詞、神事に於て陳ふる語 二、神、即神の告げことばなり。

かみこもどーしま 神兒元島 地名 伊豆國賀茂郡下田港の南方にある一島 燈臺の設けありて 航海に便なり。

かみーさかやき 髪月代 古語 剃梳 さかやきを剃りわけて髪を結ふこと。

かみささーみなと 神崎港 地名 伊勢國度會郡神崎村にあり。

かみーさぶ 神閑 古語 神めきたり 古めきたり、かうがうしの意。

かみーろぎ 髪削 古語 女十六歳に至りし時の祝 即元服。

託

かみーだ 神田 古語 神社の所有する田。

かみーち 神路 古語 神の通ふみち。

かみちーやま 神路山 地名 一、伊勢内宮の鎮座しましませる山、二、伊勢内宮の神路山にある老杉 之を以て箸を作る、三、駿河國の富士山を云ふ。

かみーつねだ 上枝 古語 兄のこと。

かみーつねか 花葉花 植物 蟲媒花類、昆蟲 鳥類によりて食用となるべき花葉を有するもの、ナタ子、ダイコン サクラ、ウメ等の如し。

かみつねーのかたな 上野形名 人名 舒明天皇に仕へ、四年蝦夷を征伐して功あり 妻も剛毅にして 夫を助けて名あり。

かみつねぬーたち 上毛野田道 人名 仁德天皇の朝新羅朝貢を缺く、乃ち五十二年精兵を率ゐて其罪を問ふ、敵兵を出して挑戦す 田道應せず 奇計を運らして遂に勝を制し 四邑の民を捕獲して歸朝しぬ。

カミツレ Maricaria chamomilla, L. 植物 菊科草本 無害の發汗劑とす。

かみごさーしま 上砥岐島 地名 肥後國西方海中にある島周圍三里餘ありと。

かみーとけ 神解 古語 落雷 霹靂の意。

かみつれ

霹靂

陸

かみーなきーみーくらゐ 神無御位 天皇陛下の御位。

かみーなす 釀成 古語 酒などを醸しつくる。

かみなーづき 神無月 古語 陰曆十月のこと、かみなかりつき、かみなしつきとも云ふ。

かみなびーやま 神南備山 地名 大和國の一山にて紅葉の名所なり。

かみなりーのーちん 雷陣 禁中にあり、雷鳴三度に及び 近衛將官 弓箭を執り、伺候して守衛し奉る所なり。

かみなりーのーつぼ 雷壺 禁中五殿舎の一、襲芳舎なり 梅壺の北にあり。

かみなりーまさかり 雷斧 雷鳴後 地上に露出する凡て石器なり 是上古土民の迷信より起る。

かみーのーいさめーぬーみち 神不誦道 古語 夫婦のちぎり。

かみのけーあり 神氣有 古語 神靈の我身に宿りたること、かみのけは神のたたりになし。

かみのせきーしま 上關島 地名 周防國東南方の海中の一島 周圍九里十六町 長島の改稱。

かみーのーつかひ 神使 俗説 神々の特に其使とせらるる動物、伊勢神宮の猿、春日の鹿、八幡の鳩、熊野の鳥 稻荷の狐、松尾の龜、諏訪の蛇などを云ふ。

かみのほらーだき 神洞瀑 地名 伊豆國那賀郡安良里村にある瀑 高十九丈 幅一間。

かみーのーみさか 神御阪 古語 深山のけはしき阪。

かみーのーみち 神道 天祖天神の御教訓の道にて 神靈を齋き祀ること、佛教渡來して、混淆説となる。

かみーのーみる 上御井 伊勢豊受宮の傍 藤岡山の麓にあり 神饌を調理する井なり。

かみのやま 上山 地名 羽前國村上郡にある舊松平氏の藩地、今は山形縣に屬す。

かみーはぎ 紙剣 武器 矢の羽莖の上下を 紙にて巻きたるもの。

かみーびと 神人 古語 神主 神に仕ふる人。

かみべーじんじや 神部神社 地名 駿河國静岡市淺間山にありて大日貴神を祀れる國幣小社なり 淺野神社 大歳御祖神社を合齋せり。

かみーむかへ 神迎 神送に對する語 陰曆十月晦日 八百萬の神 出雲の大社より歸り給ふを迎ふ祭式。

かみーや 神矢 神 憤怒して 射めて給ふ矢なり。

かみやーうんたく 神谷雲澤 人名 儒醫 美濃國の人 博聞強記 勤王の志厚く 幕府の專恣を憤り、復古の念盛なりき 文政三年二月十五日 年四十八にて歿す。

か 五百十一

かみやがは 紙屋川 地理 山城國愛宕氷室山より發する川 仁和川とも云ふ、此川にて漣す 詔勅 宣旨などを書くに用ひし紙を紙屋紙と云ひき。

かみやくわん 假脉管 Hydroids, or Pneumatophores 植物 延長したる細胞の両端は 全く消失せざれども 脉管に等しき作用をなすを以て此名あり。

かみやさだきよ 神谷貞清 人名 九州博多三傑の一人、支那、朝鮮 羅運に往き 盛に商業を営み 巨利を占めて歸り 豊臣秀吉徳川家康に知遇を得たり、殖産工業に志を向けしかば 今日博多織 櫛實絞採などの事業皆氏の手を始めたり、寛永十二年十月二十八日 年八十五歿す

かみやのうへーのー 紙屋上陵 地理 山城國葛野郡衣笠村の華山天皇の御陵なり。

かみやま 神山 地名 加茂神社の後の山、又凡て神の鎮座し給ふ山なり。

かみやよ 神代 神武天皇以前を云ふ、秦西には之を神話時代 (Mythological Age) と云ふなり。此時代用われし象形文字を神代文字と云ふ。

かみやよななよ 神代七世 神名 國常立、豊雲野、宇比遲邇一須比知邇、角材一活材、富斗能地一大斗乃辨、於母陀琉一阿夜訶志古泥、伊邪那岐 伊邪那美を云ふ。

かむちちから 神祝 古語 神に奉納する稻なり。カムチアツカ Kametchuka 勸察加 地名 亞細亞の東北の一大半島 ムーリング海とオコツク海との間 長八五〇哩廣さ二八〇哩(最廣) コルサコフ港ありて 我北海道に對す。西紀一八五五年ロシア沿海の一州となる。

かむなから 神隨 古語 神のままなる徳を具ふ。かむなぎ 巫 古語 神事を行ふ人、男女あり。かむのーてんわう 神野天皇 人名 嵯峨天皇を申すかむばた 綺 古語 錦の薄きもの、古代の織物なり

かむはとりはたごの 神服織機殿 伊勢國飯南郡大垣内村にありて 皇太神宮の神御衣祭に供進する和妙衣を織る所、崇神天皇の御代の創建。

かむべ 神戸 古語 一、神田を耕作する人、二、神に奉りたる民のかまど。

かむほぎ 神祝 古語 かむほぎとも云ひ 神に奉る祝詞なり。

かむやまふいはれびこーのーすめらみこ 神日本磐余彦天皇 人名 神武天皇を申す。

かむり 冠 かんむりに同じく 上古末より 主に束帯

かみやもじ 神代文字 一種の符號として用ひられたる形象文字、字體數種ありて、何れが信なるか詳かならずかみよりいた 神依板 古語 神れるしの時 鳴らす杉の板。

カミラ Camilla 人名 ホルスキ人王ソダアス王の娘、神話中にあり。行走極めて速かりしといふ。

カミルス Camillus, Marcus Furius 人名 ローマ古代の貴族、ローマの競争市カエイイを改め降し、一度反對派の疾賊の爲め追放を蒙むりしも ゴール人のローマを襲ふや 出でて之を救ふ、コンナルたること前後五回に及ぶ、マイタリア人を伐ちて屢功ありき 享年八〇 紀元前三六五年歿す。

カミルテムリン Osmolinus, Camille 人名 佛國革命史上有名なる人、(西紀一七六二—一七九四)。

カミロ Camillo 古語 カミルスのラテン語なり。かむ 嚙 拭 嚙 國四他 嚙は物を口中にて咀嚼すること 拭はふきとる、ぬぐふに同じ、嚙はかむすの古語なり。

かむかかり 神懸 古語 神に同じ。かむさる 神去 古語 崩御、死に給ひの意。託託かむし 架蟲 Hydrophilus 動物 節足動物 昆虫類、食草性、全形楕圓形 靜水中に住む、他の昆虫と區別

の時に頭にかぶりしもの、厚額、透額、老懸、卷纒、細纒等あり。

かむりどり 冠鳥 動物 鳥類 鳩類、目赤く、足白く、頂に長毛冠を頂く 形 通常の鳩よりやや大なり。かむりーのーなほし 冠直衣 直衣の條を見よ。

かむろぎかむろみ 神漏岐 神漏美 神名 高皇產靈神 神 天皇產靈神の二神 男女なり。

かん 漢 地名 支那古代の國名 前(西)漢、後(東)漢あり 前漢は漢高祖(劉邦)の建設、我紀元四百五十九年に當り、後漢は漢光武帝(劉秀)の建設 我紀元六百八十五年に當れり。

かん 辨 句浣に同じく 一ヶ月中の十日を云ふ。かん 驛 馬の強勢にて 征し難きこと。

ガン Gand (Ghent, Gaunt) 地名 ヘルギーの一都市 東フランドルの首府、河川運河にて二十六區に分れ 二七〇の橋梁あり 同國商業中心地、木綿 毛織物麻布の貿易の中心地 又花郡の名あり 有名なるセントパオン寺は此處にあり。

がん 佛像のつし、棺などの意。

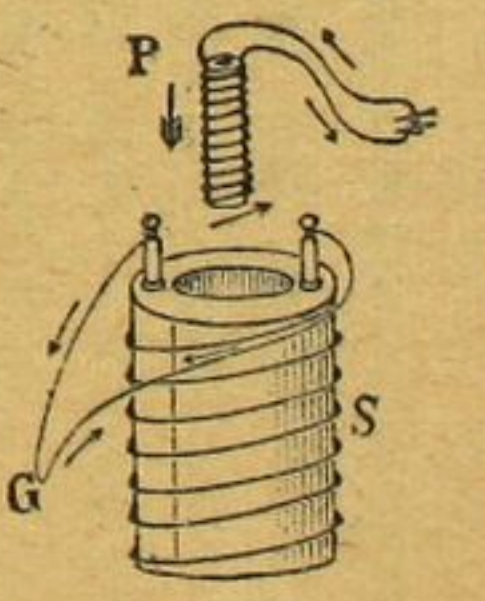
がん 雁 動物 「かりがね」の條を見よ。

がんあんらく 顔安樂 人名 西漢儒者、後漢光武帝

の時五經博士十四家の一人となる 公羊顔氏春秋を著す。
かんーいぎ 灌域 地名 河域を見よ。
かんーいひ 韓嬰 人名 西漢儒者 燕人 勃龍子と號す、文帝の時博士となり、景帝の時常山太傅となる。
かんーいひ 甘英 人名 東漢和帝頃の人 班超の部將 超の西域都護となるや 大秦(ローマ)の富裕なるを覺り 英を以て 是に東西兩洋の交通を開く。

かんーいん 岩鹽 Rock salt 礦物 等軸晶系 方形或は塊狀、無色或白色にて黄、赤、青、紫色を帯ぶ、透明不透明 玻璃光澤、鹽味強く水に溶く、比重二、一、硬度二、五、鹽化ナトリウムの多量を含有し 吹管にて熱すれば爆發す下 イツのスタスフルト、奥のワイルチカ、イスパニアのピルニース 本邦の信濃、越後より産出す。
かんーいん 顔淵 人名 孔子の弟子 名は同。
かんーいんじゆ 甘廷壽 人名 西漢武將 西域に使用して 義成侯に封ず。

かんーいんるゐ 完縁類 動物 楔足類の有管類、水管短くして短縮せず、外套線單一にて彎曲せざるもの、シジミ、トリガヒの類なり。
かんーいたう 感應 物理 感應の種類多し 即ち 一、磁氣感應 (Magnetic induction) は 磁場内にある軟鐵片



の磁性を得る現象、而して磁石に近き端には磁石端と異名の極を生ずるは磁氣の特性なり、二、電氣感應 (Electric induction) は發電氣體に接近して置かれたる導體の電氣を生ずる現象にて 磁性に同じく 異名の電氣を帯ぶなり、三、感應電流 (Induced current) は唯一瞬時の電流なり P、S はソレノイド、P は電池に S は G 電流計に連絡す P を S に接近せしめ或は挿入するときは S に電流感應して G の磁針に感せしめ 須臾に復位す、P を急に引き出せば磁針又他方に偏し 須臾にして復位す、而して前と反對なり 則ち此作用を感應電流と云ひ 此を以て磁場内に急激の變化を起さしめ電動力を強大にするなり、四、自己感應、此は相互感應(正副コイルを以て一輪道より他の輪道に感應せしむるもの)に對するものにて 一の輪道の一部が他部に感應作用を起し 電動力に反對す。
かんたうーきでんき 感應起電機 物理 感應起電機は電氣の感應作用を利用して多量の電氣を起すべく装置したる器なり、「ウキムシファースト」の起電機の如し。
かんたうーコイル 感應コイル 物理 一輪道内を通ず

崖

かん

る電流の強さを急激に變化して、其傍にある導線内に感應電流を起す器械なり、而して之によりて小なる電動力を以て大なる電流を生起せしめ得るなり。
かんたうーじ 感應寺 地理 東京下谷區谷中共同墓地の南の一寺 日蓮宗なりしも元祿元年天宗台となれり。
かんたん 漢音 支那隋以前 北部に行はれたる音、推古天皇の朝より傳來す、吳音は應神天皇の朝 王仁の傳へしもの 支那南朝の音なり。

かんーか 坎軻 感荷 一、轡軻に同じく 志を得ぬこと、二、人より思を受けて 其恩を心に感ずること。
ガンガ Ganges (Ganga) 恒河 殘伽 地名 インドの大河 源をヒマラヤ山の南側海拔一三八〇〇呎の所に發し、全長一五五七哩にてベンガル灣に注ぐ、沿岸豊饒、古來河水神聖、罪惡を清む 其沿岸に埋めらるる者は永劫幸福を受くと信せらる。

かんーかく 扞格 堅固にて侵入し難きこと。
かんーかく 漢學 支那學に同じ、應神帝の朝 阿直岐の經典を奉り 王仁が論語及千字文を獻せしに起る。
かんかせき 頑火石 礦物 輝石の條を見よ。
かんーがふ 勘合 支那明代 諸外國に與へて往來の証とせしもの 足利義滿なども 之を受く。與

斜輝石歟輝石、鐵を含まず

かんがへーふみ 勘文 古語 勘當の書付。
かんがんーぎいん 塞義義尹 人名 後鳥羽院皇子、脱塵の志ありて如元禪師に道を聞き 支那に遊學して歸る。
カンガル Macropus or kangaroo 動物 有袋體類、五六尺、尾三四尺、全形鼠に似、體の前半後半の大きさの割合甚だ異り 前肢極めて小、後肢と尾とを用ゐる運動をなし 一躍三四間を飛ぶ、頭小にして耳殻大、子早く生るるを以て腹部にむ囊中にて養ふ、多く濠州に産す。

かんがーるゐ 管牙類 動物 蛇類に屬する一亞目にし、毒牙管をなして毒液を通ずることを得、頰の両側に毒腺ありて、筋肉の運動により牙中に毒液を送るなり。
かんーき 韓琦 人名 宋明臣 弱冠にて進士に登り、連りに累進して 神宗帝の司空を拜し 侍中を兼ねぬ。
かんさうーじゆうとう 汗牛充棟 多く書物を貯へる事 柳宗元曰く「陸文通之書 處則充棟 出則汗牛」と。
かんざーだな 雁木棚 四十八棚の一、三枚の棚を用ゐて造る、書院脇棚に適す。

かんーきん 看經 經文を點讀すること、及讀經の意。
かんーきん 眼筋 生理 眼球を動かす筋にて、内外上下の四直筋と下斜筋及滑車筋との六筋よりなる、内外直筋は眼球を内外に轉せしめ、上直筋と滑車筋とは眼球を上向

かんきやうしん

せしめ、下斜筋と下直筋とは下向せしむ。
かんきやうしん 鉗狂人 書名 一卷 本居宣長の藤井貞幹の衝口發を論破せしもの。

かんきやうしん 眼球 Eye-ball 物理 眼窩内にありて直径七分餘、殆ん球形、大體の構造は圖の如し、

近視、遠視あるは、水晶體の凹凸如何による、即ち近視眼は凸度増加して

角膜突出し、網膜に達せざる前に像を結ぶ 故に凹レンズの眼鏡を用ひ、遠視眼は凸度者しく減じ、網膜後方に像を結ぶ 故に凸レンズの眼鏡を用ひて之を補正す、通常の眼は二十五を以て明視距離とす、又眼筋と稱して、眼球を上下四方何れにも轉せしむるもわり 内外上下の四直筋

下斜筋及滑車筋、則ち是なり。

かんきやうしん 眼鏡 物理 近眼鏡と遠眼鏡とあり、前者は凹レンズを用ひ、後者は凸レンズを用ひ、皆通常の眼の明視の距離を變じて、近視遠視の人の眼の明視の距離に變せしめ、物體の像を正しく網膜の上に映せしむるために、用ふるものなり。

かんきやうしん 威鏡道 地名 朝鮮東北部の地、豊

かんきやうしん 威鏡道 地名 朝鮮東北部の地、豊

かんきやうしん 威鏡道 地名 朝鮮東北部の地、豊

かんきやうしん 威鏡道 地名 朝鮮東北部の地、豊

かんきやうしん

五百三十一 十六頁

めて噴出すること、是れ 地内に熱せられたる溶液あるも上表に寒冷の水液あるを以て未だ凝せず 漸く上表の熱せらるるや、轟然として噴出するなり 我伊豆の熱海、陸前

の鬼首、米國エルローストン、パーク及水洲の大湧泉皆之れなり。

かんけん 寒暄 寒暖に同じ。

かんけん 還元 Reduction or Deoxidation 化學 普通金屬化合物の陽根を増し或は陰根を減することなれども其酸素の幾分或は全量を除くを云ふ、炭素或は水素等は金屬化合物の酸素を取り去るを以て還元劑 (Reducing agents) と云ふ。

かんけん 還元 化學 燐の條を見よ。

かんけん 眼瞼 生理 眼球上下の被物にして上眼瞼は眼を開閉す、眼瞼の裏面の膜を結膜と言ふ。

かんけん 眼瞼 生理 眼瞼の縁にある腺にして、一種の液を分泌し、涙を眼瞼外に流出せしめざる作用をなす。

かんこ 鹹湖 Salt Lake 地文 地殻内の可溶質物を溶解せる水、流れて出口なき湖水に注ぎ、其水分次第に蒸發するときは、湖水は漸く鹽類の含量に富む、此れ則ち鹹湖なり。

五百十六

公正轉の役 加藤清正の三子を擒せし地、今は征露軍の屢逆襲を蒙りし地なりしも、全く平穩となれり。

かんく 岸駒 人名 畫人、加賀金澤の人、富山侯に仕へ、朝廷宮人となりて畫事を司る、虎の水墨畫を巧みとせり、天保九年 年九〇歿す。

かんく 寒苦鳥 動物 鳥類 天竺の雪山に棲む雌は寒夜に 寒苦必死と鳴き、雄は 夜明造柄と鳴く。

かんく 寒九雨 寒入より九日目に降る雨、土用入より三日目に降る雨を云ひ、農家の喜ぶもの。

カンگری 康里部 地名 現今の露領地、漢の康居の裔にてアラル海濱の部落なりしも、元の太祖西征して其將連不臺の爲め平げられ、金帳汗の領土たりたり、

かんくわ 干戈 楯と戈のことなりしも、轉じて戰爭の意となる。

かんくわ 酣飲 飲酒食肉して逸居する意、酣は酒に耽り樂むこと、象は犬羊を養ふこと。

かんくわ 汗血 非常なる勞力を云ふ。

かんくわ 間歇泉 間歇泉 地文 温泉の時期を定

かんくわ 間歇泉 間歇泉 地文 温泉の時期を定

かんこ 漢語 漢音にて話すを云ふ、吳音より後に起る

かんこ 漢江 地名 朝鮮の大河、江原道に發し、京畿道に西流して、黃海に注ぐ。

かんこ 桓公 人名 支那春秋戰國の世の五霸の一人、有名なる管仲は此が將たりき。

かんこ 甘肅 Calomet 化學 鹽化第一銀水に同じ

かんこ 乾侯 Dry Season 地文 熱帯地方にて年内二回表はるる乾燥時季なり。

かんこ 顔果卿 人名 唐の忠臣、初め安祿山に知られ遂に常山太守となりしが、祿山叛せしかば討たんと

して兵を起し祿山の史思明をして攻むる所となる、果卿兵を起して纔に八日にして此大軍を受けし故、致を王承業に求めしも承業應せず、果卿晝夜力戦し、糧矢竭き城陥り遂に捕へらる、而かも頻に降を勧めらるるも應せず却て大に罵倒し遂に慘殺せらる、後乾元の始め太子太保を、建中

中又司徒を贈られ其忠節を追賞せらる。

かんこ 韓康伯 人名 儒者 晋の人、周易の註家なり。

かんこ 漢吳音圖 書名 漢音、吳音及之の轉音とを、國字にて、反切のまぎやすきを正せるもの、太田全齋之を著す。

五百十七

代の歴史 前漢書とま 宋人范曄の撰の後漢の歴史の稱
かんしよ 干渉 Interference of sound wave 物

理 數多の音波 同時に同一所に相遇するとき同一状態に
ある音波は 互に相助け 反對の状態にあるものは 互に
相減する現象を音波の干渉と云ふ、光の干渉もこれに同
理なり。

かんしよ 甘蔗 Musa paradisiaca 植物 薑科草
本、花は黄白色、其實は漿果、長くして黄色、通常バナナ
と稱し、琉球 小笠原 臺灣より産出す。

かんしよ 環礁 Atoll 地文 環状をなせる珊瑚礁
なり 海岸に沿つて生ずるを岸礁 (Fringing reef) と云ふ。

かんじよ 岩礁 地文 海岸に沿ひて生ずる珊瑚礁の
ことなり。

かんじよ 間上頸骨 動物 哺乳類の両上
頸骨間にある小骨なり、人間にも發生上一時われど、分娩
後は癒着して一上頸骨となる。

かんじよ 環状軟骨 生理 喉頭にありて
環状をなせる軟骨なり。

かんじよ 環状管 Ring tube 動物 棘皮動
物の水管系中 食道の周圍に輪状をなせる管なり。

かんじよ 甘松香 植物 草本、印度に産し、
香

芳香あるゆゑ 香料とす。
かんしよ 寒食 冬至後百五日 風雨わりと云ふと
と、支那の古事にあり。

かんしよ 間色 物理 赤、黄、青の三色以外の色
かんしよ 間 絶交する、水をさすなどの意。

かんしよ 寒水石 礦物 大理石の屬 白色、堅
固にして美麗、彫刻、裝飾などの用に供す。

かんしよ 汗青 書冊のこと。
かんしよ 箝制 牽累に同じく、ねさへつけ 自由に
動かすこと。

かんしよ 韓世忠 人名 宋南京の忠臣、年六
十三、鎮南武安寧國節度使を以て卒す 忠武と諡す。

かんせい 乾性油 Drying oil 化学 植物 油の
一種、亞麻仁油 荳油 桐油等にして 紙又板に塗つて空
氣に曝せば 粘質を失ひて 乾燥せるが如きもの。

かんすい 鹹水湖 地文 鹹湖に同じ。
かんすい クロラル 含水クロラル 化学 抱水クロラ
ルの條を見よ。

かんせつ 間接復起 心理 機械的復起、即ち
觀念復起法の接近法と 繼續法とを云ふ。

かんせん 汗腺 Sweat gland 生理 皮膚の表面に小
孔ありて 汗管に通じ 深く皮膚中に入り 曲卷して球形
をなす 即ち汗腺なり 此は血液中より汗を濾し取りて皮
膚の表面に排泄す、即ち體温の調節を司るなり。

かんせん 完全葉 Perfect leaf 植物 葉身、葉
柄、托葉の三部より成るもの リンゴ等の如し。

かんせん 完全花 植物 花被も花葯も完備せるも
のなり。

かんせん 完全氣體 物理 如何に強大なる壓
力を受くるも、如何に低温に冷却するも常に氣體の状態を
保ち、尙且ボイル氏の法則に従ふものなり。

かんせん 完全變態 動物 變態の條を見よ
かんざう 甘草 植物 「あまくさ」を見よ。
かんざう 肝臟 生理 横隔膜の下胃の上にあつて、門脈
より胆汁を吸収し、膽汁を貯め、之より出づる細管は十二
指腸に開口し 糜粥の胃より出づる時、膽汁を注ぎて、脂
肪を乳化し、以て腸壁を通過せしめ易からしむ。

かんろう 乾燥器 化学 空氣浴、蒸氣浴、硫酸乾燥
か 五百二十一

除削

かんせい 頑性 物理 鋼鐵は之に磁氣を帯びしむるこ
と困難なれ共、一旦磁性を有する時は、其性質を失ふこと
容易ならず、之を鋼鐵の頑性と稱す。

かんせき 岩石 礦物 地殻を形成する物質を言ふ、礦
物の集合によりて成る、多くは二種以上の礦物より成れる
ものなり。

かんせき けん 岩石圈 Lithosphere 礦物 水圏下
部の地盤をなす固體部分を稱す。

かんせき いらん 岩石園 植物 草本、根形、岩石の如
く 葉に斑點あり、花は黄色。

かんせつ 環節 動物 「みみず」にある如き節を言ふ。
かんせつ 環節 Segmental organ 動物 鰓形動
物の排泄器なり。



棘

徒

か 五百二十二

器の如く、物を乾かすに用ゐるものなり。

かんろうぐ 管足 動物 皮膚動物の運動するために出す

かんろうざい 乾燥劑 化学 鹽化カルシウム、濃硫酸

等の如く水分を吸収するものを言ふ。

かんぢゆうーじすごま 肝蛭 動物 人の肝臓に寄生する

扁 扁類にして、一分以下なり、吸盤二個を有して附着す。

かんろーのーあろう 漢楚の争 歴史 紀元前二世紀

頃、楚の項羽西楚王と稱し 其主義帝を殺す 漢王義帝の裏

を發し 征楚の師を募り 羽を大に敗りしこと。

ガンター Gunter 人名 數學者 イギリスの人 天文

學に通ず 西紀一六二〇年測量に對數表を應用する發見

し 其他象限儀 ガンター天秤等の發明あり。

かんーたい 寒帯 Frigid zone 地文 南北兩緯六六度

三十二分以上の地 即ち兩極地方なり。

かんたい 環帶 植物 岩臺 Sheet 地文 熔岩の地上に噴出し、

四方に平均に流れ擴がりて凝結せしもの。

かんーたいし 韓退之 人名 文章家 支那唐中世の人

鄧州南陽の人、名愈、六經百家の學に通じ 唐德宗に仕へ

監察御史たり、憲宗の時、佛骨表を奉り 潮州刺史に貶せ

らる、赦されて東部侍郎を以て卒す 著書頗る多し 昌黎

文集と云ふ。

かんたく 鹹澤 地文 海濱平坦の地にして、高潮の時

は水中に没し、干潮の時は一面濕地となるものを言ふ。

かんーたくちゆう 韓胃 人名 宋魯臣、憲宗の時用

ゐられ 專權恣なり、朱熹 趙汝愚等を陥る 金人侵入す

るに及び、天下の忌惡するところとなり 玉津園に推殺せ

らる。

かんちゆうーるる 環蟲類 Amelides 動物 鰻形動物

の一綱、體延長、同形環節より成り、各節一對の關節器あ

り、圓頭状或は平狀、血液は赤色或は無色、血管は胃の

背脊腹に走る 胃を圍みて環狀血管をなす、ミミズ ヒル、

ゴカイの類なり。

かんだーじんじや 神田神社 地理 東京市神田區宮本

町にある祭神を大己貴命とする府社なり。

かんーだちめ 上達部 古語 殿上人とも云ひ 三位以

上の人。(參議は四位たりとも此に入る。)

カンダハル Kandahar 地名 南方アフガニスタン首

府、インド、ペルシア、アシアトルコの貿易中心地、西紀

一八八一年英領となる。

カンタブリア山 Cantabrian Mts 山脈より西

に走り イスパニアの北境に連り大西洋に達す。

カンタベリー Canterbury 地名 一、イングランド宗

門上の首府、ロンドン東南六二哩にあり、寺院は西紀五九

七年アゴスチンの建設ニ、ニーターシーランド南島の中央に

位する一州、山羊牧畜盛なり。

かんーたん 邯鄲 此字のつくもの多し 一、謡曲名、

二、動物、昆虫、こほろぎに似て小、夏秋、清亮なる聲あり

三、地名、清國直隸省廣平府城の西南五十里、周の安王十

六年趙の敬信始めて都す、秦始皇郡とし 漢の代縣とし

趙國に屬す、四、邯鄲の枕、支那の古事にて人の世の夢

の如くならざるを譬ふ。

かんたんーけい 寒暖計 Thermometer 物理 温度の

變化により 物體の膨脹收縮する所の性質と 熱の傳導と

を利用して、他物體の温度高低を測るもの、水銀又はアル

コールを玻璃管中に入れ、其昇降によりて知る、現今用ゐ

らるるものは華氏(沸騰點二百一十一度、氷點三十二度)攝氏

(沸騰點百度、氷點〇度) 列氏(沸騰點八〇度、氷點〇度)

の三とす。

カンダハラ Gandhara (Kandahar) 乾陀衛 (健駄羅) 地

地名 カンダハルに同じ。

カンダリ Andalus (Kandari) [Sumatra] 于陀利 地

地名 カンダハルに同じ。

名 スマトラの古名。

カンチア Candia (Krete) 地名 トルコ領、クレト島

の古名 同島は地中海東部多島海の南にあり。

かんちく 寒竹 植物 寒中節を生ず、一根より數十幹

を生じ、高さ七八尺に達す、よく家の籬とす。

カンチス Ganges 地名 ガンガに同じ。

かんちつろーぎつ 含窒素物 化学 窒素を含有せるもの

を言ふ。

カンチンジャンガ Kanchninjanja 地名 ヒマラヤの最

高山の一、チバルとアレキムの間にあり。

かんちやうーぎやう 勘定奉行 役名 金穀の出納、

租税の事を司る、勘定所の長官。

かんちゆう 漢中 地名 今の陝西省、漢中與安の二府

なり。

かんちゆう 灌腸 生理 大便の秘結せる時、肛門より

薬を注入し、便通を促す法なり。

かんちゆう 干潮 地文 海水の平面、時を定め低落す

る現象なり。

かんーじやう 寒潮 地文 寒流に同じ。

かんーづつみ 髪包 古語 づきん、かぶりもの、帕。

かんーてい 鑑貞 人名 鑑僧、奈良の人、奈良法師と

か 五百二十三

世に奈良法師といふ

種す。

かんてん 問田 年賞を納めず 課役を遁るる田。
かんてんこう 感天后 人名 西遷の徳宗の皇后。
かんてんこうひつ 閑田耕筆 書名 伴蒿蹊の著、天
地人物の四門に分ちて五雜俎體にかきしもの、續編を閑田
次筆と云ふ。

かんてんろう 乾電槽 物理 ライデン瓶及其他の蓄
電器を數個組合せたるものなり。

かんてんち 乾電池 Dry cell 物理
液體用ゐざる甚だ簡便の電
池、外部箱と亞鉛を用ゐて陰極と
し、其中に炭素棒を入れて陽極と
し、其周圍にコークス粉末及二酸
化マンガンの練物を塗り、更に綿
狀鹽化アンモニウムを詰めこむなり、ホルム、四一、
五なり、永時使用するには溶液を吸収せしむべし。

カント Kant 人名 哲學者 ドイツのケーニヒスベル
ヒに生れ 西紀一七四〇年大學に入る 同一七七〇年大學教
授 論理 心理を擔任す、在職すること一七九七年 卒す
年八十一なり、實に今世哲學の泰斗にして批評哲學の創
開者、其著頗る多し。(西紀一七二四—一八〇四)

かんてんち 乾電池 Dry cell 物理
液體用ゐざる甚だ簡便の電
池、外部箱と亞鉛を用ゐて陰極と
し、其中に炭素棒を入れて陽極と
し、其周圍にコークス粉末及二酸
化マンガンの練物を塗り、更に綿
狀鹽化アンモニウムを詰めこむなり、ホルム、四一、
五なり、永時使用するには溶液を吸収せしむべし。

かんてんち 乾電池 Dry cell 物理
液體用ゐざる甚だ簡便の電
池、外部箱と亞鉛を用ゐて陰極と
し、其中に炭素棒を入れて陽極と
し、其周圍にコークス粉末及二酸
化マンガンの練物を塗り、更に綿
狀鹽化アンモニウムを詰めこむなり、ホルム、四一、
五なり、永時使用するには溶液を吸収せしむべし。

かんてんち 乾電池 Dry cell 物理
液體用ゐざる甚だ簡便の電
池、外部箱と亞鉛を用ゐて陰極と
し、其中に炭素棒を入れて陽極と
し、其周圍にコークス粉末及二酸
化マンガンの練物を塗り、更に綿
狀鹽化アンモニウムを詰めこむなり、ホルム、四一、
五なり、永時使用するには溶液を吸収せしむべし。

かんてんち 乾電池 Dry cell 物理
液體用ゐざる甚だ簡便の電
池、外部箱と亞鉛を用ゐて陰極と
し、其中に炭素棒を入れて陽極と
し、其周圍にコークス粉末及二酸
化マンガンの練物を塗り、更に綿
狀鹽化アンモニウムを詰めこむなり、ホルム、四一、
五なり、永時使用するには溶液を吸収せしむべし。

かんてんち 乾電池 Dry cell 物理
液體用ゐざる甚だ簡便の電
池、外部箱と亞鉛を用ゐて陰極と
し、其中に炭素棒を入れて陽極と
し、其周圍にコークス粉末及二酸
化マンガンの練物を塗り、更に綿
狀鹽化アンモニウムを詰めこむなり、ホルム、四一、
五なり、永時使用するには溶液を吸収せしむべし。

かんごうみやく 眼動脈 生理 内頸動脈より起り
直に視神經の外側をへて眼窠に入り 別れて三大四小の枝
となる。

かんごく 簡牘 手紙のこと 竽牘ともかく。

かんごの 神殿 神社の古語。

かんごののみづみ 神門湖 地理 出雲國神在湖。

カントン Canton (Malacca) 廣東 地名 支那廣東
省の首府 南清貿易中心地、西廣總督駐在所 砲臺及艦隊
を備ふ、茶、砂糖、絹、肉桂等を出す。

かんなんちーにーまる 肝腦塗地 困窮の極なり。

かんながらのころ 神隨心 神のままなる心、赤
心の意、かんながらのみちを神道と云ふ。

かんないやま 神南備山 地理 山城國縹喜郡の西境
にある山、紅葉、時雨の名所たり。

カンニング Canning 人名 政治家能辯家 イギリス
のシオルガ、カンニングはビットの後宰相となり、ナポレ
オン政策に反對して之を挫く、(西紀一七七〇—一八二七
)、此子は即ちチャールズ、ジョンにして印度總督伯爵たり
き。

カンヌ Cannes 地名 地中海沿岸の佛國小港、西紀一八
一五年三月一日ナポレオン二世、エルバ島を脱し、此地に

上陸す。

かんぬなわみみのみこと 神傳名川耳尊 人名
神武天皇の皇子 綏靖天皇なり 手研耳命を射殺して功あ
り。

カンチー Canae 地名 イタリアのアプリアの古市
西紀前二一六六年ハンニバルのローマを破りし地。

かんのさき 長官君 古語 官省局衛の長官、かんの
との(長官殿)かんのぬし(長官主)などとも云ふ。

かんのほうけん 漢の封建 歴史 支那漢の高祖
秦の孤立に鑑み 子弟同姓を王に封じ 此以外のものにな
さしめず、是れ一朝事ありて相助けて鎮定せしめんにあ
り。

かんば 簡馬 馬を閑すること、簡は閑なり。

かんばたき 神庭瀑 地理 美作國眞島郡神庭村にあ
る瀧、高三十六丈 幅八間あり。

かんばのらう 汗馬の勞 戦功なり。

カンパニヤ Campania 地名 イタリア西部の古代の
一州 土地肥沃、穀類、葡萄酒、油等を出す。

かんばら 蒲原 地名 駿河國庵原郡の一 東海道
の一驛、永祿年間小田原北條綱重の武田信玄に敗られし地

カンバーランド Cumberland 人名 イギリスの高僧に
て論理學者、(西紀一六三二—一七一八)イギリスの戯曲、

小説 論理家(西紀七一三二—一八一二)イギリスの將軍、
(西紀一七二二—一七六一)

カンバーランド Cumberland 地名 イングランド北部
の一州、(54.45N, 3.0W) 合衆國マッフィンランドの半島
合衆國メリーランドの府、(39.37N, 78.43W) 合衆國ケン
タッキー州の河及山脈。

かんび 雁皮 Wickstroemia Sikokianum Presl 植物
瑞香科木本 高さ二三尺 葉は卵形 花は黄色、キ
ガンビ、コガンビと共に 其内皮の纖維を製紙の原料とす

ガンビ Gambia 地名、一、西アフリカ州の川、セネ
ガルを貫流しバサーストの近傍にて大西洋に注ぐ 全
長一四〇〇哩、二、カンビア沿岸の英國殖民地、獸皮、木
綿 米等を出す。

かんび 韓非子 書名 支那戰國の刑名法術の大家
韓非の著 二十卷あり。

カンビセス Canbyes 人名 マルシア王キロスの子
エシブドを征服し 晩年放肆に流れ 殘虐なり 西紀前五
二二年死す。

かんぶこつかく 幹部骨 生理 脊柱胸骨肋骨舌骨
より成る。

かんぶんてい 簡文帝 人名 一、是は東晋八代帝、
か 五百二十五

桓温に迎立せられ 九閉月にて病歿す、二、綱は梁第二代帝 侯景の自立し漢王となるや 大寶二年廢せらる。

カンブレー Cambrai 地名 シェルト河上にあり、リオン織物製造盛なり。

カンベール Cambay 地名 インドのボンベイの北にある港、一時繁昌せり。

かんべ 神戸 地名 伊勢國河曲郡にあり 本多氏の舊藩地なり。

かんべーいりんさい 神戸有隣齋 人名 柔術家、大阪の人、天明頃に出で 灌心流柔術の祖たり。

かんへき 環壁 地名 噴火口を圍繞する圓状壁を言ふ

カンペーシウ Campeche 地名 一、メキシコのユカタン半島の西南部を成せる一州、農業を主とし、玉蜀黍、砂糖、煙草 米等を出し、廣大森林より藥材を出す、二、同州の首府、西紀一五七七年フランス、ヘルナンデス、コルドバの發見創建に係る、一八四二年十一月十八日メキシコ人と大に戦ひし地なり。

ガンベタ Gambetta 人名 政治家 フランス共和黨の首領、普佛戦争の時パリ城に圍まれ 大に苦戦す 後エスサス、ロートリンゲン等の二州回復を謀りしも成らず、國民哀悼の中に歿す(西紀一八三八—一八八二)。

かんぼーフォルミオ Campo Formio 地名 イタリア東北部ベチチアの一小村、西紀一七九七年フランス オーストリア兩國間に條約締結せらる、ベチチアの數州はオーストリアに還附し、ベルギーの屬州とロンバルディアの一部はフランスに讓與す。

カンボフ フォルミオ わやく カンボ、フォルミオ和約一七九七年ナポレオン、ボナパルトがカンボ、フォルミオにて、オーストリアと結びし和約なり、此和約にて、オースト

リアは境領子デルランドを讓與し、ロンバルディアに於ける主權を棄てたり。

かんぼんししよ 監本四書 書名 唐版四書に同じ、即ち 大學、中庸、論語、孟子なり。

かんまんししよう 緩慢昇降 地名 地球の冷却收縮する結果、地面の緩慢に昇降するを言ふ。

かんまん のーたき 咸滿澤 地理 一、下野國日光山の含滿淵、二、信濃國高井郡湯田中村の瀧 高三十九丈。

かんみむすびのーかみ 神皇產靈神 人名 造化の神と稱せらる。

かんーみやく 岩脈 地名 熔岩の、岩石中に存する裂罅を尋ねて之を填充したるものなり。

かんぬんか 顔面角 生理 額より鼻孔の間に引ける線と鼻孔の下より耳孔に引ける線とのなす角を言ふ、此角は野蠻人はと小なり。

かんぬんしろう 完面像 礦物 各晶系に於て成立し得べき、凡ての面の完備したる結晶を言ふ。

かんぬんしろうかい 顔面頭蓋 生理 頭部骨格の一、呼吸器、消化器の上部なる口鼻の二腔を構成す、十四個の骨より成る。

かんーもう 冠毛 Pappus 植物 萼片の數多の絲毛に

かんーほう 咸豐 年號 清文宗の治世十一年間にて 實に清國國事多端の時なりき 長髮賊の亂、鴉片事件、アロー事件皆此時なりき。

かんほうろ 廢彭祖 人名 西漢の世の春秋の經家、公羊嚴氏春秋の著者なり。

かんーぼく 肝木 植物 紫陽花科木本、葉は葡萄に似初夏白色五瓣花を開き 秋實を結ぶ材堅く 楊枝を作る。

かんーぼく 灌木 植物 一、亞灌木一下部或は全部木質 新生部年々枯死す、二、本灌木一莖の全部木質、新生部年々枯死せず、地下に近き部より數多の側生枝を出す。

カンボチア Cambodia 地名 インド支那の一小王國 交趾支那の北、シアムの南、西紀一八六三年以來佛國保護領たり。

かんらくーじしん 陷落地震 Depressive earthquake 地名 地下侵蝕作用にて 地中に空洞を生じ、重力によりて上層の地盤陷落を來すにあり、其區域狹し、明治三十一年攝津有馬の地震は此の一例なり。

かんらくーろ 乾酪素 化學 カゼイン同。カゼイン同。かんーらん 橄欖 植物 木本、歐亞南部に生じ、葉は椶に似て細小なり、實は綠色、長一寸、核六角にて堅し、其仁より所謂 Olive oil 即オリブ油を得、淡黃、帶綠黃色、又は褐色にて オレイン及ステアリンを含む、故に石

分岐してなれるもの、一、絲狀冠毛 (Pliosepappus) ツンブキ、タンポポの類、二、羽狀冠毛 (Plumosepappus) アザミ、パラモンジンの類。

かんやいみみのーのみこと 神八井耳命 人名 神武天皇の皇子、帝崩後庶兄手研耳命姦謀ありたるを弟神停名川耳尊誅せられたるに依り其功に服し、己れ位に即かず弟をして即かしめられたり。

かんーゆ 韓愈 人名 唐學者 韓退之に同じ。

かんーゆ 乾油 化學 乾性油に同じ。

かんーよう 漢陽 地名 今の朝鮮の首府京城なり、西紀一三九二年季成桂 高麗を滅ぼし王位に即き、都とせし地なり。

かんらくーじしん 陷落地震 Depressive earthquake 地名 地下侵蝕作用にて 地中に空洞を生じ、重力によりて上層の地盤陷落を來すにあり、其區域狹し、明治三十一年攝津有馬の地震は此の一例なり。

かんらくーろ 乾酪素 化學 カゼイン同。カゼイン同。かんーらん 橄欖 植物 木本、歐亞南部に生じ、葉は椶に似て細小なり、實は綠色、長一寸、核六角にて堅し、其仁より所謂 Olive oil 即オリブ油を得、淡黃、帶綠黃色、又は褐色にて オレイン及ステアリンを含む、故に石

驗製造に用ゐらる。

かんらんーげんぶがん 橄欖玄武岩 ④ 礦物 玄武岩を見よ。

かんらんーせき 橄欖石 ④ 礦物 斜方晶系にして、黄色又は綠色、條痕は白色なり、玻璃光澤を有し、硬度六―七比重三三―三五なり、

カンリ Kangleh (康里、航里) ④ 地名 カフソカスのトルコ領内に於ける一部邑にてクマ上流の右岸に在り、西紀十三世紀頃はアラル海東北岸一帯の部落を總稱してカンリと云ひたり。

かんーりーろ 乾溜 Dry distillation ④ 化學 固體を強熱にして直ちに氣體とすること。

かんりーろ 寒流 ④ 地名 西極地方より赤道地方に流るる寒冷なる海流なり。

かんりーろーごむ 含硫ゴム ④ 化學 少量の硫黄を含める「ごむ」にして、寒氣に遇ふも硬くならず、むち管を製するに用ふ、多量の硫黄を混すれば、角の如くなり、電氣の不良導體となる、即エポナイト是なり、

かんりーろーごむ 顔料 ④ 化學 繪具に同じ。

かんーりんじ 韓林兒 ④ 人名 明初代僭偽者 樂城の山童の子 所謂紅巾の童賊の長にして愚民を迷はせり、後

除州にありて吳王となり 後二年にて卒す 僭號すること十二年間なりき。

かんりーるん 翰林院 ④ 支那の大學堂、皇帝勅裁によりて北京にあり、**康熙**唐太宗、北門學士をれき 明帝 翰林院と改め 開元二十六年 翰林學士と云ふ。

かんれい 緩冷 ④ 化學 長き時間を費し、徐々に溫度を下ぐることをなり。

かんーろ 寒露 ④ 地名 二十四節氣の一、陰曆九月節、陽曆十月八日なり。

かんーろく 干祿 間祿 ④ 一、仕を求むること、二、無益の祿。

かんろくしろう 岩綠青 ④ 化學 孔雀石の粉末にして、繪具に用ふ。

カンロベル Canrobert ④ 人名 元帥 **モンシス**、カンロベルはフランスの人アルゼリアに廿年間勤務し、ナポレオン三世の**腋股**たりき、共和政府上院議員を以て歿す(西紀一八〇九―一八九五)。

かんわうーごむく 漢王高煦 ④ 人名 明の宣宗の叔父、宣宗の樂安に徙されしを怨み叛を謀りしも、帝に親征されて降る。

かんるんーのーさぶ 閑院左府 ④ 人名 左大臣藤原冬嗣

のこと、かんるんのだじやうだいじんは藤原公季なり。

かんるんーのみや 閑院宮 ④ 人名 四品家親王の一、東山天皇の皇子直仁親王より出づ、伏見、京極、**榎**有川と共に世襲親王なり。

かんをーたりべ 神尾織部 ④ 人名 馬術家、天正頃の人 新當流馬術の祖たり。

かめ 甕 ④ 瓶、へいし、花瓶のこと。

かめ 龜 ④ 動物 爬蟲類 龜類、體扁平盤狀、皮膚の變形よりなる甲は體側に癒着し 其模樣六角形にて十三あり甲の下より鱗を被れる四足及頭を出す、食用としてよし、

かめさく 龜菊 ④ 人名 後鳥羽上皇の寵姫、白拍子と云ひたり 舞に巧みなりしかば攝津長江倉橋の二莊を賜はる

かめーだ 龜田 ④ 地名 羽後國由利郡の一市、岩城氏の舊藩地なり。

かめたーほうさい 龜田鶴齋 ④ 人名 儒者 江戸の人、性豪邁不羈 博聞強記、井上金峨に學び 草楷を善くす。文政九年 七十三を以て歿す。

かめにて 石砌 龜手 **Camellia** ④ 動物 甲殼類 切甲類 蔓足類、海岸の岩**縫**間に附着し、短柄あり 鱗狀に小石灰片を被る、先端に 縱溝ある二枚の貝殻狀殻を有し 其間より胸部にある六對の脚を出し 食物を掻き込む。

被

より胸部にある六對の脚を出し 食物を掻き込む。

かーめん 火綿 Gun cotton ④ 化學 性狀一六硝酸エステル屬にて $C_{12}H_8(O_2NO)_6O_4$ の分子式を有し爆發藥或は無煙火藥とす、製法一強硝酸と濃硫酸との混合物に一晝夜浸したる綿なり。

カメンツ Kamenz ④ 地名 ドイツのサクソニア州の一市 西紀一七二九年レッツィング氏此地に生る。

かめーやま 龜山 ④ 地名 伊勢國鈴鹿郡の一市 石川氏の舊藩地。

かめやまーじんじや 龜山神社 ④ 地理 石見國那賀郡瀧田町丸内にありて 龜山城主を祀れる神社。

かめやまーてんわう 龜山天皇 ④ 人名 人皇第九十代の天子 後嵯峨帝第三皇子恒仁と申す 母は大宮院藤原結子

紀元一五二〇年より十五年在位 後薙髮して金剛源と云ひ南北朝分立するや、大覺寺派と稱せらる、山城國葛野郡嵯峨村に御陵を設け龜山殿法華堂と申す。

カメル Campbell ④ 人名 一、アレキサンデル、カメルはカルビン宗教反對にて 西紀一八〇七年アメリカに移住しカメル派を開基せり(西紀一七八八―一八六六)、二、ジョルジ、カメルはスコットランドの神學者 **スコットランド** 大學

總長たりき(西紀一七〇九―一七九六)、三、印度元帥英國

勇將の一八クライア卿なり。(一七九二―一八六三)。四、

トーマス、カメルはグラスゴウの大詩人、西紀一八二七年
グラスゴウ大學の監督たりき。(一七七七一八四四)。

カメレオン Chamaeleon 動物 爬虫類、保護色類、體
一尺許 全形ヤモリに似、頭上突起、眼大、五趾ありて三
趾内方に向く、運動淺漫、樹枝にありて 先端膨大にて粘
着性舌を出して昆虫を捕食す、特色とは 表皮の下に 青
綠色、赤褐色の両色素塊ありて種々の色に變するにあり。

カメロン Cameron 人名 學者 ジョアン、カメロンは
イングラントの僧 グラスゴウ大學長たり、博學、行動
る圖書館の異名あり 反對派に殺さる(西紀一五七九一
六二五)。

かめろーしげさよ 龜井重清 人名 源義經の臣 四天
王の一人通稱 六郎、一の谷、屋島、壇の浦の役に功あり

かめろど 龜井戸 地名 東京本所區にあり 天満宮、
臥龍梅、秋寺等あり。

かめーな 龜岡 地名 丹波國桑田郡の一市、松平氏
の舊藩地 京都府に屬す。

かめなかしんじや 龜岡神社 地理 陸前國仙臺龜岡
町にありて應神天皇を祀る。

かも Duck 動物 鳥類、游禽類、嘴扁大、黃綠色
雄は美麗綠色に黒色を帯びたる頸、濃紫に黒點ある胸、灰

色に細黒點ある腹 鼠色に黒點交りの脊 鬚稍黒色なるを
有す、雌は全身帯赤灰褐色に黒斑交れり、尾、脚共に短か
し、趾間に蹼あり、肉は美味、滋養となる。

カモエンス Camous 人名 詩人 ホルトガルの入り
スホンの貴婦人に戀慕せられしも拒絶して 陸軍に入り
ヌウル人と戦ひ インド遠征に 長官に抗し マカオに放
逐さる(西紀一五二四一五八〇)。

かもーがた 鴨方 地名 備中國淺江郡の一市 池田氏
の舊藩地、今は岡山縣に屬す。

かもーがは 鴨川 地理 源を愛宕郡北部山間に發し
鞍馬、貴船、高野の三川を合し 京都東部を貫通し 桂川
に入る、白河帝三不如意の一なり。

かまがはーのり 植物 念珠藻の一種にして、淡水産な
り、食用に供せらる。

かもーしか 鹿 Nemorheadus or Antelope 動物
哺乳類 鹿類 體長三尺 毛色黒褐 一對の圓鏡なる角
あり 多節にて光澤あり 我秩父 駿河に棲み アルプス
山、ヒマラヤ山、印度 ヘルシヤ等に産す。

かもーすたか 加茂季鷹 人名 京都加茂神社の祠官
有栖川織仁親王に和歌を學び、橘千蔭にも學び、其學大に
進む、天保十三年九月 年九十一にて歿す。

かもーのーけいば 加茂の競馬 五月五日 山城上下加
茂神社に行はる競馬。

かもーのーちやうめい 鴨長明 人名 加茂神社の氏人
源俊賴、俊惠法師に學び 和歌管絃に精し 後鳥羽上皇の
寵を受け 和歌所寄人となり 加茂社祠官たらむとして成
らず 鎌倉に在りて 源實朝の門に入せしも京都に還り
難髮して蓮胤と稱し 日野山(宇治水幡山の東北)に廬を設
け 建保四年六月八日 年六十三にて寂す 方丈記の著わ
り、長明の爲人を知るに足る。

かもーのーはし 鴨嘴獸 Duck-bill 動物 哺乳動物
一穴類 大きテコ程、全身短毛あり、
口喙は潤鴨嘴に似、四肢短く、趾間
に蹼あり、生殖孔、肛門同一、卵生な
り、水邊中にありて 魚、軟體動物を
捕食す、最も多く産するは濠州南米な
り。

かもーのーやしろ 賀茂社 山城國愛宕郡に在り 上賀
茂、下賀茂の二社に別る、二社を合して賀茂大神といふ、
王城鎮護の祠なり、上賀茂社は、賀茂別雷神社と稱して、
玉依姫の子別雷を祀り、下賀茂社は賀茂御祖神社と稱して
賀茂氏の祖賀茂建角身命、玉依姫神を祭る。

かもーのーやしろ 賀茂社 山城國愛宕郡に在り 上賀
茂、下賀茂の二社に別る、二社を合して賀茂大神といふ、
王城鎮護の祠なり、上賀茂社は、賀茂別雷神社と稱して、
玉依姫の子別雷を祀り、下賀茂社は賀茂御祖神社と稱して
賀茂氏の祖賀茂建角身命、玉依姫神を祭る。

かもーまつり 賀茂祭 四月酉日 山城愛宕郡上下加
茂社に行ふ祭、欽明帝に始り 平安朝に最も盛なりき 下
賀茂社は下鴨村にありて賀茂御祖神社と稱し 賀茂祠の祖
賀茂建角身命 玉依姫神を祀り 上賀茂社は上賀茂村にあ
りて賀茂別雷神社と稱し 玉依姫神を祀る。

かもーまぶち 加茂眞淵 人名 國學者三大人の一。遠
州加茂社の祠官 定信の子 政信と云ふ、徂徠春滿に學び
古學古言、和文和歌を能くす 古學及長歌復興の祖たり、
後田安中納言守武の寵を受け 明和六年 年七十三にて歿
す、冠辭考 萬葉考 源氏物語新釋等の著あり。

カモミレ Chamomile 植物 一名カミツレと稱し、菊
科多年生草本なり、白花を開き、季節は夏なり、花を發汗
劑とす。

かもーめ 鰐 Seal-eall 動物 鳥類、游禽類、體鳩に似
て白色、嘴端鈎状をなし 強くして赤色、翼灰白色にて長
く、前三趾間に蹼ありて 海上を飛翔し 小魚を捕食す。

かや 榎 Camyda mollevaria 植物 松柏科木本 雌
雄異株、針葉平、材白色木理美麗、核中の仁は油を搾りて
燈用其他の用に供す。

Torreya nuciferensis et s.

かや 萱 植物 草本、寄生根、蘆に似て莖中空ならず
屋根を葺くに用ふ、花は秋開く。

かやうもん 嘉陽門 内裏内廓十二門の一。

かやく 火薬 化学 硝石、硫黄、木炭の混合物なり、
普通硝石七十五分、木炭十五分、硫黄十分の割合に混す、
点火すれば左の如き反應起る、
 $NO_2K + S + 3C = SK_2 + 3CO_2 + N_2$

かやのうみ 可也海 地理 筑前國怡土、志摩二郡
に灣入せる海。

かやのしげね 萱野重實 人名 赤穂四十七士の
一人、攝津萱野村の人、元禄十五年三月十四日 先君忌日
の前夕 書を其雄に送り 自宅にて自殺す、性忠君に厚く
主君の變を聞き 母の棺に遇ふも顧みざりき。

かやのつねなり 茅野常成 人名 赤穂四十七士の
一人 富田藤吾と變名し 吉良氏を襲ひ 復讐を遂ぐ 元禄
十六年二月四日死を賜ふて死す、年三十七なりき。

カヤリク Kayalik (Kopal) 海押立 地名 中部シベ
リアのセミレンチエンスク州の首府なり。

カヤル Kaval 加異勒 地名 英領インドの一市

モリン海角の東北六五哩、眞珠を出す、マドラス管下。

かま 假葉 植物 葉柄が葉状となり、葉身の代用を
なすものを言ふ、之は地平面に直角に立つものにして、葉
脈も亦尋常葉と異なり。

かま 花葉 植物 顯花植物の花を形成する所の變形
葉にして、最も完全に發達せる花は、萼片、花瓣、雄蕊及
心皮(子房)を有す。

かようせい 可溶性 化学 水或はアルコール等を溶
媒として之に溶解する性質なり。

かようゆう 過熔融 Superfusion 物理 液体の其
凝點固以下の温度にて 尚液状を保つ現象なり 凝の凝固
點四度なれども 水と混してヒーカーに入れ 熱にて溶
融せしめ放度するときは二十度に至るも凝せざる如きは此
一例なり。

かよーちやう 駕輿丁 御輿をかつぐ人。

かよひーごころ 通所 密に通ひゆく所。

カラ 加羅 地名今の朝鮮金海府にして、神功皇后の軍
を遣りて安羅と共に我領土とせられたる地なり、我史上任
那といふは是等の總稱なり。

カラ Kara 地名 ロシアの海及河。

カラ Kara 地名 アイルランドの一州、湖多し、

五百四十八
注意!!!
印度のアラハバッド州の一邑。

カラダグ Karda Dagh 地名 此名の山系多し 一、小アッ
アのカバドキア州アマンア附近の一小山系、二、外カフカ
スのクールの一支流アラスの右岸に連る一山系、三、南
ツサリア(ギリシア)に在る一小山脈、西紀前三六四年ピロ
ピダスの死地、西紀前一九七年サッス、クインクツス、フ
ラミニウスがマゲドニア王フィリポ三世を破りし地なり。

からーあふひ 植物 タナアアフヒに同じ。

からーあや 唐綾 支那より傳はりし綾織、鎧などを作
くるに用ゐたり。

からいーせり 柄井川柳 人名 川柳點なる一派
の狂句を創めたる人なり 寛政三年九月七十三にて歿す。

カラキタイ 黒契丹 地名 遼の徳宗の金の爲國を滅ぼ
されて西走し、回紇を降し、垂河上なるペラサゲンに都し
たる國の名、 $Qaraqum$

カーライル Carlisle 地名 カンバーランドの都會(北緯
五四、五三西經二一、五六) 鐵道中心點たり。

カーライル Carlyle 人名 文學者 イギリスの人、十
四歳にてエザンバラ大學に入り エドワード、アーヴィンガと
親交あり エンサイクロペディア發行に力を盡し、英國文學
史上に一新時期を作れり(西紀一七九五—一八八一)。

からいーせんりヲ附箋第一ノ如ク訂正ス

楷

かいらう 家老 今の家令にて 大小名の家臣なりき。

カラカス Caracass 地名 マチズエラ國の首府、地震多
し 人口七萬二千、商業の中心地、寺院、大學あり、シモン、
ボリバルの生地にて同墳墓あり。

からーかち 唐 韓銀冶 一、古語 支那風の船のか
ち或はよきかちのこと、二、應神帝の朝 王仁に從ひて百
濟より來りし鍛工なり。

からーかは 辛川 唐皮 一、備前國高津郡の一池、二
平家重代の鏡、虎の革にて織したり。

からかひーのーたき 唐岬瀑 地理 伊豫國浮穴郡河内
村にある瀑、高二十餘丈、巾五尺。

カラカラ Caracalla 人名 ローマ皇帝、性殘虐 人民
を殺すこと二萬人、遂に護衛兵に弑さる、在位西紀二一
一年より二一七年まで。

からからーへび 響尾蛇 Rattlesnake 動物 爬蟲類、
有毒類、北米に産す、四尺餘の體、尾端に表皮の變形環狀
物ありて關節十八個に及ぶあり、之を振動せしめて音を發す。

カラカリス Caracallis 地名 マチズエラ合衆國の都
府、(1028N. 67.2W.)

からーき 唐木 熱帯産のものにて 支那より來れる木

此三行の代りに附箋第二ヲ印刷スベシ
五百三十三

除削

附箋(ハリガミ)第一

からいーせんりう 柄井川柳名 人名 江戸浅草阿倍川町
 の人、名正通、通称八右衛門、号緑亭川柳又は無名菴、
 柳點なる一派の狂句を創めし人なり、寛政二年九月七十三日
 歳にて歿す、川柳に上の句を置かず、軍に一向にて吟詠す
 ることを創めしは川柳四世通称人見周助、号風流菴なり、

十四
 三ふ。
 磯賀村にあり、
 藤原秀郷を祀れ
 植物十
 料とす、葉莖共
 動物、鳥類、燕
 は植物性を好み
 言ひ、英語グラ
 eroides, Maxim.
 夏半白色五瓣
 く細し 後小卵
 鹽漬或は味増漬

一年 年六十死す。
 二二分し額の上にて各輪に

からすーがは 烏川 地理 上野國を流るる利根川の
 支流なり。

からすーがひ 烏貝 蚌貝 *Unio Anodonta* 動物 楔足
 類 體八寸許 長楕圓形 外面黒色 表皮輪層、變あり、
 内面眞珠色にて薄紅色を帯ふ 靱帶廣大、多く淡水軟泥池
 の上層に棲む。

からすき 唐鋤 牛馬に牽かせて 田畑を耕すに用ゐ
 る具、柄曲りて 刃廣し、牛に縛りつくる部分を犁榮(か
 らすきのしりがせ)、未底に上より縦に貫ける棒を犁末筋
 (からすき一のたたりかた)と、前に車の轆の如きを犁末
 轆(からすきのとりくび)と、土を壞す部を犁鏡(からすき
 のへり)と、柄を犁末底(からすきのゐさりと云ふなり)。
 からすき一ぼし 唐鋤星 天文 二十八宿の一、三個よ
 りなる星形 からすきの如し。

からすき 唐鋤星 天文 二十八宿の一、三個よ
 りなる星形 からすきの如し。

附箋(ハリガミ)第一

からすーぐち 烏口 名 国引墨械、墨汁を含ませて線を引き
 くに用ゐ、形烏の嘴の如きより其名あり、

からすーのーあたまーしろくーなる 烏頭白くなる 出
 來ざることを云ふ、これ 昔支那戰國燕の太子丹の秦に
 質たるとき 秦王のひし言なり。
 がらすーのーげんりうーせいぶんーしゆるる 硝子の原料
 成分、種類 物化 即ち左表の如し。

種類 原料 成分 一名
 カリ硝子、
 ソーダ硝子、
 鉛硝子、
 からすーべび 烏蛇 動物 爬虫類、山野に棲み 全身
 黒色、頭圓 尾尖り 脊に三稜あり 毒蛇なり。
 からすまるーのーだい 烏丸第 足利將軍義政の第、京
 郭北小笠萬里小塔てあり。

藤原氏、天正
 に學ぶ、書を
 植物 禾本科
 耳あり。(禾本
 植物 蓼本
 と下痢とす。

紫檀、黒檀、白檀等を云ふ。

からざね 唐衣 古語 中古婦人の禮服とせし上衣、形半臂に似て裾なく、袷に縫ひて上着にす、錦製なり。

かららく 可樂 人名 落語家、江戸の人、三笑亭と號し、寛政頃の人、大に名を揚ぐ。

からくさ 唐草 織物或は彫刻物の模様にて、蔓草のうづまきたるが如きもの。

カラクム Kara Kum 地名 カスピ海の東北に於る一帯の砂漠にて、別名を黒砂と云ふ、(37°-41°N, 56,30'-65,0°E)

からくんとてう 七面鳥 動物 シチメンテウに同じ。

カラコルム Karakorum 地名 ヒマラヤ山系の一、ヒンツークシよりチベットまで廣がり、中央に一八、〇〇〇呎の高さを有するカシミルより東部トルコに通ずる唯一の通路なり 一名ムスタフと云ふ。

からころも 唐衣 古語 支那衣、ともかく、轉じて 珍らし

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

からころも一着しう 唐衣

作る如き髪の結方、昔元服前の童子に行はる。

からざね 漢才 古語 詩文の才あるを云ふ。

からざさ 唐崎 地名 近江國滋賀郡滋賀村にあり、琵琶湖の西岸の老松一本あるを以て名あり。

からざはやまーじんじや 唐澤山神社 藤原秀郷を祀れる別格官幣社、下野國安蘇郡唐澤山にあり。

からしーな 芥菜 Sinapis Cernua, Thunb 植物 十字科草本、花は黄色、果實は長角、種は辛料とす、葉莖共に鹽漬とす。

からす 烏 Corvidae Crow or Raven 動物、鳥類、燕雀類、全體黒色、鶯より小、性機敏 食物は植物性を好み其種類、甚だ多し。

からす 硝子 化學 之を或は玻璃とも言ひ、英語グラスの訛なり、ビードロ、ギヤマン。

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の

からす 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim 野國を流るる利根川の



除削

からすーがひ 烏貝 蚌貝 Unio Anodonta 動物 楕圓形 體八寸許 長楕圓形 外面黒色 表皮輪層、變あり、内面眞珠色にて薄紅色を帯ぶ 靱帶廣大、多く淡水軟泥池の上層に棲む。

からすーがひ 烏貝 蚌貝 Unio Anodonta 動物 楕圓形 體八寸許 長楕圓形 外面黒色 表皮輪層、變あり、内面眞珠色にて薄紅色を帯ぶ 靱帶廣大、多く淡水軟泥池の上層に棲む。

からすーがひ 烏貝 蚌貝 Unio Anodonta 動物 楕圓形 體八寸許 長楕圓形 外面黒色 表皮輪層、變あり、内面眞珠色にて薄紅色を帯ぶ 靱帶廣大、多く淡水軟泥池の上層に棲む。

からすーがひ 烏貝 蚌貝 Unio Anodonta 動物 楕圓形 體八寸許 長楕圓形 外面黒色 表皮輪層、變あり、内面眞珠色にて薄紅色を帯ぶ 靱帶廣大、多く淡水軟泥池の上層に棲む。

からすーがひ 烏貝 蚌貝 Unio Anodonta 動物 楕圓形 體八寸許 長楕圓形 外面黒色 表皮輪層、變あり、内面眞珠色にて薄紅色を帯ぶ 靱帶廣大、多く淡水軟泥池の上層に棲む。

からすーがひ 烏貝 蚌貝 Unio Anodonta 動物 楕圓形 體八寸許 長楕圓形 外面黒色 表皮輪層、變あり、内面眞珠色にて薄紅色を帯ぶ 靱帶廣大、多く淡水軟泥池の上層に棲む。

からすーがひ 烏貝 蚌貝 Unio Anodonta 動物 楕圓形 體八寸許 長楕圓形 外面黒色 表皮輪層、變あり、内面眞珠色にて薄紅色を帯ぶ 靱帶廣大、多く淡水軟泥池の上層に棲む。

からすーがひ 烏貝 蚌貝 Unio Anodonta 動物 楕圓形 體八寸許 長楕圓形 外面黒色 表皮輪層、變あり、内面眞珠色にて薄紅色を帯ぶ 靱帶廣大、多く淡水軟泥池の上層に棲む。

からすーがひ 烏貝 蚌貝 Unio Anodonta 動物 楕圓形 體八寸許 長楕圓形 外面黒色 表皮輪層、變あり、内面眞珠色にて薄紅色を帯ぶ 靱帶廣大、多く淡水軟泥池の上層に棲む。

からすーがひ 烏貝 蚌貝 Unio Anodonta 動物 楕圓形 體八寸許 長楕圓形 外面黒色 表皮輪層、變あり、内面眞珠色にて薄紅色を帯ぶ 靱帶廣大、多く淡水軟泥池の上層に棲む。

からすーがひ 烏貝 蚌貝 Unio Anodonta 動物 楕圓形 體八寸許 長楕圓形 外面黒色 表皮輪層、變あり、内面眞珠色にて薄紅色を帯ぶ 靱帶廣大、多く淡水軟泥池の上層に棲む。

からすーがひ 烏貝 蚌貝 Unio Anodonta 動物 楕圓形 體八寸許 長楕圓形 外面黒色 表皮輪層、變あり、内面眞珠色にて薄紅色を帯ぶ 靱帶廣大、多く淡水軟泥池の上層に棲む。

からすーがひ 烏貝 蚌貝 Unio Anodonta 動物 楕圓形 體八寸許 長楕圓形 外面黒色 表皮輪層、變あり、内面眞珠色にて薄紅色を帯ぶ 靱帶廣大、多く淡水軟泥池の上層に棲む。

此三行代りニ附箋第一ヲ印刷スベシ

Grid with handwritten text: カラキキ 附箋 地名 耶律大石後に西遼の徳宗の初、吹河上なる西遼のこと、

作る如き髪カミの結方、昔元服前の童子に行はる。

からざね 漢才 古語 詩文の才あるを云ふ。

からさき 唐崎 地名 近江國滋賀郡滋賀村にあり、琵琶湖の西岸の老松一本あるを以て名あり。

からざばやまーじんじや 唐澤山神社 藤原秀郷を祀れる別格官幣社、下野國安蘇郡唐澤山にあり。

からしーな 芥菜 Sinapis Ceruua, Thumb 植物 十字科草本、花は黄色、果實は長角、種は辛料とす、葉莖共に鹽漬とす。

からす 烏 Corvidae, Crow or Raven 動物、鳥類、燕雀類、全體黒色、鷹より小、性機敏 食物は植物性を好み其種類、甚だ多し。

がらす 硝子 化学 之を或は玻璃とも言ひ、英語グラスの訛なり、ビードロ、ギヤマン。

からすーり 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim. 植物 胡蘆科草本、春舊根より發生し 夏半白色五瓣花を開く 漏斗状にして瓣の末端は糸の如く細し 後小卵形の瓜を結ぶ、朱色となる 青色のものは鹽漬或は味噌漬にす。

からすーがは 烏川 地理 上野國を流るる利根川の一支流なり。

一年 年六十死す。
わり、四方赤良と共
八名 狂歌師 通稱
を云ふ。
仕立てしもの 韓
に通ずる唯一の通
共に一八、〇〇〇呎
メンテリに同じ。
ラヤ山系の一、ヒ



〇

からすーがは 烏貝 蚌貝 Unio Anodonta 動物 楔足類 體八寸許 長楕圓形 外面黒色 表皮輪層、變あり、内面眞珠色にて薄紅色を帯ぶ 靱帶廣大、多く淡水軟泥池の上層に棲む。

からすき 唐鋤 牛馬に牽かせて 田畑を耕すに用ふる具、柄曲りて 刃廣し、牛に縛りつくる部分を犁槃(からすき)のしりがせ、未底に上より縦に貫ける棒を犁耒箭(からすき)のたたりかたど、前に車の轆の如きを犁耒轆(からすき)のとりくびと、土を壞す部を犁鏡(からすきのへり)と、柄を犁耒底(からすきのあざり)と云ふなり。

からすきーぼし 唐鋤星 天文 二十八宿の一、三個よりなる星 形 からすきの如し。

カラークム Karu Kumu 地名 カスピ海の東北一帯の砂漠、黒砂とも云ふ。

からすーとんび 動物 「イカ」の口器の一部にして小なるものは上顎、大なるものは下顎に相當す、小兒の戯弄物とせらる。

からすーのーいろつけぐすり 硝子の着色劑 物理 化學、種々あり 重なるもの二三をわぐれば、酸化 コバルトは藍色、黒色酸化マンガンは赤紫色、酸化金は赤色、或は桃紅色等なり。



除削

此三行代りニ附箋第一ヲ印刷スヘシ

からすーのーあたまーしろくーなる 烏頭白くなる 出

來さることを云ふ、これ 昔支那戰國燕の太子丹の秦に質たるとき 秦王のひし言なり。

がらすーのーげんりょうーせいぶんーしゆるる 硝子の原料成分、種類 物化 即ち左表の如し。

Table with 2 columns: 種類 (Species) and 原料 (Raw Materials). Rows include 硝子 (Glass), ソーダ硝子 (Soda glass), and 鉛硝子 (Lead glass).

からすーべび 烏蛇 動物 爬虫類、山野に棲み 全身黒色、頭圓 尾尖り 脊に三稜あり 毒蛇なり。

からすまるーのーだい 烏丸第 足利將軍義政の第、京都北小路萬里小路にあり。

からすまるーみつひろ 烏丸光廣 人名 藤原氏、天正四年侍從、進んで權大納言、和歌を細川幽齋に學ぶ、書を善くす。寛永十五年七月 年六十薨す。

からすーむぎ 燕麥 Avena Sativa, L. 植物 禾本科 草本、小穂花序は圓錐狀に排列す 内穎は毛茸あり。(禾本科を参照せよ)。

からだい 大黃 Rheum nudulatum 植物 蓼本科 草本、葉心形にて大、花小にて帶綠色、根を下劑とす。

Urus chinensis L.

から—たぎ 唐瀑 地理 和泉國和泉郡槿尾山にありて高十八丈 幅二間の瀧なり。

から—たけ 植物 「ハチク」に同じ。 桐橋 Aegle Sapindia De. chinensis Boiss. T.

カラチ Karachi 地名 インドのカラチ海に面する一市 英領にて其海軍根據地の一、又 シンド地方に同名の州あり。

ガラチア Galatia 地名 アジアのアナトリアに

から—なつめ 唐棗 植物 棗科木本、支那渡來品、實圓形にて赤し、仁は固く薬用とす。

ガラパゴス Galapagos 地名 エクアドルの西六〇〇哩にある群島、北方不毛 南方森林多し、皆火山系にて、二〇〇〇の噴火口ありて今尚噴火せり。

から—な—さう 唐花草 植物 蔓草、春舊根より生ず葉は鋸齒状にて三尖或は五尖あり、花は薄緑にて細し、雌エサ、實は寃醉劑或は

カ南部の砂漠、オレトランスバルとの間

四紀十三世紀の初中央國 西遼と云ふ、耶栗復を圖り、別矢八里部を吹河上の骨斯訛

地名 印度古代神

大和國平群郡川東

◎ 附箋第二

から—はふ 唐破風 唐風の櫃、脚あり、長からびつ、荷

除前

箋第二印刷

から—まう—さう

葉は短枝上に數

から—まくら 樊籠 應を籠ふ籠。

から—まつ 唐松 落葉松 富士松 Larix leptolepis, Gord

植物 柏松科木草 落葉 新芽茶筌状、葉は短枝上數個叢生、質柔軟、邊材白色、心材赤褐色、水濕に堪ゆるを以て建築用となる。

から—ま—さう Thalictrum aquilegifolium L. 植物 毛

蕨科草本 花小白色、葉は光で ヒタシ物 胡麻アへと

から—むし 苧麻 Boehmeria nivea, Bl. 植物 蕨科草

本 高四五尺 葉卵形白色、花は單性、雌雄異花を同株に開く、其韌皮纖維を取りて織物とす、チヂミ サラシなど

から—むし Caranum 人名 史家兼小説家、詩人、ロ

から—むし 伽藍 佛詩寺のこと、精舎に同じ。梵語 精舎の義

から—むし Kalantan 阿羅單、訶羅 地名 マライ

牛島の一州、東岸なり、錫 胡椒、金、鉛を出す。

から—むし 伽藍鳥 動物 鳥類 游禽類、體扁平、趾間に蹼あり、足は短なり、嘴は長く、末端曲り 蘆あり

から—むし 柄目木火 天然瓦斯 越後國蒲原郡

ガリアーキサルピナ

村にありて 應神帝の代 三韓人等に頼らしめたる池。

カラフア Carafa 人名 イタリア作曲家（西紀一七八

五—一八七二）

カラフア Carafa ナポリの一族の名、法皇パウル四

世も此族より出でたる一人なり。

カラフト 樺太 地名 露領地、オコツク海の西南に横

は大島、古來蝦夷人住みて 日露の境界明ならず 遂に

衝突するに至り、明治八年五月露部にて我全權公使榎本武

揚と會議ありて 同八月二十二日東京にて樺太千島交換條

約締結せられたり。

から—むし 唐太玉 礦物 青練玉、支那滿州唐太

を経て渡來せるもの。

から—むし 唐船奉行 朝鮮支那より渡來せる

船を始末する武家の役なり。

から—むし 漢籍心 支那風の心。

カラリア Carabia 地名 イタリア南部の一地方、

山多けれども 土地肥沃 油 酒 絹 綿花 果實等の産

出あり。

カラホチ Karakhodjo 地名 今の哈喇和卓吐魯番の

附近、海部の子都哇をして兵を合せ 世祖に逼らしめたる時

部哇の軍を進めし地、（哈喇霍州、和州）。

Urus rugosum L.

からーたき 唐澤 地理 和泉國和泉郡榎尾山にありて高十八丈 幅二間の瀧なり。

からーたけ 植物 「ハチク」に同じ。桐橋 Aeg. Separia De. citrurifolia L.

からーたち 科芸香灌木、葉は三個の小葉、花は白色にて無柄、枝變形して鋭針となれり、人家の藩籬とし、又密柑を接ぐ臺木とせるなり。

カラチ Karachi 地名 インドのカラチ灣に面する一市 英領にて其海軍根據地の一、又 シンド地方に同名の州あり。

ガラチア Galatia 地名 アシアのアナトリアにある一州、西紀三世紀ゴート人侵入、西紀前二五年ローマのプロピンスとなる。

らーつ 唐津 地名 肥前國松浦郡の市街、松浦氏の舊藩地、唐津焼(帶黒薄萌黃色)を出す。

ラット Carat 化學 金の分量を示す語、二十四カラットを純金とす、十八カラットと云へば二十四分中十八分の金を含むこと、我國にて之を金と云ふ。

らーまり 韓泊 地名 播磨國加古川の口高砂の泊るべし、是れ 聖武帝天平年中 僧行基山陽西海南海三の舟船 海行の程を計りて定めたる五泊の一。

村にありて 應神帝の代 三韓人等に擧らしめたる池。

カラフア Carafa 人名 イタリヤ作曲家(西紀一七八五—一八七二)

カラフア Carafa 名ボリの一族の名、法皇バツル四世も此族より出でたる一人なり。

カラフト 樺太 地名 露領地、オコツク海の西南に横は大島、古來蝦夷人住みて 日露の境界明ならず 遂に衝突するに至り、明治八年五月露都にて我全權公使榎本武揚と會議ありて 同八月二十二日東京にて樺太千島交換條約締結せられたり。

からぶごーたま 唐太玉 礦物 青練玉、支那瀋州唐太を経て渡來せるもの。

からぶねーぶさう 唐船奉行 朝鮮支那より渡來せる船を始末する武家の役なり。

からぶみーごころ 漢籍心 支那風の心。

カラフリア Carabulia 地名 イタリヤ南部の一地方、山多けれども 土地肥沃 油 酒 絹 綿花 果實等の産出あり。

カラホチ Karakodjo 地名 今の哈喇和卓吐魯番の附近、海都の子都哇をして兵を合せ 世祖に逼らしめたる時 都哇の軍を進めし地、(哈刺霍州、和州)。

からーなつめ 唐棗 植物 棗科木本、支那渡來品、實圓形にて赤し、仁は固く薬用とす。

からーの 枯野 表黄、裏薄青のもの。ガラパゴス Galapagos 地名 エクアドルの西六〇〇哩にある群島、北方不毛 南方森林多し、皆火山系にて、二〇〇〇噴火口ありて今尚噴火せり。

からはなーさう 唐花草 植物 蔓草、春舊根より生ず 葉は鋸齒状にて三尖或は五尖あり、花は薄緑にて細し、雌花は五裂片にて瓣なし、其間に藥を生ず、實は寃醉劑或は麥酒醸造に用ふ、此花に形とる紋あり。

カラハリ Kalahari 地名 アフリカ南部の砂漠、オレデ河よりドリツ領 南西アフリカ及トランスバールとの間に廣がる、寧ろ牧畜場として適當なり。

カラキタイ Kara-khitai 地名 西紀十三世紀の初中央アチアサマルカンド地方に建てたる一國 西遼と云ふ、耶律大石 遼の滅亡せんとする時西走興復を圖り、別矢八里天山南路の回紇、サマルカンを從へ 都を吹河上の骨斯訛魯察に定め西遼の徳宗と號せり。

カラバ Kalaba (咖喱吧、咬嘴吧) 地名 印度古代神話中の村名。

からびごーのーいけ 韓人池 地理 大和國平群郡川東

からまづーさう

葉は短枝上に數

からーまぐら 樊籠 應を籠ふ籠。

からーまつ 唐松 落葉松 富士松 Larix Leptolepis. Gord

植物 柏松科木草 落葉 新芽茶筌状、葉は短枝上數個叢生、質柔軟、邊材白色、心材赤褐色、水濕に堪ゆるを以て建築用となる。

カラマツサウ Thalictrum aquilegifolium L. 植物 毛茛科草本 花小白色、葉は紫で ヒタシ物 胡麻アへとして食す。

からーむし 苧麻 Boehmeria nivea, Bl. 植物 蕁麻科草本 高四五尺 葉卵形白色、花は單性、雌雄異花を同株に開く、其韌皮纖維を取りて織物とす、チヂミ サラシなどなり。

カラムジン Carasin 人名 史家兼小説家、詩人、ロシアの著書多し(西紀一七六五—一八二六)。

からむ 伽藍 佛寺のこと、精舎に同じ。梵語、精舎の義

カラタム Kalantan 阿羅單、阿羅單、地名 マライ半島の一州、東岸なり、錫 胡椒、金、鉛を出す。

からーてう 伽藍鳥 動物 鳥類 游禽類、體扁平、趾間に蹼あり、足は短なり、嘴は長く 末端曲り 囊ありて魚を入れる、尾短し。

カリヤーキサルピナ

三ヶ

此五行代リニ 附箋文第二ヲ印刷ス

除削

栖目木村及加法寺村より出づ。

からもの一つかひ 唐物使 古 唐土の船舶渡來せるや

取調への爲め 筑後に下る使なり。

からしも 唐桃 植物 薔薇科木本 杏なり、四五尺

花は紅白色、瓣に單複あり。

からゆり 唐百合 植物 百合科草本、支那より渡來

す、花極めて赤く、瓣は厚く、上方にひるがへる。

カニラ Carraia 地名 イタリヤ北部の一市 リボルノ

の西北三〇哩に位す。

カラルク 葛運祿 地名 今の天山北路に居りし 鐵勒

中の一部。

から一わ 唐輪 德川時代 奥女中の内小姓の少女の結

ひし髪のこと。

かり 雁 Wild Goose 動物 鳥類、游禽類、體長二尺

嘴頭長に等しく黄色を帯び、爪白色、土頸平く、額白し、

腹面部黒斑あり、脊面褐色、秋來り春去る、其鳴くや

人をして悲哀の情を起さしむ。かりがね、がねどいふ。

がり Galli 地名 北イタリヤの地、ガリ族の住地 第

一三頭政治のとき ケーザル督總たりき。

カリヤ Karia 地名 小アジアの西南群島海に沿へる

一州。

のみ、金屬カリウムは甚だ容易く此イオンを生ず。

カリカドヌス Cayadnus 地名 小アジアの一河 西

紀一九〇年ドイツ帝フレデリック第三十軍戦争の時溺死

せり。

かりがね 雁 動物 游禽類に屬す、嘴黄色にして頭

長に等しく、爪は白色、脚は袖黄色を呈し、上頸平く、額

白し、背面褐色にて、翼は帯青灰色なり、腹面殊に胸部に

は黒斑あり、長さは二尺餘あり、形小さきヒシクヒの如し

秋の半ばに寒地より來りて春の半ばに歸る、飛翔するや一

定の軌列をなして進み亂るることなし、鳴く音より轉訛した

哀の情を起さしむ、カリガ子はカリの鳴く音より轉訛した

るなり、ガン、マガン、マカリともいふ。

かりざぬ 狩衣 鷹狩の時用ひしものなれど 鎌倉時

代に至り武士と常となる 領圓く帯にて履をしめ 指貫を

つけ 裾を出すを例とし 五位以上は織紋のもの、以下は

無紋を用ふ。

かりざぬしほうせう 狩衣主要抄 書名 狩衣の色目

其着用法を詳説するもの、藤原公麗の著。

かりくち 狩衣 一、狩する處所、二、狩を争ふ。

カリクラ Caligula 人名 ローマ皇帝 ゲルマニクスの

子 西紀三十七年皇位に即く、初め寛仁なりし病後廢者

狩生、狩競

ガリア Gallia 地名 一、ガリア人の住地、今のフラ

ンスなり、二、合衆國オハイオ州東南の一部。

ガリアキサルピナ Gallia Cisalpina 地名 イタリヤ北

部の地、リグリアの北方。

かりあむ 狩襖 古衣 表布、裏絹なり 隨身、舎入

牛飼などの用ひたるもの。

カリヤ Caliao 地名 ヘルメ國第一の良港 リヤを

去る七哩 商業盛なり。

ガリアートランスアルピナ Gallia Transalpina 現今の

佛蘭西地方の事なり、トランスアルピナとはローマ人に對

し「アルプ山外」といふ意味なり。

カリヤリ Cagliari 地名 サルデニア國の首府 主要

港、古代カルタゴ人の商業市の跡あり。

カリウム Potassium 化學 所在一正長石、雲母、或

は植物灰中に炭酸鹽としてあり、製法一炭酸カリウムと木

炭との混合物を鐵製トルトに入れ 強熱し生じたる蒸氣を

冷して製す、 $K_2CO_3 + 2C = 2K + 3CO$ 又電氣分解して

製す、性状一原子量三九、一五、光白色金屬、融點六六一、

五、沸騰して綠色蒸氣となる、酸化し易きを以て水中に貯

ふ。此イオンは一價にて無色有害なり。

カリウムイオン Potassium 化學 一價のもの一種ある

カリウイオン

狂暴、市民を集めて宴飲し 一時に捕へて海中に投ず 西

紀四十一年エール征討の歸途暗殺せらる(一一一四一)。

カリクラテス Kalikrates 人名 アケーアン同盟の大

將、西紀前一四〇年死す。

かりげんぶく 假元服 男子十一歳の時の元服。

カリコ Calicut 古里 地名 インド西岸マラバル海岸

重要都會 木綿を出す 所謂カリコなり、西紀一四九年始

めてバスコダガマ到着す、一六一六年英の根據となり、一

七六五年ハイデルアリに占領せられ 一七八二年再び英人

の手に歸す。

かりこ 狩手 狩獵の時 鳥獸を驅り出す卒なり。

かりごも 刈菰 みだるにかく、刈りたるままの菰

は亂れやすきより云ふ。

カリシ Kalisch 一、地名 ロシア帝國の一部、元の

ポーランド八州の一、首府も同名にて華美なる都會、製造

業に盛なり。西紀一八一三年二月二十八日カリシ同盟のロ

シア、プロシア間に訂約せられし地、二、人名 滑稽家、

ダビード、カリシはヘアライ種のドイツ人にてアレスラウ

に生る滑稽雜誌等の著者あり、(西紀一八二〇一八七二)

ガリシア Galizia 地名 イスパニア古代の一州、大西

か 五百三十九

洋ビスケー灣に面する北西隅の地、一七七二年オーストリ

アに連結す。

カリスト Calixtus 人名 ローマ法王に三人あり、又シオルツカリストはシワレスウイヒに生る、ルーテル派の宣教師たりき(西紀一五八六一一六五六)。

かりろめいぶし 假初臥 古語 假初は 假りに、暫くの意なれば、かりまくら、かりぬ、うたたねのことなり。

カリリダーサ Kalidasa 人名 詩人、インドの人、ピクラーマナーチア朝九聖の一人、印度のセタクスピアと綿名せらる(西紀三世乃至六世紀の内ならむ)。

ガリチア Galizia 地名 オーストリア、ボンガリーの一州、ポーランド分割の時、オーストリアに屬せり。

カリナン Carignan 地名 フランスのアルデンス州の一村邑、セダンの東南一二哩にあり、西紀一八七〇年八月三十一日普軍の佛軍を反撃せし地なり。

カリノス Kalinos 人名 ギリシア最古の詩人、西紀前六〇〇年頃の人。

かりーのつかひ 狩使 一、鷹狩の時の使者、二、觀察使、あせちの類にて、地方政治の可否を見む爲め、中央政府より差し向けられし使者なり。

かりばね 刈株 古語 刈り取りたる木の根。

ガリバルヂ Garibaldi 人名 愛國者、イタリアの人、

アメリカ、ヨーロッパ等に流寓し、西紀一八六〇年サルゲニア王ピクトルエエロのイタリア統一を助け所所に功ありき(西紀一八〇七一八八二)。

かりひ 餉 かれひに同じく干したる飯、旅行の時にもちゆくもの糧にも作る。

かりふ 刈生 古語 かれふに同じ、刈りたる田に、更に草の生ゆることなり。

カリブカ Caribbean sea 地名 南アメリカと西インド諸島間の灣、暴風の起點、灣流の曲折點なり。

カリフォルニア California 地名 アメリカ合衆國西南の一州、太平洋に面す、金水銀の産出多きこと世界に冠たり、サンフランシスコの良港、スクラメント最大市あり、我犬吠岬より東折し、此地に向ひ南曲する部分の黒潮をカリフォルニア流と稱す。

カリホルニア カリホルニア流 地名 黒潮の犬吠岬より東に折れ、北米西岸に向ひ南曲する部分なり

かりーばふし 刈法師 馬の鬣を禿に刈りしもの。

ガリポリ Gallipoli 地名 一、ヨーロッパの一角、ダーダネル海峡の東北端にあり、西紀一八五五年英佛聯合軍の占領せし處、今はトルコの海軍々器械及鎮守府あり、二、イタリア南部の一海港、城砦あり、タレンダム灣

に面す。

カリマタ Kaminata 假里馬答 吉寧馬礁 地名 ボルネオの西、百有餘よりなる群島、大カリマタとピリトニ島との間にカリマタ地峽あり。

かりーまた 雁股 燕尾箭に同じ、又の状をなせる鐵。

カリマキヨ かりま蝶 Kalima 動物 蝶類、琉球地方に産し、恰も木葉の如きもの。

カリンガ Kalinga 地名 英領印度ベンガル州の一市、昔は今のマドラス附近の北方より東海岸に沿ふて一王國をなしたり。

かりんさんせつかい 過燐酸石灰 Superphosphate of lime 化学、製法一燐灰石骨粉等の燐酸カルシウムを含有するものの粉末に硫酸を注ぐなり即ち $(PO_4)_2Ca_3 + 2H_2SO_4 = 2CaSO_4 + (PO_4)_2CaH_4$ 性狀一通常温度にて十倍の水に溶解し、過燐酸石灰肥料となる。

カリンチア Carinthia (Kärnten) 地名 オーストリアの西方イタリヤの境にある皇領地、山岳重疊し礦物に富む

かりんりやうざいし 歌林良材集 書名 一條禪閣兼良の和歌に付てかきしもの。

かりーもがり 瘞 古語 人の死後 假りに棺に藏むる

こと。

カリモンジバ Karimon Djawa 地名 マライ列島中の一群島、就中カリモンジバ島最も名あり、オランダ貿易港あり。

かりーや 刈谷 地名 三河國碧海郡にある市街、土井氏の舊藩地。

かりやす 青茅 Miscanthus tinctorius 植物 禾本科草本、形スキに似、葉共に小、乾して青色の染料とす。

かりようびんが 迦陵頻伽 動物 佛典に 極樂淨土にありて美しき鳥にて鳴く聲又美妙なりとあり。

ガリレー Galileo 人名 天文及物理學者、イタリアのピサに生る、天體望遠鏡、木星の衛星を發見し、振子の性質を研究し、創見甚だ多し、年七十八フロレンチアに死す(西紀一五六四一一六四二年)。

かりーわらは 狩童 古語 山伏に同じ。

かる 離 古語 さる、とはさがる。

カール Karroo 地名 南アフリカの高野 雨後草花繁茂し牧羊に適す。大カール、小カールの別あり。

がーる 蛾類 Heterocera 動物 昆虫類、鱗翅類、成蟲を蛾と稱し、翅を屋根狀に開展して止り、觸角は先端細く、翅の裏面は表面よりも 後翅の表面は前翅の表面よ

りも一般に美なり、幼虫は多く害虫とす。
かるーいし 浮石 礫物 火山地方 河海砂礫中にあり
白 黝 赤等の色を帯び面粗にして 死骸非常に多し 故
に能く水に遊ぶ 黒曜石と同じく火山熔岩の地上に噴出し
て急激に凝固したるなり。

カルカ Kalka 地名 アムリツァールの南東、北部イン
ドに在る一小邑、ヨーロッパロシアのニエヘル河の支流、
古戦場なり。

カルカ Kalka 人名 カルカ有名なる彫刻家、イタリ
アのチチアン式を摸し真に迫れりと云はれたり。

カルカ 喀爾喀 地名 秦漢の世匈奴の居りし所にて、
後漢の北匈奴の地なり。

カルカッタ Calcutta 地名 インドベンガル州の首府
フーアリ河の左岸八〇哩内にあり、印度總督駐在し、公私
の建築物壯麗なり。

カルガン Khalgan (張家口) 地名 清國直隸省北道
宣化府に於ける塞外に通ずる要口にして、長城中に在り、
北京の西北に當り、開市場として、シベリア、蒙古と通商
上緊要の地なり、[40.51N. 114.53E]

かるーかや 刈萱 植物 禾本科草本、ススキに似、葉
表に 白縦の筋あり、莖頭に穂あり、秋七草の一、

の二行を

八万六千あり、カルタゴ人の建設、此國最古の都會の一
なり、[37.36N. 1.5W.]

此國最古の都會の一

と印刷すべし、

カルチア Chalcia 地名 バビロニアの古名。

カルチエー Cartier 人名 航海者、フランスの人、西
北航路探見のため三度北米に航し、フランシス一世の時カ
ナダを佛領とせり(西紀一四九四—一五五四)。

カルチガン Cardigan 人名 英國の將軍クリム戦役に
輕騎兵旅團を指揮して殊勳を樹てたり、(西紀一七九七—
一八六八)

カルツーム Khartoum 地名 エジプトのダスンの一要
市、白青ニール両河の合流點、一八二三年モハメット、ア
リの建設。

カルデア Chaldea 地名 昔しはバビロニアの西南メ
ルシア灣に至る地方の名なりしもカルデア人バビロニアを
占領してよりバビロニアをもカルデアと云ふに至りたり、

カルデア Caldea 地名 チレの太平洋岸アタカマに在
る海港にて礦物集散の地なり、人口約三千あり、
[27.38. 70.53W.]

カール—テール—グロ—ッセ Karl der Grosse 名 カロロ大
帝の諱名。

カルデロン Calderon 人名 大劇曲家、ネチロカルデ
ラ—パルカはイスパニアの人、批評家より古今の伯眉と

カルケドン Chalcedon 地名 コンスタンチノブルの
對岸ビチニアの都市。

カルシウム Calcium Ca 化学 製法—沃化カルシウム
に金屬ナトリウムを作用す、(CaI₂ + 2Na = 2NaI + Ca)、
性狀—原子量四〇・一、銀白色金屬結晶、空氣中にては直に
水酸化カルシウムの薄膜に包はれ、水に入れば作用して水
を分解し水素を出す、イオンは二價無色なり。

カルシウム—イオン Calcium 化学 カルシウム、イオ
ンは二價なり、無色。

かるしまの—みや 輕島宮 地理 豊明宮(とよのわ
かり)とも云ひ應神天皇の宮、其跡は大和國高市郡白檀村
大字大輕にあり。

カルス Cars 地名 ロシアトルコとアツアの國境にあ
る要害の地、人口九千萬餘、西紀一八七七年ロシアに征服
せられ、同一八七八年バルリン條約にて露領となる。

ガルダ Garda 地名 イタリア湖水中最大のもの、ロ
ンバルデアとベチチアとの間にあり、長さ三五哩、廣さ二
哩、乃至一〇哩、水甚清く 景色佳美、諸島點々とし漁船
相往航す。

カルタゴ Carthage 地名 カーセーシに同じ。
カルタヘナ Cartagena 地名 イスパニアの軍港

稱せられたり(西紀一六〇〇—一六八一)。

ガルトク Gartok 地名 チベットの一村、インドス川の
源に近し、支那、チベットとカシミルとの間に夏時茶、獸毛
等の交易盛んに行はる。

カルナク Karnak 地名 エジプトの一村、ニール河の
東岸に在り、古代の堂塔多きを以て名あり、

ガルニエー Garnier 人名 此名の人多くあり、一、ア
ドルフガルニエーはフランスの哲學者、パリ大學教授たり
き、(西紀一七四五—一七九五)、二、マリ ヨセフ フラ
ンシス ガルニエー探検家(フランス) 西紀一八六〇—
一八六二年までコシエンシーヌ、一八六六年メコン河を探検
(西紀一八三九—一八七三)、三、ガルニエーバジエは フ
ランスの政治家、西紀一八四八年以來東洋諸國の公使たり
き、(西紀一八〇三—一八七八)。

カルニオラ Carniola (Krain) 地名 オーストリアの
西南、カリンチアの南に在るオーストリア皇領地、イスパ
ニアのアルマデンに次ぐ水銀の産地なり、人口五萬餘あり、
[46.0N. 14.0E.]

カルノー Carnot 人名 一、マリーフランシスカルノ
—は西紀一八八七年フランス大統領、一八九四年リヨンに
て無政府員に殺害さる、二、ユラスカルノーはフランスの

か 五百四十三

數學者、建築家、後公安委員、革命軍の組織者、内務大臣たり(西紀一七五三—一八二三)。

かるーのーわうじ 珂瑠皇子 人名 文武天皇を見よ。
かるーのーわうじよ 輕皇女 人名 允恭天皇の皇女、同母兄なる皇太子木梨輕と密通せし故伊豫に流さる、實に我國流刑の始めなり。

ガルバ Galba 人名 西紀六八年六月子ロ帝に次でロ一マ帝となりしも、苛酷にして各藩なりしを以て六九年一月臣下に殺さる。

カルパチン Carpathian Mts 地名 ホンガリアの東北、半環状をなして連亘せる山脉、礦物の埋藏多く、松、山毛櫨等繁茂す。

カルハナ Kallhana 人名 カシミル歴史ラジタタランギニを梵語にて書きし人にて西紀一一四八年迄の歴史を完成したり、シンハデマ王時代の人なり。

ガルバニ Galvani 人名 醫、イタリヤの人、ガルバニズムと稱する電氣動物を發明す(西紀一七三七—一七八)。
ガルバニでんりうけい ガルバニ電流計 物理 ガルバニメートルを見よ。

ガルバン Galvan 人名 歴史家、ホルトガルの人、ジョヨン二世に事へ、ローマ、フランス等の諸國へ公使たりき、

Galvanizo

(西紀一四三—一五一七)。

カルバンタ 合兒班答 (一名鄂爾哲圖汗) 人名 伊兒汗にて、合贊の弟、察合臺の也花木先の元の仁宗と戦ふに乘じ其後を躡して察合臺を掠めたり(西紀一三一六死す)。

カルビン Calvin 人名 神學者 フランス人、ラテン語に通じ 經典を研究し 永久神學を修め パリを追はるるや カルビン派を始め 儀典祭祀を廢し 聖餐は唯精神上に感受せりと唱導す(西紀一五〇九—一六四)。

カルベニ Galbe 地名 ノルウェーのベルゲン州とハマル州との北境に聳ゆる高山、高さ二六二五呎餘、(61.35N 80E)。

カルヘニシ Karhenis 地名 エウフラタ河畔の地、西紀前六〇五年埃及王子等のパビロニアの子アカド子ザルと戦ひて敗れたる地。

カルボナリ Carbonari 十九世紀の始 イタリヤに起りし秘密結社なり、專制政府を倒すの目的なりき。

ガルベストン Galveston 地名 アメリカのテキサス州首要の海港、メキシコ灣に入る同名島上にあり、木綿の商業盛、其貿易世界第三位なり。

カルマル Karnar 地名 スウェーデンの東南の一要塞港

カルマルーれんごう カルマル連合 Calmar Union 一三九七年七月二十日 スウェーデン、デンマルク、ノルウェー三國同盟條約締結して一王國となる。

カルムク Kalmyks ロシア人、トルコ人と雜居し支那西部シベリア、東南ロシアの間に住する蒙古人の一支族にて遊牧民なり、其數二十萬を過ぐ。

カルルク 柯耳魯部 地名 唐の世に葛邏祿と稱せし部族、今の支那天山北路に居りしが、西紀一二〇九年元の太祖に征せらる。

カルルク Karluk (歌邏祿、匪刺魯、柯耳魯、合魯)

カルルスタット Karlstadt 地名 クロアチヤ(オーストリアホンガリー)の一市 人口五五〇〇餘あり。

カルルスタット Karlstadt 人名 宗教改革者ドイツの人、一時ルーテル派なりしも 實行教儀を異にせり、パーセル大學教授たりき(西紀一四八三—一五四一)。

カルルスバード Karlsbad 地名 オーストリアホンガ

リアの北境ホヘミヤに在る温泉場、西紀一八一九年埃相メツテルニヒの各諸大臣を集め、提議を可決せし地なり

カルロス Carlos 人名 イスパニア王カロロを見よ。
かるるさば 輕井澤 信濃國佐久郡にありて神仙道の要路、土地高く 避暑地たり。

カレー Carhae 地名 メソポタミアの一舊市、アラハムがカーナン地方遊歴の出發地、西紀前五三年ローマ大官クラウディアスのバルチア人と戦ひ大敗して知事に殺る地なり。

カレー Calais 地名 フランス要港の一、ドーバー海峡に面す、イングランドより歐洲に渡る旅人は此地に上陸す、綿布の輸出盛なり。

カレール Plunder 動物 魚類、軟鱈類、體長一尺五寸 扁平、眼は右側、背鰭長し、腹鰭短小、暗紫色にて斑點あり、一面白くして鱗なく 一面黒色、肉白色にて淡薄なり、温泉兩帯に産す、其名種々あり。

カレール 過冷却 物理 液體の其凝固點以下に冷却せらるるも、尙は液狀を保つ現象なり。

かれーの 枯野 冬の野 草木のかれはてたる野。
カレドニア Caledonia Canal 地名 運河、スコットランドの西北の部分 大西洋と北海とを連絡す、長六〇哩、

西紀一八二三年成る。

ガレナス Galenos 人名 醫、哲學者 キリシアの人、諸國を遊歴し、ローマに西紀一六四年より四年間 住せり 著書多し(西紀一三二二〇一年)。

かれーばむ 枯 國四 古語 草木のかれて見ゆ。

ガレリウス Galerius 人名 ローマ皇帝、一兵卒より起り、テオクレチアヌス帝の養子となり、西紀三〇五年東

ローマ帝國の王位に即く、耶蘇教徒を虐待す。

かろーじんじや 賀露神社 地理 因幡國高草郡賀露村にありて大山祇命 猿田彦命 武甕槌を祀れる神社なり。

カロヌ Calones 人名 フランスの政治家、(西紀一七三四—一八〇二)。

ガロンヌ Garonne 地名 フランス西南部重要の河、

ベネ子山中に發し、ビスケイ灣に入る 長三四六哩。

カロライナ Carolina 地名 北米合衆國南の一州、南

北に分る、北は土地肥沃山林多し、礦物木材に富む 南は

沼澤多し、眞實の穀物 綿等を出す。

かろり Calorie 物理 一瓦の水を、攝氏零度より溫度一度だけ上らしむるに要する熱量なり、熱量の單位なり

かろりんじやし カロリン椰子 植物 果實は大

さ三寸にもなり、松毬の如き鱗にて被はる、此鱗の先は下に

向り、胚乳は鉦製造に供せらるるを以て各國に輸出せらる、千八百九十七年度に獨逸に輸出せるものにて、價格五萬圓以上なりしと云はる。

カロリంగాう Carolingians 朝 中世フランク王國を統治したる王統、八四三年ベルドン條約にてフランク三分したる故此王統も三分したり、始祖は

カロロ大帝の父ピピンなり。

カロロ Charles Karl, Carlos, Carolus 人名 此名ある人最も多し 順次述ぶること左の如し。

カロロ二世 Charles II ルイスの子、八四一年フオンテノイにてロテールを破り、遂にベルドン條約となりしも彼はノルマン人を防ぐ能はざりしかば、イタリアに逃れてローマの皇帝となりたり、(八二二—八七七)。

カロロ三世 Charles III 八九三年東フランクより迎へられて西フランクの王となり、東西を合同す、王の廢せらるると共に再びフランクに分る、之れやがてドイツ、フランス兩國の基となりたり、(九二九年死)。

カロロ四世 フランス王フィリップ四世の子、一二三二より一三二八迄フランス王たり、カプチアン最後の王なり、治世中ギエヌを失ふ、(一二九四—一三二八)。

カロロ五世 フランス王ジョアン二世の子、一三六一年よ

り一三八〇年迄王位に在りたり、此間英國に奪はれたる地は總て殆んど之を回復し、財政を整理し、大學の特權を擴張し、圖書館を建てたる等治績の見るべきもの多し、パスチューは實に此時代に設立されたるものなり、(一三六四—一三八〇)。

カロロ六世 カロロ五世の子、一三八〇年より一四二二年迄フランス王たり、父と同じ寛宏の政治を行ひ、Wittelschid の名を得たるも、社來暗弱なりしかば貴族の政虐甚しく、英國に、トロイ條約にて多くの地を取られたり、(一三六八—一四二二)。

カロロ七世 カロロ五世の子、一四二二年王位に即く、實に百年戦争の最中なり、女傑ジャンヌ、マルクの出でたるは此時なり、(一四〇三—一四六一)。

カロロ八世 フランス王、ルイス十一世の子、幼年の時貴族の亂ありしも、ブルターニャ公の女アンナを娶りし爲其領土を併せ王權を確立したり、後イタリア戦争緒を啓くや一四九四年兵を率ゐてナポリを略したる事あり、(一四七〇—一四九八)。

カロロ九世 フランス王、ヘンリ二世の子、治世中ユグノーの内亂あり、バルトロメ祭日の虐殺は一五七二年なり、王之を愧ぢて樂まず、後二年死す、(一五五〇—一五七四)。

カロロ十世 ルイス十八世の弟、一八二四年兄に次でフランス王となる、性頑明、舊政を復し、貴族僧侶を優待せし爲め人民の反抗を招き、一八三〇年七月革命起り出走す、(一七五五—一八三七)。

カロロ Charles I (イスパニア) 獨逸のカロロ五世を見よ カロロ二世 (イスパニア) フィリップ四世の子、一六五五年王となる、一七〇〇年死す、嗣なかりしかば、イスパニア王位繼承の亂起るに至りたるなり。

カロロ五世 (イスパニア) 一八三三年フェルナナンド七世死せしかば自立せしも翌年外國に走りたり。

カロロ四世 (ドイツ) ドイツのパヴリア公ルイスが王位繼承に付き法王と争ひ、廢位せらる、や、後を襲ひて、ドイツ聯邦の皇帝となる、一三五六年、ゴールデン、ブル(黄金文書を發して) 七大侯を選擧侯と稱し、皇帝選舉權を掌らしむ。

カロロ五世 (ドイツ) オーストリア公子、フィリップの子、一五一六年イスパニア王となり、カロロ一世と稱せしも、一五一九年祖父マキシミアン一世の死するや、之に次でドイツ帝となり、カロロ五世と稱す、オーストリア、子イテラランド、サルパニア、ナポリシチリア、イスパニア等を領有し、勢盛んなり、乃ちイタリアに入り、ローマを陥

れ、ボロニアにて帝冠及イタリア王冠を受く、舊教を奉じ
國內のルーテル一派の新教徒を壓せんが爲め、ウォルムス
敕命を發したれども、新教の勢盛んなるを以て、一五三〇
年アウクスブルグ信條を提出し、新舊二派の調和を試みし
も成らず、一五三二年ニホルンヘルヒの宗教和議を結び、
一五五五年アウクスブルグ宗教和議にて、兩派の同權を認
め、事漸く治まる、此間兵力にて諸國を攻略したれども計
畫皆齟齬したり、(一五〇〇一五五八)。

カロロ六世 (ドイツ) レオポルド一世の次子、始めイス
パニア王嗣に充てられしが、王位繼承戦争起り、兄ヨセフ
一世に次で、一七一一年ドイツ王となる。

カロロ七世 (オーストリア) 始めバツリア侯にてカロロ
アルベルトと稱せしが、ドイツ帝カロロ九世其女マリヤ、
テレンサにオーストリアを譲るや、之が繼承權を主張し、フ
ランス、イスパニア等の後援を得て、オーストリア帝とな
りたり。

カロロ十世 (スウェーデン) スウェーデン王、一六五四
年より一六六〇年迄位に在りたり、一六五四年ポーランド
を討ち、ポーランドの獨立を認めしむ。

カロロ十一世 (スウェーデン) 一六六〇年より一六九七
年迄スウェーデン王たり、治世中意を内治に用ひ、王權の

擴張、軍備の充實等に盡したる名君なり。

カロロ十二世 (スウェーデン) カロロ十一世の子、十五
にして王となる、勇敢なる人にして、丁抹、ロシア、ノル
ウェー等に侵入したり、一六九七年より一七一八年迄位に
在りたり。

カロロ Charles of Anjou チーブルス王サン、ルイスの兄
弟(一二二〇一三二八五)。

カロロ Charles the Bold アルゴーニャ 侯爵なり、
リップ善王の子、佛王ルイス九世は彼れが封建君主なりし
を以て、此配下を離れて王國を建設せんとせしも成らずし
て遂に死す(一四三三一一四七七)。

カロロ一世 (イギリス) シェームス一世の子、王位に即
くや、議會との衝突益々激しくなり、クロムウエルの爲め
に廢にせられ、一六四九年死刑に處せらる、(一六〇〇一
六四九)。

カロロ二世 (イギリス) カロロ一世の子、スコットラン
ド王たるを宣言して、イギリスに入り、ウースターにてク
ロムウエルの軍の爲に大に敗られフランスに逃る、クロム
ウエル死してより、一六六〇年迎へられてイギリス王とな
る、有名なる人身保護律を議會にて議決せしは一六七九年
にして、實に彼れの治世中なり、(一六三〇一六八五)。

至五六四 格 寸 眞

カロロアルベルト Charles Albert サルヂニア王にて、
一八三一年フェリス二世に次で王となる、イタリア統一を
遂げんと欲し、オーストリアに對し宣戦を布告せしむ、オ
ーストリア續々兵を起り、爲に事成らずして退隱す(一七
九八一八四九) バツリア侯カロロ、アルベルトの事に就
てはカロロ七世を見よ。

カロロエドワード Charles Edward シェームス二世の孫
一七四五年スコットランドに入り、王位を要求し、インゲ
ランドに進軍せしも破られフランスに逃る、(一七二一一
七八九)。

カロロだいてい カロロ大帝 Charlemagne カロリン
が朝の始祖ピピンの子、七六八年兄に次ぎてフランク王と
なる、サクソン人を平げ、ロンバルデアを滅し、ムーッ人
を討ち、イスパニアを服し、南はエプロより北はエルベに
至る大領土を有す、八〇〇年法皇レオ三世より、西ローマ
帝國の帝冠を受け、都をアーヘンに奠む、治世中銳意治を
圖り國內を數縣に分ち、學術農工を保護奨励し、寺院學校
を建てたる等其治績枚擧に遑わらず、(七四二一一八四)。

カロロ、マルテル Charles Martel カロロ大帝の祖父
にて、フランク王國の宮宰たり、王權漸く衰ふるや、實權
を握る、七三二年サラセン人をツールに擊退して、英名を

轟かせり、(六八九一七四一)。

カワド Kabad (Kawadh) 人名 サタン王朝のメルシ
ア王、第十九代及第二十四代。

カワド Kabad (Kawadh) 地名 印度の一州。

カ

き 五十音圖中、加行の第二位に位す、語の中にあるときは
往々促音のつゝの如く呼ばるることあり、つきれつ(突起)を
つたつ、ひきこむ(引込)を、ひつこむとふが如し、き
の濁音をざとふ。

き 岐 地名 唐朝の末、李茂貞が自立して王となりし
時の國名にして、五代唐の莊宗の時に至りて遂に降りたり

き 貴 令に定められたる階級の別稱にて、三位以上を
稱し、最も鄭重なる待遇を受くるの特典を有するものなり

き 木 植物 根幹枝葉を具へて、年年成長し、容易に
枯れざるものをいふ、樹木。

き 基 化学 種々の化學的變化の際に、分裂すること
なくして、恰も一原子の如く作用するものをいふ、例へば
水又は「アルコール」のOHの類なり、Radical。

き 黃 七色の一にして強く光線を反射す。

き 氣 一、空氣、二、生きて居る力、三、けしき。

き 己 十千の一、つちのと、にれなし。

き 癸 十千の一、みづのと、にれなし。

き 驥 一、千里の馬、駿馬、二、才能の卓絶せし人。

き 井 めぐる意、年、月の一周すること、「井年」「井月」

き 記 事實をしるしたる文。

き 季 一、陰曆にて、三月、六月、九月、十二月をいふ、二、春、夏、秋、冬の稱。

き 期 一定の時間。

き 寸 専ら、馬の身長を計るに用ふる語、「七寸」「八寸」

き 義 一、人倫五常の一、品行方正にして、道にもとらざることを、二、意味、こころ、三、相約して兄弟などの交をなすこと。

き 艦 船を取りよそふこと、即、出帆の用意すること

キアクサレス Kyaxares 人名 メデアの會長フラオルテスの子、紀前六〇六年アッスルバニバル王の子サラコス

を攻め久しくして其城を陥れアッシリア國を亡ぼし都をエクバタナに定む、五九四年(紀前)死す。

キアクトーでうやく 恰克條約 清の雍正五年露清の國

使が、バイカル湖南のプーラ河邊に會して結びたる條約にして、兩國の境を定め、恰克圖を互市場となしたるなり、(西紀一七二七)。

きーあつ 氣壓 物理 空氣の物を壓する力、空氣濃厚なれば、其力も從つて強く、空氣稀薄なれば、其力亦從つて弱しと雖も、通常、六百六十ミリメートルの水銀柱と同一の壓力を有す。

キアーフタ Kieft 地名 シベリアの一市にして、イルクツクの東南一八〇哩にあり、人口四千餘、賣買城と相對して、露清貿易の一大市場なり。

キアペンジッシヤ Henry Cavendish 人名 有名なる英國の化學者且物理學者にして硝酸及酸素と水素とが結合すれば水を生ずる事を發見し、空氣は酸窒二素が一定の割合にて混合せるものなる事を証明したる等學術上の事業頗る多し、(西紀一七三一—一八〇六)。

きーあん 議案 會議に附すべきことを記したるもの。

きあん 乞顔氏 姓名 蒙古の氏にして、鐵木眞の祖不勒の汗と稱へ始めたるものなり。

キアンチ Chianti 地名 トスカナのアルビア、アンブラ、オンブローンの三河の間に介在する地方なり。

きーあんちもにいーくわう 輝あんちもにいーくわう 輝物

り、和歌山縣と三重縣とに分屬す。

キイル 港名、普露西亞のシネレスワイロホル

主要なる海軍鎮守府なり、ハンブルグを去る六〇哩の北にあり、歐洲中良港の一に數へらる、人口六萬餘。

キイワチン Keewatin 州名 加奈陀の一州にしてマニトバ政府の管轄に屬し、嶺山殊に銀銅の産出多し。

きう 灸 もぐさを皮膚の上に置き、之に火を點して、其熱によりて病氣を醫するをいふ。

きう 氣宇 器量、器能、品性、「氣宇宏遠」。

きうーあく 舊惡 前に行ひたる惡事、ふるき惡事、

きうーあん 久安 近衛天皇の御宇の年號、紀元千八百五年より、千八百十年に至る六年間。

ギワイエヌ Guyenne 地名 フランス國の舊州の一にして、ガスコニエの北、フランスの西南に在り、今は多くの地方に分轄せらる、ギワイエヌはギワイエヌ又はアクレイタニアの轉化せるものにして、之は古くローマ人より與へられたるものなり、(GUYENNE)。

きうーはちばん 九夷八蠻 昔、支那にて、諸外國を輕蔑していへる語。

キークエスト

キークエスト Key West 港名 フロリダの西南六〇哩にある、珊瑚島の要塞港にして、かねて、海軍の根據地なり、人口一萬餘、藥物卷煙草等の輸出多し。

きーいちじ 木莓 植物 薔薇科、いちじこの一種、葉は鋸齒状にして互生す、初夏の頃白き花を開く、果實は紅熟し、食用に可ならず、只、もみぢいちじこは之に酷似せる種にして、果實黃熟し、味可なり。

きーいじ 生糸 一、練らざる絹糸、二、絹糸。

きーいのーく 紀伊國 國名、南海道に屬す、十郡あり。

斜方晶系にして、主に纖維柱状をなし、時には粒状をなすことあり、光澤強く、薄片は稍脆性を有す、硬度二、比重四・五一六、成分はSiO₂のみなり、伊豫國市の川の産を以て我國にては最も有名なりとす。

きあんーもん 徽安門 内裏十二門の一、支輝門の左にあり。

きーい 貴意 他人の意見を敬していふ語。

きーい 奇異 ふしぎ、怪しきこと。

きーい 杞憂 俗に、とりにし苦勞、昔、支那の杞といふ國に、一人の愚者ありて、天地の崩ることなきかどて憂へしに、又、其憂を憂へし人ありき、それよりして餘計なる心配をさして杞憂といふに至りぬ、「杞人之憂」。

キークエスト Key West 港名 フロリダの西南六〇哩にある、珊瑚島の要塞港にして、かねて、海軍の根據地なり、人口一萬餘、藥物卷煙草等の輸出多し。

きーいちじ 木莓 植物 薔薇科、いちじこの一種、葉は鋸齒状にして互生す、初夏の頃白き花を開く、果實は紅熟し、食用に可ならず、只、もみぢいちじこは之に酷似せる種にして、果實黃熟し、味可なり。

きーいじ 生糸 一、練らざる絹糸、二、絹糸。

きーいのーく 紀伊國 國名、南海道に屬す、十郡あり。

さうーじき 牛疫 病名 牛の流行病。
 さうーか 九夏 九十日間(夏季の)九春の類なり。
 さうか 繸果 植物 松の果實の如く、裸子を有する、
 數多の展開心皮が繸狀に集合せるものをいふ。
 さうーかう 躬行 身自から實行すること、「實踐躬行」
 さうーかく 嗅覺 生理 物の臭氣を感じる感覺、嗅神
 經の司るもの。
 さうーかつ 裘葛 裘は冬の衣服、葛は夏の衣服なり、
 故に「**た**れび裘葛を易ふ」といふ時は、一年を経たることな
 り。
 さうーがふ 糾合 集むること、とりまとむること。
 さうーかん 休刊 新聞雜誌などの、印刷を休むこと。
 さうーかん 球杆 體操用具、木製にて長さ五尺ばかり
 圓き棒にして両端に球をつけたるもの。
 さうーき 窮鬼 貧乏神とれなし。
 さうーぎ 舊誼 ふるき交誼、以前の交際。
 さうーごのいちまう 九牛一毛 影多なる物に對す
 る極めて僅少なる部分をいふ、「四海一滴、九牛一毛」。
 キウーキアン **Kiu-Kiang** 九江 港名、支那廣東省の韶
 州の市府にして、又貿易港あり、南京の西南二五〇哩に
 在り、人口約四萬、茶商最も盛なり。

Kiu-Kiang

さうーくわい 舊懷 ふるき以前の時を思ふところ。
 さうーくわん 火山 噴火の跡あれども、有
 史期に入りて、未だ一回の噴火なきものをいふ、此の如き
 山も、俄然活火山に變ずることなきにあらず、睡眠火山。
 さうーくわつ 久瀾 久しぶり。
 さうーくわん 九官 動物 鳥名 よく人語を真似す、
 鸚鵡の類なり、鳩灌。
 さうーくわん 舊觀 以前の見ゆ、「舊觀を改めず」。
 さうーくわん 舊貫 一、舊制、二、舊領地、
 さうーけい 氣受 他の自己に對する感情、「氣受がよす」
 さうーけい 九經 九種の經書、即、易經、書經、詩經
 周禮、儀禮、禮記、春秋、孝經、及び論語なり。
 さうーけい 球莖 植物 地下莖の一種にして、鱗莖に
 似て鱗片少し、例へば、すべせん(水仙)の球莖の如し。
 さうーけい 九卿 周の時定められたる三少即ち小師少傅
 小保と九卿とを合せたる稱にして、周の重臣なり。
 さうーけいーじぎ 九經古義 清の惠棟の著にして十六卷
 あり周易、尚書、毛詩、周禮、儀禮、禮記、左傳、公羊、
 穀梁、論語等の古義を明に論評せしものなり。
 さうーけつ 宮闕 天子の御所 禁裡、九重、内裏。

さうーけつ 九穴 生理 人體中の九個の穴、即、口、
 兩耳、兩眼、兩鼻孔、兩便孔、是れなり、九竅。
 さうーげん 九原 黃泉にれなし、地名より轉用す。
 さうーこ 舊故 ふるきなじみ、舊知、舊友、舊識。
 さうーこう 九江港 地名 江西省にあり、古の江州潯陽
 城にして、一八六一年天津條約により開港し、製茶、景德
 鎮燒陶器を輸出す。
 さうーごのーろん 九五尊 天子のこと、一に、九五之
 位ともいふ、「得其正位、居九五之尊」。
 さうーさく 窮策 苦しませられの策略、止むを得ざるに
 出づる策、仕方なしに採る方法、「窮策を案す」。
 さうーし 九死 九死一生の略、殆ど死すべき場合。
 キウシ 龜茲 地名 今の庫車の地にして、白山、大河
 の間、賽喇木城壘及阿克蘇、玉古爾及喀喇沙爾の間にあり
 王は元匈奴に屬し、漢西城に通し、東漢建武の初め使を絶
 つ、二十二年莎車王賢之を陥れ、國を分ち烏龜國とす、後
 匈奴に屬し勢再び張りしも、後班超に破られ、後又符堅に
 伐たる、魏太武の世邊に寇し、唐の顯慶三年安西都護府を
 茲に置き、儀鳳中吐蕃に陥る。
 キウシ **Qusima (Chusi)** 地名 古代エトルリアの部
 市クルシム今キウシと云ふなり。

さうーしう 九州 西海道の九國、即、筑前、筑後、肥
 前、肥後、豊前、豊後、日向、大隅、薩摩を總稱す。
 さうーしう 吸收 物理 液體の氣體を溶解する現象、
 さうーしうーたんだい 九州探題 鎌倉幕府が元寇に備ふ
 る爲、建治元年博多に置きたる官にして、室町幕府にも是
 あり、九州二島を管し、兼て訴訟土貢及び外交の事を掌る
 さうーしき 舊識 ふるき知人、舊知、舊友。
 さうーしつーせい 吸濕性 化學 水分を吸收する性質。
 さうーしふ 舊習 以前よりの習慣、ふるきならはし。
 さうーしんけい 嗅神經 生理 第一對腦神經、大腦の
 下面に在る一對の棍棒狀をなせる嗅神經葉より分出し、頭
 蓋骨の底を通過し、鼻腔内の上中兩段の粘膜に分布す。
 さうーじんーのーこうーなーいつきーにかく 九仞之功虧一
 簣 仞は八尺 簣は土を盛る菴、九仞は山の山を築く
 に、一簣の土を缺かば、完全に築くこと能はずの意にして
 幾多の勞を費しながら、一失の爲めに全く敗るるに喩ふ、
 俗語の「七日の説法尻一つ」に類す。
 さうーしんりよく 求心力 物理 質點の圓運動をなす時
 絶えず中心の方に引き付ける力をいふ、此力ある爲圓運動
 をなすなり。
 さうーしゆけき 丘就卻 人名 漢の末、月氏の分裂を統

一したる人なり。

きうじいをーる 執牛耳 牛耳を執るを以て、盟を主るとなすに出づ、首領として諸事をとり行ふ意なり。

きうじやうたう 球状態 Spheroidalstate 物理「ライデンフロスト」の現象を見よ。

きうじゆ 久壽 近衛天皇の時代の年號、紀元一千八百十四年より、一千八百十五年に至るまで。

きうしゆゆん 九春 春季九十日間をいふ、九夏の類。

きうせいしゆ 救世主 耶穌キリストの異稱。

きうせいせき 休戚 安危 喜憂におなじし、國家の休戚

きうせん 九泉 よみち、黄泉、九原になし。

きうせん 休戚 戰爭中、双方の合意により、一定の期間、戰爭行為を休止すること。

きうろーかへりてーねごーかむ 窮鼠却嚙猫 通常鼠は猫に捕はるるものなれども、逃げ路を失ひなせして愈窮したる場合には、却つて猫をかむことあり、弱小と雖も必死の場合には、却て強者を傷ふことあるに喩ふるなり。

きうーかく 九族 九代の親戚、即、高祖、曾祖、祖父、自己、子、孫、曾孫、玄孫の總稱なり。

きうーらだい 窮措大 措大は大事を舉措する義にして秀才といふが如し、即、窮措大とは、窮したる秀才、又は

貧乏書生の義なり。

きうーたい 休臺 茶道の道具なり。

きうーちやう 九腸 腹全體をさしていふ。

きうていーたいりよーよりもーたもし 九鼎大呂よりも重し 九鼎大呂は國の重寶なり、非常に大切なる意なり。

きうてうーふごころーにーいる 窮鳥懐に入る 人の困窮して來り倚るに喩ふ、「窮鳥入懷、仁人所憫」。

きうーてん 九天 佛教の語、池の周圍を廻轉するといふ九つ星の總稱なり。

きうーてん 舊典 昔時のかきもの、舊記、舊録、古典

きうーとう 舊冬 以前の冬、昨冬。

きうーないり 舊内裏 以前の御所、京都市にあり、東は寺町より西は、烏丸に至り、南は、丸太町より、北は今出川に亘る、面積十萬餘坪あり。

きうーにう 牛乳 牛のちち 滋養として用ひらる。

きうーにく 牛肉 牛の肉 滋養として食用す、神戸地方のもの最も佳良なり。

きうねつーはんたう 吸熱反應 化學 反應する際、周圍より熱を吸収する反應。

きうーはい 九拜 古代の最敬禮なり。

きうーほう 白砲 砲身短くして、口径大に、其形白に似たるを以て此名あり、攻城に用ゐらる。

きうーばく 舊幕 徳川幕府をいふ。

きうーはん 舊藩 徳川時代の各藩をいふ。

きうーび 鳩尾 みづねち、にねなし。

キウエー Cuvier 人名 有名なる獨逸の博物學者、解剖學者にて又古生物學者の鼻祖なり、地球が創始以來十回乃至十五回の全生物改造の時期を経たるものなることを明示し、比較解剖によりて動物を脊椎動物、關節動物、軟體動物、射線動物の綱に四分ちたる等は有名なり、(西紀一七六九—一八三二)

キッピエーのーき キッピエー氏の器 動物 多くのナマコ類の「クロアカ」(排泄腔)に附着する線狀の長管、其用不明。

きうみんーし 休眠子 植物 菌藻類の有性生殖により生ずる胞子にして、直に發生せずして、多少の時日を経て發生するを以て此名あり。

きうん 氣運 きざし、いきはひ、「革命の氣運」。

キウンチアウ King-chaun 瓊州 地名 清國廣東省雷瓊道の府、瓊山縣の都市、海南島は全部此府中に含まる、開港場にて人口二十萬あり、(19,56'N 110,15'E)。

きうめんーたうさやう 球面凹鏡 凹面鏡を見よ。

きうめんーきやう 球面鏡 物理 球面の一小部分を取り反射面としたる鏡。

きうめんーしうさ 球面收差 物理 光線が、球面凹鏡により反射せらるる時、其鏡心に近き部分より反射するものは、鏡面の遠き所に會合し、鏡心を遠かれる部分より反射するものは、鏡面の近き所に會合するを以て、物體の像は明瞭を缺く、斯く光の反射する場所に依り、反射光の會合する點を異にする現象を、球面收差といふ。

きうめんーこつさやう 球面凸鏡 物理 凸面鏡を見よ。

きうーもん 札問 とひたすこと、尋問、吟味。

きうやくーせんしよ 舊約全書 書名 耶穌教の聖書、二十六篇より成る、之に對するものを新約全書といふ。

きうーらふ 舊臘 昨年の臘月即十二月をいふ、客臘。

キウラン Curago 島名 西印度諸島のアンチル群島中の一島なり、和蘭の領有たり。

きうーり 胡瓜 植物 胡蘆科 草名、卷鬚を有し、葉は掌狀に分裂す、花は單性にして、雌雄異の花を同一株に生ず、色黄なり、果實は細長くして、刺を有し、食用に供せらる。

キウラン

きうーり 舊里 くるまにおなじ。

きりゅう

きりゅう 穹隆 ㊦ 蒼天 蒼ら、「草堂對穹隆」。
 きりゅう 九龍半島 ㊦ 地名 西紀一八五
 九年、英佛が清と北京條約を結びし時、清が英國に割讓し
 たるものなり。
 きりゅう 春陵 ㊦ 地名 清國湖北省襄陽府にして、西
 漢の末王莽の地皇二年、劉縯、劉秀の兄弟の兵を起したる
 處なり。

きりゅう 丘陵 ㊦ 地名 低き山岳。

きりゅう 舊例 ㊦ 舊來の習慣、前例、慣例。

きりゅう 舊曆 ㊦ 太陰曆、俗に、きうといふ、之に對
 し太陽曆を新曆といふ。

きりゅう 歸依 ㊦ 佛敎の語、佛道を信すること。

きりゅう 耆英 ㊦ 人名 鴉片戰爭に關し、道光二十一年廣
 東の和議破れ、英軍再び江寧府に逼りたれば、宣宗の命を
 受け、伊里布等と共に、英國大使ポッチンヂヤールと南京
 に會して和議を締結したり、(西紀一八四二)。

きりゅう 消難に ㊦ 僅かに消ぬぬ意。

きりゅう 消果 ㊦ 一、全く消ゆるにさふ、二、死ぬ。

キエフ Kiev ㊦ 地名 露西亞キエフ州の首府にして、ド
 ニエプル河の西岸に位す、もと露領なりしが、西紀一二四
 〇年、元の都に屬し、一三八六年、ポーランドニ移り一
 拔

六八六年復た露西亞に歸せり。

きりゅう 奇縁 ㊦ 不思議なる縁。

きりゅう 氣焰 ㊦ 勢の盛なるをいふ、「氣焰萬丈」。

きりゅう 棄捐 ㊦ 一、他を救ふために財を抛つこと、義
 捐にたなし、二、足利時代に徳政とて、人民の貧主をして
 強ひて其貸金を捐てしめ、借主は之によりて、全く辨濟の
 義務を免がれたり。

きりゅう 義捐 ㊦ ぎにんにたなし、俗にぎげんと誤りよ
 むなり、「義捐金」。

きりゅう 義園 ㊦ 人名 足利義教の法名なり。

きりゅう 記憶術 ㊦ 物事の記憶を容易ならしむる
 術なり。

キオス Chios ㊦ 地名 希臘多島海中の一小島にして、土
 耳古領なり、詩聖ホーマーの出生地なりといふ。

きりゅう 氣温 ㊦ 地名 Temperature of air 大氣の溫度を
 いふ。

きりゅう 祇園南海 ㊦ 人名 詩作書畫に長ず、
 初め木下順庵に學ぶ、新井白石等と友とし善し、寶曆元年
 九月、年七十五にして歿す。

きりゅう 麾下 ㊦ 大將の旗の下、轉じて、大將の近侍の士
 をいふ。

Temperature of air

機

きりゅう 機械油 ㊦ 機械の摩擦を減ずるため用ふる油

きりゅう 寄稿 ㊦ 詩文等を新紙雜誌などに寄投すること

きりゅう 起稿 ㊦ 草稿をかき始むること、(脱稿に對し)。

きりゅう 紀行 ㊦ 紀行文、旅行日記、などをいふ。

きりゅう 奇行 ㊦ 人なみはづれし突飛なる行爲。

きりゅう 揮毫 ㊦ 書畫をかくこと。

きりゅう 奇價元素 ㊦ 化學 Perisad 一價、三價
 五價に作用する元素をいふ、水素、カリウムの如し。

きりゅう 氣附 ㊦ 一、心づく、二、よみがへる。

きりゅう 俗語、まけぬ氣、まけじだましひ、

きりゅう 水質温泉 ㊦ 箱根七湯の一。

きりゅう 黄土器毛 ㊦ 馬の毛色の名、白に黄色を帯
 ひたる色をいふ。

きりゅう 氣化の潜熱 ㊦ 物理 氣化熱に同じ

きりゅう 龜鑑 ㊦ 手本とすべき例、模範。

きりゅう 旗艦 ㊦ 司令長官の坐乗せる軍艦。

きりゅう 期間 ㊦ 法律の語、法律上の効果を生ずべき或
 る時期より他の時期までの時間をいふ。

きりゅう 輝岩 ㊦ 礦物、深造石にして、輝石屬に入るべ
 き、一種又は一種以上の礦物集合して成りしものなり、完
 晶にして、外觀は飛白岩に類似す、然れども飛白岩は長石

きりゅう 貴下 ㊦ わなたの敬語(重に手紙の上用ふ)。

きりゅう 机下 ㊦ 文書の往復に用ひて宛名のわきに書き、
 先方の机の下に呈する意にして、尊敬を表はす語。

きりゅう 幾何 ㊦ 數學、點、線、角、面積、等につきて、
 研究する方法なり、之を平面幾何と立體幾何の二に別つ。

きりゅう 鏡眼 ㊦ 山の高く聳ひたること、鏡鏡にたなし。

きりゅう 機械 ㊦ 或點に力を働かせて、其働く力が有益
 なる効果を奏せしむるために用ふるものなり、機械の重な
 るものは、挺子、斜面、滑車、輪軸、槓、螺旋の六種にし
 て、複雑なる機械と雖も、多くは此等のものを種々に組合
 せたるものなり。

きりゅう 氣海 ㊦ 一、臍の下部 二、空氣の地球を包め
 るを形容してさふ語。

きりゅう 氣概 ㊦ 容易に屈せぬ氣象、意氣、意氣地。

きりゅう 鬼界島 ㊦ 島名 大隅國南方の海中に
 あり、周圍約七里。

きりゅう 機械體操 ㊦ 種種の機械による體操。

きりゅう 機械的 ㊦ 機械の如くに他人の命令のまま
 に動作して、自己の意思よりして動作せざること。

きりゅう 機械場 ㊦ 機械をすね置きて工作する場所、
 工場、工作場、製造場。

と輝石の集合より成り、同一にわらず。

きかんざい 起寒劑 物理 寒劑に同じ。

きき 危機 危急なる場合「危機一髪」。

きき 忌諱 畏避にれなし、いみじくべきこと、「忌諱に觸る」は、他人の機嫌を損じたること。

きざ 危疑 人やぶみ疑ふこと、びくびくする、危疑

魏禧 人名 清初代の古學者にして非鳳の子なり翠微峯に一堂を立て易を講ず、後益々古文辭に力を盡したりしが、年四十にして出遊し、天下の隱士に交る、清聖祖徵せし疾を以て辭したり、康熙十九年十一月卒す、年五十七。

きざ 義氣 義に勇む心、義侠心、をとこぎ。

きざいつばつ 危機一髪 回 まかりまちがへば取り返へしが出来ぬほどに危き場合をいふ。

きざう 箕裘 回 「箕裘を繼ぐ」といふは、親の業を其子が承けつぐこと、即、親が鍛冶屋なれば、其子も亦治工たるが如きをいふ、禮記に「良冶之子必學爲裘、良弓之子必學爲箕」とあり。

きざう 鬼臼 植物 草名、其果實は消毒劑となる。

きざう 歸休 家に歸省して休むこと、「歸休兵」。

きざう 氣球 回 地文 氣圏に同じ。

きざうで 利腕 右の腕。

きざうち 聞落 一、聞きたとすこと、二、聞きたる後、案外面白からぬこと。

きざうばい 聞覺 他人の談話などを聞きて覺ゆること。

きざうたよほ 聞及 傳へきく、聞知す。

きざうかう 聞香 足利義政大に斯を好めしより、香道大に廣まりて一の技藝となり、各派法式を設けて弄びたり平安王朝には香を董きて衣服に染香せしめし事もあり。

きざうがみ 利神 一、靈驗あらたかなる神、二、聞神

きざうくわい 奇々怪々 奇怪にれなし。

きざうす 雄子 奇し又はきしにれなし。

きざうすて 聞捨てならず 聞捨てがたし。

きざうかろ 聞處 聞くべき要點、よく聞くべき處。

きざうもなひ 無聞度 一、聞きたくなし、二、人言がわるし、外聞がわるし。

きざうねいり 聞寝入 話を聞きながら寝入ること。

きざうたんど 危急温度 物理 臨界温度に同じ。

きざうのじやうたい 危急の狀態 物理「際どき狀態」に同じ。

きざうづんばうのさき 危急存亡之秋 九死一生

の場合といふにれなし、俗に、のるかさるかのとき。

きざうみみ 聞耳 一、世間のうわさ、二、聞かんとする耳「きざうみみを立つ」。

きざうじん 絶時 人名 石雲と號す、河間獻縣の著姓なり年二十五進士となり、後累遷して協辦大學士を拜し、國子監事を管す、年八十二薨す。

きざうん 飢饉 米穀成熟せずして、人民の飢うることをいふ

きざうんくわう 輝銀鑛 鑛物 硫銀鑛に同じ。

きざうんぐく 貴金屬 鑛物、價格の貴きもの例へば白金、金、銀の類をいふ、此等の金屬は、普通の酸類に作用せらる、ことなし。

きざうめ 利目 効果 効能、効験、しるし。

きざうめうめう 奇々妙妙 奇妙にれなし。

きざうもたいては 一、たごる 驥驥も老いては驚馬に劣る 英才俊物も年老いては、役に立たずとの意

きざうもの 聞物 聞く甲斐のあるもの。

きざうやう 桔梗 植物、桔梗科、草木なり、秋の七草の一に數へらる、花に單瓣と複瓣との別あり、色は白又は紫なり。

きざうやうがはら 桔梗原 野の名、信濃國筑摩郡洗馬の東北にあり、天文年間、武田小笠原の戦ひし處。

きざうやうがひ 桔梗貝 動物 棘皮動物、海膽に類し極めて扁平にして、黒色を帯び、棘は細小なり、此の棘を去りたるものは白色なり、管足を出すべき五組の孔ありて其形桔梗に似たり、海岸の砂地に棲息す。

きざうやうたい 義兄弟 義理ある兄弟。

きざうよ 起居 朝夕のしわざ「如何御起居被爲在候哉」。

きざうよ 義舉 義のためし事をなすこと。

きざうよく 戯曲 淨瑠璃院本 演劇脚本の類にして、聲律節語を主とし、之を樂器にあはせて、劇場に演ずるに適合しむるを主とす、Drama。

きざうらい 歸去來兮 陶淵明が詩に、「歸去來兮、田園將蕪、胡不歸」とあり、いざ歸りなんの意なり。

きざう菊 植物 菊科、草名、莖は拇指大にして長く、葉は單葉にして羽狀に缺刻し、其裂片に鋸齒あり、葉柄を有す、花に縁心の別あり、縁花は舌狀をなし單に一雄蕊のみを具ふ、心花は筒狀をなし、五個の雄蕊と一個の雌蕊とを具ふ、花の色は黄白紅を主とす、種類極めて多く、枚舉に遑わらず。

きざう菊 家紋の名 其種類少からず、花瓣十六よりなるものは、十六菊と稱して、皇室の御紋草なり。

きざう起句 詩の第一の句、第二を承句、第三を轉句

第四を結句とす。

さく 崎嶇 山路の平かならざる貌、二、困難の義にも用ふ、三、直に山路の義にも用ふ。

さく 聞 一、耳にきこゆ、二、問ひたす「道をきく」

さく 子 子をそだつること。

さく 動物 鳥名、形、目白に似たり

さく 菊一文字 劔の名、後鳥羽天皇の、手づから作らしめ玉ひし太刀にて、銘に、一輪の菊花を打てり、さくづくりの太刀ともす。

さく 九月九日の祝。

さく 思ひがけなく出會ふこと。

さく 衣服の、表白、裏蘇芳

さく 川名 遠江國榛原郡にあり。

さく 木にてつくりたる釘。

さく 皇室の御紋所、十六菊と、五七の桐との二なり、始めは御衣の模様なりしが、嵯峨天皇の頃より御紋章となりしとす。

さく 菊科植物 植物 Compositae

さく 花冠は舌状又は筒状をなす雄蕊五にして葯合一し、柱頭二にして、子房中に一卵子を

包含す、花は多数相集りて、小頭花をなし、總苞を具ふ。

さく 菊花大綬章 勳章の名。

さく 菊酒 菊の節句にのみ酒、みりんの一種。

さく 生薬屋 生薬を賣る家 薬種屋。

さく 菊水 家紋の名、流水の上に、半形の菊花を添へたるもの、楠氏の定紋。

さく 菊池氏 姓名 先是藤原隆家、世々肥後の守たり、武時武光に至り、大に勤王を謀り、南北朝の時一族多く討死して遂に亡ぶ。

さく 菊池三溪 人名、漢學者、紀州の人にして、歴史に精通し、國史略の著あり、明治二十年卒す

さく 菊池武時 人名 隆盛の子、世々肥後に住す、元弘三年、九州に在りて勤王の兵を擧げしが、小貳大友等の變節によりて、之がために攻められ、終に敗死せり、年四十二。

さく 菊池武敏 人名 武時の二子、掃部助たり、兵を肥後に擧げ、南軍に應じ、足利尊氏と多々良濱に戦ひ、敗れて後又兵を擧ぐ。

さく 菊池武朝 人名 武政の子、武光の孫なり、肥後守となり、天授中今川貞世を水島に破り、二年間にして九州略平定す、後將軍の宮を奉じ筑前府に營む

舌状花

を生すれば、枯死する草木にして、葉は二回羽状に深裂し舌状花は黄又は白色なり、若芽は食用に供すべし。

さく 菊酒 菊の節句にのみ酒、みりんの一種。

さく 菊水 家紋の名、流水の上に、半形の菊花を添へたるもの、楠氏の定紋。

さく 菊池氏 姓名 先是藤原隆家、世々肥後の守たり、武時武光に至り、大に勤王を謀り、南北朝の時一族多く討死して遂に亡ぶ。

さく 菊池三溪 人名、漢學者、紀州の人にして、歴史に精通し、國史略の著あり、明治二十年卒す

さく 菊池武時 人名 隆盛の子、世々肥後に住す、元弘三年、九州に在りて勤王の兵を擧げしが、小貳大友等の變節によりて、之がために攻められ、終に敗死せり、年四十二。

さく 菊池武敏 人名 武時の二子、掃部助たり、兵を肥後に擧げ、南軍に應じ、足利尊氏と多々良濱に戦ひ、敗れて後又兵を擧ぐ。

さく 菊池武朝 人名 武政の子、武光の孫なり、肥後守となり、天授中今川貞世を水島に破り、二年間にして九州略平定す、後將軍の宮を奉じ筑前府に營む

さく 菊池武光 人名 武時の子、懷良親王を肥後に迎へ、諸處に轉戦して聲威大に振ひ、正平十四年、小貳頼尙を筑後川に破る、十七年斯波氏經の九州探題となるや、武光之を豊後に破り、後大内弘世を伐つて之を走らせり。

さく 麴塵 一、かさねの色目の名、表青 裏黄 二、天皇の御衣に用ひしもの、山鳩色といふ染め方にて、黄に青色を帯ぶ、かりやすと、紫草にて染め、紋は、桐と鳳凰と竹となるも、又、唐草と尾長鳥となるものあり。

さく 菊池容齋 人名 有名なる畫家、名は武保、菊池武時の後なり、十八歳の時、高田圓乘の門に入りて狩野派の畫風を學び、遂に一家をなせり、其著、前賢故實は斯界の珍とする所、明治十一年六月卒す、年九十。

さく 菊亭右大臣 人名 藤原兼平、直垂などの縫目の綻びぬやう、縫留のところに、組緒を菊の花形にとちつけるもの、直垂には袖付のところに、長絹には襟付けと端袖の付けもとにあり

さく 菊菜 植物、菊科、一名しゆんさく、一回花

キクラデス

キクラデス Kyklades 地名 希臘のエーゲ海中の群島なり、デロス島を環りて横はる、故に此名あり、人口十二萬余。

きくめいし 菊目石 珊瑚の類、

きくわ 奇貨 一、容易に得られざる寶物、二、逸す可らざる機會、「奇貨可居」。

きくわ 奇禍 意外の禍、思ひ設けざる禍害。

きくわ 氣化 化學、液體が氣體になることをいふ。

きくわ 歸化 外國人が他國の國籍を得ることをいふ。

きくわ 機會 めぐりあはせ、はづみ。

きくわ 奇怪 不思議、怪物、「奇怪千萬」。

きくわ 議會 貴族院と衆議院との會議。

きくわ 義和氏 義氏と和氏との併稱なり、義氏は南正重の後、和氏は北正黎の後、世々共に曆家を司れり

キクツジヤウ Khukhkhoto 歸比城 地名 清國山西省朔平府の京會、長城の外に在り、[41.0N 112.0E]。

速

きくわねつ 氣化熱 物理 液體を熱して沸騰せしめたる後は、如何に強き熱を加ふるも、唯其氣化を早かならしむるのみにして、其温度は變更せず、之によりて見れば此間液體に加へたる熱は、其温度を高くするの用をなさずして、只其分子力に抗して状態を變化するに費されたるなり、此の如き熱を氣化熱又は氣化の潜熱と稱す。

きくわん 奇觀 珍らしき見もの、「千古之奇觀」。

きくわん 器官 生理 一個體は大抵諸機能を分擔せる數多の部分より成る、此各部分を器官といふ、複細胞動物の諸器官は次の八種に分つ、即、皮膚、運動器、神經系消化器、循環系、呼吸器、泌尿器、生殖器、是れなり。

きくわん 機關 一、組立てし道具、二、我が用をなすもの、「機關新聞」。

きくわん 氣管 生理、上、喉頭に連り、下、氣管支に接する、中空の管にして、肺に空氣を出入せしむる通路をなす、前方及び兩側に數多の彎曲せる軟骨環あり、其間に筋肉ありて之を連接し、風曲自在ならしむ、後方は食道と相接す、氣管の内面には粘膜ありて茸毛を生ず。

きくわんし 氣管支 生理 氣管より左右の肺へ各一本づつ分れ入る所の枝。

きくわんし 氣管支加管兒 病名 呼吸器の處

きくわんし 氣管支加管兒 病名 呼吸器の處

きくわんし 氣管支加管兒 病名 呼吸器の處

カタル

弱なるものが、寒胃によりて發するものにして、氣管支にわたるを起し、咳嗽及び咯痰を發す。

きくわんし 機關車 蒸氣機關を裝置せる車にして蒸氣力により、列車を動かすなり。

きくわんし 機關手 機關の運轉を司る人。

きくわんし 貴兄 貴君にねなし。

きくわんし 奇計 他人の思付かざる計略、奇策、奇謀。

きくわんし 技藝 わざとけいと、技能、技術。

ギゲス Gyges 人名 リシア人なり、國王カンダウレスに其妻の裸體を示せしを以て、女王大に不敬を怒り、ギゲスに死するか王を弑するか、其一を選ぶべきを命じたり

ギゲス 遂に王を弑し女王と婚し位に即く、之れメルムナデ家の始祖なり、三十八年間在位、(西紀前七一八一六八〇)、氏は又牧師として著名なり。

きくわんし 起結 詩の起句と、結句と。

きくわんし 割脈 割は彫刻に用ふる曲刀、脈は全しく曲鑿なり、版木を刻むこと。

きくわんし 期月 かねて約束したる月。

きくわんし 起業 事業を起すこと。

きくわんし 企業 經濟學の語、自己の計算及び危險に於

て、他人より受くる報酬に對し、他人の爲めに貨物を生産するをいふ。

きくわんし 義俠 勇氣のあること。

きくわんし 氣圈 Atmosphere 大氣にねなし、地球を圍繞する空氣の全部をいふ。Atmosphere

きくわんし 貴顯 官位の高き人、高貴の人。

きくわんし 危険 危きこと、俗にわぶなひ。

きくわんし 機嫌 一、佛教の語、機嫌とあるを正とす、他人の好まぬことを伺ひしること、二、氣色、三、愉快に見ゆること。

きくわんし 起原 事物の始まり、「社會の起原」。

きくわんし 期限 一、約束したる時、二、法律上に於ては、當事者が法律行為の履行又は消滅にからしめたる將來の時日にして、其到來すること確實なるものをいふ。

きくわんし 紀元 建國の初年をいふ、日本にては神武天皇即位の年を以て建國の初とし、歐洲諸國に於ては耶穌の出生後四年、普通其出生の年といふは誤を以て、紀元元年となす。

きくわんし かひ 機嫌買 俗語 自己の機嫌の良否により他人に對する態度を異にすること。

きくわんし くわさん 寄眉火山 Overlapping Volcano 舊

きくわんし くわさん 寄眉火山 Overlapping Volcano 舊

きくわんし くわさん 寄眉火山 Overlapping Volcano 舊

きくわんし くわさん 寄眉火山 Overlapping Volcano 舊

きくわんし くわさん 寄眉火山 Overlapping Volcano 舊

きくわんし くわさん 寄眉火山 Overlapping Volcano 舊

きくわんし くわさん 寄眉火山 Overlapping Volcano 舊

きくわんし くわさん 寄眉火山 Overlapping Volcano 舊

きくわんし くわさん 寄眉火山 Overlapping Volcano 舊

きくわんし くわさん 寄眉火山 Overlapping Volcano 舊

きくわんし くわさん 寄眉火山 Overlapping Volcano 舊

割

きくわんし

Overlapping

Overlapping

火山の噴火口の側面に、新火山の大なるものを生じると
き、舊新両火山を併稱す、又、倚肩火山ともいふ。
きげんせつ 紀元節 三大節の一、神武天皇即位の日
を祝する式なり、明治五年始めて行はれ、其後毎年二月十
一日に舉行せらる。

きげんぶがんにるる 基武岩類 礦物 基武岩の一
種なり、其實緻密にして、鐵苦土硅酸鹽類及び鐵礦より成
り、玻璃質の石基其間を膠結す。

きげいもの 聞者 俗語 ばばのきく人、敏腕家。
キケロ Cicero 人名 羅馬の雄辯家、又政治家にして
かねて文人哲學者なり、紀元前六三年、コンヌルとなり、
六に聲望を得て國家の父とまで仰ぎ稱せられたり、紀元前
四三年卒す。

きご 綺語 一、語をかざること、二、小説。
きごう 氣候 地理、氣壓、氣温、風向、湿度などを
綜合したる、長日月間の氣圍の状態をいふ、季候。

きごう 記號 化學 各元素に其名稱及び一原子量を
表はすため符號を與ふ、通常之の元素のラテン名の首字を
用ふ、例へば水素はHにして (Hydrogenium)、原子量一
即ち、1.01を示めすが如し。

きごう 氣孔 植物學 同化作用を營むに最も必要な
きごう 氣孔 植物學 同化作用を營むに最も必要な

る孔にして、葉の裏面に多し、稀には表面に存するもの
あり、氣氣多き時は開き、少き時は閉づる働をなす。
きごうかん 岐瀆關 地名 順天府涿州の西南にあり、
宋の雍熙三年宋の將曹彬が遂に攻め入り、耶律休哥と戦ひ
大敗しれる地なり。

きごうふう 季候風 地理 Monsoon 水陸分布の不
規則なる結果として、或る地域に限り、年年一定の時期に
起る所の風をいふ、例へば、我國に於ては、夏季に東南風
多く、冬季に西北風多きが如し。

きごうふる 擬猿類 動物 四肢皆手のはたらきを爲
し、後肢の第二指は鉤状の爪を有し、面部は毛を以て覆は
る、熱帯地方に多く産し、哺乳動物に屬す。

きごん 聞 一、聞ゆること、二、世間のうはさ、「君の
御覺世の聞也」。

きごん 枳殼 植物 灌木の名、密柑の木に似て小さ
く、刺あり、夏時白花を開き實を結ぶ、干して藥劑とす、
痰に功驗ありといふ、枳殼とからたちとは同一物にあらず
きごんし 鬼谷子 人名 支那戰國時代の人、鬼谷に
退隱し居りしかば、此名あるなり、蘇秦の師なり。

きごん 氣骨 正義を守りて風せぬ氣象、俠骨。
きごん いきほひ 騎虎之勢 事をなし始め、中止せ
んと欲するも能はざることを、行きがかり上、中止しがたき
こと、俗に、「乗りかかつた船」といふにれなし。

きごみ 氣込 意氣込 精神を傾注すること、意氣、
きごみ 着込 上着の下に着込む鏡の一種、くさりか
たびら(鍾帷子)などいふもの。

きごん 氣根 根氣といふにれなし、精力、忍性、
きごん 聞 一、人に聞かる、二、理由尤もなり、三、
名聲高きこと、四、にはふ。

きごり 樵夫 木を切るを業とする人。
きごり 動物 貝の名、蛤に似たり、外殻に縱横の
すじあり。

きごり 氣障 嫌味のあること、「氣障な奴」。
きごり 危坐 正しく座すること。
きごり 記載 かししるすこと。

きごり 奇才 一、世に稀なる才、二、奇才ある人、
奇才子、「天下の奇才なり」。

きごり ののみぞ 皇后宮 一、皇后の宮殿 二、き
ごりにれなし。

きごり 起草 草稿をかき始むること、起草。

きごり 偽造 一、せてつくること。
きごり がた 象潟 湖名 羽後國由利郡象潟村にありし
湖水にして、風光明媚松島に劣らざるはとなりしも、現今
は田圃と化しぬ。

きごり 后 一、皇后、二、皇太子、親王の配偶。
きごり 氣速 心うちとけて、舉動快活なること。

きごり 奇策 奇計にれなし、「神謀奇策」。
きごり 黄櫻 植物 櫻の一種にして、其花は黄色
を帯ぶ、故にこの名あり。

きごり 貴柘榴石 Almandine 礦物等軸晶系
柘榴石の變種、化學成分 $3FeO \cdot Al_2O_3 \cdot 3SiO_2$ 血赤色又は
蔞赤色、透明乃至片端透明、片麻岩中に包生す、往々大結
晶あり、有名なる産地は錫蘭島なり。

きごり 細螺子 動物 貝の名、やどかりに類する虫に
して、外殻は蝸牛に似て小なり、表面には種々の斑點あり
て光澤あり、俗に、きしやと云ふ。

きごり 木角豆 植物 木の名、ひさぎに全し。
きごり 萌 一、始まらんとす、來らんとす、二、若草
のもは出づるにいふ。

きごり 貴札 他人に返信する時に、先方の手紙をさ
していふ敬語、貴墨、貴翰、芳墨などにれなし。

Formaldehyd.

五百六十六

さざりはし 階 一、足づつ刻んで段段に昇るやうに造くりたる梯段なり。
さざりはし 木酢 植物、柿の一種、よく熱せぬ頃より滋味なき柿なり。
さざりはし 氣障 氣にさはること、心に面白からず思ふこと。

さざりま 貴様 一、貴下にたなし、二、現今は却りて目下ものものに對して用ふ、汝。

さざりみ 刻 一、こまかに切ること、二、時刻、三、だん、等級、四、刻煙草の略。

さざりむ 刻 一、彫刻す、二、こまかに切る。

さざりさん 歸參 一度主人のものを辭し去りし者が、復たかへり來るをいふ、「歸參がかなふた」。

さざりさん 祁山 地名 甘肅省鞏昌府西和縣の西北にあり蜀漢の建興六年諸葛亮、之を攻め、晋の大興二年南陽王保晋王を此處に稱せし事蹟あり。

さざりさん 蟻酸 化學 HCOOH 蟻の體中に存する故に此名あり、松杉の葉などにも存す、無色の揮發し易き液體にして、刺激性の臭氣を有し、皮膚にふれば腫物を生ず容易に酸化して無水炭酸と水とを生ず、濃硫酸と共に熱すれば、酸化炭素を生ず、苛性カリに酸化炭素に通じ、之に

加量

H. COOH.

鹽化水素を加へ蒸溜して生成するなり、防磨劑として用ふ
Formaldehyde CH₂O 「メチルアルコール」の蒸氣に空氣を混じり熱したる白金又は銅の螺旋中を通過せしむれば生ず
さらざらぎ 更衣 陰曆二月の異名、着たる上に更に衣服を着るより來りし名なり。

さらざらづ 木更津 地名 上總國望陀郡にあり、千葉縣の管轄に屬す。

さし 岸 一、海岸、河岸 二、懸涯、がけ。

さし 箕子 人名 殷の紂王の親戚なり、周の殷を平ぐるや、武王箕子を以て朝鮮王に封ぜり。

さし 騎士 歐洲中世の封建の制に伴ひ生じたるものにして、二十一歳騎士となる、寛仁、義俠、勇敢、敬神を以て其理想とす。

さし 人名 ローマの法王にして美術家文學者を保護せし人なり、フランス大使殺害事件にてルイ十五世と争ひたる事あり、(西紀一五九九—一六七三)。

さし 教會の爲有名なるイタリヤの一族の名。

さし 義慈 人名 百濟最終の王にして、西紀六六〇年唐の高宗新羅の請により、蘇定方を將とし、海軍を率ゐて新羅の武烈王と共に泗沘を陥れしかば、義慈降り、百濟亡

びたり。 雉子 動物 鳥名、雞類に屬す、雄は翠黑色にして美麗なれども、雌は黄色黒の斑點ありて尾短かし、その肉は冬季最も佳なり、保護鳥の一にして三月十六日より、十月十四日まで捕獲を禁止せらる。

きーじ 記事 一、事物のわりしまを書記すること、二、之をかきしるしたる文、記事文。

きーじ 技師 職名 技手をつかふ人、「農商務省技師」。

きーじ 議事 一、議すること、二、議すべきこと。

きしう 冀州 地名 舜の時禹が洪水を治め全國を九分したる一つにして、帝都存す、今の直隸山西二省なり。

きしうーみかん 紀州密柑 紀伊國より産出する密柑にして、在田郡より産するもの殊に有名なりとす。

きしうーもん 宜秋門 門の名 陰明門の前にあり。

きしき 儀式 公事 節會などの作法。

きしきーくわん 儀式官 官職 禁中の儀式を司る官。

きしーせんめい 旗幟鮮明 旗色のはつきりしたること 主義の公明正大なること。

きじーだう 議事堂 議員の會議所、「國會議事堂」。

きーしつ 氣質 性質、もちまへの心。

キシチフ Kishiyev 地名 西部露西亞のベッサラビ

キシネフ

ア州にある一市にして、同州の首府、人口十一萬餘。

きじーばど 雉子鳩 動物 鳥名、鳩類、翼は長大にしてよく飛越し、常に雌雄雙棲す、人に馴れ易し、尾は、恰かも扇子の如し。

きじーぶね 雉子笛 獵人が雉子を呼びよするためによく笛にして、雉子の鳴き聲に似たる音を發す。

きじほんまつーたい 紀事本末體 歴史編纂の一法なり年月の順に従はずして、本末を一處にまとめて書くなり。

きしむ 軋 滑かならざるをいふ、俗に、きしきしする

きしん 鬼神 一、死者の靈、二、恐るべきもの、三、神といふ意に用ふることあり。

きしん 寄進 神社佛閣に、金錢物品を納むること、寄附にたなし。

きしん 奇人 人に異りたる行爲ある人、畸人。

きしんーあんきーなーしやうす 疑心生暗鬼 疑へば疑ふは愈恐しくなるに喩へていふなり。

きしやん 稀釋度 化學 Dilution 溶液の薄さをいふ、即、一瓦分子量を一リットルの水に溶かしたるものを單位とし、之を稀釋度一なりといふ、又二リットルの水に溶かしたるものを稀釋度二といふ、以下之に順す。

きしもーじん 鬼子母神 佛の名、女性にして其子極め

て多く、他人の子を食ひしに、佛ある時自己の子をかかせしかば、始めて子を失ふ悲しみを知り、之より悟道せりとす。

きしや 汽車 蒸氣力を以て軌道の上を走る車。

きしや 記者 一、書きものをする人、二、新聞雜誌などの原稿を書くことを業とする人、「新聞記者」。

きしや 騎射 馬上にて弓を射ること。

きしや 喜捨 慈善の心より困窮するものに、金錢物品を恵むこと。

きしやう 氣性 生來の心、氣質にたなし。

きしやう 徽章 他と區別するために、帽子などにつくるしるしをいふ。

きしやう 氣象 氣壓 氣温、晴雨など凡へて空氣に關する現象をいふ。

きしやう 凝晶 礦物 Wierhe crystal 幾多の小結晶が相集まりて雙晶をなすときは、各個の晶體は、其晶系に特有なる對稱面を除きて、其他の晶面に對し新に對稱の位置を起すにより、時としては對稱面の數多き他の晶系の形態を擬することあり、之を擬晶とす。

きじやう 義浄 人名 唐初の高僧、姓は張氏、范陽の人なり、幼より沙門に入り、學古今に通ず、年十五より、

二十五年間三十餘國を歴遊し、梵本經律論、金剛座の眞容舍利等を得て還る、天武后の勅を受け後佛典の翻譯に力めたり、先天二年七十九にして卒す。

傳授記に居り、五百六十八

きじやうのくろん 机上の空論 到底實行し得べからざる言論をいふ。

きしやうがく 氣象學 學問の名、氣象の變化につきて、専ら研究する學問をいふ。

きしやうだい 氣象臺 氣象の變化を觀測する所。

きしやうもの 氣性者 氣性のつよき人、氣丈者。

きしやうもん 起請文 神佛にかけて誓ふ旨の書面、誓文、契約文 俗に略して、きしやうといふ。

きじゆ 喜壽 七十七歳の祝賀、喜の字は之を草書にてかくときは、七十七とかくに似たるより出でしなり。

きしゆ 技手 會社などにて技術を扱ふ人をいふ。

きしゆく 鬼宿 一、二十八宿の一、二、嫁どりの外萬事に吉なりといふ日。

きしゆくーしや 寄宿舎 學校などにて、學生の便の爲めに、之を宿泊せしむる建築物なり。

きじゆつ 奇術 不思議なる術、てづまにたなし。

きじゆつーか 技術家 技術を業とする人。

きじゆん 箕準 人名 殷の太師箕子四十代の孫にして

舌の子なり、立て二十餘年、陳項天下を亂り、燕齊趙の民亡げて、準に歸するもの多く、後燕人衛滿に襲はれ、海に南に逃れたり。

きしん 義眞 人名 相模の人、傳教大師と共に唐に行きて譯官となる、貞元中大僧正となり、天長中延曆寺座主に任ぜらる、十年七月寂す、年五十二。

きしよ 魏書 書名 支那北齊の魏收の撰、本紀十二卷、列傳九十卷より成る。

きしよく 氣色 一、顔色、血色、二、心もち。

きしよく 寄食 他人によりて衣食する事、むさうろふ、にたなし。

きしる 軋 一、すらすらと行かざるにいふ、二、争ふ。

キシルイールマク Kizil Irmak 河名 小亞細亞の最大河にして、中央の高原より發して黒海に入る、長さ、五二〇哩、一名紅河とす。

キシルクム Kizil Kum 砂漠の名 露領トルキスタン中、アラ湖の東にある廣大なる砂漠なり。

きしわた 岸和田 地名 和泉國泉南郡岸和田町なり、天正十年中村一氏之を創め、十三年小出秀政之に代る、大阪の役の戦地となり、後松平康重の領となり、寛永十七年岡部宣勝にばりて維新に及ぶ。

きす 鱈 動物 魚名 淡水に産するものと、鹹水に産するものとあり、前者は色青く、かはきす又はあはきすとす、後者は色白く、しらす又はうみきすとす、いふ、何れも嘴尖りて尾細く、淡水に産するものは斑點あり、皆其味美なり、此他に虎ぎす及沖ぎすなどの種類あり。

きす 歸 基づく、起因する。

きす 擬 一、毀損、二、缺點、玉に疵。

ギーズ Guise フランスの有名なる侯爵家の名、エース州のギーズ市に居りしを以て此名あるなり。

ギーズ Guise 人名 ギーズ侯フランシスはフランスの大將にして、嘗て新教徒を虐殺し、之れやがてユグノーの因となりたる事あり、(西紀一五一九—一五六三)フランスの政治家ローレンヌの君牧師、(西紀一五二五—一五七四)。

ぎす 動物 「キリギリス」に同じ。

きすいしやう 黄水晶 Citrus 礦物 黄色なる水晶なり。

きすう 奇數 數學の語二にてわりきれぬ數、一、三、五、七、九、以下之に順す、奇數に對し、二にてわりきれぬ數を、きすう(偶數)といふ、二、四、六、八、のことし。

きーちう 基數 數學 二個以上の式に共通なる數字
ギスカルド Guiscard, Robert 人名 アブリア及びカラブリアの公爵なり、南伊太利を征服し、法王レオ九王と戦ひ、終に法王より南伊太利を封地として受けぬ、西紀一〇八五年卒す。

きづもつーあし 疵持足 惡事をなして、我れから心に恐怖すること、きづもつす(疵持體)ともいふ。

きーずい 氣隨 さままにおなじく、我儘の振舞をいふ
きーずる 奇端 不思議なる瑞祥。

きーせい 歸省 故郷に歸ること。
きーせい 犠牲 けにへともいふ、一、獸を生きたがら神に供ふるをいふ、二、他の爲めに自己の身を捨つるに

きーせいーがん 氣成岩 地文 風の爲に生じる厚き地層支那の黄土(Locess)の如し。

きせいーくわん 議政官 官名 明治元年に始めて設けられしものにして、太政官七官の一なり、上下二局に分れ立法のことを掌りし官なり。

きせいーこん 寄生根 植物學の語 或る植物が其根を他の植物の體中に入れ、之より自家の養分を吸収するもの例へば、根なしかづらの根の如し。

きせいーかづら 薔花石崗岩 Angite granite 礦物、花崗岩の一種にして薔石を含むものなり。
きせいーへんまがん 輝石片麻岩 礦物片麻岩の一種なり、輝石、正長石、斜長石、石英、柘榴石より成る。
きせいーせつ 季節 とき、期節。
きせいーせつ 氣絶 甚しき驚愕などにより、急に氣息の絶ゆるをいふ、直に救助すれば蘇生すべし。
きせいーせつ 義絶 義を行ふために、血縁又は交友と絶つこと。

きせいーふう 氣節風 地文 季候風に同じ。
きせいーなが 着春長 よろひにれなし、但、雜兵のよろひにはいはず、普通のものより着長きものなりといふ説あり。
きせいーせん 瀛船 蒸氣船の略、蒸氣力により進行する船
きせいーぜん 危然 嚴正なるかたちをいふ、嚴然。
きせいーぜん 喟然 喟は嘆くかたち、「喟然嘆」。
きせいーはし 喜撰法師 人名、僧侶、弘仁の頃の山城國宇治郡に喜撰ヶ嶽と稱する山あり、此僧の住居の跡ありといふ。

きせいーせん 偽善 外觀は善をかざること。

きせいーこん 氣生根 植物學の語 大氣中にありて、莖より生じたる根をいふ、空中より養分を吸収す、例へばせきこく、ふうらんの根の如し。

きせいーし 祈請使 官名 宋の高宗、戦亂の際人を募り、金に便せし官にして、之により臣と稱し、師を緩め、徽欽二帝を還さんと金に請ひたり。

きせいーしんわう 燕成親王 人名 「ノリナリ」を見よ
きせいーち 寄生蟲 動物、他動物の體中にありて之より滋養分を得て生活する虫なり、例へば、蟻の如し

きせいーどうぶつ 寄生動物 動物 他の動物體内の種々の處に寄生し、其養分を吸収して生活する動物なり、器官は用ゐざれば退化する事自然の通則なるを以て、寄生動物は、生殖器の外、器官多く退化し、宿主を離れては、獨立生活をなす事能はざるものなり。

きせいーぎざし 地名 埃及にある市、クフ王の時代に建てられし金字塔は、多く此所に殘存す。

きせいーせき 鬼籍 死者の法名をかき記るし置く帳面、過去帳にれなし、「鬼籍に入る」とは死去することなり。

きせいーせき 輝石 礦物 單斜晶系又は斜方晶系にして、綠色、暗綠色、褐色、など種々あり、條痕は白色又は暗綠色なり、硬度は五乃至六、比重三、一乃至三、五、成分は種類

きせいーせき 輝線スペクトル Bright line spectrum 物理 單體が極稀薄なる瓦斯の状態にて發する光に依りて生ずるスペクトルなり、大部分暗黒なれども、數條の有色線あるを以て、又線狀「スペクトル」と稱せらる。
きせいーだん 既然段 文法 動詞助動詞の第五の變化即、既成を示すものなり。

きせいーせん 琦善 人名 鴉片戦争の時、欽差大臣となり、廣東に赴き英軍と和を議せり、翌年朝議變じ、和破れ遂に黜けらる。
きせいーせん 輝線スペクトル Bright line spectrum 物理 單體が極稀薄なる瓦斯の状態にて發する光に依りて生ずるスペクトルなり、大部分暗黒なれども、數條の有色線あるを以て、又線狀「スペクトル」と稱せらる。
きせいーだん 既然段 文法 動詞助動詞の第五の變化即、既成を示すものなり。

きせいーせん 着綿 眞綿をうすくして、菊の花をわはひ其香をうつらせたもの、菊の節句に、此綿を以て身を撫ぐる時は、長壽すといふ、一に、さくのわたと稱す。
きせいーせん 木曾 地名 信濃國西筑摩郡及び美濃國惠那郡邊の山谷の地をいふ、木曾川の上流地方なり、
きせいーせん 基礎 土台に、れなし。
きせいーせん 起訴 訴訟を起すこと。
きせいーせん 徽宗趙構 人名 宋八代の帝にして、哲宗の崩

きせいーせん 煙管 煙草を吸ふ管 一本の竹管の一端に金屬製の屈曲したる管をはめ、之をがんくびと稱し、他の一端にも金屬製の管をはめ、之をすひくちと稱す、全體が金屬にて造くりしものもあり、きせるともいふ。

きせいーせん 着綿 眞綿をうすくして、菊の花をわはひ其香をうつらせたもの、菊の節句に、此綿を以て身を撫ぐる時は、長壽すといふ、一に、さくのわたと稱す。

きせいーせん 木曾 地名 信濃國西筑摩郡及び美濃國惠那郡邊の山谷の地をいふ、木曾川の上流地方なり、

きせいーせん 基礎 土台に、れなし。

きせいーせん 起訴 訴訟を起すこと。

きせいーせん 徽宗趙構 人名 宋八代の帝にして、哲宗の崩

後、皇太后に擁せられ即位す、時に相、蔡京及子攸、權を擅にし、帝を勸め土木を起し奢侈に耽らしむ、大晟樂、王清神霄宮、延福宮、保和殿、萬壽山等を作る、其費は一花にして數萬緡のものあり、五十四にして、五國城に崩す。

忠

きろう 熈宗米由校 人名 明帝にして、神宗の後を受けて即位す、時に清兵諸城を陥れ、邊將頻に敗報を傳ふ、内には魏仲賢の黨權を專にし、遂に大獄を興すあり、泰昌七年八月崩す、年二十三。

きろう 殺宗米由校 人名 明帝なり、萬曆四十年、清兵大に攻め至り、明大に戦ひ賊を數ヶ所に破りしも、遂に衰運に向ひ、賊將自成關に入り城陥り、帝萬歲山に崩せり、清兵之を帝禮を以て葬り、臣民に三日の喪服を令し、莊烈皇帝と諡す。

きろう 議奏 武家時代に、幕府の奏聞を天皇に直接に取次ぐ役なり。

ギョウ Gulgot 人名 佛蘭西の政治家、かねて又歴史家なり、其文明史は著名なり、(一七八七—一八七四)。

きろがは 木曾川 河名 信濃國より發し、伊勢の海に注ぐ、長さ、四十六里。

きろく 驥足 駿馬の足をいふ、轉じて敏腕の意、故に人の志を得ずしてあるを、「驥足を伸ぶるを得ず」、などいふ。

きろくせいち 貴族政治 Aristocracy 政體の一種にして、二人以上の貴族が相共に國家の主權を掌握して國家を統治する制度なり、現今に於ては、世界中殆ど其實例なし。

きろくどうし 規則動詞 文法、正則なる變化をなす動詞(不規則動詞に對していふ)。

きろくべゐる 鱒足類 動物 Pisipedia 食肉類の亞目、海棲動物なり、前後の四肢は共に短小にして、後肢は後方に向ひて左右相接す、皆五趾を備へ、膜を以て相連接して蹼をなす、例へば、あざらし、あしかの如し。

きろくべん 貴族院 皇族、華族、勅選議員、及び、長者議員を以て組織する議院にして、衆議院を下院と稱し貴族院を上院と稱す。

きろくのかげはし 木曾の棧 信濃國西筑摩郡にあり上松驛の北半里、駒ヶ根村にあり。

きろくのくわんじや 木曾冠者 源義仲の異名

きろば 生蕎麥 蕎麥の粉のみにて製したるそば。
きろのーしてんわう 木曾四天王 木曾義仲の臣にして、驍勇を以て名あるもの四人、曰く今井兼平、樋口兼光、橋親忠、根野井行親是なり、之を木曾四天王と言ふ。
きろのーみや 木曾宮 北陸宮を見よ。
きろふ 競 他に劣らば互に競争するをいふ。
きろよしなか 木曾義仲 人名 勤王家、源義賢の子なり、木曾に成長す、治承四年信濃に兵を擧げ、平氏西海に落ち、義仲入京して伊豫守に任ぜらる、後頼朝と隙あり、頼朝義經の來り攻むるや之を防いで利あらず、粟津原に敗死せり、年三十一。

きた 北 一、方角の名、磁針の示す方向、二、北風の略。

きたーあめりかがつしゅうこく 北亞米利加合衆國 國名、東は太平洋、西は太平洋にのぞみ、南は墨西哥、北は加奈陀と界す、面積、五十八萬餘方里、人口約一億あり、西紀一七八三年、英國より獨立せし時は僅かに十三州なりしが、現今は三十餘州より成る、共和政體なり。

きたーアメリカがつしゅうこく 北亞米利加合衆國獨立 北米に於ける英國殖民地漸く繁盛したり、ジョージ三世の時、英國政府連年の戦争の爲め窮乏したる

國庫を補はんとし、同殖民地に課税せんとす、是に於て殖民人は其不法を論じ、一七七三年ボストン茶船狼藉事件起りしを、本國政府は兵力を以て壓せんとせしかば、一七七四年殖民人フイラデルフィアに會し、ワシントンを元帥とし、一七七六年七月四日宣言書を公布したり、一七八一年、ワシントン、ヨークタウンに敵の全軍を降し、一七八三年ベルサイユ和議あり、北米合衆國の獨立承認せられ一七八七年新憲法を制定し、共和政體を定め、ワシントンを以て大統領となしたり。

きーたい 氣體 物理 空氣、酸素、水素、水蒸氣等の如く、分子の動搖常に甚しくして、互に相衝突反撥し、常に擴張せんとする性質を有す、故に之を器物に入れんとするも極めて嚴重に密封せざれば、直に放散するを免かれず

きーたい 希代 一、世に稀なること、二、不思議にれなし。

きーたい 擬態 動物「シヤクトリムシ」が枝の状をなせる、蛾、甲虫等が蜂に擬せるが如く、自己を保護せんため、體を他物に擬似せしむることをいふ。

きーたいのーちやうりよく 氣體の張力 物理 氣體は其受くる所の壓力により、容積に變化を來たし、外よりの壓力が減少するに従ひ、其容積膨脹す、其性質を特に氣體の

張力といふ、此張力は固體液體にはなし。

きたいのばうちやう 氣體の膨脹 物理 氣體は之を液體に比すれば、膨脹すること一層大なり、而して其の膨脹する割合は、各氣體を通して殆ど全一なり、即ち、太抵の氣體に何れも温度一度昇る時は、零度に於ける體積の二百七十三分の一づつ膨脹す、之をシャルルの定則といふ

きたいのふりよく 氣體の浮力 物理 液體と全しく氣體も亦物を浮ぶる力あり、而して物體の重量を減ずる割合は、其物と同積の空氣の重量に等し。

きたいのふみつど 氣體の密度 物理 氣體は外部より壓力を加ふれば、其容積は壓力と反比例して、或る度までは縮小す、其質量は壓力の増減に正比例するものなり、全し空氣の一氣壓を受け、同温度にある氣體の質量を、其氣體の密度と云ふ。

きたいのようせき 氣體の容積 物理 氣體は外より加はる壓力の強弱により、大に其容積を異にす、即ち、温度が一定なれば、容積は壓力に反比例す、之をボイルの定律といふ。

きだいふぶし 義太夫節 俗曲の名 淨瑠璃の一派にして、大薩摩節より分れたるもの、元祿の頃、竹本義太夫之を創む、故に此名あり、略して義太夫といふ。

きたうらーのみづらみ 北浦湖 地理 湖名、常陸國にあり、周圍凡そ十五里、鹿島、行方の二郡に亘る。

きたかいかせん 北回歸線 地理 夏至線に同じ。

きたかいかむふうたい 北回歸無風帶 地理 北回歸線附近に生ずる無風の場所。

きたかかみーがは 北上川 地理 河名、陸中國北上山に流出して、陸前國石巻灣に注ぐ、長さ約八十里。

きたがはーうたまろ 喜多川歌麿 人名 有名なる浮世繪師なり、始め幕府の小吏なりしが、辭して畫法を學ぶ、最も美人畫に長ず、文化二年五月卒す、年五十三。

きたしらかはーのみや 北白川宮 伏見宮邦家親王御

子、上野輪王寺宮を嗣がれ、戊辰の役彰義隊の擁する所となる、明治三年獨乙へ留學せられ、十年歸朝、日清の役近衛師團長として臺灣に航し、病を以て薨す、年四十九。

きーだち 木太刀 木にて造りたる太刀。

きたいづーどうめい 北獨乙同盟 普露西亞の奧太利

に克つや、北獨乙の諸邦、パリア、バーデン、ヴュルテンベルヒ等を合して一聯邦をつくり、普露西亞王を以て其盟主とせり、實に西紀一八六七年なり。

きたーのかた 北方 貴人の奥方、令夫人。

きたのーじんじや 北野神社 官幣中社、京都市の西北右近馬場にあり、天徳三年、菅原道眞の靈を祭り、後に天満天神、又は北野天神と稱す、來り賽するもの多し。

きたーのーしやう 北莊 地名 現今の福井、越前國にあり、柴田勝家の據りし所、徳川氏に至り松平家に賜はる

きたーのーまんどころ 北政所 攝政關白の奥方が、宣旨によりて稱ふる號。

きたばたけーあきい 北畠顯家 人名 親房の子なり 陸奥守となり、次で鎮守府將軍となる、善貞と共に足利氏を各地に敗る、延元三年石津に戦死す、年二十一。

きたばたけーあきよし 北畠顯能 人名 親房の子、義貞親士を奉じ東征せんとし、風浪に制せられて歸る、正平

きーたう 祈禱 いのること、「加持祈禱」。

きーだう 軌道 天文 Orbit 天體が太陽の周圍を旋轉する道といふ、楕圓形をなし、其焦點の一到太陽が位置を占むるなり、「地球の軌道」。

きだう 義堂 人名 僧侶にて周信と云ふ、南禪寺に在りて學び奥義を究む、初め臨川寺に至りて夢想國師に仕へ機縁投契す、足利義滿大に之を信じ、政事上の事を謀る人物畫をよくす、嘉慶四年寂す、年六十四。

きたうらーのみづらみ 北浦湖 地理 湖名、常陸國にあり、周圍凡そ十五里、鹿島、行方の二郡に亘る。

きたかいかせん 北回歸線 地理 夏至線に同じ。

きたかいかむふうたい 北回歸無風帶 地理 北回歸線附近に生ずる無風の場所。

きたかかみーがは 北上川 地理 河名、陸中國北上山に流出して、陸前國石巻灣に注ぐ、長さ約八十里。

きたがはーうたまろ 喜多川歌麿 人名 有名なる浮世繪師なり、始め幕府の小吏なりしが、辭して畫法を學ぶ、最も美人畫に長ず、文化二年五月卒す、年五十三。

きたしらかはーのみや 北白川宮 伏見宮邦家親王御

七年伊賀伊勢の兵を以て楠正儀等と足利義詮を討ち京を復し、男山の行宮に至り、親房と京に入り、事務を參決す、

後復義詮に攻められ、男山に退き、遂に駕に從ひ吉野に還り右大臣從一位に進み、三宮に准せらる、遂に薨す。

きたばたけーうじ 北畠氏 姓名 村上源氏より出づ、

雅家祖にして親房父子に至り大に現はる、子孫世々伊勢の國司たり。

きたばたけーちかふさ 北畠親房 人名 南朝の忠臣、出家して三宮に准せらる、仍て北畠准后といふ、足利尊氏

叛するに及び、兵を率ゐて之を伐つ、正平九年薨す、其著神皇正統記は有名なり。

きたばたけーともりのり 北畠具教 人名 伊勢の國司にして、祖父顯能より世々伊勢を鎮す、永祿中信長に攻められ一偶に残留す、後信雄を養ひ其女に配したり、天正四年

具教病す、療養中其臣木造雄利に襲はれて自殺す、時に年四十九なり。

きたばたけーみつまさ 北畠滿雅 人名 顯泰の子、伊勢の國司たり、應永二十一年、小倉皇子の、後小松帝の禪を受けざりしを憤りて兵を帥ひて京に入らんとす、義持、土岐持益等をして攻めしむ、遂に和を講ず、後兵を擧げ、南朝を復せんとし破らる、年六十四にして薨す。

きたら 鍛 一、金屬を幾度も焼きて打ち固むるをいふ

二、藝術を稽古す。

きたまくら 北枕 佛教に於ては、死者は背方を枕として、臥せしむるを常とするなり。

きたみなご 北港 港名 小笠原群島の一なる母島にあり、同群島中の最良港なりとす。

きたみのく 北見國 國名、北海道十一國の一にして、國內に八郡あり、北海道廳の管轄に屬す。

きたむらさきざん 北村季吟 人名 有名なる和學者、通稱久助、拾穂軒又は湖月亭と號す、近江國野洲郡の人、初め醫を業とせしが、後に俳諧を學び、幕府に召されて歌學所に入る、寶永二年六月卒す、年八十二、著す所、源氏湖月抄、枕草子春曙抄、八代集抄、萬葉拾穂集、其他種々の註釋書あり。

きーたん 忌憚 一、いみ憚ること、遠慮。

きーたんばくせき 貴蛋白石 礦物 蛋白石の亞種の一にして、美色を呈し、往々變彩色を有せるものなり。

きたーやま 北山 山名 山城國葛野郡衣笠村にあり、南北の二峰に分れ、北方なるを大北山と稱す、足利義滿の麓に金閣を築きしを以て、著名なりとす。

きたやまーざやうほう 北山行幸 後小松帝の應永十五年、足利義滿の北山の別荘に行幸せられたるを云ふ。

きたやまーどの 北山殿 足利義滿の條を見よ。

きたやまーあん 北山院 山城國葛野郡衣笠村にあり、後小松帝の時、義滿驛者にして別業を北山莊に營み、北山殿と稱したり、天皇の生母通陽門院の崩するや、諒闇を行はず、妻日野氏を入内せしめ、準母となし、北山殿に居らしめ、之を北山院と稱したり。

きたなーしげまさ 北尾重政 人名 浮世繪師、本姓は北島氏、紅翠と號す、文政三年二月卒す、年八十一。

さち 吉 易の語 うちかたのよきをいふ、「吉凶」。

さーち 貴地 他人の住居地の敬語、御地、錦地。

さーち 岐知 礦物 銅礦中に存する金屬の一種、柔軟にして黒色の光澤あり。

さーち 危地 危險なる地、「兵を危地に陥る」。

さーち 木地 一、もくめ、二、天然のままなる物。

さーちがひ 氣違 一、病名 精神錯亂して知覺を失ふこと、亂心、狂氣、二、以上の病氣にかかりし人。

さちがひーじむ 氣違染 狂人の如き言行をなすことにより、俗に、さちがひじみたことをする。

さちがひーなすび 氣違茄子 植物 草名、朝鮮朝顔ともいふ、葉は茄子に似て淺綠色なり、秋花を開く、其形朝

ざちやうーへい 儀仗兵 兵仗を帯びて儀式に臨む兵。

ざちやうーめん 生帳面 舉動の嚴格なること。

さーちやく 歸着 一、歸り着すること、二、結局一に決するをいふ。

さーちゆう 忌中 忌にこもり居る間。

さちゆうけん 魏忠賢 人名 明代の宦官、萬曆中選ばれて官に入る、熹宗帝立つに及び、大に用ゐられ司禮秉筆大監と爲り提督を兼ね權勢盛んなり、副都御史楊漣、忠賢の二十四大罪を劾奏せしも帝却て漣を責む、後忠賢を劾するもの續々起り、所謂東林の黨をなす、忠賢之を攻め、其徒の朝にあるものは、或は斥け、或は殺し、己の黨人を以て之に代ゆ、熹宗崩じ信王立つに及び、交章、錢嘉徵等の劾奏を容れ、忠賢を斥け尋で逮治せしむ、忠賢之を聞て縊死す、詔して其屍を磔し首を懸けしむ。

さーちよ 貴女 一、身分ある婦人、貴婦人、二、女に對していふ敬語（手紙の文に用ふ）。

ざーちよう 魏徵 人名 支那の賢人、字は玄成、魏州曲城の人なり、布衣より起り、李密に用ひられ、秦王即位の時、諫諍大夫となし、貞觀十七年卒す。

さちるまーちあかん 黒的兒火者汗 人名 察合台汗トグラクの子、エリヤスの幼弟、初め喀什噶爾汗たりしも、

顔に似て筒長く、白色の莖あり、誤つて葉莖などを食するときは、忽ち發狂すといふ、故に此名あり。

さちがひーみづ 氣違水 酒の異名。

さーちく 機軸 一、機關の軸、二、地軸、三、發明するをいふ、「別に機軸を出す」新機軸。

さちーじやう 吉祥 又た、吉上とも書く、貞丈雜記によれば、黄仕丁、即、無位の黄色の狩衣を着る下部のことなるべし云々とわり。

さちーじやう 吉祥 縁起のよきこと。

さちじやうーてんによ 吉祥天女 佛名 毘沙門天の妹にして容色絶美なりといふ。

さちーにち 吉日 芽出度き日にして、祝ごとなどを、此日に行ふなり、吉辰、「黄道吉日」。

キチン Chitin 動物 昆虫の皮膚をなす有機成分の名稱

さちんーやど 木賃宿 食料は携へ行き、唯、薪、蒲團などの料を拂ふて泊まる宿、やすやど。

さーちやう 几帳 今日のついたての類、とばりを垂れ

さーちやう 議長 會議の際に多數の意見をまとむる人

さちやうーくわん 議定官 官名 賞勳局にあり。

さーちやう 氣丈夫 心の確かなること、きだしか。

帖木兒勢を得るに及び、之に屬して兄を討ち、帖木兒に女を納れ之を輔けたり。

さちーれい 吉例 煙草を吸ふこと、「喫煙を禁ず」。

さつーいん 喫煙 相持して下らざることを、はりあふ。

さつーかう 拮抗 生理、上膊骨の内外にある筋の如く、一は腕を屈し、一は反對に之を伸ばす筋をいふ。

さつかうーせん 乞巧奠 七夕祭のこと、婦女などが、其業に巧ならんことを祈るにより、此名あるなり。

さつーかけ 切掛 手はしめといふにたなし、俗語。

さつーがは 木津川 川名 一、山城國にあり伊賀國より發して淀川に流人す、二、攝津國にあり、淀川の支流。

さつーつかはし 氣遣 心もとなし、安心ならず。

さつかはーもどはる 吉川元春 人名 毛利元就の第二子なり、天文十七年、吉川興經の嗣子となる、性英俊にして名聲中國に振へり、天正六年、秀吉と對陣す、會々信長弑に遇ひ、戦はずして止む、後ち征韓の役に陣し、天正十四年十一月卒す、年五十七。

さつーつかひ 氣遣 氣がかりなること、不安心。

さつーさ 枰築 地名 豊後國速見郡にある町の名 大分縣の管轄に屬す、松平氏の舊領地なり。

さつーつきげ 黃桃花毛 白地に黃赤色を帯びたる毛の色なり。

さつーさやう 喫驚 驚くこと。

さつーつけ 氣付 一、氣絶したる人などを、蘇生せしむること、二、氣付ぐすりの略。

さつーさう 吉左右 めでたきしらせ。

さつーしよ 吉書 武家時代に、將軍の判をすむて、關東諸國へ下せし文書。

さつーしよーはじめ 吉書始 一、陰曆にて年始のかきごめに、吉日なりといふ日、二、新たにかけられたること。

さつーしるゐ 齒類 動物、大概小獸にして、上下各二個の門齒を有す、齒は鑿形をなし、前面のみ珉瑯質を以て蔽はれ、後面は單に齒質より成るを以て、年を経るに従ひ、其後面のみ磨滅す、而して此の類は多く肉食にして、冬期は永眠をなすものあり、又、食物を貯へて其間の用に立つるものあり、性質怯懦にして、巢をつくるに巧なり、りす、ねすみ、うさぎ等は之に屬す、脊椎動物有胎盤哺乳類なり。

さつーす 接吻 泰西諸國にては、愛情を表はすために、互に口を吸ひあふなり。

齧

さつーすゐ 吃水 船體の水に没するだけの深さをいふ
さつーた 木 植物 五加科、草名、莖は上昇し、花辦は芽に於ては鑷合様に排列し、子房は五室より成る。
さつーたん 契丹 鮮卑の別種なり、後魏の頃より契丹と稱せり、貞觀の初唐に從ひしが、唐末に至り阿保機起りて、室韋、女眞、等を從へ、突厥を破り、回紇、渤海を亡ぼし、其子太宗に至り、國を遼と號したり。
さつーつさ 啄木鳥 動物 鳥類の攀木類、嘴最も銳利にして、羽毛は美麗なり、四趾ありて其二趾は前へ、他の二趾は後方に向ひ、樹幹をよづること極めて巧なり、山里に棲み、好んで昆虫を食す。
さつーつさーるゐ 啄木鳥類 動物 攀木類、さつーつさ、あかげら、こげら等之に屬す。
さつーて 切手 一、手形、二、郵便切手の略。
さつーてう 吉兆 さちすゐにたなし。
さつーと 屹度 一、たしかに、二、相違なく。
さつーな 攀 一、動物をつなぐ繩、二、離れがたき情。
さつーね 狐 動物 食肉類、全形犬に似て、口吻突出し、體毛腹部は白く、他は黃褐色なり、尾は長くして太し、性質多疑狡猾にして家畜類を害す、北極地方に産するものは毛色白し、之を白狐といふ。

さつーねーあざみ 狐薊 植物 草名、形あざみに似て、針なく、深綠色の葉を有し、其裏面には柔毛あり、夏の初うすむらさきの花開く。
さつーねーけん 狐拳 遊戲の一種、庄屋、狩人、狐、のさまをまね、庄屋は狩人に、狩人は狐に、狐は庄屋にかつものとし、二人にて勝負をあらそふなり。
さつーねーご 狐戸 狐格子ともいふ、狐の妖術の如く、内より外は見得れども、外より内は見得ざるやうに、縦横に組みたる格子なり。
さつーねーのぼたん 狐牡丹 植物 毛茛科、草の名、葉は複葉にして三個の小葉より成り、小葉は有柄卵形にして、缺刻及び粗鋸齒を有し、花は黄色なり、雌蕊は多數ありて頭狀に排列す、果實は瘦果にして、楕球形をなして集合す、莖、葉、根、果實共に有毒なり、一名、いたちのわし。
さつーねーのーまご 爵牀 植物、爵牀科、草の名、葉は楕圓形にして殆ど全邊を有し、花は穗狀に排列せり、花冠は白くして紅紫色を帯ぶ、一名、かぐらさう。
さつーねーのーよめいり 狐嫁入 日の照るに係らず、二雨のふるること。
さつーぼう 吉報 よきことの知らせ。
さつーぼん 動物 テナガザルに同じ。

きつまる 氣詰 國 氣がつまる、窮風に感ず。

きつもん 詰問 國 なじりて問ひたすこと。

きつよし 氣強 國 氣丈夫なり、轉して、情うすきをいふ。

きつれがは 喜連川 國 地名 下野國鹽谷郡にある町の名、栃木縣の管轄に屬す、喜連川氏の舊領地。

きつれがはうじ 喜連川氏 國 古河公方義氏の後裔にして徳川氏に至り、下野國の喜連川に封せられたり。

きつてい 起碇 國 船の出帆すること。

きつてい 旗亭 國 料理店、旅人宿、酒樓、などをいふ。

きつてい 規定 國 わきて、規則。

きつてい 議定 國 國政の評定に預かる官、明治元三年に考へる。

きつてい 規定液 國 化學 溶媒の一定量に試料の等價量を溶解したる溶液をいふ、水酸化「ナトリウム」の四五を「リットル」の水に溶かしたるもの如し。

きつてい ようばき 規定溶液 國 化學 規定液に同じ。

きつてい ろ 奇蹄類 國 動物 有胎盤哺乳類、多くは大形の獸にして、四肢の拇指のみ非常に發達し、他は僅かに其痕跡をのこすに過ぎず、故に恰も只一拇指のみの觀あり此類は皆草食にして、門齒は上下に備はり、犬齒は小、白

齒は凹凸の咀嚼面を呈す、胃は單一にして盲腸大なり、うまひ、さし、など之に屬す。

きつてう 歸朝 國 外國より歸り來るをいふ。

きつてき 儀狄 國 人名 支那の夏時代の人、始めて酒をつくりたりといふ。

きつてくわう 輝鐵礦 國 礦物 赤鉄礦の一種、金屬光澤にて、結晶は板状なり。

きつてん 起點 國 物事の始まりの點。

きつてん 機轉 國 氣のきくこと、機敏なること、氣轉。

きつてん 貴殿 國 貴下にねなし。

きつてん 儀典 國 儀式に就きてのさだめ。

きつてん 起電器 國 物理 Electric Machine 多量の電氣を發生せしむる器械にして、摩擦にするものと、感應にするものとの二種あり、ラムステンの發電器は前者にして、ワイムジャーストの發電器は後者に屬す。

きつてん 紀傳體 國 歴史の編纂法の一體、天皇皇后及諸名臣に就きて、一人毎に其傳記をかき列らねたるものと改む。

きつてん 紀傳道 國 古の大學寮の科、後に文學道と改む。

きつてん 屹度 國 一、たちまちに、二、たしかに。

きつてん 木戸 國 出入口、門。

